

思文閣出版

2012

刊行圖書目錄

NO.43

- ◇より詳細な情報・目次はホームページをご覧ください
- ◇本目録の表示価格は税5%込です
- ◇本目録は2012年5月現在の在庫書籍を中心に作成したものです
未刊のものについては、定価、頁数等決定していないものがあります
のでそれらは空欄となっています。また内容に多少の変更があるか
もしれないことをあらかじめおことわりいたします。
品切一覧に掲載の図書や【品切】表示の図書についても、ご要望に
お応えできる場合がありますので、在庫の有無をお問い合わせ下さい。
- ◇ISBN（国際標準図書番号）について
図書を特定するための番号です。
2006年以前の刊行物については10桁規格表記、2007年以降の刊行物
は13桁規格表記となっております。
- ◇巻末に書名索引を付しました、ご活用下さい
これからの新刊・重版情報につきましては、PR誌『鳴東通信』（無料
・年4回刊）・ホームページに掲載いたします。詳細は、表紙3、120
頁をご覧ください。

●ご購入・ご注文について

- ◇最寄りの書店へお申し込み下さい
小社刊行書は、書店にて取扱っております。店頭が無い場合は、書店
にご注文下さい。
- ◇直接小社へご注文の場合は、規定の送料を頂戴致します。書名、巻数、
冊数と住所、氏名、電話番号をご記入の上、お申し込み下さい。代
引郵送でご送付、書籍代+送料を現品と引き換えに郵便局員へお支払
い下さい。代引手数料は弊社負担です。（公費の後払い可）

—————送料規定—————		
(合計税込価格)	20,000円未満	20,000円以上
(送料)	400円	無料

- ◇電話、FAX、ホームページでもご注文いただけます。本目録裏表紙を
ご参照の上、お申し込み下さい。
- ◇ホームページでは各種クレジットカードもご利用いただけます。
- ◇各々の刊行図書のパンフレット、チラシは無料でご送付いたします。
その旨ご明記の上、お申し込み下さい。

- ◇お客様の個人情報は、商品発送、商品案内などに思文閣グループ各社
で利用し、それ以外の第三者にはお客様の同意なく提供しません。詳
細はホームページ「思文閣グループ個人情報保護方針」をご覧ください。

<p>もくじ</p> <p>4 辞典</p> <p>5 日本史 史料集 5 個人著作集・全集 10 叢書 11 古代 11 中世 14 近世 21 近代 27 地方史・通史 31</p> <p>34 東洋史</p> <p>35 思想・教育史 通史 35 個人著作集・全集 35 古代 36 近世 36 近代 37</p> <p>40 医学史 史料集 40 個人著作集・全集 41 通史・年表 41 部門史 42 人物研究 43 書誌 44 史論 45 医療人類学 46</p> <p>48 宗教史 禪宗 48 天台宗・真言宗 50 浄土宗・浄土真宗 51 法華宗 53 神道 53 仏教考古学 54 宗教一般・その他 54</p>	<p>56 美術史 史論 56 仏教美術 58 墨跡・書 59 絵画 60 工芸史 62 染織史・服飾史 64 和紙 64 茶道 65 華道 67</p> <p>69 文化史 法制史 69 経済史 69 技術史 71 建築史 73 比較文化史・文明史 74 民俗・文化人類学 75</p> <p>78 考古学</p> <p>80 文学 史料 80 個人著作集・全集 82 上代 82 中古 83 中世 84 近世 86 近代 86 比較文学 88 中国文学 90</p> <p>91 自然科学</p> <p>92 随筆・随想・その他</p>
---	--

受賞図書一覧

江馬努賞	岡田章雄著作集	10頁
第13回角川源義賞	中世東寺と弘法大師信仰	14頁
第21回角川源義賞	東寺・東寺文書の研究	18頁
第6回全国大学国語国文学会賞	一休派の結衆と史的展開の研究	19頁
第16回矢数医学賞・第2回徳川賞	本草学と洋学	23頁
第16回サントリー学芸賞	西洋化の構造	28頁
昭和58年度徳島県出版文化賞	徳島県の教育史	35頁
第34回毎日出版文化賞特別賞	京都の医学史	41頁
第4回間中賞	鍼灸医学序説	42頁
第15回矢数医学賞	天然痘根絶史	42頁
第3回角川源義賞	日本禅宗史論集	48頁
第44回毎日出版文化賞	京都の美術史	56頁
第24回ジャポニスム学会賞	壁紙のジャポニスム	57頁
第26回ジャポニスム学会賞	ドイツにおける〈日本=像〉	57頁
日本風俗史学会・野口信造賞	壬生狂言古衣裳	64頁
第16回茶道文化学術賞	公家茶道の研究	66頁
第8回優秀会社史賞	住友別子鉱山史	70頁
第7回高知出版学術賞	近世鉱山社会史の研究	70頁
第7回(1994年度)日本産業技術史学会賞	大阪砲兵工廠の研究	72頁
第24回江馬賞	民俗文化複合体論	77頁
第4回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞	翁の生成	77頁
第17回俳人協会評論賞	正岡子規と俳句分類	87頁
第20回俳人協会評論賞	新興俳人の群像	87頁
第15回茶道文化学術奨励賞	織豊期の茶会と政治	【品切】
第5回建築史学会賞	中世寺社信仰の場	【品切】
第1回南方熊楠賞・第7回女性史青山なを賞特別賞・第18回山片蟠桃賞	もう一つの中世像	【品切】
第5回豊田実賞	近代化の推進者たち	【品切】
第4回矢数医学賞	医心方の伝来	【品切】
第18回矢数医学賞	絵葉書で辿る日本近代医学史	【品切】
平成8年度國華賞	仏教説話の美術	【品切】
第10回建築史学会賞	日本建築の構造と技法	【品切】
第3回建築史学会賞	まち祇園祭すまい	【品切】
第3回日本生活文化史学会賞	十九世紀日本の園芸文化	【品切】

2011年4月～2012年4月 刊行図書一覧

書名 編著者名	掲載頁		
住友史料叢書第26回 住友史料館編	6頁	近世上方歌舞伎と堺 斉藤利彦著	27頁
花園院宸記 第20回配本 宮内庁書陵部編	6頁	ビーコンヒルの小径 本井康博著	29頁
東寺百合文書 第九巻 京都府立総合資料館編	8頁	マイナーなればこそ 本井康博著	29頁
禁裏・公家文庫研究 第四輯 田島公編	8頁	古井喜実と中国 鹿雪堂著	31頁
九条家本延喜式(一) 東京国立博物館古典籍義刊編集委員会編	9頁	朝鮮科学史における近世 任正嫻著	37頁
天龍寺文書の研究 原田正俊編	9頁	同志社女学校史の研究 宮澤正典著	39頁
金鯉叢書 37輯 徳川黎明會編	11頁	近代日本高等教育体制の黎明 田中智子著	39頁
平安時代貿易管理制度史の研究 渡邊誠著	14頁	京都療病院お雇い医師シヨイベ 森本武利編著／酒井謙一訳	41頁
戦国期権力佐竹氏の研究 佐々木倫朗著	20頁	緒方惟準伝 中山沃著	44頁
東寺文書と中世の諸相 東寺文書研究会編	20頁	九州の蘭学【2刷】 ヴォルフガング、ミヒエル・ 鳥井裕美子・川島真人編	46頁
中世長崎の基礎的研究 外山幹夫著	20頁	近代医療のあけぼの 青柳精一著	46頁
東国における武士勢力の 成立と展開 山本隆志著	20頁	法然伝承と民間寺院の研究 平祐史著	52頁
天皇・将軍・地下楽人の 室町音楽史 三島暁子著	20頁	大本山くろ谷 金戒光明寺 宝物総覧 52頁	
戦国大名権力構造の研究 村井良介著	20頁	観経疏之抄 玄義分 中 豊田元彦監修／西山禅林学会発行	52頁
中近世農業史の再解釈 伏見元嘉著	26頁	仏教と平和 第21回国際仏教文化学術会議実行委員会編	55頁
日本近世の宗教と社会 菅野洋介著	26頁	風俗絵画の文化学Ⅱ 松本郁代・出光佐千子・梶子女王編	57頁
織豊期主要人物居所集成 藤井讓治編	26頁	動物・植物写真と日本近代 絵画 中川馨著	58頁
一八世紀日本の文化状況と 国際環境 笠谷和比古編	26頁	室町水墨画と五山文学 城市真理子著	58頁
幕末維新期の陵墓と社会 上田長生著	26頁	近代日本における書への 眼差し 高橋利郎著	60頁
松岡恕庵本草学の研究 太田由佳著	26頁	森田りえ子作品集 森田りえ子著	62頁
		田能村竹田基本画譜 宗像健一編著	62頁
		船箏笛の研究 小泉和子著	63頁
		藤村庸軒流茶書 白崙顕成著	67頁
		茶会記をひもとく 逸翁と茶会 逸翁美術館編	67頁
		一六世紀イングランド農村 の資本主義発展構造 松村幸一著	71頁
		近代数寄者のネットワーク 齋藤康彦著	71頁
		焼畑の環境学 佐藤洋一郎監修／原田信男・鞍田崇編	73頁
		軍事技術者のイタリア・ ルネサンス 白幡俊輔著	73頁
		岡倉天心の比較文化史的研究 清水恵美子著	75頁
		歴史のなかの源氏物語 山中裕編	84頁
		絵巻 大江山酒吞童子・ 芦引絵の世界 逸翁美術館編	86頁
		典籍と史料 大取一馬編	86頁
		1920年代東アジアの 文化交流Ⅱ 川本皓嗣・上垣外憲一編	89頁
		翻訳文学の視界 井上健編	89頁

辞典

大槻幹郎・加藤正俊・林雪光編著

黄檗文化人名辞典

1988／菊判／720頁
15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0538-1

森繁夫編／中野莊次補訂

名家伝記資料集成 [全5巻]

1984・1991／A5判／総5400頁
136,500円 (本体130,000円) ISBN4-7842-0682-5

入矢義高監修／古賀英彦編著

禅語辞典

1991・2009／A5判／600頁
9,975円 (本体9,500円) ISBN4-7842-0656-6

直原正一著

岡山和歌俳諧人名辞典

1992／四六判／250頁
3,045円 (本体2,900円) ISBN4-7842-0754-6

波多野幸彦監修／東京手紙の会編集

くずし字辞典

2000・2009／A5判／1400頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN4-7842-1024-5

わが国の近世文化にカルチャーショックを与えた黄檗文化の総合辞典。黄檗僧はもとより檀越・外護者・学者・画家などの黄檗文化形成に寄与した人物伝(900人)のほか、黄檗法系譜と総索引を収録。総索引は僧名(道号)・法諱・法諱(諱字)・別号・檀越帰依者の五索引を取めた。

短冊の蒐集、伝記研究で知られた森繁夫氏が20数年の歳月をかけて調査編集した草稿を、短冊、古筆など広く古典籍の蒐集で著名な中野莊次氏が更に20数年かけて浄書、補訂したもの。鎌倉末期から昭和20年までに没卒した国学者・歌人・漢学者・文人・高僧・芸術家等の45,000名の伝記資料。【2刷】

禅語録中の難解な語句(約5,500)について、平易なことばで解釈を施した画期的な辞典。中国語学研究の第一人者である入矢義高氏監修のもと、古賀英彦氏が十年の歳月を費やして編集。いわゆる漢文の語法では読めない口語の解説が備わり、漢文を読むすべての人に必携の書。【7刷】

近世和歌史において輝かしい足跡を残した吉備(岡山)地方の歌人・俳人の履歴と業績を墓碑名などの実地調査をもとにコンパクトにまとめた近世吉備文芸の基本図書。

和歌之部=備前105人・備中116人・備後12人
俳諧之部129人

天皇・公家・武将・僧侶・茶人・文人・商人などの実用の書である自筆消息(書状)からその筆跡(35,000字)を、また必要に応じて中国の代表的書家・文人からも1字1字拾集し、採字した各文字にはその人名を明らかにした画期的な辞典。消息(書状)の解説、鑑賞などに幅広く活用できる。【5刷】

日本史

史料集

〔監修〕近衛通隆 〔編集〕陽明文庫
〔編集顧問〕熱田公・益田宗

陽明叢書 記録文書篇

〔全12輯・全31冊・別輯1〕

- 第1輯 御堂関白記(全5冊) 〔①②④品切〕〔解説〕土田直眞
揃 51,030円(本体48,600円)
- 第2輯 岡屋関白記・深心院関白記・後知足院関白記
(全1冊) 〔解説〕橋本義彦
14,700円(本体14,000円)
- 第3輯 後法成寺関白記(全3冊) 〔解説〕今枝愛真
揃 36,330円(本体34,600円)
- 第4輯 後深心院関白記(全3冊) 〔解説〕今枝愛真
揃 37,800円(本体36,000円)
- 第5輯 人車記(全4冊) 〔解説〕上横手雅敬
揃 50,400円(本体48,000円)
- 第6輯 平記・大府記・永昌記・愚昧記(全1冊)
〔解説〕山本信吉・新田英治・石田祐一
14,700円(本体14,000円) 〔品切〕
- 第7輯 中右記(全4冊) 〔解説〕益田宗
揃 57,750円(本体55,000円)
- 第8輯 後法興院記(全4冊) 〔解説〕益田宗
揃 58,800円(本体56,000円)

- 第9輯 法制史料集(全1冊) 〔解説〕杉橋隆夫
- 第10輯 名家消息集(全1冊) 〔解説〕朝尾直弘
- 第11輯 紙背文書集(全3冊) 〔解説〕佐藤泰弘
- 第12輯 所領関係文書集(全1冊)
〔解説〕田中稔・熱田公
- 別輯 宮城図(全1冊) 〔解説〕村井康彦・瀧浪貞子
18,900円(本体18,000円)

編集 中村幸彦・多治比郁夫
岡村 繁・中野三敏・井上敏幸

広瀬旭莊全集

〔全12巻・別巻1〕

1982～/B5判/平均560頁/既刊揃 180,600円(本体172,000円)

- 日記篇(日間瑣事備忘)(全9巻) 〔編集〕多治比郁夫
揃 133,875円(本体127,500円)
- 随筆篇(全1巻) 〔解説〕中野三敏
1986/472頁/15,225円(本体14,500円)

江戸末期折衷派の儒者、広瀬旭莊の暮末(天保4～文久3)31年間の日記(日間瑣事備忘)を中心に、詩文・随筆・書簡まで全て網羅した。ことに日記は暮末各分野の実態と動向を伝える生きた資料であり、各界の名家がことごとく登場し、その詳細な記録に興味はつきない。

- 詩文篇(全1巻) 〔解説〕井上敏幸
2010/892頁/31,500円(本体30,000円)
- 書簡・伝記資料篇(全1巻)〔解説〕中村幸彦・中野三敏
別巻(総索引)

今川文雄翻刻・校訂/高橋貞一解説

玉薬

1984・1992/A5判/544頁
14,700円(本体14,000円) ISBN4-7842-0746-5

九条兼実の孫、道家が30年にわたり記した玉薬は、玉葉・明月記と並んで鎌倉時代の代表的な公卿の日記として中世史研究必須の史料。自筆原本は現存せず、今回の翻刻では高橋貞一博士所蔵本(全10冊 江戸初期筆写)を底本とし、陽明文庫本及び京都府立総合資料館本を対校本とした。 【2刷】

今谷明・高橋康夫編

室町幕府文書集成奉行人奉書篇

〔全2巻〕

1986/A5判/総1200頁
揃 15,750円(本体15,000円)

室町時代の基本的史料である奉行人奉書。南北朝時代から永禄11年9月の信長入京までの4000余通を一通ごとに編年集成し、足利義材・義澄・義維の奉行人奉書を下巻に収録した。

杉本勲・酒井泰治・向井晃編

幕末軍事技術の軌跡

佐賀藩史料『松乃落葉』

1987 / A 5判 / 450頁

8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-0467-9

監修・小栗田淳 / 朝尾直弘

編集・住友史料館

住友史料叢書

1985 ~ / A 5判 / 平均400頁 / 既刊26冊

既刊揃252,000円 (本体240,000円)

京都大学
文学部

博物館の古文書

幕末期、西欧科学技術導入が最も進んでいた佐賀藩の藩主鍋島直正の側近として活躍した本島藤太夫松蔭の編著で、杉本博士を中心とする「西南諸藩洋学史研究会」が翻刻、解説、異本との校訂などしたもの。翻刻にあたっては佐賀県立図書館鍋島文庫所蔵本(全4巻)を底本とした。

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、近代の財閥につながる豪商の一典型である。その鉱業史料は、わが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち、重要で継続する記録類を中心に編集。

京都大学文学部国史研究室所蔵の古文書の中からテーマ毎に編集、代表的なものを写真で紹介し、その解説・釈文を付す。関係史料や地図・表なども併載し、古文書の研究と鑑賞に資す。

ISBN4-7842

- | | | |
|------|--------------|--------------------|
| 第1輯 | 長講堂領目録と島田家文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0494-6) |
| 第2輯 | 若狭秦家文書 | 〔解説〕熱田 公 (-0513-6) |
| 第3輯 | 細川頼之と西山地蔵院文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0529-2) |
| 第4輯 | 勤修寺家本職掌部類 | 〔解説〕吉川真司 (-0553-5) |
| 第5輯 | 駿河伊達家文書 | 〔解説〕今岡典和 (-0571-3) |
| 第6輯 | 東大寺文書 | 〔解説〕久野修義 (-0598-5) |
| 第7輯 | 伊勢御師と来田文書 | 〔解説〕西山 克 (-0622-1) |
| 第8輯 | 大山崎宝積寺文書 | 〔解説〕仁木 宏 (-0647-7) |
| 第9輯 | 浄土宗西山派と三結寺文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0733-3) |
| 第10輯 | 葛川明王院文書 | 〔解説〕田良島哲 (-0756-2) |
| 第11輯 | 永昌記紙背文書 | 〔解説〕佐藤泰弘 (-0778-3) |
| 第12輯 | 伊勢松木文書 | 〔解説〕西山 克 (-0811-9) |

1987 ~ / B 4判 / 32頁

(各) 2,100円 (本体2,000円)

大濱徹也・熊倉功夫・筒井紘一校訂

萬象録 [全9巻]

高橋箒庵日記

1986 ~ / A 5判 / 平均450頁 / 既刊8冊

既刊揃69,300円 (本体66,000円)

〆近代茶道鼓吹の第一人者、とされた高橋箒庵。本書は、その箒庵が記した明治45年5月から大正10年6月までの日記である。政治・経済・文化・美術・芸能など多岐にわたる事柄、更には斯界人との交友を綴った一大メモワール。最終巻には解説・総索引を付す。

江馬文書研究会編

江馬細香来簡集

1988 / A 5判 / 364頁

8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-0508-X

1787年美濃大垣の蘭医蘭斎の娘として生まれた細香は、すぐれた女流漢詩人、文人画家であった。画の師浦上春琴や多くの詩友、江馬家ゆかりの人々と書簡を交わし、また歌の師頼山陽とは深い敬愛のもとに終生交際を続けている。その多くの書簡を活字化。

京都冷泉町文書研究会編

京都冷泉町文書

[全6巻・別巻1]

1991 ~ 00 / A 5判 / 平均450頁

揃 97,650円 (本体93,000円)

16世紀後半から明治期まで切れ目なく残存している個別町の稀有な史料集。その全内容を編年によって取める。近世における都市史・社会構造史研究の基本史料。別巻として解題・史料目録・参考史料を収録。

梅溪 昇編

明治期外国人叙勲史料集成

[全6巻]

1991 / B 5判 / 総3120頁

157,500円 (本体150,000円) ISBN4-7842-0666-3

国立公文書館所蔵「公文録」(8~18年)「官吏進退」(19~25年)「叙勲」(26~45年)から、外国人叙勲に関する史料を集成したもので、2087件、31ヶ国、延約7600名を含む。叙勲理由・経歴などが記され、政治・外交・経済・社会・文化・科学など多方面にわたる国際環境を知ることができる。

宮内庁書陵部編

花園院宸記 [全35巻]

1992 ~ / 卷子仕立(桐箱及び艶箱入)

既刊20回・29巻

揃 7,345,260円 (本体6,995,486円)

伏見宮家に伝来した本宸記は延慶3年14歳より元弘2年36歳までの自筆日記。社会情勢のみならず文学・芸能などにおよぶ内容は、能筆とともに鎌倉末期の一級史料。コロタイプ印刷で裏書もふくめ再現。別冊解説付き。 **年一回本**

日本史(史料集)

京都大学史料叢書〔全16冊〕

- 兵範記・範圍記・知信記(全4冊) ISBN4-7842 [解説]上横手雅敬
 兵範記(一)~(三) (各)11,025円(本体10,500円) ①(-0525-X) ②(-0559-4) ③(-0568-3)
 兵範記(四)・範圍記・知信記
- 兵範記紙背文書(全1冊) [解説]佐藤泰弘
 西山地藏院文書(全1冊) [解説]早島大祐
 京都雑色記録(全3冊) [解説]朝尾直弘
 (各)14,700円(本体14,000円) ①(-1133-0) ②(-1135-7)
 ③ISBN978-4-7842-1627-7
- 吉田清成関係文書(全7冊) [解説]山本四郎
 書翰篇(1)~(3) (各)13,650円(本体13,000円) ①(-0804-6) ②(-0925-5) ③(-1048-2)
 書翰篇(4) 15,750円(本体15,000円) ISBN978-4-7842-1428-0
- 安祥寺資財帳(全1冊) [解説]中町美香子
 5,775円(本体5,500円) ISBN978-4-7842-1516-4
- 大記(全1冊)
 永昌記(全1冊)
 東大寺文書(全1冊)
 晴右公記・晴豊公記(全1冊)
 光豊公記(全1冊)
 田中不二麿関係文書(全1冊)

1988 ~
 A 5判
 平均400頁

佐治家文書研究会編

佐治重賢氏所蔵 **小堀政一関係文書**

1996 / A 5判 / 390頁
 9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0921-2

佐治重賢氏所蔵文書(総点数7千点)のうち、特に近世前期政治に重要な位置を占め、また茶人としても著名な小堀政一(遠州)に関わる文書を三部構成で翻刻・記載。小堀政一関係文書は、国奉行・代官の史料としては希有のものであり、近世初期の幕領支配の様子を極めて具体的に知ることができる。

財団法人大阪都市協会企画・発行

雑誌「大大阪」CD-ROM

大正14年~昭和19年
 ※Windows®専用
 1998 / 99,750円 (本体95,000円)

※大正14年12月号から昭和19年1月号まで全巻約33,000ページの膨大な文章・図版・広告等のすべてをCD-ROM 2枚に完全収録
 ※都市制度・地方行政制度・都市計画・公営事業・産業経済・公害・社会福祉・教育・芸術・社会風俗・地誌など多方面にわたる内容
総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

鹿王院文書研究会編

鹿王院文書の研究

2000 / A 5判 / 530頁
 13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-1037-7

臨濟宗寺院の鹿王院(京都市右京区)所蔵の中世文書(五山禅林と幕府・朝廷との関係や京中及び諸国に展開する所領・荘園にかかわる貴重史料など)約900点を収録。第1部(文書篇)には編年で積文を取め、第2部(解題・研究篇)には文書全体の解題のほか研究成果を収録。

フォス美弥子編訳

海国日本の夜明け

オランダ海軍ファビウス駐留日誌
 2000 / A 5判 / 400頁
 5,250円 (本体5,000円) ISBN4-7842-1047-4

蒸気艦スピン号(のちの観光丸)の前艦長、長崎海軍伝習の起案者、日本海軍創成の助言者であったオランダ海軍中佐G・ファビウスは幕末の日蘭関係の立役者であった。本書には、ファビウスの連続3度のべ8カ月にわたる本邦初紹介の駐留日誌のほかその間の動向をつなぐ公文書を収録。

渡邊忠司・徳永光俊共編

飛脚問屋井野口屋記録〔全4巻〕

大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書4~7冊
 2001~04 / A 5判 / 平均450頁
 揃 42,630円 (本体40,600円)

井野口屋は、尾張領内と京都・江戸・大坂を中心に各地域を結ぶ飛脚問屋で、本記録は享保8年から天保14年までの全33冊よりなり、営業規則・仲間の規約、人夫の雇い方、飛脚賃、経路などや、藩主・家臣との間での飛脚の認可・契約の証文など、近世における交通・通信史の基本史料。

日本史(史料集)

鮫島文書研究会編

鮫島尚信在欧外交書簡録

2002 / A 5判 / 620頁
13,440円 (本体12,800円) ISBN4-7842-0962-X

鮫島尚信が初代駐仏公使として在勤中に、ヨーロッパ各国の外相並に政府要人や学界・産業界の人々に宛てて出した公信442通(英仏)を原文と翻訳で収録。明治初期におけるわが国現地外交の実態を知る貴重な史料集。原史料は“Correspondance envoye'e depuis 1871”(鹿兒島純心女子大学蔵)

京都大学総合博物館編

日記が開く歴史の扉

平安貴族から幕末奇兵隊まで 京都大学総合博物館図録
2003 / A 4判 / 180頁
1,680円 (本体1,600円) ISBN4-7842-1152-7

京都大学総合博物館の館藏品を中心に、書く・写す・用いる・伝来など日記のさまざまなすがたを大型図版でビジュアルに明かす。第1部 歴史資料としての日記/第2部 古代・中世の日記/第3部 近世の日記/兵範記と平信範(上横手雅敬)/慶長15・16年の後陽成天皇宸翰(藤井謙治)

佛教大学近代書簡研究会編
宮津市立前尾記念文庫所蔵

元勳・近代諸家書簡集成

2004 / A 5判 / 630頁
5,250円 (本体5,000円) ISBN4-7842-1179-9

通信メディアや交通機関が発達する以前、書簡は最も重要な意思疎通手段であった。伊藤博文・桂太郎・原敬・山縣有朋ら政界人をはじめ明治・大正期に各界で活躍した139人の書簡225通を収録。翻刻のほか読み下しと個別解説を付し、巻末に全体解説(青山忠正執筆)、宛て先人名別索引をおさめた。

伊藤俊一・富田正弘・本多俊彦編

東寺廿一口供僧方評定引付

[全8冊・別巻1冊]
2002～ / A 5判 / 平均350頁 / 既刊2冊
既刊揃13,650円 (本体13,000円)

東寺廿一口供僧方は鎌倉後期に公家(朝廷)の支援によって創られた国家祈禱を行う寺僧組織。構成員による自治的な共同経営で、供僧全員参加の評定により方針の決定、実行がなされる寺僧組織の中核であった。この議事録である引付を編年史料として整理・翻刻し、校定・注釈を加える。

田島 公編

禁裏・公家文庫研究

2003～ / B 5判 / 既刊4冊
既刊揃42,630円 (本体40,600円)

勅封のため全容が不明であった東山御文庫本を中心に、近世の禁裏文庫所蔵の写本や、公家の諸文庫収蔵本に関する論考・史料紹介・データベースを掲載。

山中 裕編

御堂関白記全註釈

[第2期・全8冊]

藤原道長の「御堂関白記」は、一級の日記史料で平安朝研究には不可欠のものである。本註釈は、京都と東京における研究会の成果を盛り込み、原文・読み下し・註で構成され、日記研究の基本文献としての体裁を整えている。

- | | | | |
|-----|------|-----|-----------------|
| 第1回 | 長和4年 | 第5回 | 寛弘8年 |
| 第2回 | 寛弘3年 | 第6回 | 寛弘5年 |
| 第3回 | 寛弘7年 | 第7回 | 長和5年 |
| 第4回 | 寛弘4年 | 第8回 | 御堂御記抄/長徳4年～長保2年 |

2003～2010 / A 5判
揃53,025円 (本体50,500円)

山中 裕編

御堂関白記全註釈

[第1期・全8冊]

本年刊行予定

長らく品切状態が続き、復刊の要望が多かった『御堂関白記全註釈』第1期全8冊(国書刊行会・高科書店刊行)を復刊。第2期全8冊とあわせ、『御堂関白記』の全容が解明される。(刊行予定)寛仁元年・長和元年・寛仁2年上・寛仁2年下～治安元年・寛弘元年・長和2年・寛弘2年・寛弘6年

京都府立総合資料館編

東寺百合文書

2004～ / A 5判 / 平均440頁 / 既刊9冊
既刊揃89,775円 (本体85,500円)

東寺に襲蔵されてきた総数18,000点・27,000通におよぶ日本最大の古文書群(平成9年国宝に指定)。本史料には「ひらかな之部」刊行中の『大日本古文書』(東京大学史料編纂所)未収録の「カタカナ之部」を翻刻。巻末に収録史料の花押一覧を併載(年一回刊行)。

中野卓・中野進共編

昭和初期 一移民の手紙による生活史

ブラジルのヨッチャン
2006 / A 5判 / 260頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1301-5

昭和3年(1928)1月にブラジルへ移民として出国した中野義夫が日本へ送った書簡を中心に編纂。異国での苦難の日々、母国への想い、経済的無心、家族や兄弟姉妹のこと——海を越えて届けられた一通一通の手紙に移民の生きた声が反映されており、昭和という時代の側面をとらえた貴重な資料。

本篇：赤松俊秀校訂／総索引：『隔蓑記』研究会編
かくめいき
隔蓑記 [全7巻／本篇6冊・総索引1冊]
1997 / A 5判 / 平均700頁
73,500円 (本体70,000円) ISBN4-7842-1311-2

鹿苑寺住持鳳林承章の寛永12年(1635)から寛文8年(1668)までの33年間にわたる自筆日記で、近世の日記の中でも一級の記録。鹿苑・相国両寺に関する記事は勿論のこと、当時の宮廷文化をとりまく多彩な人物との交流が伺える。総索引の完成を機に、全7巻セットとして復刊。

『隔蓑記』研究会編
かくめいき
隔蓑記 総索引
2006 / A 5判 / 760頁
14,700円 (本体14,000円) ISBN4-7842-1312-0

全6巻のデータベースをもとに、原文表記に準じつつ『隔蓑記』の内容に対応しうる詳細な索引。人名と事項および寺社・地名の3分類に分けて編集し、人名索引では史料掲出の異称・別称などの参照項目を設け、さらに事項索引では諸分野にわたる項目をできうる限り掲げて利用者の便に応える。

太田勝也編

近世長崎・対外関係史料

2007 / A 5判 / 728頁
16,800円 (本体16,000円) ISBN978-4-7842-1362-7

「長崎御役所留」(国立公文書館 内閣文庫所蔵)・「長崎諸事覚書」(同)・「長崎記」(東北大学附属図書館 狩野文庫所蔵)および「長崎日記」(筑波大学附属図書館所蔵)の4点を取る。「長崎御役所留」は長崎奉行所に受け継がれてきた文書・記録類の編纂物であるが、この現存史料としては唯一。

塵海研究会編

北垣国道日記「塵海」

2010 / A 5判 / 640頁
10,290円 (本体9,800円) ISBN978-4-7842-1499-0

北垣国道(1836～1916)は、京都府知事に就任した明治14年(1881)から、北海道庁長官・拓殖務次官などを経て、隠棲した明治34年(1901)までの活動や人々との交流を日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。

東京国立博物館古典籍叢刊編集委員会編

九条家本延喜式 [全5巻]

東京国立博物館古典籍叢刊
2011～ / A 5判 / 平均500頁
1～4(各) 15,750円 (本体15,000円) (第五巻は未定)

国宝・九条家本延喜式は、平安～鎌倉時代の書写と見られ、さらにはその紙背に平安時代後期を中心とする多数の古文書が残されていることから、『延喜式』諸本のなかで最も重要な写本である。FMスクリーン印刷により、紙背も含め全冊を影印で刊行。最終巻には紙背文書の翻刻を付す。

原田正俊編

天龍寺文書の研究

2011 / A 5判 / 716頁
14,700円 (本体14,000円) ISBN978-4-7842-1571-3

京都嵯峨・天龍寺の古文書は、仏教史・寺院史のみならず多数の朝廷・幕府発給の文書、荘園関係文書を含み、政治史・社会経済史研究に必須の文書群である。第1部には鎌倉時代～慶長5年の中世天龍寺関係文書・関連諸塔頭文書を掲載、第2部に解説・論考を収録する。

飯沼賢司編

阿蘇下野狩史料集

2012 / A 5判 / 328頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1622-9

阿蘇の五岳の西山麓に広がる広大な原野、下野(しもの)。そこで中世に行われた「下野狩神事」は、源頼朝の富士の巻狩りの手本となつたとされる狩神事であり、阿蘇宮最大の重要行事であった。その史料である『下野狩日記』『下野狩日記抜書』とその関連文書、阿蘇家所蔵の関連史料を翻刻。

皇學館大学神道研究所編

訓読注釈儀式踐祚大嘗祭儀

2012 / B 5判 / 900頁
15,750円 (本体15,000円) ISBN978-4-7842-1619-2

三代儀式の一つとして貞観期に作られたとされる、朝廷儀式の次第書『儀式』(十巻)の前半部に含まれ、祭祀に関わる儀式を今に伝える貴重な史料「踐祚大嘗祭儀」の原文翻刻に訓読および各事項についての詳細な注釈・校異、ならびに解題・平面図等を付す。

芳賀幸四郎歴史論集 〔全5巻〕

1981／菊判／平均470頁

①～④【品切】 ⑤11,550円 (本体11,000円) ISBN4-7842-0306-0

歴史学・歴史観の先駆を成した氏の業績を集大成

第1巻 東山文化の研究 上 第4巻 中世文化とその基盤
第2巻 東山文化の研究 下 第5巻 近世文化の形成と伝統
第3巻 中世禅林の学問及び文学に関する研究

奈良本辰也選集 〔全6巻・別巻1〕

1981～82／四六判／平均320頁

(各) 1,890円 (本体1,800円)

明治維新史研究において戦後の歴史学をリードしてきた著者の幅広い活躍はつとに知られているが、本選集には、鋭い歴史観と人間味あふれる著作より師友にまつわるエッセイから陶磁器・味・旅・歴史小説などを収録。別巻には、現在入手困難な記念碑的諸論文を収めた。

原田伴彦論集〔全5巻〕

1984～86／A5判／平均400頁

(各) 7,140円 (本体6,800円)

「著作集」に記載しなかった学術論文を編集し、各分野で第一線の研究者による解説を付した。原田史学の集大成。

第1巻 都市発達史研究 第4巻 部落差別史研究
第2巻 都市形態史研究 第5巻 文化芸能史研究
第3巻 都市社会史研究

原田伴彦著作集 〔全7巻・別巻1〕

1981～82／四六判／平均410頁

①2,940円 (本体2,800円)

③,⑤～別巻 3,045円 (本体2,900円) ②,④品切

日本の都市史研究の開拓者であり権威である氏が、良質の史料を駆使し、都市研究をはじめ民衆史の本領ともいべき部落史、女性史、また茶湯の世界を軽妙かつわかりやすく描く。折にふれて書かれた著作を、テーマ毎に編集。

児玉幸多他編

岡田章雄著作集〔全6巻〕

1983～84／四六判／平均330頁

③以外品切, ③ 3,045円 (本体2,900円)

東大史料編纂所において一貫して日本関係海外史料の調査研究に従事した著者が50年に及ぶ研究歴の間に書き残した論著を、今では入手困難なものを中心に全6巻に編む。

土田直鎮編

桃裕行著作集〔全8巻〕

1988～94／A5判／平均300頁

永年、東大史料編纂所にて古記録や編年史料の調査・編纂に携わった著者の業績。本著作集では、未定稿および書き込みも含め、氏の業績を全8巻に集成する。

第1巻 修訂版 上代学制の研究 【品切】
第2巻 上代学制論攷 【品切】
第3巻 武家家訓の研究 6,090円(本体 5,800円)
第4巻 古記録の研究(上) 【品切】
第5巻 古記録の研究(下) 6,090円(本体 5,800円)
第6巻 松江藩と洋学の研究 6,195円(本体 5,900円)
第7巻 暦法の研究(上) 【品切】
第8巻 暦法の研究(下) 6,195円(本体 5,900円)

林屋辰三郎(代表)・村井康彦・山路興造・川嶋将生・熊倉功夫編

民衆生活の日本史〔全5巻〕

1994～／四六判／平均250頁

木・火・土・金・水の五行の元素を各巻タイトルにし、民衆生活への親密性・平易性・日常性を視座に日本史を綴る。時代の特徴を生み出し、日本人を支えてきた五つの元気の分析を試みる。各巻は思想・産業・生活・風俗・信仰・特論の5篇、カラー口絵8頁と解説からなる。

第1回〈木〉2,625円(本体2,500円)ISBN4-7842-0840-2

【3刷】

第2回〈火〉2,548円(本体2,427円)ISBN4-7842-0910-7

第3回〈金〉2,625円(本体2,500円)ISBN4-7842-0918-2

第4回〈土〉

【未刊】

第5回〈水〉

【未刊】

村田正志著作集〔全7巻〕

1983～85/A5判/402～704頁
揃 82,950円 (本体79,000円)

永年の業績を新たな加筆・訂正を補って集大成。古文書・古記録を通して実証につらぬかれた歴史眼がすみずみまで窺える。第4巻「証註椿葉記」や第7巻「風塵録」は貴重な史料の紹介・翻刻である。

叢書

実学資料研究会編

実学史研究

1984～/A5判/平均300頁/既刊11冊
既刊揃 62,790円 (本体59,800円)

江戸時代において生活に則した条件の改良・改善、いくたの努力が有名人や名もなき庶民によって重ねられ、新時代への原動力になった。それら生活機能を高めるための諸学を実学という。その研究と未刊公刊史料紹介からなるシリーズ。

総合教育センター(TEL03-5844-3041)専売商品です。

徳川黎明會編

金鯨叢書(きんこそうしょ)

史学美術史論文集

1974～/第1～20輯A5判・第21輯～B5判
既刊38冊/揃334,110円(本体318,200円)

徳川林政史料研究所の「研究紀要」と徳川美術館の重要名物類を対象とした史学・美術史学の研究論文を収録、年1回刊行する。互いに相関連する尾張徳川家の文書記録と美術品とを共に収蔵する徳川黎明會ならではの論文集。

古代

山中裕著

平安時代の古記録と貴族文化

思文閣史学叢書

1988・1994/A5判/510頁
9,240円(本体8,800円)ISBN4-7842-0857-7

古記録・儀式書・かな日記・歴史物語等の根本史料から、撰閣政治の本質および年中行事を主とする平安貴族文化の実態を説く。第1篇では藤原師輔と源高明をとりあげ、第2篇では御堂関白記を中心に道長の政治を論じ、また史実と歴史物語の関係を検討し、第3・4篇で平安時代の有職故実を解明。【2刷】

村井康彦著

文芸の創成と展開

1991/A5判/400頁
5,040円(本体4,800円)ISBN4-7842-0658-2

歴史と文学の虚実——私日記・説話・歴史物語などを通して平安貴族の生活、受領の実態、武士の精神構造、女性たちの愛憎をさぐる。村井文化史学。の粹29篇を収め、著者の一到達点を提示する一書。

門脇禎二著

「大化改新」史論〔上・下〕

1991/A5判/(上)300頁(下)340頁
(各)3,990円(本体3,800円)
上(ISBN4-7842-0651-5) 下(ISBN4-7842-0652-3)

『書紀』編者の史観と構成による「大化改新」に疑念を抱いてきた著者の20年間にわたる模索と検証の成果を集成。上巻では、舒明天皇即位の紛争事件、上宮王家滅亡事件、蘇我本宗家滅亡事件を検証し、下巻には「大化」期の政治過程、「大化改新」と律令制、「大化改新」論覚書などを収める。

瀧浪貞子著

日本古代宮廷社会の研究

思文閣史学叢書

1991/A5判/620頁
12,390円(本体11,800円)ISBN4-7842-0677-9

先入観を極力排し、奈良・平安時代を連続して考察することにより、光明子立后論の盲点を衝き、学問的に忌避されがちな孝謙女帝の復権を果すなど創見に富む著者初の論文集。

公家と儀式

京都大学文学部博物館図録第5輯

1991/B5判/128頁
1,141円(本体1,087円)ISBN4-7842-0692-2

【解説】儀式と文書/勸修寺の一千年【図版解説】太政官政治/叙位と除目/即位と大嘗/白馬節会/神事と仏事/儀式の次第/装束/諸院・諸家・地下官人/用途の調達/検非違使/隨身と駕輿丁/李氏朝鮮の宮廷/勸修寺家の創始/中世の勸修寺家/近世の勸修寺家/先例と故実/改元の手続き

山中 裕 編

古記録と日記〔上・下〕

(各) 3,045円 (本体2,900円)

上 (ISBN4-7842-0752-X) 下 (ISBN4-7842-0753-8)

古記録と日記文学は同じ日記とはいえ、まったく異なる分野であり、従来の研究は古記録を歴史学、“かな”の日記を国文学の分野で扱ってきたが、本書においては日記という大きな見地から平安朝の古記録と日記文学の本質を明らかにすることを主眼としている。挿入図版60余点。

上 横手雅敬監修 / 井上満郎・杉橋隆夫編

古代・中世の政治と文化

1994 / A 5判 / 680頁

14,700円 (本体14,000円) ISBN4-7842-0818-6

監修者の京大退官を機に、最新成果を集約。【執筆】西山良平 / 橋本義則 / 元木泰雄 / 美川圭 / 川端新 / 久野修義 / 杉橋隆夫 / 今岡典和 / 今谷明 / 伊藤之雄 / 鎌田元一 / 吉川真司 / 柴原永遠男 / 酒井宏治 / 上島享 / 谷口昭 / 笠谷和比古 / 本郷真紹 / 井上満郎 / 小林保夫 / 田島公 / 勝山清次 / 綾村宏 / 上横手雅敬 / 山内譲 / 仁木宏

山中 裕 著

源氏物語の史的研究

思文閣史学叢書

1997 / A 5判 / 470頁

9,660円 (本体9,200円) ISBN4-7842-0941-7

王朝文化・有職故実研究の第一人者が源氏物語を史的に読み解く。紫式部の生涯と後宮 / 源氏物語と時代背景 / 源氏物語の内容と時代性 / 源氏物語の準拠と史実、の4篇と付篇からなり、特に第三・四篇は、撰関制・年中行事・準拠と史実などの面から論じた、著者の面目躍如たる一書。

加茂正典著

日本古代即位儀礼史の研究

思文閣史学叢書

1999 / A 5判 / 480頁

9,030円 (本体8,600円) ISBN4-7842-0995-6

大嘗祭をはじめ、踐祚儀(剣璽渡御儀礼)をも考察の対象とし、広義の即位儀礼研究として、各儀式・祭儀の具体的実態およびその歴史の変遷と関連を考察。著者最新の研究動向、さらに資料篇として古代即位儀礼史料年表稿、新嘗祭・大嘗祭文献目録(昭和20年~平成10年)を収載し、索引を付す。

門脇慎二編

日本古代国家の展開

1995 / A 5判 / 各470頁

〔全2巻〕

(各) 12,600円 (本体12,000円) 上 (ISBN4-7842-0889-5) 【品切】 下 (ISBN4-7842-0890-9)

京都府立大学・京都橘女子大学の学長を務め、戦後古代史学に大きな足跡を残した編者に学恩をうけた研究者37名による古稀記念論文集。

西別府元日著

律令国家の展開と地域支配

思文閣史学叢書

2002 / A 5判 / 400頁

8,610円 (本体8,200円) ISBN4-7842-1111-X

土地に対する国家的管理の実相、民衆掌握の様相、地域社会と国家との関係、の3視点から8~9世紀の諸政策を対比的に分析・検討し、律令国家支配の理念とその構造的変化を追究する。

西別府元日著

日本古代地域史研究序説

2003 / A 5判 / 320頁

7,140円 (本体6,800円) ISBN4-7842-1142-X

いまだかけ声にとどまる「地域の視座」にたつ研究の実践的試み。「地域の視座」を人々の再生産(経営)の場とその構造に思索の立脚点をすることとらえ、前著で追究した律令国家の展開を明らかにするための前提ともなる、古代地域社会研究方法論の確立をめざす。

秋吉正博著

日本古代養鷹の研究

2004 / A 5判 / 280頁

6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1181-0

律令国家体制下の養鷹の実態、放鷹文化の構造を解明。朝廷の放鷹が近隣諸国や国内の地方の放鷹と隔絶しているのかのごとくされてきた従来の研究に対し、東アジアの国際情勢と照応しながら体制の内外を横断し展開する朝鮮半島系と中国系という二極の放鷹文化の伝統意識を動的に捉える。

柴原永遠男著

紀伊古代史研究

2004 / A 5判 / 430頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-1199-3

古代の紀伊をテーマに扱ってきた永年の成果をまとめる。第I部では、紀国造と名門貴族である紀朝臣の考察と倭政権との関係を扱い、政治と経済の動向は第II部でとりあげる。第III部には史料論5篇を収録。

佐藤宗諱先生退官記念論文集刊行会編

『親信卿記』の研究

2005 / A 5判 / 600頁

10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-1252-3

平親信の日記『親信卿記』は、藏人の年中行事に関わる一級の史料である。本書は、四方拝・供立春水など80項目余の行事ごとに記事を抽出・分類し、その内容の基礎的な研究を試みたものであり、関係補論6篇のほか古代史の個別論考4篇も収録。

日本史(古代)

中村修也著

今昔物語集の人々 平安京篇

2004 / A 5判 / 220頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-1213-2

虚実ないまぜ話柄の豊富な説話文学の古典から平安京という都市で生きる人々——商人・検非違使・怪盗・陰陽師・絵師たち——のさまざまな姿を活写。【目次】都人の楽しみは神社詣で／不思議な力の商人たち／盗賊団の跋扈する都／平安京の冥界と霊力／都に生まれた芸術家／昔も変わらぬ食生活

官文娜著

日中親族構造の比較研究

思文閣史学叢書

2005 / A 5判 / 430頁
7,560円 (本体7,200円) ISBN4-7842-1241-8

近代以降、日本は西洋異文化(近代文化)との融合を果たしたが、中国はそれが不可能であった。なぜそのような状況がうまれたのか。異文化の特質解明という視点から日本と中国の血縁親族構造の比較を検証してその原因を解明した、著者初の論文集。

中村修也著

日本古代商業史の研究

思文閣史学叢書

2005 / A 5判 / 400頁
7,560円 (本体7,200円) ISBN4-7842-1268-X

人間の生活は商人による多様な交易によって支えられ営まれている。本書では、これらの商人や市に関わる人々の存在形態を、交易の発生から出雲・平城京・平安京などにおける都市空間の生活の場で解析し、日本古代における商人と商業の業態を明かす。

渡里恒信著

日本古代の伝承と歴史

2008 / A 5判 / 372頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1403-7

大化前代における王権と氏族の諸様相を『古事記』と『日本書紀』などの伝承史料から解き明かした論考を第1・2篇に収録し、第3篇では平安初期の特徴的な君臣関係をテーマとしてとりあつかう。

関口力著

摂関時代文化史研究

思文閣史学叢書

2007 / A 5判 / 488頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1344-3

道長の時代の古記録・日記類から、摂関時代全盛期に生きた人物、および彼らをはぐくんできた社会について考察。政権を掌握した体制派、それに対する反体制派、そうした官人群とは一線を画した非体制派の人物群という基本的な人間類型を示すことにより、人間が主人公である歴史の在り方について追究する。

兵範記輪読会編

兵範記人名索引

2007 / A 5判 / 484頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1358-0

1980(昭和55)年の輪読会発足より蓄積された研究成果を人名索引として集成。(増補)史料大成本を底本とし、男子の部と女子の部の2部構成よりなり、人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原文の情報を盛り込んだ、中世史研究者必携の一書。

臈谷壽・山中章編

平安京とその時代

2010 / A 5判 / 488頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1497-6

平安朝の研究を牽引してきた臈谷壽先生を中心に、京都に所縁のある研究者が、「平安京」をテーマに、歴史学・考古学・地理学それぞれの視点から意欲的なアプローチを展開した、総合論集。

上田正昭著

古代日本の輝き

2003 / 四六判 / 300頁
1,785円 (本体1,700円) ISBN4-7842-1167-5

日本の歴史と文化を支えている「古代的精神・古代的要素」とはなにか——広くアジア史をも視野に入れて折口民俗学を継承する著者が喜寿の節目にまとめた一書。【内容】北ツ海文化の再検討／『風土記』の伝承／モノの歴史学からヒトの歴史学へ／石門心学の再発見／古代芸能の形成／現代に生きる朝鮮通信使 など

上田正昭著

東アジアのなかの日本

2009 / 四六判 / 376頁
2,520円 (本体2,400円) ISBN978-4-7842-1479-2

海を媒介とするアジアとのかかわりを重要なテーマとしてきた著者がまとめた最新の一書。【内容】東アジアのなかの京都盆地／嵯峨野と秦氏／神々のあるさと／銘文研究二十年と古代史／鎮守の森と南方熊楠／歴史のなかの聖徳太子像／和歌のこころ／保津川開削と了以・素庵 など

林 陸朗 著

奈良朝人物列伝

『続日本紀』薨卒伝の検討

2010 / A 5判 / 468頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1517-1

『続日本紀』には王臣・僧侶等の死没記事のあとにその人の略伝的な記事を掲げることがある。こうした伝記的な記事を薨卒(こうしゅつ)伝といい、撰者の批評的記事を交えて極めて特色ある史料として注目される。54の全薨卒伝について、現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。

仁明朝史の研究

承和転換期とその周辺

2011／A5判／356頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1547-8

鹿内浩胤著

日本古代典籍史料の研究

2011／A5判／376頁
7,035円 (本体6,700円) ISBN978-4-7842-1552-2

渡邊誠著

平安時代貿易管理制度史の研究

2012／A5判／396頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1612-3

佐古愛己著

平安貴族社会の秩序と昇進

2012／A5判／550頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1602-4

仁明朝史研究会の研究成果をもとに、様々な分野・視点から仁明朝期の画期性を解き明かす論文集。

【目次】九世紀東部ユーラシア世界の変貌（山内晋次）／九世紀の調庸制（吉川真司）／九世紀の輸送体系（佐藤泰弘）／「化他」の時代（堀裕）／平安京野寺（常住寺）の諸問題（西本昌弘）／錢貨と土器からみた仁明朝（高橋照彦）／造瓦体制の変革期としての仁明朝（網伸也）／定額寺の修理と地域社会の変動（菱田哲郎）／承和期の乾漆併用木彫像とその後の展開（根立研介）／平安時代前期の陵墓選地（山田邦和）／齋宮・離宮院遷遷の歴史的背景（山中章）

史書・法制史料・儀式書など日本古代史の基本史料を対象に、伝来論的アプローチを中心に「文献学的研究」と「書誌学的研究」の二部構成で研究の方法論を提示。著者が発見した新史料【小野宮年中行事裏書】（田中教忠旧蔵『寛平二年三月記』）全丁の影印・翻刻も収録。

従来、平安時代の貿易に対する国家の関与は、内外の交易者と対立的に捉えられることが多かったが、人々の活動を即座に国家権力と対峙させる理解は今や再考を迫られている。本書は海商の貿易活動を国家が管理する「制度」を中心にして、その消長を明かすことで、新たな貿易史像を呈示する。

従来、律令官司制の変質、中世国家機構の形成過程との有機的な関連はほとんど追究されてこなかった。本書は、平安から鎌倉初期にかけての各制度の総体的な把握を試みることで、律令官人制から平安貴族社会、中世公家社会の成立過程を明かし、日本の古代から中世への移行の特質を探る。

中 世

高橋康夫著

京都中世都市史研究

思文閣史学叢書

1983・2003／A5判／540頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0318-4

橋本初子著

〈第13回角川源義賞〉

中世東寺と弘法大師信仰

思文閣史学叢書

1990／A5判／580頁
10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-0621-3

川嶋将生著

中世京都文化の周縁

思文閣史学叢書

1992／A5判／430頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0717-1

工藤敬一著

荘園公領制の成立と内乱

思文閣史学叢書

1992／A5判／440頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0750-3

中世京都の都市空間形成過程における種々の問題を、辻子の発生と展開、平安京北辺・後小松院仙洞御所跡敷地・土御門四丁町等の再開発、あるいは六町の成立と構造などの検討を通してさぐり、今日の歴史的都市の保全修景計画をも射程に入れて中世都市像を追究。人名・事項索引を付す。【2刷】

中世東寺における弘法大師信仰の実態を、御影供、仏舍利信仰、東寺の大湯屋、東寺の造営事業、大師宝前仏事などを通して明かす。東寺観智院金剛藏聖教、東宝記、検非違使庁関係文書などを駆使しての広博な視野のもとに精緻な研究を問うてきた著者の、中世宗教文化史研究上画期的な労作。

“近世都市”へと変貌を遂げていく中世京都の姿を、洛中洛外図や祇園会の記録を通し、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人との世代交代という、中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。

九州において鎌倉前期（承久の乱後）に完成する荘園公領制の構造を、その前提にある院政期から鎌倉幕府支配体制の確立へと収束していく在地勢力の内乱、幕府の九州支配の一大特色である小地頭制という政治的社会的あり方とともに究明する。

三浦圭一著

日本中世の地域と社会

1993 / A 5判 / 496頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0755-4

地域史・技術史・流通史に先駆的な業績を残した著者が「地域史をどう書くか」ということではなくて地域社会の中から歴史をどう描くか」を課題として、中世後期の地域社会における民衆生活の全体像を、支配関係・村落共同体・差別構造・技術・信仰などから重層的に明かした珠玉の論集。

笹本正治著

戦国大名武田氏の研究

思文閣史学叢書
1993 / A 5判 / 440頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0780-5

甲斐武田氏を素材に、戦国時代の国境の在り方、棒道に代表される道の意味、国人領主を支配下に組み込む過程、さらに民衆の側から見た戦国大名、職人・商人の支配構造を明かしていく14篇。従来の研究に「あまりに武田氏の権力を大きく評価しすぎたのではないか」とする著者の問題提起。

市村高男著

戦国期東国の都市と権力

思文閣史学叢書
1994 / A 5判 / 580頁
11,340円 (本体10,800円) ISBN4-7842-0855-0

東国戦国史の雄である後北条氏に対決した下野の小山氏、下総の結城・山川氏、常陸の佐竹・多賀谷・土岐・岡見氏、武蔵の成田氏などの諸権力を詳細に分析し、それとの関連で都市(城下町)の実態を追求、併せて当該地域の歴史像を明らかにしている労作。

佐藤博信著

中世東国の支配構造

思文閣史学叢書
1989・1998 / A 5判 / 410頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0554-3

鎌倉府の歴史的な性格を決定づけた武州河越合戦、鎌倉府体制下の相模守護のあり方、奉行人の軌跡、古川公方足利氏を生み出した東国の内乱=享徳の大乱の諸段階の検討など、室町・戦国期の政治過程を究明し、更に鏝阿寺文書・正文文書・喜連川家文書・福田家文書などの関係史料を検討。【2刷】

佐藤博信著

続中世東国の支配構造

思文閣史学叢書
1996 / A 5判 / 358頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0916-6

南北朝期から戦国期における東国の権力構造の諸問題を多方面から明かした論考18篇を収める。関東足利・上杉両氏の動向を中心に、内乱、家臣団をめぐる諸相、都市・寺社論。さらには下総光福寺文書・鏝阿寺文書・常陸穴戸家文書・扇谷上杉朝良文書・上総大野家文書などの史料論をも言及する。

大山喬平編

中世荘園の世界

東寺領丹波国大山荘
1996 / B 5判 / 340頁
10,080円 (本体9,600円) ISBN4-7842-0893-3

5年間の大山荘の調査結果をふまえたシンポジウムをもとに編んだ中世荘園の全貌に迫る待望の書
【執筆】大山喬平/西田辰博/水野章二/小林基伸/芦田茂/村田修三/久下隆史/金田章裕/海老澤衷/服部英雄

大山喬平教授退官記念会編

日本国家の史的特質

〔古代・中世〕

1997 / A 5判 / 796頁
15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0937-9

古代・中世の国家をテーマとした書き下ろし論文31本を収録

〔近世・近代〕編は22頁に掲載

大山喬平教授退官記念会編

日本社会の史的構造

〔古代・中世〕

1997 / A 5判 / 774頁
15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0936-0

古代・中世の社会をテーマとした書き下ろし論文32本を収録

〔近世・近代〕編は22頁に掲載

金井静香著

中世公家領の研究

思文閣史学叢書
1999 / A 5判 / 330頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN4-7842-0996-4

公家領の総合的な研究は未だ少なく、荘園公領制や院政・家制度といった関連分野においても、十分に論じられているとは言いがたい。本書は、そういった状況を踏まえ、王家領も含めた公家領の諸側面を明らかにすることにより、その総合的特質と変容過程の解明にとりくんだ意欲作。

川嶋将生著

「洛中洛外」の社会史

1999 / A 5判 / 348頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1003-2

鴨川の景観変遷、都市としての京都を生み出した町人の信仰・遊楽や会所への関わり、被差別民の動向、京郊に展開した村落の諸相、さらに落書の系譜にみられる社会や政治に対する人々の認識など、「洛中洛外」の時代にとりくんだ成果。

八木聖弥著

太平記的世界の研究

1999 / A 5判 / 290頁
7,140円 (本体6,800円) ISBN4-7842-1021-0

本書では『太平記』の描く時代を広く文化史的視点から論じ、多様な価値観が統合された、その時代性を浮き彫りにする。【内容】 研究史 / 『太平記』とその時代 / 『太平記』の世界の信仰 / 猿楽能と『太平記』的世界 / 『太平記』の世界から幽玄の世界へ

原田信男著

中世村落の景観と生活

関東平野東部を中心として
思文閣史学叢書
11,340円 (本体10,800円) ISBN4-7842-1022-9

現地調査にもとづき、地形や伝承、中世・近世文書や地誌類などの資料、さらに地理学・考古学などの隣接諸科学も援用し、典型的な中世村落の事例復原を試み、生活の諸相をふくめて総合的かつ具体的に考察。(挿入図表130余点)
1999 / A 5判 / 640頁

鍛代敏雄著

中世後期の寺社と経済

思文閣史学叢書
1999 / A 5判 / 404頁
8,400円 (本体8,000円) ISBN4-7842-1020-2

中世寺社勢力が後退し戦国期宗教が台頭した転換期における、政治経済上勢力を誇った石清水八幡宮と本願寺教団を主な対象とし、寺領・社領を中心に論じられてきた寺社と経済をめぐる問題に商業史・交通史・都市史の視角から迫り、中世後期の社会経済の変革の実態を具体的に描く。

村井康彦・笠谷和比古編

公家と武家〔全4冊〕

1995～2008 / A 5判 / 平均490頁
揃 35,175円 (本体33,500円)

国際日本文化研究センターで行われた公家(貴族)と武家に焦点を合わせた共同研究の成果。武士層が成長した地域と、文官支配が優越した地域との差異に着目。前近代社会における支配エリートであったそれらの身分や職能のもつ意味、その秩序の形式、社会的役割といったものを多角的に検討。

- I その比較文明的考察 8,190円 (本体7,800円)
- II 「家」の比較文明的考察 9,870円 (本体9,400円)
- III 王権と儀礼の比較文明的考察 8,190円 (本体7,800円)
- IV 官僚制と封建制の比較文明的考察 8,925円 (本体8,500円)

笠谷和比古編

国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史

8,400円 (本体8,000円) ISBN4-7842-1256-6

国際日本文化研究センターで内外の第一線の研究者が一堂に会し行われたシンポジウム報告。【内容】 I 文人型社会と戦士型社会 II 王権と儀礼 III 貴族とは何か IV 封建制度と官僚制度 V 思想・宗教・文化
2005 / A 5判 / 490頁

小西瑞恵著

中世都市共同体の研究

思文閣史学叢書
2000 / A 5判 / 340頁
6,720円 (本体6,400円) ISBN4-7842-1026-1

陸路水路の要衝大山崎を分析し、国家権力と密接な関係をもつ商業的共同体という観点から論じた大山崎研究、港湾都市である堺都市論、自治都市の成立過程と内部構造について公界と会合に着目した大湊研究、戦後の都市論への見解を示した論考。都市共同体の全体的構造や住民の実態に迫る。

佐藤博信著

江戸湾をめぐる中世

2000 / A 5判 / 270頁
5,880円 (本体5,600円) ISBN4-7842-1045-8

房総を含む江戸湾一帯を東西両国の出入口として捉え、そこでの人と物との流れを時の権力との絡みから再検討しようとした論考11篇。二階堂文書・鶴岡八幡宮文書・金沢文庫文書・妙国寺文書など関係史料から氏族の存在とその歴史的性格(専門職能)について考察する。

川端 新著

荘園制成立史の研究

思文閣史学叢書
2000 / A 5判 / 520頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-1054-7

荘園制の成立過程、およびそれに規定された荘園制の構造的特質を問うことは、中世国家・社会を基礎づける構造の成立過程やその特質を問うことである——。荘園制形成の通説に再検討を迫る博士論文を主軸に、付編には院政期裁判制度を論じた未発表稿を含む6論文を収録。

小川 信著

中世都市「府中」の展開

思文閣史学叢書
2001 / A 5判 / 576頁
11,550円 (本体11,000円) ISBN4-7842-1058-X

古代国府の後身ともいべき領域は、国府(こう)、府中と呼ばれる。中世府中は古代国府と戦国期以降の城下町の中間に位置しながら意外と見逃されていた一種のmissing link(見失われた鎖)であったが、本書では詳細な個別研究を集大成、中世都市としての諸国府中の全体像を明かす。

堀池春峰監修／綾村宏・永村眞・湯山賢一編集

東大寺文書を読む

2001／B5判変／192頁
2,940円(本体2,800円)ISBN4-7842-1074-1

下坂 守 著

中世寺院社会の研究

思文閣史学叢書

2001／A5判／598頁
10,290円(本体9,800円)ISBN4-7842-1091-1

藤井 學 著

本能寺と信長

2003／四六判／230頁
2,310円(本体2,200円)ISBN4-7842-1134-9

田中文英著

院政とその時代

佛教学大学鷹陵文化叢書8

2003／四六判／310頁
2,310円(本体2,200円)ISBN4-7842-1149-7

水野章二編

中世村落の景観と環境

山門領近江国木津荘

2004／A5判／390頁
7,140円(本体6,800円)ISBN4-7842-1198-5

脇田晴子／M・コルカット／平雅行共編

周縁文化と身分制

2005／A5判／350頁
5,775円(本体5,500円)ISBN4-7842-1231-0

熱田 公 著

中世寺領荘園と動乱期の社会

思文閣史学叢書

2004／A5判／540頁
9,450円(本体9,000円)ISBN4-7842-1203-5

(財)世界人権問題研究センター編

さんじょ しゅうも じ まいまい

散所・声聞師・舞々の研究

2004／A5判／590頁
8,610円(本体8,200円)ISBN4-7842-1219-1

山田雄司著

崇徳院怨霊の研究

2001・2005／A5判／314頁
6,300円(本体6,000円)ISBN4-7842-1060-1

元木泰雄著

院政期政治史研究

思文閣史学叢書

1996・2000／A5判／406頁
8,190円(本体7,800円)ISBN4-7842-0901-8

東大寺が有する膨大な文書群(平成10年国宝指定)の中から50余点を選び、その豊かな世界を紹介する。写真は大型図版で掲載し、テーマごとに編者による概説、各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付す。【構成】文書の伝来／勸進と檀越／寺家と寺領／法会と教学／文書の姿

中世社会においてその活動を総体的に把握しようとしてこなかった比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺がいかなるものであったかはもとより、惣寺を基盤として形成されていた寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る、著者初めての論文集。

信長と法華宗や茶の湯との結びつきを、史料にもとづく史実と豊富な挿話で描く。【内容】四条坊門西洞院の本能寺／南蛮寺と茶屋屋敷／本能寺の信長廟／つくも茄子の茶入／信長の名物狩／円乗坊宗円と熊本古流／武野紹鷗と松永久秀と今井宗久／蒐集される名物／信長最後の茶会 など

古代国家から中世国家への国家権力形態の転回のうえで最も重要な画期・院政期をかたちづかった各権門の動向についての論考8篇を収録。荘園支配など地域社会にも目を向け、社会的にも政治的にも大きな変化が生じた激動の時代を分析した既発表の論考を大幅に改稿。

木津荘検注帳の検討や聞き取り調査など、多面的に中世村落の景観に迫る。最重要港であった木津が鎌倉以降今津にとつてかわられる主原因は琵琶湖の水位変動だったことや、湖岸はラインではなく生態系と生業を有するゾーンであること、棚田景観が主として室町期に形成されたことなどを論証。

前近代社会を近代化の呪縛を脱した地平から見直し、周縁部分をテーマとすることで新たな前近代社会像を構築。【執筆】武田佐知子／田端泰子／マーチン・コルカット／吉田伸之／デイビット・ハウエル／ルーク・S・ロバーツ／コンスタンティン・N・ヴァボリス／松井章／平雅行／脇田晴子／脇田修／塚田孝

中世畿内における荘園研究の先駆者の一人である著者が遺した主要な業績を4部構成でまとめる。高野寺領荘園支配の確立過程・紀州における鼎の形成と展開・室町時代の興福寺領荘園について・中世大和の声聞師に関する一考察など全16篇・付論1篇を収録。

部落史・身分制・芸能史研究などによって、散所問題はさまざまな視点からとりあげられてきた。本書では、永年の共同研究の成果として山城・近江地域に所在した散所の個別的な検証を通して、地域散所研究の到達点を提示。本論のほか座談会・文献目録・年表を併載。

崇徳院怨霊を時代背景の中で位置づけ、日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになり、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す『保元物語』がいかにしてまとめ上げられたのか、文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討し解明する。【2刷】

卒論で武家棟梁の政治的限界に気づいて以来大きな政治力を有する荘園領主権門の分析に傾倒してきた著者の研究成果を纏め、権門としての撰閑家の特質に注目した新たな平安期政治史を提示。さらに平民政権をとりあげ、諸権門の相剋・対立、職能分離した権門の鼎立に至る過程に迫る。【2刷】

上島 有著 (第21回角川源義賞)

東寺・東寺文書の研究

1998 / A 5判 / 872頁
17,850円 (本体17,000円) ISBN4-7842-0979-4

鹿毛敏夫著

戦国大名の外交と都市・流通

豊後大友氏と東アジア世界
思文閣史学叢書
5,775円 (本体5,500円) ISBN4-7842-1286-8

阿部能久著

戦国期関東公方の研究

思文閣史学叢書
2006 / A 5判 / 320頁
5,985円 (本体5,700円) ISBN4-7842-1285-X

森 茂暁著

中世日本の政治と文化

思文閣史学叢書
2006 / A 5判 / 480頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN4-7842-1324-4

源城政好著

京都文化の伝播と地域社会

思文閣史学叢書
2006 / A 5判 / 400頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-1325-2

勝山清次編

南都寺院文書の世界

2007 / A 5判 / 350頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN978-4-7842-1369-6

橋詰 茂著

瀬戸内海地域社会と織田権力

思文閣史学叢書
2007 / A 5判 / 396頁
7,560円 (本体7,200円) ISBN978-4-7842-1333-7

佐々木哲著

系譜伝承論

佐々木六角氏系図の研究
2007 / 四六判 / 360頁
3,990円 (本体3,800円) ISBN978-4-7842-1370-2

稲垣弘明著

中世蹴鞠史の研究

鞠会を中心に
2008 / A 5判 / 300頁
5,775円 (本体5,500円) ISBN978-4-7842-1390-0

上横手雅敬編

鎌倉時代の権力と制度

2008 / A 5判 / 358頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1432-7

永年、東寺と東寺文書の研究に携わってきた著者が、近世文書や聖教類も含めた東寺文書とその整理の歴史を、寺史や伝来も併せて総大成。【内容】東寺の歴史／東寺文書の伝来と現状(上)(下)／東寺百合文書の整理と目録作成／東寺文書をめぐって 付：文書編年目録／索引 挿入図版多数

西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明らかにする。

2006 / A 5判 / 300頁

室町幕府の東国支配機関であった関東府の長である関東公方。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鎌阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。

鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとく、さらに『増鏡』や『太平記』、『博多日記』という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明かす論考15篇。

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、今までの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を取めた。

東大寺宝珠院に伝わった法華堂文書と宝珠院文書、興福寺一乗院坊官二条家に伝来した一乗院文書および一乗院御用日記の調査をもとに、摂津国長洲庄関係史料を用いた論考や、中世と近世の興福寺を論じた研究などを収録し、東大寺と興福寺の寺領と寺院組織研究を新たに進展させる一書。

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。【内容】第1編：瀬戸内海社会の形成と展開／第2編：瀬戸内海社会の発展と地域権力／第3編：地域権力と織田権力の抗争

作為や錯誤が多いことから歴史資料として正当な評価を受けてこなかった系図について、作為や錯誤を隠喩ととらえるという斬新な手法で、資料としての可能性を示す。さらに、その作為や錯誤が生み出された背景まで探求し、室町・戦国期における佐々木六角氏の果たした役割の大きさを明らかにする。

室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じる。とくに15世紀後半における蹴鞠会について、新興武家層を参会者として加えた場であり遊興性を加味しながら変容し、「故実」に代わって「新儀」が定着すること、それが近世の家元制度の萌芽と認められることなどを明かす。

鎌倉時代史をリードしてきた編者と、次世代を担う関西の若手研究者により結成された鎌倉時代研究会の初の論集。【執筆者】佐伯智広／樋口健太郎／長村祥知／伊藤啓介／宮本晋平／熊谷隆之／滑川敦子／吉田賢司／上横手雅敬／芳澤元／坂口太郎／木村英一

新見康子著

東寺宝物の成立過程の研究

2008 / A 5判 / 638頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN978-4-7842-1368-9

南北朝時代の寺誌である『東宝記』や東寺百合文書にみられる宝物目録などの豊富な史料をもとに、具体的に東寺に残る文化財の伝来を体系化した一書。今後の文化財の活用や保存を前提に、本来の保管形態を復元し、伝来を確定して位置付けをしなおす。カラー図絵4頁、挿入図版80点。

小森正明著

室町期東国社会と寺社造営

思文閣史学叢書
2008 / A 5判 / 356頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1421-1

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動—寺社領経済—の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

森茂暁著

南北朝期公武関係史の研究

増補・改訂
2008 / A 5判 / 612頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1416-7

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあげて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文献出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

中世後期研究会編

室町・戦国期研究を読みなおす

2007・2008 / A 5判 / 408頁
4,830円 (本体4,600円) ISBN978-4-7842-1371-9

【内容】 I 政治史を読みなおす 1 公武関係を読みなおす (松永和浩・桃崎有一郎) 2 都鄙関係を読みなおす (山田徹・吉田賢司・平出真直・尾下成敏) II 社会史を読みなおす (西島太郎・清水克行・三枝暁子) III 経済史を読みなおす (早島大祐・高谷知佳) IV 宗教史を読みなおす (大田壮一郎・安藤弥) **【2刷】**

藤本孝一著

中世史料学叢論

2009 / A 5判 / 442頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1455-6

原史料の調査と保存に永年携ってきた著者の初の論集。史料や古典籍から何を学び何を読み解くのか。個別史料の読解・紹介から史実と虚構の問題まで、平安京から中世にわたる諸論を収録。

山田彩起子著

中世前期女性院宮の研究

いんぐう
2010 / A 5判 / 310頁
5,880円 (本体5,600円) ISBN978-4-7842-1496-9

院政・鎌倉期における女性院宮(女院・后)の多様な存在形態を様々な視点から分析。第一部では、国母の存在形態の多様性と王家における役割・位置付けを検証し、第二部では、摂関家出身の女性院宮の摂関家における独自の役割の大きさを論証する。中世の公家社会研究に寄与する一書。

桃崎有一郎著

中世京都の空間構造と礼節体系

2010 / A 5判 / 584頁
7,560円 (本体7,200円) ISBN978-4-7842-1502-7

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は? 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか? 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。

仁木宏著

京都の都市共同体と権力

思文閣史学叢書
2010 / A 5判 / 330頁
6,615円 (本体6,300円) ISBN978-4-7842-1518-8

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容から町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明かし、中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的、理論的に分析する。

矢内一磨著 (第6回全国大学国語国文学会賞)

一休派の結衆と史的展開の研究

2010 / A 5判 / 370頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1525-6

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明することで、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、門派での祖師忌法会を第一部でとりあげ、大徳寺復興や在俗信者の結衆について第二部で扱う。

谷昇著

後鳥羽院政の展開と儀礼

2010 / A 5判 / 328頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1536-2

後鳥羽天皇(上皇)が課せられた政治課題とそれに対する対応=政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証し、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図した一書。

丸島和洋著

戦国大名武田氏の権力構造

2011 / A 5判 / 436頁
8,925円 (本体8,500円) ISBN978-4-7842-1553-9

甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討とあわせて、大名権力の中枢を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つめ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする一書。

佐々木倫朗著

戦国期権力佐竹氏の研究

2011 / A 5判 / 304頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN978-4-7842-1569-0

戦国期佐竹氏の権力形成過程、一族衆や国衆等の活動、佐竹氏と地域社会との関わりや地域編成について、佐竹氏が発給した「知行充行状」・秋田藩家蔵文書等の史料を中心に考察することで、従来捨象されがちであった戦国期の権力編成の姿を浮き彫りにする。

東寺文書研究会編

東寺文書と中世の諸相

2011 / A 5判 / 654頁
11,550円 (本体11,000円) ISBN978-4-7842-1578-2

東寺文書を研究する過程で発見した様々な成果を世に問う、東寺文書研究会による論集。【執筆者】大山喬平 / 岡本隆明 / 亀田俊和 / 酒井紀美 / 志賀節子 / 清水克行 / 高橋傑 / 高橋敏子 / 辰田芳雄 / 新見康子 / 西尾知己 / 西谷正浩 / 保立道久 / 真木隆行 / 宮崎肇 / 村井祐樹 / 山田徹 / 山家浩樹 / 渡邊大門

外山幹夫著

中世長崎の基礎的研究

2011 / A 5判 / 424頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1589-8

中世長崎、特に肥前国西南部の松浦郡・高来郡・彼杵郡を中心に、松浦氏・有馬氏などの在地武士団の成立・発展、領国支配の実態や南蛮貿易の推移について論じ、その独自性を明かす。長崎大学名誉教授、長崎市史編さん委員会委員長を務める著者が長年の研究成果をまとめた一書。

山本隆志著

東国における武士勢力の成立と展開 東国武士論の再構築 思文閣史学叢書

6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1601-7

武士研究は国家史的職能論から、政治史的論究が求められている。本書は東国武士を武士勢力としてとらえ、京・鎌倉での活動と連動しながら本領で法会・祭礼を主催するなかで政治的支配力を形成していることを、具体的に論じる。

2012 / A 5判 / 384頁

三島暁子著

天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史

2012 / A 5判 / 360頁
6,930円 (本体6,600円) ISBN978-4-7842-1609-3

南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び、権威のシンボルとなった「笙」。その位置づけの変化は、いかなる展開をもたらしたのか。天皇家・将軍家の笙の御師範、地下楽人豊原氏の約150年にわたる活動に着目。公・武・楽家という3者の関わりの中から、権威と密接に関わった音の文化を考察。

村井良介著

戦国大名権力構造の研究

2012 / A 5判 / 452頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1610-9

戦国大名権力の動向は、近世に向けた一貫した過程と捉えることができるのか？ 本書は、主に毛利氏を事例に、戦国大名、「戦国領主」の重層的な権力構造の分析から、戦国期の権力諸関係の特質を、理論的かつ実証的に描くことにより解明する。

山本隆志編

日本中世政治文化論の射程

2012 / A 5判 / 344頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1620-8

編者の指導を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究論文を収録。【執筆者】関周一 / 山田雄司 / 濱口誠至 / 阿部能久 / 井上智勝 / 新井敦史 / 山澤学 / 荻米一志 / 山野龍太郎 / 佐々木倫朗 / 須賀忠芳 / 平野哲也 / 蘭部寿樹 / 小山聡子 / 佐藤喜久一郎 / 門口実代

河内将芳著

祇園祭の中世

2012 / A 5判 / 350頁
4,725円 (本体4,500円) ISBN978-4-7842-1631-4

室町期の都市京都を文字どおり代表する祭礼であった祇園祭（祇園会）を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきばりにし、さらに神輿渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「鬮取」の実態についても解き明かす。

金井 圓 著

日蘭交渉史の研究

思文閣史学叢書

1986・1997/A5判/500頁

8,925円(本体8,500円)ISBN4-7842-0446-6

三浦按針を乗せたリーフデ号の漂着から、徳川鎖国・オランダ東インド会社の解散・外国船打払令を経て、開国に至る二世紀半の対外関係史の要をなす日蘭交渉史の知られざる諸局面を、主として在外未刊行史料に基づき実証する論考13篇に、通史・史料を添える。 【2刷】

川村 優 著

旗本知行所の研究

思文閣史学叢書

1988/A5判/550頁

10,290円(本体9,800円)ISBN4-7842-0532-2

旗本知行所の実態と性格をさぐる論考10篇を収める。関東旗本知行所における村落知行と当該農民の対応を主軸にすえた具体的事例を検出、さらに、それに基づき旗本知行所を幕藩制全体の中に位置づける。従来の旗本窮乏一元論・旗本崩壊不可避論を乗り越える構造的な研究をめざした意欲作。

西南地域史研究会編

西南地域の史的展開〔近世篇〕

1988/A5判/650頁

16,800円(本体16,000円)ISBN4-7842-0495-4

秀村選三博士の九大退官を記念して内外22名の研究者が各々独自のテーマで論じる。全体としてI西南地域の支配構造、II貿易と流通、III産業と社会で構成される諸論稿は、おのずと西南の地域性と国際性を浮き彫りにしている。

〔近代篇〕は27頁に掲載

松田毅一著

日欧のかけはし

南蛮学の窓から

1990/四六判/352頁

2,940円(本体2,800円)ISBN4-7842-0618-3

フロイスの日本史をはじめ、イエズス会日本報告集や南蛮史料の研究で知られる著者が、精密な史料研究の合い間に折に触れて発表した小論・エッセイを収める。両洋から照らし出された事実の数々が、史家の冷静な眼が、キリシタン時代の国際的環境、異文化の出会い、人々の姿を語る。

楠瀬 勝 編

日本の前近代と北陸社会

1989/A5判/700頁

13,650円(本体13,000円)ISBN4-7842-0527-6

北陸三県を中心とする研究者が一堂に会し、日本史研究の主要テーマとの関わりを軸に、各々独自の視点で古代から幕末にいたる諸問題を論じる。北陸地域の問題から出発し新たな日本史像の構築をめざす意欲の窺える論文21篇。

杉本 勲 編

近代西洋文明との出会い

黎明期の西南雄藩

1989/A5判/300頁

4,830円(本体4,600円)ISBN4-7842-0566-7

佐賀藩を中心とした幕末期の西南雄藩と近代西洋文明との出会い、またその受容の歴史を、関連する諸側面から掘下げ、近代化の諸相を明らかにする。【執筆】杉本勲/杉谷昭/長野暹/飯田賢一/岩松要輔/羽場俊秀/酒井シヅ/矢部一郎/大森實/齋藤信/向井晃/酒井泰治

梅溪 昇 著

大坂学問史の周辺

1991/四六判/220頁

2,415円(本体2,300円)ISBN4-7842-0640-X

近世の上方学問・文化の基礎となった含翠堂と懐徳堂は、商都大坂の町人たちにとって「開かれた和漢学舎」であり、独自の色合いをもって進取の学风を生み出し、多彩な足跡を残した。本書は、新しい知見を加え、この二学舎の諸側面にふれ、あわせて関係諸記録も収録。

洞 富雄 著

鉄 砲 ——伝来とその影響——

1991・2001/A5判変/530頁

10,290円(本体9,800円)ISBN4-7842-0657-4

『鉄砲伝来記』(1939)以来半世紀、日本史家としての関心から鉄砲に取り組んできた著者の総決算。

【内容】歴史を変えた鉄砲の伝来/種子島銃製造法の伝播/鉄砲の起源に関する諸問題/秀吉の朝鮮侵略・維新内乱と鉄砲/二人の異なる砲術家 【3刷】

源了圓・末中哲夫編

日中実学史研究

1991/A5判/486頁

10,290円(本体9,800円)ISBN4-7842-0639-6

実学思想の研究で知られる源教授、実学研究の末中教授、北京人民大学教授で明清実学思潮の共同研究の核である葛米晋氏を中心として編まれた初の日中実学史共同研究報告。日中両国の実学の伝統と歴史に与えた役割を明らかにする17篇。総合教育センター(TEL03-5844-3041)専売商品です。

太田勝也著

鎖国時代長崎貿易史の研究

思文閣史学叢書

1992 / A 5判 / 664頁

14,490円 (本体13,800円) ISBN4-7842-0706-6

寛永鎖国の成立期から江戸時代中期の正徳新例に至るまで、幕府の貿易政策を徹底追究。糸割符仕法・相対売買法・貨物仕法・制定高制度・銅代物替貿易・長崎会所貿易・宝永新例・正徳新例の展開を数量的考察とともに実証的に体系づける。基礎的史料を豊富に取り込んだ手堅い研究の成果。

宮川秀一編

日本史における国家と社会

1992 / A 5判 / 298頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-0745-7

宮川秀一氏の古稀記念論文集。ゆかりの研究者による古代から近代までの多彩なテーマの15論稿。【執筆者】宮川秀一／竹永三男／鈴木正幸／笠谷和比古／元木泰雄／笠井純一／館野和己／東野治之／宇野隆夫／大島真理夫／小路田泰直／久義裕／三浦俊明／浦長瀬隆／脇田晴子／舟尾好正

田崎哲郎編

在村蘭学の展開

1992 / A 5判 / 330頁

6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-0701-5

地方における蘭学受容の諸相。【内容】在村の蘭学と地域医療の近代化(青木歳幸) 飯沼塾とその門人の動向(遠藤正治) 美作在村蘭学概論(下山純正) 下野における蘭学の系譜(菊地卓) 新潟県における洋学の系譜(蒲原宏) 明治前期地方医師の概況(田崎哲郎) 蘭馨堂門人・鳥海松亭(平野満)

佐藤昌介著

洋学史論考

思文閣史学叢書

1993 / A 5判 / 410頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0782-1

明治維新の胎動を準備した大槻玄沢・高野長英・小関三英・福沢諭吉・渡辺崋山らの諸業績の分析を通して洋学の受容と発展を解明し、あわせて近代化に果した軍事の科学化と軍制改革・軍楽などを論じる。

三尾 功著

近世都市和歌山の研究

1994 / A 5判 / 370頁

7,350円 (本体7,000円) ISBN4-7842-0825-9

御三家紀州徳川家の城下町として発展した近世都市和歌山の城下の変遷を、長年和歌山市史編纂に携わってきた著者が豊富な史料に基づき考証する。

【内容】和歌山城／城下町和歌山／城下町の生活／維新期の城下町／城下町和歌山断章

朝尾直弘教授退官記念会編

日本国家の史的特質

〔近世・近代〕

1995 / A 5判 / 604頁

14,070円 (本体13,400円) ISBN4-7842-0870-4

〔古代・中世〕編は15頁に掲載

朝尾直弘教授退官記念会編

日本社会の史的構造

〔近世・近代〕

1995 / A 5判 / 582頁

14,070円 (本体13,400円) ISBN4-7842-0871-2

〔古代・中世〕編は15頁に掲載

笹本正治著

まつぎけ

真継家と近世の鋳物師

1996 / A 5判 / 580頁

11,340円 (本体10,800円) ISBN4-7842-0899-2

鋳物師と下級公家であった真継家との関係や地方の鋳物師の組織と実態を通して、近世における公家と職人の関係を明かし、職人史と公家研究に寄与する基本書。

【内容】鋳物師を支配する真継家／各地の鋳物師と真継家／各国の鋳物師組織／近世真継家配下鋳物師人名録

田中喜男編

歴史の中の都市と村落社会

1994 / A 5判 / 458頁

6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-0853-4

I 城下町の構造 松本四郎／深井甚三／田中喜男／高瀬保／寒川旭 II 交通・流通 村上直／伊藤一美／和泉清司／白川部達夫／老川慶喜 III 思想・技術 逆井孝仁／楠瀬勝／三上一夫 IV 城柵・所領経営 新野直吉／藤井一二／隼田嘉彦

小川國治著

転換期長州藩の研究

思文閣史学叢書

1996 / A 5判 / 422頁

9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0908-5

長州藩の宝暦改革とその後の展開を、改革派の権力確立過程、藩財政と経済政策、検地の実態、西廻り海運の整備、撫育方と開作事業、などから意欲的に論じた一書。【内容】宝暦改革の前提／宝暦期の藩財政と経済政策／宝暦検地／西廻り海運と港町の整備／撫育方と開作事業／産業の開発と統制

宮崎道生著

シーボルトと鎖国・開国日本

1997 / A 5判 / 370頁
8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-0926-3

“東西文化融合の架橋者”シーボルト。本書は、永年のシーボルト・コレクション（日本文化の組織的な蒐集品）の実地調査によってえられた未公開・新発見の史料を駆使してシーボルトの本質と実態に迫り、その本領と今日的意義を近世史学の泰斗が解き明かした力作。

加藤榮一著

幕藩制国家の成立と対外関係
思文閣史学叢書1998 / A 5判 / 468頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0954-9

幕藩権力がどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

小川亜弥子著

幕末期長州藩洋学史の研究

1998 / A 5判 / 284頁
7,140円 (本体6,800円) ISBN4-7842-0967-0

幕末維新期の改革に洋学が如何なる役割を果たしたかを射程にすえ、この改革の重要な担い手となった長州藩における洋学の受容と展開の実態に軍事科学化という側面から迫り、また洋学史的側面からのアプローチにより長州藩明治維新史研究の空白を埋めることをも目指した意欲作。

片桐一男著・校訂

阿蘭陀宿海老屋の研究
〔Ⅰ研究篇・Ⅱ史料篇〕1998 / A 5判 / 研究篇310頁 / 史料篇540頁
17,850円 (本体17,000円) ISBN4-7842-0966-2

オランダ商館長や通詞が滞在した京都の定宿海老屋の史料「皇都阿蘭陀人宿（荷蘭館）文書」[村上家（阿蘭陀宿）文書]（神戸市立博物館蔵）を基に、「人」「物」「情報」の通過点であった阿蘭陀宿の目的・機能・史的意義を探る。史料篇には「御用書留日記」「シーボルト事件の廻廻」など村上家文書の翻刻を収録。

J・F・モリス / 白川部達夫 / 高野信治共編

近世社会と知行制

1999 / A 5判 / 372頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-1005-9

近世の領主的土地所有論の中で自明の前提であるかのように理解されてしまったがために、十分議論されなかった問題を、既成の論理枠組みにとらわれず明らかにし、実証的に深めることで、従来の近世の領主的土地所有像を問い直すことを試みた13篇。

鎌田道隆著

近世京都の都市と民衆
思文閣史学叢書2000 / A 5判 / 390頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-1034-2

著者が京都市史編さん所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都都市論を展開

【内容】近世統一権力と民衆 / 近世都市と市民生活 / 政治・都市・市民

渡辺武館長退職記念論集刊行会編

大坂城と城下町

2000 / A 5判 / 436頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-1062-8

豊臣大坂城時代はもちろん、難波宮、大坂（石山）本願寺から現代にいたるまで、多彩な視角から大坂城と都市大坂を考察。

【内容】1 大坂城とその城下 / 2 大坂城下の諸相 / 3 難波・難波宮・本願寺

笠谷和比古著

関ヶ原合戦と近世の国制

2000 / A 5判 / 280頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-1067-9

関ヶ原合戦が内包していた諸問題の再検証と、合戦後の領地配分（地政学的状況）にみられる支配の実態、將軍制をめぐる思惑と確執、家康と秀頼の関係などを通して豊臣と徳川の「二重公儀体制」の実態を明かし、徳川家康の政權構想と近世天皇制との関係を論じる。

長友千代治著

江戸時代の図書流通
佛教大学鷹陵文化叢書72002・2003 / 四六判 / 324頁
2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1119-5

京・大坂・江戸を中心とした出版文化の隆盛にともなって、広汎な図書流通がみられた。版元・本屋・貸本屋と読者を結ぶさまざまなルート、さらに実用書の出版や宣伝方法など、豊富な図版（130余点）を通して平易に明かす。

【3刷】

遠藤正治著

〈第16回矢数医史学賞〉
〈第2回徳川賞〉

本草学と洋学

小野蘭山学統の研究

7,560円 (本体7,200円) ISBN4-7842-1150-0

本書では、日本本草学の頂点、小野蘭山の学統を考察の対象にし、洋学の影響を受け国際的視野を備えた博物学的な本草研究の実態を探り、わが国最初の近代的植物図譜『草木図説』誕生の環境を明かす。

2003 / A 5判 / 400頁

仙田善雄著

幕藩権力と寺院・門跡

思文閣史学叢書

2003 / A 5判 / 320頁

7,560円 (本体7,200円) ISBN4-7842-1166-7

鈴木康子著

近世日蘭貿易史の研究

思文閣史学叢書

2004 / A 5判 / 480頁

10,080円 (本体9,600円) ISBN4-7842-1178-0

竹下喜久男著

近世の学びと遊び

佛敎大学鷹陵文化叢書10

2004 / 四六判 / 420頁

2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-1184-5

白井哲哉著

日本近世地誌編纂史研究

思文閣史学叢書

2004 / A 5判 / 420頁

9,660円 (本体9,200円) ISBN4-7842-1180-2

倉地克直著

漂流記録と漂流体験

2005 / A 5判 / 352頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-1225-6

水藤 真著

むな ふだ

棟札の研究

2005・2008 / A 5判 / 230頁

3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-1243-4

山下 恭 著

近世後期瀬戸内塩業史の研究

2006 / A 5判 / 300頁

6,300円 (本体6,000円) ISBN4-7842-1287-6

張翔・園田英弘共編

「封建」・「郡県」再考

東アジア社会体制論の深層

2006 / A 5判 / 412頁

6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1310-4

李 元植 著

朝鮮通信使の研究

1997・2006 / A 5判 / 736頁

15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0863-1

西村幸信著

中世・近世の村と地域社会

2007 / A 5判 / 404頁

6,510円 (本体6,200円) ISBN978-4-7842-1353-5

宗派・敎団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することによって、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。さらに、旧社権頂の頂点に位置した門跡を分析対象とし、近世における門跡制の特質を明らかにする。

輸出商品の生産から販売までを、個別商品の輸出状況の調査、一定期間の輸出商品全体の把握、日蘭貿易状況に現れた国内外の諸情勢という三つの複合的な視点から追究。近世における日蘭貿易の状況と推移を明かし、日本とアジア・ヨーロッパ市場の動向を長崎貿易を接点としてとらえた国際的研究。

18世紀以降、学びの場は都市周辺にとどまらず地方にも広がり、遊学熱の高まりとともに、城下町や三都(京都・大坂・江戸)への遊学生を通して、多様な学芸情報が各地へもたらされた。学びと遊びの諸側面を地域との関わりを通して具体的に紹介し、身近な生活圏内に結実した文化の諸相を明かす。

領主支配における文化行為の意義に着目し、地誌編纂を一つの政治的文化行為と位置づけ、その機能や実態について明かす。また日本の地方史・地域史研究に対する歴史的考察の観点から、さまざまな地誌の具体的な編纂活動と体制をとりあげ、東アジア地域の歴史認識と地理認識を全体的に考察。

漂流体験は、奉行所や藩でつくられる公式記録にとどまらず、民間でも記録され、さまざまな形で残された。本書では1830年に漂流した神力丸の漂流記録を比較検討し、漂流記録の史料価値についての試論を示す。さらに記録を通して漂流体験を再現し、漂流民の異国認識や異国交流の実態を探る。

棟札は寺社などの上棟式・大修理・屋根葺のさい、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ちつけた板。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示す。【2刷】

第1編では、赤穂・前川浜の塩田開発、龍野藩の塩専売制・赤穂塩の龍野・関東方面への流通を醬油業との関連でとりあげ、塩業史の問題を再検討。赤穂の石炭導入の経費と竹原の給銀分析を通して労働者の格式と賃金問題を第2編で取り扱い、塩業史研究の未開拓分野を埋める。

日中の知識人による「封建・郡県」をめぐる対話の歴史を再検討。中央と地方の関係だけではなく、秩序と規範、教育と学問、自国と外来勢力、科举制と身分制、家族とコミュニティの構造、官僚制、さらに議会民主制などの視角も取り入れた13篇。国際日本文化研究センターでの共同研究。

江戸時代、日朝善隣外交において、根幹をなしていた朝鮮通信使——彼らが果たした役割を、政治外交と文化交流の両側面から捕える。数多くの文献・史料の検証から、両国交歓の実態を明かすと同時に、両国文化の異同・相互の認識と理解、筆談唱和のもつ意義とその影響について究明。【2刷】

大和を中心とした中世・近世の村落構造に関する諸論考を集成。第一部には、村落中間層のあり方に着目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勘十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める。

渡邊忠司著 なりたち
近世社会と百姓成立
構造論的研究
佛教学研究叢書 1
6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1340-5

零細な高持百姓による経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何か。領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組編成、質入の検討により解明。
2007 / A 5判 / 310頁

鈴木康子著
長崎奉行の研究
2007 / A 5判 / 420頁
6,510円 (本体6,200円) ISBN978-4-7842-1339-9

長崎奉行は長崎という町の支配だけでなく、貿易の監視、外国との政治的交渉などの要務もになった。本書では、17世紀後期から18世紀中期の長崎奉行の職掌や幕府内における位置づけや長崎奉行自体が変化してゆく状況を解明し、背景となる幕府の経済政策や、日本側の外国人に対する意識についても考察。

藤井讓治著 りょうち あてがいせい
徳川将軍家領知宛行制の研究
思文閣史学叢書
2008 / A 5判 / 412頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1431-0

近世社会、特に領主社会での徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。各章末に領知朱印状の一覧を付す。

渡辺尚志編
畿内の豪農経営と地域社会
2008 / A 5判 / 508頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1385-6

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。本書は岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

谷彌兵衛著
近世吉野林業史
2008 / A 5判 / 538頁
9,765円 (本体9,300円) ISBN978-4-7842-1384-9

いま日本の林業は存亡の危機に直面している。吉野の地に生まれ、林業とそれに携わる人々の浮沈を間近に見て育った著者が、吉野林業の光と影を、史料に基づいて実証的に明らかにした本書は、吉野林業を初めて通史的にとりあげた研究として、画期的意義を有する。

山田慶兒編
**東アジアの本草と
博物学の世界** [全2巻]
(各) 7,875円 (本体7,500円)

日本で遭遇した東の本草学と西の博物学。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響をも含めて、多角的に考察した21篇。国際日本文化研究センターでの共同研究の成果。
1995・2008 / A 5判 / 平均370頁 **[2刷]**

梅溪昇著
洪庵・適塾の研究
1993 / A 5判 / 540頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0766-X

洪庵と両親の画像、夫人八重の生涯、適塾解体修理、洪庵と福沢諭吉・大隈言道・古賀茶溪・萩原広道・戸塚静海などとの交流のほか新史料の紹介も織りまぜ、適塾研究の第一人者が洪庵と適塾をめぐって縦横にとりくんだ一書。口絵(カラー1頁・モノクロ7頁)に人名索引を併載。

梅溪昇著
続 洪庵・適塾の研究
2008 / A 5判 / 726頁
9,975円 (本体9,500円) ISBN978-4-7842-1388-7

適塾研究第一人者による研究成果の続篇。折りに触れて書き継がれてきた諸論稿と各地での講演録、雑誌「適塾」に掲載された史料紹介などをまとめる。

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編
熊本藩の地域社会と行政
近代社会形成の起点
2009 / A 5判 / 420頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1458-7

永青文庫細川家文書の地方行政記録「覚帳」、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録「町在」の系統的分析で、19世紀段階の近世行政システムを解明し、近代社会の成立や地域の近代化の前提条件を明かす。近世地域社会論の成果と課題を踏まえ、西国大藩の地域社会像を描き出す。

新藤透著
まつまえかけひろ しんらの きろく
**松前景広『新羅之記録』の
史料的研究**
2009 / A 5判 / 518頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN978-4-7842-1466-2

中世から近世初期の北方史研究における最重要史料『新羅之記録』について、はじめて書誌学的(史料学的)考察を試みる。書名の読み方・その著者、現在知り得る全写本の収集・分類、著者が著作にあたって使用した史料、記述内容の信憑性、後世に編纂された史料に与えた影響、の5課題を設定。

中田雅博著

緒方 洪 庵

幕末の方と教え

2009 / A 5判 / 400頁

2,625円 (本体2,500円) ISBN978-4-7842-1482-2

伏見元嘉著

中近世農業史の再解釈

『清良記』の研究

2011 / A 5判 / 430頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1551-5

根岸茂夫・大友一雄・佐藤孝之・末岡照啓編

近世の環境と開発

2010 / A 5判 / 366頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1544-7

菅野洋介著

日本近世の宗教と社会

2011 / A 5判 / 380頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1572-0

杉江 進 著

近世琵琶湖水運の研究

2011 / A 5判 / 464頁

9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1551-5

白岩顕成著

藤村庸軒をめぐる人々

2011 / A 5判 / 790頁

17,325円 (本体16,500円) ISBN978-4-7842-1554-6

藤井謙治編

織豊期主要人物居所集成

2011 / B 5判 / 476頁

7,140円 (本体6,800円) ISBN978-4-7842-1579-9

笠谷和比古編

一八世紀日本の文化状況と 国際環境

2011 / A 5判 / 582頁

8,925円 (本体8,500円) ISBN978-4-7842-1580-5

上田長生著

幕末維新期の陵墓と社会

2012 / A 5判 / 400頁

6,510円 (本体6,200円) ISBN978-4-7842-1604-8

太田由佳著

松岡恕庵本草学の研究

2012 / A 5判 / 390頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1617-8

生誕200年記念出版。新聞記者である著者が、洪庵関係の資料を精査、綿密な取材の下に産経新聞に連載した『適塾再考』を全面改訂・再構成。「医は仁術」を実践し、適塾で教育に身を捧げた洪庵の軌跡を、平易な文章で詳細にたどる。適塾門下生の活躍にも光をあて、門下生の詳細な一覧表を収録。

伊予国の戦国武将土居清良の一代記『清良記』第七巻は『親民鑑月集』とも呼ばれ、「我が国最古の農書」と評される。その分析から、近世農業の始まりとしての農書という定説を覆し、中世農業の最終段階を初めて諸説したと位置づけ直す。さらに、中近世の過渡期における農業史について再考する。

21世紀は地球規模の環境問題が大きな課題となっている。本書は15編の論文により、江戸時代から明治時代にかけて、都市・山野・河川・海岸・島嶼における開発と環境問題を明らかにする。【内容】1 環境と身分・法・大地 / 2 開発と環境・生活・生業 / 3 治水と環境 / 4 環境と山

南奥州と関東地方を主に、戦国期以降に深く地域社会に浸透していった仏教寺院・僧侶・神道・修験道などの把握を試み、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれ、いかにして17世紀から19世紀後半にかけての社会秩序が形成されたのかを分析し、その秩序が明治以降へ連なったのかを考察。

古代以来、全国流通路の中でも重要な位置を占めていた琵琶湖水運の近世について、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究。またその前提として織田信長による琵琶湖水運支配、琵琶湖を航行した船の名称をも具体的に検討し、従来の認識・評価の問題点を指摘。

周辺の人々の事蹟をたどることで、現在も続いている庸軒流の開祖、藤村庸軒の実態について新たな角度からのアプローチを試みる。巻末には「藤村庸軒流系譜」を収録。【内容】三宅亡羊 / 千宗旦 / 藤村恕堅 / 藤村正員 / 久須見疎安 / 北村幽安 / 山本退庵 / 大文字屋宗積 / 有馬涼及 / 田屋横井等怡

織豊期を生きた主要人物の移りゆく居所と行動を通時的に網羅し、一覽に供する研究者必携の書。【収録人物】織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、足利義昭、明智光秀、細川藤孝、前田利家、毛利輝元、伊達政宗、上杉景勝、石田三成、福島正則、近衛信尹、西笑承兌、北政所、浅井茶々など25名

日本の一八世紀社会は、儒学・本草学・博物学・蘭学等各分野において多くの成果を生み出し、近代化に多大な影響を与えた。それはいかにして形成され、どのような影響を受けつつ、展開を示したのか。様々な視点からの論文で総合的に探求する。国際日本文化研究センターの共同研究成果。

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目。社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

江戸前～中期に活躍し、近世日本において本草学が博物学的に発展してゆくなかでその一翼を担った人物として評価されている京都の本草家松岡恕庵(1668～1746)を主題に据え、その学問の実像に迫る。松岡恕庵に関する基本的研究書。巻末に資料編として松岡恕庵著作・関連資料目録を付す。

齊藤利彦著

近世上方歌舞伎と堺

佛教大学研究叢書 14

2012 / A 5判 / 348頁

6,615円 (本体6,300円) ISBN978-4-7842-1608-6

元禄期以降の展開、特に上方歌舞伎が特質を大きく転換した化政期から幕末期の実態を究明。堺における歌舞伎興行の全貌を解明することで、京・大坂の興行、さらには大芝居、中々芝居の役者たちの動向をも照射し、上方歌舞伎の地域的展開の一端を明らかにする一書。

藤井譲治著

近世史小論集

古文書と共に

2012 / A 5判 / 490頁

6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1621-5

著者の研究活動の初発から近年までに書かれた小論のうち、主要な研究の前提あるいはその後の展開に関わるものを取録。「戦国の若狭」「秀吉の時代」「家康・秀忠・家光」「京都と所司代・町奉行」「大名と領知」「安定期社会を考える」の6部で構成。巻末に「著書・論文等一覧」を付す。

福澤徹三著

一九世紀の豪農・名望家と地域社会

今夏刊行

生産力の先進地域であった畿内と生産力的には劣る信濃の二地域を対象に、19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を総合的に論じる。大規模豪農と中小豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、畿内・信濃の地域間比較の視点も加え、その生業・営為を近世・近代を通じて明らかにする。

近 代

梅溪昇著

日本近代化の諸相

1984 / A 5判 / 650頁

15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0364-8

第一部に概論として明治維新史研究の論稿2篇、第二部に初期条約改正・陸海軍・日清戦争などの個別研究9篇、第三部に但馬・尼崎・紀州地域における近代化の特質と様相をさぐる諸論文8篇、さらに史料1篇を取める。いずれも史料と先行研究を踏まえた緻密な論文。図表多数収録。

梅溪昇教授退官記念論文集

日本近代の成立と展開

1984 / A 5判 / 480頁

10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-0363-X

梅溪博士の阪大退官記念。日本近世・近代史に一石を投じる18論文。【執筆】三宅正彦/竹下喜久男/小堀一正/今井美紀/寺木伸明/寺脇恵/竹山護夫/村田路人/松下万里子/藪田貫/今井修平/本城正徳/脇田修/橋本讓司/服部敬/原田敬一/大谷正/小山仁示

樋口次郎・大山瑞代編著

条約改正と英国人ジャーナリスト

H・S・パーマーの東京発通信

1987 / 四六判 / 284頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-0488-1

『ロンドン・タイムズ』東京通信員として活躍したパーマー。彼は不平等条約改正問題で苦悶する日本から、特に頑なな祖国イギリスに向けて条約改正推進を訴えたが…。『ロンドン・タイムズ』の論説およびそれに対する内外の反響を初めて紹介、条約改正劇の舞台裏を窺う興味深い史料である。

長尾政憲著

福沢屋諭吉の研究

1988 / A 5判 / 592頁

10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-0517-9

福沢諭吉(1835～1901)が適塾に入り、蘭学を本格的に研究した修学時代からはじめて明治15年『時事新報』を発刊するまでの生活と事績を実証的に究明。幕府外国方としての時期や特に書物商としての「福沢屋諭吉」に注目し近代的出版企業の内容・実態を明らかにした諸論は特筆に値する。

西南地域史研究会編

西南地域の史的展開〔近代篇〕

1988 / A 5判 / 754頁

19,950円 (本体19,000円) ISBN4-7842-0496-2

秀村選三博士の九大退官を記して内外20名が論じる。I近代化過程における産業、II石炭鉱業における経営と労働の問題、III近代における政治と貿易に構成される諸論稿はいずれも実証に裏づけられ、西南地域の社会経済を具体的に考察する。〔近世篇〕は21頁に掲載

三上一夫著

明治初年真宗門徒大決起の研究

越前護法大一揆分析

1987・1989 / A 5判 / 220頁

3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0481-4

明治初年に続発した一連の真宗門徒大決起の中から、本書では「越前護法大一揆」の詳細な分析を通して、その実態・経過・歴史的特質・地域性などについて、多面的・重層的にとりあげ、民衆運動の側から維新政権による「上からの近代化」を問い直す労作。図表多数収録。【2副刊】

外山敏雄著

札幌農学校と英語教育

英学史研究の視点から

1991 / A 5判 / 160頁

3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0691-4

1876年開設の札幌農学校は、北海道開拓の人材養成のみならず、内村鑑三・新渡戸稲造など文化史・思想史上の巨人たちを生み出した。草創期の札幌農学校の教育制度、お雇い教師、所蔵英書、出身の英学者たちに焦点をおき、その特異な存在と役割を明かす。史料・参考文献・索引を付した。

永井和著

近代日本の軍部と政治

1993・2002 / A 5判 / 450頁

9,030円 (本体8,600円) ISBN4-7842-0770-8

「戦前の内閣」について「軍人の内閣」というフィルターを通して内閣史に光をあてる。【内容】軍人と内閣 視角と定義 / 軍人首相内閣論 / 軍人閣僚と戦前内閣 / 現役将校の官界進出 / 政軍関係理論に関する一考察 内閣官制と帷幄上奏 初期内閣と帷幄上奏勅令 / 内閣官制の制定と帷幄上奏 【2刷】

中野目 徹 著

政教社の研究

1993 / A 5判 / 340頁

7,350円 (本体7,000円) ISBN4-7842-0771-6

「国粋主義」を主張して明治の思想界をリードした政教社の存在形態を三宅雪嶺・志賀重昂・内藤湖南らの人物像と組織及び機関誌の全貌を検証し、政教社がこころみ実践運動と思想の展開をあつづける。

山口定 / ロナルド・ルプレヒト編

歴史とアイデンティティ

日本とドイツにとっての1945年

1993・1998 / A 5判 / 500頁

9,030円 (本体8,600円) ISBN4-7842-0795-3

日独比較現代史の連続シンポジウムの記録。両国の歴史的体験の共通点と相違点を明らかにする。【内容】 転換の年 1945年 / 第二次世界大戦下の日本とドイツ / 日本とドイツにおける全体主義の精神的・イデオロギー的諸前提 / 新たな転換点に立つ日本とドイツ 【2刷】

園田英弘著 〈第16回サントリー学芸賞〉

西洋化の構造

黒船・武士・国家

1993・2000 / A 5判 / 380頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-0801-1

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。【内容】「極東」の終焉 / 蒸気船ショックの構造 / 海防の世界 / 郡県の武士 / 森有礼研究 / 西洋化の論理 / 「選挙」と「選抜」E・S・モースのニューイングランドにおける知的環境 【3刷】

服部 敬著

近代地方政治と水利土木

1995 / A 5判 / 400頁

6,930円 (本体6,600円) ISBN4-7842-0873-9

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】 近代国家の成立と水利慣行 / 水利組合の成立とその機能 / 淀川改修運動と地方政治の動向 / 日露戦後の農事改良政策と水利問題

堀田暁生・西口 忠 共編

大阪川口居留地の研究

1995 / A 5判 / 430頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0875-5

安政6年から40年間存続した居留地の歴史。政治・経済・文化における影響を、研究会10年の成果をもとに究明した基礎的な一書。

【執筆者】 堀田暁生 / ヤン・ヴァンデルカメン / 西口忠 / 井上琢智 / 伊藤安男 / 茂義樹 / 吉住英和 / 遠藤トモ

原田敬一著

日本近代都市史研究

1997・2002 / A 5判 / 360頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0953-0

「人間の営みの中で都市ほど複雑で難解な作品はないだろう」という著者が“ありうべき都市像”を求める一方法として近代都市をめぐる歴史的考察にとりこんできた過程で生まれた成果をまとめたのが本書で、都市史の視角と方法の提示、及び個別都市・大阪を対象とした論考を収録。 【2刷】

田中正弘著

近代日本と幕末外交文書編纂の研究

1998 / A 5判 / 480頁

10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-0958-1

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編纂構想から明治初期外務省の編纂組織の確立過程、大政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

H・コータツツィ / G・ダニエルズ編

大山瑞代訳 / 横山俊夫解説

英国と日本

架橋の人びと

8,400円 (本体8,000円) ISBN4-7842-0977-8

ロンドン日本協会百周年を記念して、英国を中心とする日本文化・歴史研究者が日英交流百年史上重要な人物23名を取り上げ二つの文化の間に生きた人々を紹介する。

1998 / A 5判 / 560頁

日本史(近代)

芝村篤樹著

都市の近代・大阪の20世紀

1999・2005 / A5判 / 224頁
2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1013-X

モダニズムの時代から、戦中、戦後の混乱期を経て、高度成長に至る中に大阪の個性を見出すと同時に日本の「近代」を検証。**【内容】** モダン都市の盛衰／焼跡闇市からの復興／高度経済成長と都市／大阪と大阪学の課題／戦後大阪府における公害行政の形成について ほか **【2刷】**

原田敬一編

幕末・維新を考える

佛教大学鷹陵文化叢書2
2000 / 四六判 / 220頁
1,785円 (本体1,700円) ISBN4-7842-1038-5

原田敬一「近代への描き方——錦絵の世界」／青山忠正「近代への道——19世紀の東アジアと西ヨーロッパ」／高木博志「明治維新と古代文化の復興」／梅溪 昇「維新変革期の間人像——高杉晋作のことども」／佐々木克「大久保利通の遺書」／青山忠正「史跡と人物を訪ねて」

中村博武著

宣教と受容

明治期キリスト教の基礎的研究
2000 / A5判 / 610頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-1025-3

日本におけるキリスト教の宣教と受容を新資料の検証から解明。教典成立史、新造語の成立経緯などの原理的な問題、浦上信徒総流罪に対する長崎外国人居留地の英字新聞や宣教師の書簡の解明、さらには上海租界地の宣教、内村鑑三と英字新聞の論争などから東アジアがうけた衝撃の一端を明かす。

芳賀 徹編

岩倉使節団の比較文化史的研究

2003 / A5判 / 358頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1145-4

内外の史料を駆使し、比較文化史的視角から岩倉使節団を論じた共同研究。編者をはじめ、日米英の8名が日米英仏伊における使節団を論じる。**【執筆者】** 芳賀徹／マリウス・ジャンセン／マリオン・メイヨ／イアン・ニッシュ／松村剛／太田昭子／シドニー・ブラウン／泉三郎

三谷憲正著

オンドルと畳の国

近代日本の〈朝鮮観〉
佛教大学鷹陵文化叢書9
1,890円 (本体1,800円) ISBN4-7842-1161-6

従来「閔妃」と言われてきた肖像写真は、実は別人である可能性がきわめて高い、という論考をはじめ、雑誌メディアや小説にあらわれている近代日本の朝鮮観について問い直す。明治以来の逆説に満ちた日朝関係の糸をときほぐす。
2003 / 四六判 / 232頁

佐々木克編

明治維新期の政治文化

2005 / A5判 / 390頁
5,670円 (本体5,400円) ISBN4-7842-1262-0

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた11篇。

内藤一成著

貴族院と立憲政治

2005 / A5判 / 438頁
7,980円 (本体7,600円) ISBN4-7842-1278-7

明治前期から大正期にかけての貴族院を主導し「官僚系」(山県系)などといわれた院内会派幸倶楽部、及び子爵議員を中心とした最大会派、研究会の動向を中心に分析。また同時期の内閣・政党の動向を重ね合わせ、近代日本における立憲政治の実態、構造を探求する。

竹中正夫著

異文化・交流のはざままで

内田淑子のルーツと生涯
2005 / A5判 / 230頁
1,995円 (本体1,900円) ISBN4-7842-1272-8

キリスト教倫理学および宗教社会学において著名な竹中正夫氏が、日本の昔話や童話を取り入れた童話作家であり、日系二世作家として多くの榮譽を受けた内田淑子 (1884-1992) の生涯とそのルーツを丹念に辿り、異文化のなかで困難と闘いながら生き抜いた内田家の人々の生涯をつづった伝記。

本井康博著

新島襄を語る [全12冊]

2005～ / 四六判 / 平均250頁 / 既刊9冊
(各) 1,995円 (本体1,900円)

同志社大学神学部教授のかたわら、同志社大学社史資料センター・アーキビストとして、新島襄関係資料の整理・収集にあたり「新島ワールド」のコンシェルジュ(案内人)と自他ともに認める著者が、話し言葉でその魅惑的世界を紹介する入門書シリーズ。

- 第1回 千里の志
- 第2回 ひとりは大切 【品切】
- 第3回 錨をあげて

- 第4回 散えて風雪を侵して 【品切】
- 第5回 元祖リベラリスト 【品切】
- 第6回 魂の指定席
- 第7回 ハンサムに生きる 【品切】

- 第8回 ビーコンヒルの小径
- 第9回 マイナーなればこそ

山崎渾子著

岩倉使節団における宗教問題

2006 / A 5判 / 250頁
3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-1316-3

長谷川精一著

森有礼における国民的主体の創出

2007 / A 5判 / 466頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1367-2

明石岩雄著

日中戦争についての歴史的考察

2007 / A 5判 / 352頁
5,775円 (本体5,500円) ISBN978-4-7842-1347-4

永井和 著

日中戦争から世界戦争へ

2007 / A 5判 / 516頁
7,980円 (本体7,600円) ISBN978-4-7842-1334-4

宇田正 著

鉄道日本文化史考

2007 / A 5判 / 352頁
5,775円 (本体5,500円) ISBN978-4-7842-1336-8

青山忠正著

明治維新史という冒険

佛敎大学鷹陵文化叢書 18

2008 / 四六判 / 332頁
2,520円 (本体2,400円) ISBN978-4-7842-1394-8

丸山宏・伊従勉・高木博志編

みやこの近代

2008・2010 / A 5判 / 268頁
2,730円 (本体2,600円) ISBN978-4-7842-1378-8

丸山宏・伊従勉・高木博志編

近代京都研究

2008 / A 5判 / 628頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1413-6

大石一男著

条約改正交渉史

1887～1894

2008 / A 5判 / 356頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1419-8

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

文人世界の光芒と古都奈良

大和の生き字引・水木要太郎

2009 / A 5判 / 508頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1481-5

岩倉使節団が、キリスト教を背景とした「万国公法」や「西洋自由主義」という外圧に直面してどのような体験をしたのか。近代文明諸国家への参入のため国家と宗教の関係、自由の受容の在り方など、近代日本のナショナル・アイデンティティが問われた信教の自由をとりあげる。

森有礼の思想的・実践的な課題が国民的主体の創出にあったととらえる視点から、これまで先行研究の大半が忌避してきた外国語の史料や文献をも検討し、国民的主体の形成、外交、言語、歴史、道徳教育、国家、天皇という七つのテーマに即して、森の言説と政策の総合的な解釈を試みた一書。

日中戦争の全面化は、太平洋戦争への決定的転換点であった。またその結果は、日本の対国政策の破綻でもあるとともに、中国市場の全面的開放と開発という、国際資本の試みの挫折といえる。本書は、日中戦争の原因について歴史学から考察する。

華北に利権を求める日本。英・米・ソに対しどのような対応をしたか。日本が世界戦争へ歩んでゆく姿を明かす。

【内容】東アジア20世紀史の中の日本／日本陸軍の華北占領地統治計画について／日中戦争と日英対立／1939年の排英運動／日中戦争と帝国議会／日中戦争と陸軍慰安所の創設

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは計り知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光（巡礼）・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内面的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

かつて「明治維新」は国家の模範、「勤王の志士」は国民の規範であったが、それらは国家が創りあげた虚像である。その本当の顔は身近な所に潜みおり、明治維新の真の姿を見つけ出す作業は、文字通り冒険なのである。平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介する。

2年にわたり『京都新聞』に平易な文体で連載されたものを再構成しまとめたもの。京都市大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」で論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。 **図版多数収録【2刷】**

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果である。

黒田清隆内閣の大隈重信外相による条約改正交渉から、伊藤博文内閣の陸奥宗光外相による日英通商航海条約締結までの時期について、日本側の交渉戦略・交渉戦術、交渉相手の欧米列国の動向、日本国内における諸個人・諸集団の協力・対抗・競合の側面の三視点から分析。

近代奈良において水木要太郎（1865～1938）により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図のもつ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

日本史(近代)

高久嶺之介著
近代日本と地域振興
 京都府の近代
 2011 / A 5判 / 364頁
 6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1570-6

近代京都府下の道路や運河開鑿・観光資源・開拓村を対象に、地域振興の視点から考察する。またその地域社会における様々な要求の噴出、地域改善の動きを、交通体系の変化・新技術や議会の導入・地域の人々の活動の問題を踏まえ、政治行政史と社会史を組み合わせながらつぶさに描き出す。

鹿雪瑩著
 ふるいよしみ
古井善実と中国
 日中国交正常化への道
 3,990円 (本体3,800円) ISBN978-4-7842-1590-4

国交正常化に大きな役割を果たしながら、十分な研究がなされてこなかった古井善実(1903～95)に注目し、「古井善実文書」ほか日中の資料を駆使しながら、古井を中心とした自民党内親中派による国交正常化への軌跡、交渉の裏側を検証。2011 / A 5判 / 356頁

早川廣中・本井康博共編著
 増補改訂 **新島八重と夫、襄**
 会津・京都・同志社
 2012 / 四六判 / 168頁
 1,260円 (本体1,200円) ISBN978-4-7842-1628-4

2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公、新島八重にスポットをあて、その生涯を解説。白虎隊記念館館長、早川廣中氏と同志社大学本井康博教授による対談「山本八重から、新島八重へ」を掲載。資料篇として、新島八重とその兄、山本覚馬に関する重要史料を活字化して収録する。

地方史・通史

近江史跡会編
近江文化財全集〔全2巻〕
 1974 / B 5判 / 総796頁
 12,600円 (本体12,000円)

50にわたる市町村の文化財を、建造物・仏像・絵画・工芸品・史跡・名勝・天然記念物・無形文化財・民俗資料・古墳出土品など数千点にのぼる資料の中から約二千点を選び、市町村ごとに解説。概説として「近江路の文化財」を付す。巻末には参考文献を付した。

村井康彦編
京都・大枝の歴史と文化
 1991 / A 5判 / 380頁
 6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-0633-7

【内容】大枝風土記への招待(村井康彦) 大枝の自然環境(金田章裕) 老ノ坂と古道(足利健亮) 大枝の曙(永田信一) 国境の里(瀧浪貞子) 動乱期の大枝(下坂守) 新田と街道(下坂守) 近代化の光と影(飛鳥井雅道) 村のなりわい(山路興造) 大枝の生活(山路興造) / 大枝関係年表

大阪天満宮史料会編
大阪天満宮史の研究
 第二集

【内容】大阪天満宮と大將軍信仰(高島幸次) 天神信仰と鶏と鳳凰(高島幸次) 大阪天満宮内鎮宅靈符社史序説(若林喜三郎) 連歌と大阪天満宮の連歌所(鶴崎裕雄) 天満郷の形成と町割の変遷(矢内昭) 大阪天満宮の境内地・社地における旧大名屋敷について(近江晴子) 大阪天満宮の祭礼と戎鳥行宮(脇田修) 大阪天満宮社内芝居沿革序説(青木繁) 大塩の乱と大阪天満宮(相蘇一弘) 川口居留地と梅本町御旅所(堀田暁生) **【第1集 品切】**

1993 / A 5判 / 240頁
 6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-0796-1

聖母短期大学伏見学研究会編
伏見学ことはじめ

【内容】伏見・深草の自然(久米直明) 伏見の歴史——古代から幕末まで(星宮智光) 不死身の伏見(澤田寿々太郎) 古典文学の中の伏見(藤岡道子) 伏見におけるキリシタン(三俣俊二) 伏見と酒(遠藤金次) 水とともに生きる伏見のまち(栗山一秀) **【2刷】**

1999・2001 / 四六判 / 346頁
 3,360円 (本体3,200円) ISBN4-7842-1007-5

水野恭一郎著
吉備と京都の歴史と文化
 佛教大学鷹陵文化叢書3
 2000 / 四六判 / 320頁
 1,995円 (本体1,900円) ISBN4-7842-1052-0

岡山と京都の歴史を多岐にわたり探求してきた諸論考を収録
第1部 吉備地方の歴史と文化
第2部 京都古寺探訪
第3部 歴史と人物

門脇禎二・朝尾直弘共編

京の鴨川と橋

その歴史と生活

2001 / 四六判 / 250頁

2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1082-2

京都橘女子大学女性歴史文化研究所編

京都の女性史

2002 / A5判 / 242頁

2,520円 (本体2,400円) ISBN4-7842-1123-3

西川幸治・村井康彦編

環琵琶湖地域論

2004 / A5判 / 340頁

7,350円 (本体7,000円) ISBN4-7842-1175-6

石田孝喜著

京都 高瀬川

角倉了以・素庵の遺産

2005 / A5判 / 250頁

2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1253-1

東海地域文化研究所編

東海地域文化研究

その歴史と文化

東海地域文化研究所研究叢書

3,675円 (本体3,500円) ISBN4-7842-1298-1

上田純一編

丹後地域史へのいざない

2007 / 四六判 / 184頁

1,680円 (本体1,600円) ISBN978-4-7842-1348-1

金田章裕著

大地へのまなざし

歴史地理学の散歩道

2008 / A5判 / 322頁

4,725円 (本体4,500円) ISBN978-4-7842-1405-1

アレキサンダー・ベネット著

武士の精神とその歩み

武士道の社会思想的考察

5,040円 (本体4,800円) ISBN978-4-7842-1426-6

辻本雅史編

知の伝達メディアの歴史研究

教育史像の再構築

2010 / A5判 / 300頁

5,985円 (本体5,700円) ISBN978-4-7842-1500-3

小倉光夫著

房総風雅史 古代・中世編

2010 / A5判 / 320頁

5,985円 (本体5,700円) ISBN978-4-7842-1520-1

歴史都市京都のシンボリック的存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和まで、各時代の様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中でどのような意味を持っていたかをさぐる。【執筆】 門脇禎二・増淵徹・田端泰子・細川涼一・朝尾直弘・林久美子・横田冬彦

平安時代から近代まで、京都に生きた女性に視点を据えた8論文。同研究所所蔵『遊客名簿』の分析から近代京都の遊郭について明らかにした論文などを収録。

【執筆】 松浦京子／増淵徹／鈴木紀子／田端泰子／林久美子／横田冬彦／小野和子／細川涼一／光田京子

地域研究の深化が求められる昨今。本書は、滋賀県立大学の研究スタッフが、琵琶湖をとりまく自然・経済・民俗・遺跡などをとりあげた成果。【執筆】 村井康彦／脇田晴子／水野章二／東幸代／林博通／高谷好一／黒田末寿／武邑尚彦／谷泰／梅原賢一郎／西川幸治

洛中と伏見港をむすぶ高瀬川は、慶長16年に角倉了以によって開削、大正9年にその運河としての使命を終えるまで、近世京都の経済発展に寄与した。本書では、運河開削の歴史をたどり、舟入や橋の変遷、高瀬舟と舟運の推移など、多方面からその歴史と文化を明かす(挿入図版110点余)。

【第一部】蓬左文庫所蔵『朝林』研究 鶴岡代／田辺裕／早川秋子／福田花子 【第二部】歴史・文化・思潮 齊藤基生／松本高志／田尻紀子／稲垣知子／林由紀子／別所興一／釜賀雅史／寺島徹／平林一

2006 / A5判 / 396頁

古来より独自の歴史や文化が生まれ育まれてきた京都府下の丹後半島地域を総體的に解明する試み。政治・経済史的観点からだけでなく、地域住民の視点から、そして彼らの抱いていた歴史的な帰属意識や時代心理の分野にまで言及した全7篇を収録。

条里制から世界地図まで、広範な研究を展開してきた著者の諸論稿。【内容】道行く人びと／景観史への道程／町と村の発達／英国の世界認識と世界覇権／世界の大地への関心／北海道植民地区画の特性と系譜／古代都市の情景／南海道／琵琶湖岸の変遷と土地利用／禍福おりなす大地／文化の探求

武家政権から、明治維新までの、武士文化の発展と変遷の過程を考察。文化人類学者クリフォード・ギアツによる宗教の定義を援用し、各時代における武士の精神を精査することで、武士の気風や動機などの進展過程を明かす。

2009 / A5判 / 296頁

学校を、制度化された一つの「知の伝達メディア」と見ることで、多様に広がっている他のメディアと比較並列的に捉えることや、人の関係性の変容についての考察が可能になる。学校の教育史や制度史・実践史・思想史に偏ってきたこれまでの教育史像を、メディアの視点から全面的に書き換える共同論集。

日本人が嗜む和歌や茶道の根底にある「大和心の源流」はどこから来たのであろうか——古墳時代から室町時代まで、房総の風土に花開いた文化をたどる。房総の歴史の中に風雅の志士が大勢いたことを丹念に拾い上げた『房総風雅史—茶の湯の姿をもとめて—』の続編

高木博志・山田邦和編

歴史のなかの天皇陵

2010 / A5判 / 340頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN978-4-7842-1514-0

原田信男編

地域開発と村落景観の歴史的展開

多摩川中流域を中心に
2011 / A5判 / 486頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1555-3

吉越昭久・片平博文編

京都の歴史災害

今夏刊行

神功皇后陵（五社神古墳）墳丘への研究者の立入調査、仁徳天皇陵（大仙古墳）の世界遺産登録の動きなど、現在も関心を集めている陵墓。京都アスニー連続講座をもとに、考古から近代まで陵墓の歴史を易しく説く。研究者によるコラム14本に加え、執筆者による座談会を収録。図版多数。【2刷】

関東平野西部の多摩川中流域をフィールドに、開発と景観という観点から、地球環境の変遷を問う人間の営みの歴史をたどる。豊富な考古遺跡・遺物にくわえ、村絵図・地方文書等の文献史料を手がかりとし、旧石器時代から前近代にわたって通史的に論じる。20年をかけて行われた共同研究の成果。

京都における歴史災害を「水害」「火災」「震災」「土砂災害」「気象災害」など種類ごとに分類。歴史学のみならず工学・情報学などの成果も取り入れ、歴史災害の復原、減災の智慧について最新の研究を披露する。立命館大学で採択されたG-COEプログラム「文化遺産の防災」の成果。

東洋史

神田喜一郎著

東洋学説林

1974 / A 5判 / 240頁
3,360円 (本体3,200円) ISBN4-7842-0285-4

大庭脩編

漢簡の基礎的研究

1999 / B 5判 / 220頁
13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-1000-8

千田稔・宇野隆夫共編

東アジアと『半島空間』

山東半島と遼東半島
2002 / A 5判 / 420頁
5,040円 (本体4,800円) ISBN4-7842-1117-9

金沢星稜大学北東アジア交流研究プロジェクト編

東アジアの交流と地域諸相

2006 / B 5判 / 170頁
3,360円 (本体3,200円) ISBN4-7842-1306-6

太田修著

朝鮮近現代史を歩く

京都からソウルへ
佛敎大学鷹陵文化叢書20
1,995円 (本体1,900円) ISBN978-4-7842-1450-1

樂玉璽著

青島の都市形成史：1897-1945

市場経済の形成と展開
2009 / A 5判 / 364頁
7,140円 (本体6,800円) ISBN978-4-7842-1453-2

曾田三郎著

立憲国家中国への始動

明治憲政と近代中国
2009 / A 5判 / 400頁
8,400円 (本体8,000円) ISBN978-4-7842-1464-8

松浦章著

近世東アジア海域の文化交流

2010 / A 5判 / 472頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1538-6

山崎寛士著

中国五代国家論

佛敎大学研究叢書12
2010 / A 5判 / 362頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1545-4

東洋史研究の第一人者が壮年時代に書いた論文の一部を集めて一書とした昭和23年版の復刻。戦後の東洋史研究の基礎を築いた神田博士の論稿は今もなお精彩を放つ。「史林」に発表して以来多くの学者の注目を集めた「明の四夷館」など12篇を取める。

〔内容〕簡牘書檄的功能と特征（大庭脩・李均明・劉軍）漢代太初曆考——漢簡に見られる『節氣』を手掛かりとして（吉村昌之）日本における中国古印の研究 付：日本収蔵中国古印図録（陳波）『居延漢簡補編』の出版（大庭脩）中国簡牘研究文献目録〔1903～1997年〕（門田明）

山東・遼東半島は、中世頃までは中国文明の出口、近代にあっては列強諸国による近代文明の侵入口であった。半島は、通過した文明の沈殿層が形成される空間といえる。通時的・学際的・国際的な議論を通し、東アジア文明論に新視点を与えた国際日本文化研究センターでのシンポジウムの成果。

〔第I部〕敦煌莫高窟の考古調査と壁画女性 敦煌莫高窟の考古調査と成果（蔡偉堂）敦煌壁画にみる女性の化粧（盧秀文）〔第II・III部〕北東アジアにみる経済・文化交流 観光と文化および経済と環境（8篇）をテーマに日中間のさまざまな交流のかたちと現状について明かす。

近代において朝鮮半島から離散していった人々など、彼らにおける植民地支配と戦争の歴史がいかなるもので、それが現代の人々によってどのように記憶されたか。その歴史と縁のある場所を訪れ、そこでの様々な出会いから生まれた成果。2009 / 四六判 / 270頁

青島がドイツ・日本との間に持った経済関係や、その関係が築かれた歴史的要因、青島の経済発展の過程や特徴、さらに青島が全国へ与えた影響を解明。日中両国の広範な資料を用いることにより、詳細かつ中立的・客観的な立場での考察を試みる。

立憲国家中国の形成という観点から叙述する中国近代史。内閣制を中心とする行政制度の改革や省制・省政の改革を軸に、大隈重信などの政治指導者や、有賀長雄のような伊藤系の法学者などの影響を具体的に把握することで、明治憲政の影響を動態としてとらえる。

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波濤を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。

混乱の時代とされる五代十国時代には各国間の均衡を保つ、何らかの秩序が存在していたのではないかと。第一部「天下のうち」篇では「平王」などの爵位や藩鎮制等の検討から「中国」一諸国間の支配関係を考察し、第二部「天下のそと」篇では海上に新たな国際秩序をつくらうとした呉越国に焦点をあてる。

思想・教育史

通 史

監修石川松太郎・津田秀夫

都道府県教育史シリーズ 〔全47巻〕

1983～／四六判／平均280頁／既刊揃 41,895円

※各地域の特色ある教育・文化を紹介し、寺子屋・郷学校・私塾・藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業教育などにもふれ、古代から明治前期までを扱う。

※各地域の教育・文化に貢献した人物をとりあげ、教育的事跡を紹介。

※付録として教育史年表・参考文献・地図などを収録。

・青森県の教育史	葛西富夫著	1,890円 (本体1,800円 -0381-8)	ISBN4-7842
・秋田県の教育史	戸田金一編著	1,890円 (本体1,800円 -0379-6)	
・岩手県の教育史	長岡高人編著	1,890円 (本体1,800円 -0458-X)	
・栃木県の教育史	入江 宏 著	1,890円 (本体1,800円 -0407-5)	
・愛知県の教育史	吉永 昭 著	1,890円 (本体1,800円 -0375-3)	
・富山県の教育史	坂井誠一・高瀬保編著	1,890円 (本体1,800円 -0406-7)	
・福井県の教育史	三上一夫著	1,890円 (本体1,800円 -0380-X)	
・鳥根県の教育史	内藤正中著	1,890円 (本体1,800円 -0398-2)	
・京都府の教育史	衣笠安喜編著	1,785円 (本体1,700円 -0372-9)	
・大阪府の教育史	梅溪昇編著	2,940円 (本体2,800円 -0955-7)	
・兵庫県の教育史	布川清司・鈴木正幸・藤井譲治著	2,940円 (本体2,800円 -0813-5)	
・岡山県の教育史	ひろたまさき・倉地克直編著	1,890円 (本体1,800円 -0502-0)	
・山口県の教育史	小川国治・小川亜弥子著	2,415円 (本体2,300円 -1059-8)	
・高知県の教育史	山本大・千葉昌弘著	2,940円 (本体2,800円 -0628-0)	
・徳島県の教育史	三好昭一郎・大和武生編著	1,890円 (本体1,800円 -0373-7)	
・愛媛県の教育史	影山 昇 著	1,890円 (本体1,800円 -0374-5)	
・福岡県の教育史	井上義巳著	1,890円 (本体1,800円 -0377-X)	
・長崎県の教育史	外山幹夫著	1,890円 (本体1,800円 -0378-8)	
・大分県の教育史	鹿毛基生著	1,890円 (本体1,800円 -0376-1)	
・沖縄県の教育史	浅野 誠 著	2,415円 (本体2,300円 -0675-2)	

源了圓・玉懸博之共編

国家と宗教

日本思想史論集

1992 / A 5判 / 540頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0702-3

国家というものの存在と、それを内から浄化し批判する重要な契機としての宗教——「国家と宗教」という問題に思想的見地から取り組む論文集。

個人著作集・全集

明治教育史研究会編／杉浦重剛全集刊行委員会刊

杉浦重剛全集〔全6巻〕

1982～1983 / A 5判 / 平均900頁

第2巻 論説二 25,200円 (本体24,000円)

2巻以外は【品切】

明治から大正にかけて教育者としてその生涯を捧げた杉浦重剛の全体像を明らかにする全集。単行本、雑誌掲載論文、新聞論説、翻訳、講演・語録、日記から意見書、請願書にいたるまで、その膨大な論稿は、近代日本の政治・社会・教育状況を知る格好の史料でもある。

(社)日本弘道会編／古川哲史監修
増補・改訂 西村茂樹全集
〔全12巻〕
2004～／A5判／平均900頁／既刊11冊
既刊揃 204,750円 (本体195,000円)

西村茂樹(1828-1902)は、幕末には儒学・洋学を修めた優れた経世家であり、明治には急激な近代化・西洋化が進む中、日本文化崩壊への危惧から保守主義的思想家として倫理・道徳の問題にとり組んだ。昭和51年の復刻版(全3巻)を解体、新たに収集したものを加え、全12巻で再構成した。

太田兵三郎編
藤原惺窩集〔全2巻〕
1978／A5判／総1024頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0368-0

昭和16年「海潮音」の主幹太田兵三郎の編集で、国民精神文化研究所から刊行されたものの復刻。光圀校訂の惺窩先生文集、羅山編の惺窩文集のほか、自筆草稿、日記残簡あるいはその著とされる寸鉄録など、惺窩に関するあらゆる史料を収録。日本儒学の祖惺窩の唯一無二の重要史料。

古 代

久木幸男・小山田和夫編
しゅげいしゅちいん
空海と綜芸種智院
弘法大師の教育〔上巻〕
8,820円 (本体8,400円) ISBN4-7842-0383-4

庶民教育の先駆者の教育思想とその実践としての綜芸種智院の意義・特質を明らかにすると共に、研究史を一望した28篇。

1984／A5判／408頁

久木幸男・小山田和夫編
空海といろは歌
弘法大師の教育〔下巻〕
8,820円 (本体8,400円) ISBN4-7842-0384-2

空海が「いろは歌」の作者でないことは今日定説となっている。その定説確立に至る論争過程やその後の論議を顧みし、国語・歌謡・教材・教育思想史上の諸問題を明かした27篇。

1984／A5判／456頁

近 世

海原 徹 著
近世私塾の研究
1983・1992／A5判／650頁
14,700円 (本体14,000円) ISBN4-7842-0747-3

広瀬淡窓、本居宣長、杉田玄白、シーボルト、緒方洪庵、藤田幽谷・東湖、月性、吉田松陰など近世の代表的な私塾の動態と人的交流を多方面から総合的かつ体系的に解明・分析し、その果たした役割と意義を探り、近代への胎動を追求した初の本格的な研究書。写真・図版多数収録。 【2刷】

三宅正彦著
京都町衆伊藤仁斎の思想形成
1987／A5判／378頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-0484-9

朱子学は幕藩国家の支配階級のみならず被支配階級とくに京都町衆にも浸透する。仁斎も熱烈な朱子学徒であったが、なぜ仁斎は朱子学を否定して独自の思想体系仁斎学に至ったか。その歴史的意義と思想的展開を、徹底した稿本研究を通し、京都町衆の存在形態と意識的特質の検証の中に探る。

柴田 純 著
思想史における近世
1991／A5判／310頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-0650-7

個人と社会、主観と客観の相剋に挑む問題作。【内容】近世思想史研究の課題と方法／近世前期における学文の歴史的位位置／那波活所の思想／那波活所と徳川頼宣／徳川頼宣の藩教學思想／近世における法と理／近世初頭の社会と儒者／思想史における近世／宋明学の受容と日本型中華意識

今中寛司著
徂徠学の史的研究
1992／A5判／424頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0737-6

第一章においては、新史料「徂徠先生年譜細君墓表一卷」、徂徠自筆『勝覚寺縁起』により徂徠の前半生を明らかにし、第二章では徂徠学における「古文辞」の学と、それを生みだした私塾護園について論じ、第三章において徂徠の業績と評価を総合的にまとめる。

古川哲史著

葉隠の世界

1993 / 四六判 / 320頁
2,957円 (本体2,816円) ISBN4-7842-0807-0

川村 肇 著

在村知識人の儒学

1996 / A5判 / 278頁
6,720円 (本体6,400円) ISBN4-7842-0912-3

本山幸彦著

近世国家の教育思想

2001 / A5判 / 296頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN4-7842-1069-5

須藤敏夫著

近世日本積奠の研究

2001 / A5判 / 340頁
8,400円 (本体8,000円) ISBN4-7842-1070-9

木村政伸著

近世地域教育史の研究

2006 / A5判 / 290頁
5,985円 (本体5,700円) ISBN4-7842-1274-4

本山幸彦著

近世儒者の思想挑戦

2006 / A5判 / 314頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-1304-X

小宮 彰 著

デイドロとルソー 言語と《時》

十八世紀思想の可能性
2009 / 四六判 / 316頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1448-8

任 正 嶺 著

朝鮮科学史における近世

洪大容・カント・志筑忠雄の自然哲学的宇宙論
2011 / A5判 / 282頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1587-4

武士道思想を代表する文献『葉隠』を、岩波文庫版の校訂者でもある著者が平易な文体で詳しく紹介する。追腹、諫言、国学など主要テーマに切り込んだ第Ⅰ部：葉隠十話、殉死の精神と葉隠の本質との関わりを説いた第Ⅱ部：葉隠四話の二部からなる。巻末に殉死墓分布地図を付載。

近世後期の在村知識人の諸相を具体事例にそってとりあげ、民衆の儒学と教育の近代化の関係を探る。【内容】民衆儒学と教育近代化／幕末維新期の民衆における漢学教育／儒学と農業／漢学教養の形成／儒学と救民行為／儒学と主体形成／崎門派の在村儒学と学校構想／在村知識人と近代化

幕藩体制の教育政策を縦覧、経済・社会と関連させながら政治と教育の関係を解明。また幕府・諸藩の教育機関設立の趣旨、幕臣や藩士に対する奨学の論旨、教育機関発達の諸条件など、体制の維持・存続・強化のための教育思想・施策の具体像をも明かす。『明治国家の教育思想』（品切）の姉妹篇。

儒学が近世封建社会を支え、発展したという通説について、孔子を祭る行事、積奠を通じ考察。江戸幕府と米沢・長州・水戸の各藩校、足利学校を取り上げ、近世における積奠と教育の実態を把握することにより、近世儒学と学校教育の性格を考える。近世教育史、儒学・思想史研究の空白を埋める。

近世農村社会に存在した多様な内容・水準を持つ教育の構造と、その構造がいかなる社会的背景、過程を経て変容していったのかを明らかにする。

【内容】研究課題と研究視点／唐津藩における私塾教育の展開／浮羽地域における教育構造の変容

江戸開府から大政奉還までの近世265年間を、成立・安定・動揺・崩壊の4期に分け、各時代の代表的儒者・思想家である林羅山・熊沢蕃山・貝原益軒・荻生徂徠・佐久間象山・横井小楠をとりあげ、彼らが直面した時代の課題にいかにか解決の道を見出そうとしたのか、その思想的な営みの足跡に迫る。

日本ではあまり認知されていないデイドロの「他者」の視点を中心とした思想を、近代社会思想の起源としてのルソーに対置することによって、「近代」の《時》の起源と「言語」を問いなおす一書。また同じ18世紀を生きた日本の思想家として、安藤昌益、新井白石の思想との比較も試みる。

18世紀朝鮮で、宇宙の構造と生成について論じた学者、洪大容。本書は洪の無限宇宙論の、宇宙論発展史における意味や朝鮮科学史および18世紀自然科学における位置を検討し、洋の東西の宇宙論の本質を解き明かしていく。付録として洪大容著『盤山問答』の原文と日本語訳を掲載。

近 代

回想杉浦重剛編集委員会編

回想・杉浦重剛

その生涯と業績
1984 / A5判 / 622頁
10,500円 (本体10,000円) ISBN4-7842-0385-0

倫理御進講の担当者杉浦重剛の生涯と業績を追悼・評論などを通してさぐる。明治の思想・教育界のあり様と裏面がうかがえる一書。Ⅰ追懐・杉浦重剛(25篇)Ⅱ御進講余録(10篇)Ⅲ称好塾報(明治24年～大正元年の抜粋)からなり、巻末に解説(付・杉浦重剛参考文献目録)を収めた。

本山幸彦編著

帝国議会と教育政策

1981 / A 5判 / 720頁
13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-0369-9

本山幸彦教授退官記念論文集

日本教育史論叢

1988 / A 5判 / 582頁
13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-0507-1

山田芳則著

幕末・明治期の儒学思想の変遷

1998 / A 5判 / 258頁
5,880円 (本体5,600円) ISBN4-7842-0982-4

後藤正次著

The Historical Background of English Education in Japan

2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0981-6

山口静一編

フェノロサ社会論集

2000 / A 5判 / 330頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-1028-8

巖平著

三高の見果てぬ夢

中等・高等教育成立過程と折田彦市

2008 / A 5判 / 352頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1399-3

伊藤純郎著

増補 郷土教育運動の研究

2008 / A 5判 / 506頁
10,290円 (本体9,800円) ISBN978-4-7842-1402-0

富永望著

象徴天皇制の形成と定着

2010 / A 5判 / 316頁
5,040円 (本体4,800円) ISBN978-4-7842-1492-1

真田将之著

西村茂樹研究

明治啓蒙思想と国民道徳論

2010 / A 5判 / 488頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1491-4

小股憲明著

明治期における不敬事件の研究

2010 / B 5判 / 576頁
13,650円 (本体13,000円) ISBN978-4-7842-1501-0

大正前期までの帝国議会で現れた教育議事を取り上げ、多角的に考察。「教育世論研究会」による共同研究報告書。帝国議会教育議事年表付。【執筆】 本山幸彦／海原徹／梶山雅史／伊藤和男／尾崎ムゲン／岩見和彦／菅井鳳展／吉岡剛／竹中暉雄／石附実／八箇亮仁／杉林隆／呉宏明／小股憲明

本山教授の京大退官を機に、内外の研究者29名が、近代から現代に至る日本の教育を論じる。

山田方谷・阪谷朗虚・坂田警軒・大西祝ら主に吉備地方の思想家10名をとりあげ、幕末期の儒学思想の特質、近代西洋文明との接触による儒学思想の変容、明治期の儒学思想の課題、さらに儒学批判を通じた明治期における西洋思想形成の過程を解明し、儒学が果たした地域的役割をも考察した論集。

PART I Education : Past

PART II The Studies of Dr. Inazo Nitobe

PART III The Studies of Kikuo Tanaka

1998 / A 5判 / 350頁

明治期の美術運動に足跡を残したことで著名なフェノロサだが、来日当初の目的は東京大学でミル、スペンサー、ヘーゲルなど社会思想を講じたことだった。本書では日本の学会誌や新聞・総合雑誌に発表された政治・経済・社会・宗教・哲学・比較文化論等に関する主要な論文・講演13篇を収める。

明治前期における中等・高等教育の成立過程を、第三高等中学校およびその前身校の変遷に即して明かす。京都大学大学文書館所蔵「第三高等学校関係資料」等を駆使し、三高校長職にあった折田彦市に注目。高等学校がいかなる理由で設けられたのか、日本近代教育史研究の欠落を埋める一書。

旧版に1章を加えて再版。郷土の立て直しをはかる自力更生が叫ばれた1930年代に展開された郷土教育運動の歴史的意義を、柳田国男の郷土研究論と関連させながら、運動を推進した文部省、文部省とは異論を唱える郷土教育連盟、実際にそれをおこなう地域社会の反応を通じて、実証的に解明。

定義・起源が明確にされてこなかった象徴天皇制。「象徴天皇(制)」という言葉に着目して、その使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明かすことで、象徴天皇制が新憲法の運用の積み重ねにより形成、定着していったことを実証。

明治の啓蒙思想家・道徳運動家である西村茂樹の思想について、従来の「保守」と「進歩」という二項対立的な枠組みから脱却し、時代状況に応じた問題意識の変遷と主張の展開を、史料に基づいて跡づけることにより明らかにする。

数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった明治期の不敬事件を網羅。豊富な事例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係の関係を明かす大著。資料編として、228事例と13参考事例の概要および参考文献を掲載。

本間千景著

韓国「併合」前後の教育政策と日本 佛敎大学研究叢書 8

2010 / A 5判 / 300頁

5,880円 (本体5,600円) ISBN978-4-7842-1510-2

小枝弘和著

William Smith Clarkの教育思想の研究 札幌農学校の自由教育の系譜

2011 / A 5判 / 380頁

3,150円 (本体3,000円) ISBN978-4-7842-1561-4

宮澤正典著

同志社女学校史の研究

2011 / A 5判 / 374頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1574-4

田中智子著

近代日本高等教育体制の黎明 交錯する地域と国とキリスト敎界

2012 / A 5判 / 448頁

7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1618-5

高橋文博著

近代の倫理思想 主従道德と国家

今夏刊行

第2次日韓協約から第1次朝鮮敎育令発布後の期間に着目し、当該期の修身敎科書への影響や敎員の養成・日本人敎員の配置など、現地における学校教育を検証。日本に対する朝鮮民衆の対応と抵抗により、日本側の植民地敎育政策がどのような変容を迫られたのかを、多彩な史料に基づき解明する。

“Boys, Be ambitious!”で知られる、ウィリアム・スミス・クラーク (1826-86) の敎育思想の全体像について、アメリカに存在するクラーク関連資料や、手紙や草稿類などの資料をも活用し、彼が過ごしてきた環境を明らかにすることで、その敎育思想や実践の特質の主要因を究明する。

現在の同志社女子大学・同志社女子中学校・高等学校の前身である「同志社女学校」。その1877年 (明治10) 創設から1945年 (昭和20) までについて、新島襄と女子敎育、同志社女学校と朝鮮、昭和戦時下の同志社女子部など、個別詳細に論じる。

主に1870年代初頭から1890年代初頭までを対象とし、各地域の高等教育体制の展開過程を、府県という地域行政主体、文部省という国の行政主体、伝道を志すキリスト敎界、という三勢力の交錯のうちに描く。高等教育史を府県・国・民間勢力の相互関係史として再構成する一書。

近代日本における倫理思想をめぐる論文集 (付 資料解題)。「明治十年代の道德敎育」「徳育論争における福澤諭吉」「道德敎育における主従関係の近代」「近代日本における経済と倫理」「阿部次郎の社会思想」「安部能成と平和論」「アジアの中の日本」「天皇・武士・民衆」「和辻哲郎の戦後思想」等。

史料集

日本医史学会編

日本医史学雑誌〔全18冊〕

昭和3年～昭和19年

昭和2年創立の日本医史学会は、翌3年1月より従来の「中外医事新報」(昭和3～15年)のち「日本医史学雑誌」をその研究発表の場とし、現在に至っている。今回、入手困難な昭和19年までを収録し、貴重な古典を甦らせる。

- | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|
| ① 9,975円 (本体9,500円) | ⑦ 8,400円 (本体8,000円) | ⑪ 8,400円 (本体8,000円) |
| ④ 9,450円 (本体9,000円) | ⑧ 8,400円 (本体8,000円) | ⑭ 8,925円 (本体8,500円) |
| ⑤ 8,400円 (本体8,000円) | ⑨ 8,925円 (本体8,500円) | ⑰ 7,875円 (本体7,500円) |
| ⑥ 8,400円 (本体8,000円) | ⑩ 7,350円 (本体7,000円) | |

1978～1980 / 菊判 / 平均600頁 / 揃 94,500円 (本体90,000円) (品切本②③⑫⑬⑮⑯を除く)

江馬文書研究会編

江馬家来簡集

1984 / A 5判 / 326頁

8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-0077-0

大垣の医家江馬家に伝わる文書類の中から、第2代春齡(蘭斎・1747～1838)から第5代春齡(信成・1826～74)までと江馬春琢の養嗣子賤男(1862～1923)宛の書簡232通を翻刻し注を付す。杉田玄白、司馬江漢らの書簡19通を口絵で紹介。江戸中期から幕末・維新の文化交流を窺う恰好の史料。

中野 操 監修

大坂医師番付集成

1985 / 大判帙入 / 索引・解説B 6判 220頁

15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0079-7

その土地柄か、大坂には最も多くの番付が残されている。寛政から明治に至る、現在判明している医師番付の全て45点を影印版で再現。別冊に詳細な人名索引及び解説を付す。医学・蘭学・洋学史における人物研究の根本史料。45種(原寸及び3分の2縮小)。和紙使用オフセット印刷。

大槻茂雄編

ばんすいぞんきょう

磐水存響 乾・坤〔全2巻〕

1991 / A 5判 / 総1010頁

19,950円 (本体19,000円) ISBN4-7842-0624-8

本書は大正元年(1912)に、大槻玄沢の多方面にわたる業績から医学書を省き「蘭学の受容・導入」に関するものを集成して玄沢の曾孫大槻茂雄が編集・発行した乾・坤2巻の復刻。

原 三信 編

日本で初めて翻訳した解剖書

1995 / A 4判 / 100頁

9,175円 (本体8,738円) ISBN4-7842-0884-4

〔内容〕阿蘭陀外科免状／六代原三信が写した「人体解剖書」原本と「レメリン解剖書」／原三信本とレメリン解剖図(対照)／六代原三信が写した訳本「人体解剖図」の解説書／阿蘭陀外科術式図譜絵巻／解説(酒井シヅ：日本最初の西洋解剖書の翻訳)

磯貝 元 編

明治の避病院

駒込病院医局日誌抄

1999 / A 5判 / 530頁

13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-0998-0

わが国の代表的な避病院、駒込病院勤務医の当直医局日誌全11帖(明治32～42年)から編者(元駒込病院副院長)による脚注を付して抄録。ペスト・チフス・赤痢患者の悲惨な状態、医師や看護婦の診療への取り組み、医局内の行事や人事など伝染病をとりまく当時の様子が生々しく活写されている。

前田久美江編著

現代医療の原点を探る

百年前の雑誌「医談」から

2004 / 四六判 / 312頁

2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-1193-4

明治26～41年に刊行された私立奨進医学会の機関誌「医談」は、近代医療制度の確立過程における医学界を窺う史料。本書はその記事を抄録し、江戸から明治にかけて日本の医療事情や教育環境がどのような状況にあり、医師がどう行動し、何を考えていたかを浮かび上がらせる。

溝上國義編

日露戦争従軍記

軍医の陣中日記

2004 / A 5判 / 166頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1211-6

池田文書研究会編

東大医学部初代総理池田謙斎

池田文書の研究

[全2冊]

2006～2007 / A 5判 / 総740頁

揃15,330円 (本体14,600円)

正橋剛二編

ていえん こいし

櫻園小石先生叢話

複製と解説

4,200円 (本体4,000円) ISBN4-7842-1330-9

日本医史学会関西支部 (杏林温故会) 編

醫譚 [全3巻]

自第1号 (昭和13年) 至第17号 (昭和19年)

25,200円 (本体24,000円) ISBN978-4-7842-1424-2

森本武利編著 / 酒井謙一訳

京都療病院お雇い医師ショイベ

滞日書簡から

2011 / A 5判 / 346頁

7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1581-2

軍医から見た戦争の状況が克明に記された日露戦争の記録。戦闘による外傷の治療以上に水・食料の確保や、転戦する野戦病院での衛生管理にほとんどの時間が割かれていたことなど、戦時下の様子が、戦場・民家・関連地理ほかのスケッチとともに生々しく活写されている。

池田謙斎宛の約4千通の文書類を翻刻。内容は、東大医学部の前身である幕府医学所関係文書およびその関係者からの書簡など、東京大学中枢部・陸軍軍医部・宮内省待医として関係のあった各官家、同僚侍医、また患者としての華族や高級官僚などによる書簡を上・下2分冊で収録。

究理堂を発展させた小石元瑞 (1784～1849) の門人が、師の言説を記録。江戸末期の漢蘭折衷医の考え方、薬理学、内科、外科、解剖学、生理学、病理学的事項から漢方・蘭学の対比ないしは漢方に対する批判にまで及ぶ内容。全文カラー複製。

2006 / A 5判 / 124頁

昭和12年、医学史研究会である杏林温故会創立が相談された。その機関誌『醫譚』は医学史・科学史研究の貴重な古典であり、入手困難な昭和19年刊行17号までを複製。

2008 / A 5判 / 総1090頁

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

治療・教育・研究にあたって優れた成果を挙げたドイツ人のお雇い医師ショイベ (1877～81)。滞日中に母へ送った書簡の翻訳を通して、ショイベの生涯をはじめ、ほかのお雇い外国人達との交流や居留地での生活から明治初期の京都の風俗にいたるまでを、生き生きとよみがえらせる。

個人著作集・全集

富士川英郎編

ふしかわゆう

新装版 富士川游著作集 [全10巻]

2011 / A 5判 / 平均500頁

94,500円 (本体90,000円) ISBN978-4-7842-1586-7

岡田靖雄編・解説

くれしゅうぞう

呉秀三著作集 [全2巻]

1982 / A 5判 / 平均450頁

揃30,450円 (本体29,000円)

医学史関係の著作・伝記・考証類を収録。【構成】東洋医学・医学分科史／医術と医業／医者風の風俗・迷信／疾病史・病志・療法の歴史／民間薬／医学論理学・典籍／伝記 (一) / 伝記 (二)・西学東漸／性慾の科学・人生論／医史料・雑纂

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

明治35年日本神経学会を創立、わが国近代精神神経学を開拓建設すると共に、日本医史学会の初代理事長を務め、数多くの広範な医学史領域での研究を残した呉博士の業績を集成。

【構成】医学史篇 (23篇) / 精神医学篇 (31篇)

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

通史・年表

京都府医師会編 (第34回毎日出版文化賞特別賞)

京都の医学史 [全2冊]

1980 / 菊判

本文篇 1500頁・【品切】

資料篇 600頁・12,600円 (本体12,000円)

古代医学から中国医学、仏教医学、オランダ医学、そして近代医学、さらに解剖、児科、痘科、産科、鍼灸、本草、宮廷医家、町医師、看護と、昔から多くのすぐれた医家を輩出した京都の医学史を体系的に編纂。資料編には、究理堂の資料と解説・医家門人帳・京都の医事年表・良医名鑑を取める。

三木 栄・阿知波五郎共著

人類医学年表

1981 / B 5判 / 550頁
24,150円 (本体23,000円) ISBN4-7842-0070-3

人類の医の知識の始原期から一万年間の鳥瞰編年記録。重要な医の業績、医倫理、医学に影響を及ぼした宗教・哲学・思想・国々の興亡、疫病の流行、飢饉の発生など、今昔東西人類・人間医学の全動向を辿る。人名・件名索引を付す。

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

三木 栄著

朝鮮医事年表

1985 / A 5判 / 586頁
21,000円 (本体20,000円) ISBN4-7842-0397-4

有史以来第二次世界大戦終結までの朝鮮史料および関連史料による医学・医療・疾病関係の事蹟を年次・月次・日次に別け列載した医事年表。典拠は全て明記。朝鮮医学史のみならず、東洋医学史の基本的文献。

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

三木 栄著

補訂 朝鮮医学史及疾病史

1991 / B 5判 / 650頁
17,850円 (本体17,000円) ISBN4-7842-0653-1

本書は朝鮮医学史と朝鮮疾病史の二部構成よりなり、広く自然科学史・本草学、獣医学さらにアジア医学史との相互関係にもふれる大作。初版私家版は昭和49年刊。

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

部 門 史

大矢全節著

泌尿器科学史

1972 / A 4判 / 630頁
9,975円 (本体9,500円)

本書は、昭和13年、広く古今東西の史実を収集・渉猟し、海外にも比類のない世界泌尿器科学史として出版した名著の複製である。太古エジプトから説き起こし、西欧における泌尿器科学の発達、更にわが国がいかにこれを導入・咀嚼して今日に至ったかを興味深い挿言を添えながら論じる。

高島文一著

〈第4回岡中賞〉

鍼灸医学序説

1988 / A 5判 / 250頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-0511-X

長年、鍼灸医学の研究と診療にたずさわった著者が、鍼灸の概念と歴史、その根底となった東洋医学思想を多くの古典の原文を紹介しながらわかりやすく解説する。中国伝来の鍼灸、日本式鍼灸、現代医学のいずれにも通じているべきことを主張しつつ、鍼灸治療への道案内をする。

大塚恭男著

漢方と薬のはなし

1994 / 四六判 / 280頁
2,752円 (本体2,621円) ISBN4-7842-0822-4

本書は、北里研究所附属東洋医学総合研究所長であった著者が、長年携わってきた漢方治療の経験から、その処方と効用をエピソードをまじえて紹介する。【内容】私の漢方ことはじめ／東洋医学のすすめ／やさしい漢方／くすり徒然草／薬学読本／思い出のりびと／思い浮ぶまに

日本眼科学会百周年記念誌編纂委員会編

日本眼科を支えた明治の人々

日本眼科学会百周年記念誌 第5巻

1997 / A 4判 / 410頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0931-X

近代諸制度を整えていく過程で、何もかもはじめから始めて今日の礎を築いてきた先人たち、また地域医療に尽してきた眼科医たちの足跡を、近代西洋医学を導入した外国人、学会以前の日本人も含め、都道府県別に収録。明治の眼科医2700名、その子孫約1800名の略歴を付した眼科人名辞典。

日本眼科学会百周年記念誌編纂委員会編

日本眼科の年表

日本眼科学会百周年記念誌 第7巻

1997 / A 4判 / 210頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN4-7842-0933-6

ヴェサリウスの解剖書以来の眼科の歴史を、関連諸科学も含め、さらに社会・文化の歩みと対照させながら年表に纏める。また囲み記事として重要事項を解説し、読む年表をめざした。巻末には医科系大学の歩み及び眼科出版の歴史を収録。

深瀬泰旦著

〈第15回矢数医学賞〉

天然痘根絶史

近代医学勃興期の人びと

2002 / A 5判 / 450頁
8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-1116-0

牛痘接種法は、日本ではお玉ヶ池痘種所において実践され、お玉ヶ池痘種所は蘭学という学問を普及させる上での拠点となった。それは日本近代医学興隆の礎ともいえる。天然痘の根絶を目ざす人びとに焦点をあてながら、この近代医学勃興期とも呼べる時代を活写する。

福田眞人・鈴木則子編

日本梅毒史の研究

医療・社会・国家

2005 / A 5判 / 392頁

7,350円 (本体7,000円) ISBN4-7842-1247-7

中村禎里著

中国における妊娠・胎発生論の歴史

2006 / 四六判 / 256頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1295-7

深瀬泰旦著

小児科学の史的変遷

2010 / A 5判 / 604頁

9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1526-3

「家」・共同体・国家、さらに国際社会がどのような形で身体や性、性感染症に介入してきたのかを解明する共同研究9篇。

【内容】序論 荻野篤彦 I 梅毒の登場と近世社会の変化

鈴木則子／瀧澤利行 II 近代国家と梅毒 福田眞人／宮崎千穂／大川由美／金澤真希 III 梅毒紀行 中西淳朗／福田眞人

生命倫理をめぐる問題の解決方途は、各民族・地域の文化伝統を考慮しなければ説得力を獲得できないであろう。

本書では、生命そのものに対する日本人の理解の歴史を探るための前提となる、中国文化およびインド仏教における妊娠・胎発生論の歴史を通史的に明かす。

永年にわたって小児科の開業医として地域医療に従事してきた著者が、内外の原典をたどり、医史学の視点から小児科学の誕生と発展の跡をたどる。

【内容】感染症の変遷／歴史的な小児科書を読む／疾病概念の変遷／小児科の診断と治療／小児科学の誕生と小児病院

人物研究

蘭学資料研究会編

みつくりげんぼ

箕作阮甫の研究

1978 / A 5判 / 700頁

13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-0035-5

中野操著

大坂名医伝

1983 / 四六判 / 250頁

1,575円 (本体1,500円) ISBN4-7842-0069-X

飯沼愨齋生誕二百年記念誌編集委員会編

飯沼愨齋

1984 / B 5判 / 518頁

12,600円 (本体12,000円)

濱光治著

浪速の町医師上田秋成

1989 / 四六判 / 178頁

1,937円 (本体1,845円) ISBN4-7842-0574-8

洋学史研究会編

大槻玄沢の研究

1990 / A 5判 / 390頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0623-X

安井広著

ベルツの生涯

近代医学導入の父

1995 / A 5判 / 450頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0876-3

医学・地理・歴史・兵学・地質・物理・天文・法律・語学と多方面にわたり業績を残した箕作阮甫。各分野の専門家がその再評価を展開する。【執筆著】児玉幸多／緒方富雄／大久保利謙／小沢栄一／菊池俊彦／石山洋／呉直彦／富士川英郎／土屋喬雄／菱本文／呉茂一／中山沃／小山健三／江原滋

明治30年生まれ、大阪の医学博士、大阪在住半世紀以上、大阪をこよなく愛する著者が、橋本宗吉・中天游・緒方洪庵ら先人たちの貴重な業績と足跡を通して、わが国の近代化の中で大坂が果たした役割をさまざまな角度からわかりやすく語った好著。巻末に大坂風土記年表を付す。

飯沼愨齋の生涯と学問を、植物学・医学・薬学・化学・人文など諸分野の専門家により明かす。資料編には飯沼愨齋著作所在目録／平林莊所蔵諸品目録／国立科学博物館所蔵飯沼愨齋腊葉目録／西村・飯沼・小島家略系図／年譜を収録。

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

江戸後期、和漢の文献に関する広い知識の上に、特異な文学を打ち立てた秋成、その意外と知られていない医師としての側面に光をあてる。その働きぶりや、その師都賀庭鐘の存在、自らの著書『胆大小心録』にもみられる「医は意」をモットーとした彼の医の心などを探る。

江戸後期の蘭学の巨匠大槻玄沢。杉田玄白・前野良沢に学び、自らも芝蘭堂を開き蘭学教育にあたった玄沢の医学・本草学・地理学など、広範にわたる研究活動を、各分野のエキスパートが論じた8篇。【執筆著】佐藤昌介／吉田忠／酒井シヅ／宗田一／矢部一郎／石山洋／所杜吉／鳥井裕美子

日本の近代医学発展の基礎を築いたベルツの生涯をその業績と足跡からたどる。【内容】明治初期の東京医学校／来日前の経歴と日本における生活／内科学著書から／栄養論／温泉医学／中央衛生会／ドイツ東洋文化研究協会／人類学／在日中の日記／ドイツにおける晩年の日記／年譜・業績

福島義一著
こうりょうさい

高良齋とその時代

附・日本散瞳薬伝来史

3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0906-9

岡田靖雄著

精神 齋藤茂吉の生涯 病医

2000 / 四六判 / 354頁
3,150円 (本体3,000円) ISBN4-7842-1056-3

外山幹夫著

医療福祉の祖 長与専齋

2002 / 四六判 / 200頁
2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-1107-1

高島文一著

鍼 の 道 [全2冊]

2004～05 / A5判 / 総604頁
5,040円 (本体4,800円)

奥沢康正・園田真也共編

眼科医家人名辞書

2006 / A5判 / 304頁
4,200円 (本体4,000円) ISBN4-7842-1327-9

杉浦守邦著

江戸期文化人の死因

2008 / A5判 / 340頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN978-4-7842-1422-8

中山沃著

おがたこれよしでん 緒方惟準伝

緒方家の人々とその周辺

15,750円 (本体15,000円) ISBN978-4-7842-1563-8

寛政11年(1799)徳島に生まれ、本草、医学を修め、長崎でシーボルトらに西洋医学を学び、大坂で眼科を開業した高良齋の生涯と業績を、眼科学界で活躍してきた著者が纏める。高良齋著訳書の研究、研究文献、年表をも収めた基本図書。

1996 / A5判 / 270頁

精神科医の著者が、精神科医茂吉と歌人茂吉との相克を描く。

【内容】精神科医となる 医科大学入学まで / 医科大学の時代 / 巣鴨病院の時代 長崎、そして留学 長崎医学専門学校時代 / 留学 青山脳病院 病院火災から再建へ / うちのめされて、いきる 晩年 疎開 / のこされた日び / 齋藤茂吉という人

長崎・大坂で医学を学び、長崎医学校の初代校長となった長与専齋。日本近代の医療・衛生・福祉の確立者ともいえるべき長与の生涯に焦点をあて、明治新政府の政策のなかで近代医療福祉制度がどのように整備されていったのか、その功績を家族・交友関係など幅広い視点から明かす。

一内科医が鍼灸といかに出会い、何が彼を鍼の道へと導いたのか——。西洋医学を基礎に東洋医学・鍼灸を学び、盲啞教育の実践者でもあった著者。90歳をこえて今なお現役の医者として活躍し、研究者として探求の心をもちつづける氏が当時の社会状況を織り込み半生を綴る。

郷土史、地方史をはじめ、人名辞典、人物誌などから江戸・明治の眼科を生業とした医師483名のプロフィールを略述。内科・外科を専業としながらも眼疾患の患者を診た人々も収録。主要流派(32件)については、その流派の説明を本文中に挿入、医系図・家系図も多く掲載。

日本の歴史に名を残した人々が、どのような病気にかかり、どのように対処しながら一生を終えたのか。日記・書簡・肖像画など、さまざまな資料から22名の死因を読み解き、「死因」という観点から、江戸期に活躍した文化人たちの生活を浮き彫りにする意欲作。 【2刷】

洪庵の嫡子で、宮廷医療への西洋医学導入、大阪大学医学部・軍医学校の前身創設などに貢献した緒方惟準。その自叙伝「緒方惟準先生一夕話」を軸として、その生涯と交遊を詳述。幕末・明治初期の医学界をものがたる基本図書。

2012 / A5判 / 1018頁

書 誌

大鳥蘭三郎著

医学書誌論考

1987 / A5判 / 212頁
5,040円 (本体4,800円) ISBN4-7842-0474-1

オランダに生まれ、医学者、医史学者として学界をリードした著者による、近世・近代医学の古典・名著の書誌学的研究6篇。論じる文献は『瘍医新書』『南蛮流秘伝書』『金瘡仕掛』『栗崎流金瘡口伝書』『鶴斎遺稿歌之一』『老叢独語玉味噲』『鶴斎遺稿』『遠西医範』『医範提綱』『外科必読』

森潤三郎著

多紀氏の事蹟

1985 / A5判 / 320頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-0078-9

『医心方』の丹波康頼の流れをくみ、江戸幕府の官医として漢方医学の指導的立場にあった多紀氏一統の履歴とその業績を、豊富な史料を基に、履歴・墳墓・交友・門人・医学館・校刻事業・歴世の著述などから跡づけた貴重な一書。昭和8年版の復刻。小見出し・人名・事項索引を付す。

宗田一 解説
あちは

阿知波五郎論文集〔全2冊〕

1986 / A5判 / 総840頁
揃13,650円 (本体13,000円)

比較史学の視点からヨーロッパ医学の影響を実証的に体系化した氏の業績。【内容】上巻 近代医学論考 新生日本医学の息吹が感じとられる記念すべき「近代日本外科学の成立」と明治初期医学関係論文14篇 下巻 医学点描 医学教育関係15篇、京都・外科関係人物誌17篇、医学随想28篇

石田純郎編著

蘭学の背景

1988 / A5判 / 360頁
3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0512-8

江戸中期以降興隆した蘭学、殊に蘭医学のルーツを、遠影ともいべきライデン大学、大きな影響を与えたシーボルトの医学的背景、近代日本に直接影を落としたウトレヒト陸軍軍医学校など、直接現地に足をのばして探り、蘭学史に新たな光をあてる。オランダ人医史学者4名を含む6人の共同研究。

石田純郎編著

緒方洪庵の蘭学

1992 / A5判 / 366頁
5,040円 (本体4,800円) ISBN4-7842-0751-1

洪庵に代表される日本の蘭医学。蘭学者および彼らが学んだ原典とその著者たちのプロソグラフィ（集団履歴調査法）的研究を通して日本の医学の質を明かす。【内容】緒方洪庵の蘭学／蘭学書の原著者たち／東アジアの西洋学／ヨーロッパ医療界における蘭学のモデルの位置付けについて

酒井シヅ監修・日本医師会編集

医界風土記〔全6巻〕

1993 / 四六判 / 190～250頁

全国の歴史家・医学史家によって書き継がれてきた『日医ニュース』連載の「医界風土記」を地域別に編集。郷土に根ざした先達の足跡と業績にはたゆまぬ医療をめぐるドラマがある。

ISBN4-7842

北海道・東北篇 2,141円 (本体2,039円) -0859-3)

中部篇 2,548円 (本体2,427円) -0839-9)

中国・四国篇 2,548円 (本体2,427円) -0851-8)

関東・甲信越篇、近畿篇、九州・沖縄篇 【品切】

片桐一男著

蘭学、その江戸と北陸

大槻玄沢と長崎浩斎
1993 / 四六判 / 364頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0769-4

寛政11年越中高岡の町医の子である長崎浩斎は、西洋流眼科、漢詩を学んだ後、文化14年に江戸に遊学、大槻玄沢の門下に入る。本書は玄沢と浩斎の往復書簡を中心に、長崎家に残る書簡、写本、版本などの紹介を通して、当時の地方の蘭方医家の様子や、江戸と地方との交流に光をあてる。

青木歳幸著

在村蘭学の研究

1998 / A5判 / 460頁
9,030円 (本体8,600円) ISBN4-7842-0963-8

信濃において、医師による医療のひろがり、医師の組織化、医療の近代化等の医療をめぐる歴史的变化に、在村蘭学がいかに関わったのか、江戸時代の地域社会でどのような歴史的展開をしたか、とくに庶民生活とどう関わったかを明かし、蘭学の全体像にたいしての位置付けと見直しにとりくむ。

石田純郎著

オランダにおける蘭学医書の形成

2007 / A5判 / 336頁
7,140円 (本体6,800円) ISBN978-4-7842-1338-2

『解体新書』原著者、蘭訳者の経歴を具体的に検討することで、日本の受容した蘭学の性格を解明。他の代表的な受容蘭学医書も精査することにより、受容した蘭学のヨーロッパにおける学統を明かし、その背景となる1800年頃までヨーロッパに存在した古いタイプの職人としての外科医の様子を描出。

ヴォルフガング・ミヒェル／鳥井裕美子／川眞真人編

九州の蘭学

越境と交流

2009・2011／四六判／380頁

2,625円 (本体2,500円) ISBN978-4-7842-1410-5

青柳精一著

近代医療のあけぼの

幕末・明治の医事制度

2011／A5判／576頁

4,935円 (本体4,700円) ISBN978-4-7842-1583-6

近世、西洋への唯一の窓口であった長崎及び九州各地で、人々が在来の学術とは異なる西洋近代科学にどう向き合い、学び取って、世のため人のために役立てたのか、あるいは来日した西洋人が、知的交流や技術移転にどれほど貢献したのかを、彼らの業績と足跡を通して明かす。【2刷】

日本の医界は近代における大事件をいかに乗り越え、発展してきたのか。遣外使節団の病院視察から、ドイツ医学の導入および医学校の創設、看護師・女医の誕生、医師法の制定と、よりよい医療を求めた先達のあゆみをたどる。幕末・明治の医事制度と社会背景について膨大な史料をもとに考証。

医療人類学

H・E・ジゲリスト著／高山坦三訳

医学序説

1981／B6判／418頁

3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0033-9

マーガレット・ロック著／中川米造訳

都市文化と東洋医学

1990／A5判／320頁

7,140円 (本体6,800円) ISBN4-7842-0619-1

奥沢康正著

京の民間医療信仰

安産から長寿まで

1991／A5判／340頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-0642-6

梅原猛編

脳死は、死でない。

1992／四六判／320頁

1,631円 (本体1,553円) ISBN4-7842-0749-X

安平公夫監修／竹中正文・郷原憲一編

生命の意味〔全2巻〕

1992／四六判／平均250頁

(各) 2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0718-X・-0719-8

山下政三著

脚気の歴史 ビタミンの発見

1995／A5判／540頁

14,700円 (本体14,000円) ISBN4-7842-0881-X

川村純一著

病いの克服

日本痘瘡史

1999／A5判／400頁

4,935円 (本体4,700円) ISBN4-7842-1002-4

ライプチヒ大、ジョーンズ・ホプキンス大で教鞭をとった医学史家ジゲリストは、医学史が医学の社会的な問題の解決法の一つとなることを信じその研究に一生を捧げた。本書は、歴史の手法を用いて医学の基礎概念を紹介し、医学および医師の職責の本質を示した医学の入門書。

本書は医療人類学分野で世界的に活躍中の著者が、日本の都市（京都市域）における東洋医学の実践がどのような形態と内容によって行われているか、さらには、その社会的・文化的な背景がいかなるものかをフィールドワークをもとに文化人類学的手法でまとめたものである。

安産、長寿、病氣平癒祈願など、神仏に医療加護を願う信仰は根強く生きている。本書は、京都の眼科医が市内の寺社の民間医療信仰を紹介した異色の京都案内。170の寺社の御利益やその歴史的背景を、地図や写真も交えながら紹介し、現代における信仰のあり様などを考察する。

いま人の命とはなにか——脳死・臓器移植から日本人の死生観・近代合理主義批判へ。各界8名(中川米造・廣澤弘七郎・五木寛之・河合肇雄・原秀男・光石忠敬・米本昌平・中島みち)と語る対談のほか「医学と生命」(講演)を収録。脳死臨調最終答申も掲載。

医療技術の進歩、価値観の多様化の中、生と死の意味を考える上で様々な選択にせまられる今日。各界の専門家と共に生きることの意味を考え、読者に様々な視点を提示する。

ビタミン発見の背景には、長い脚気との闘いの歴史や、日本の漢方脚気医学の陰の貢献があり、ビタミン発見にいたるまでの、さまざまな伝説も語り継がれている。本書は、ビタミンB1欠乏症の専門家が、脚気の歴史をもとに全く新しい視点からビタミン発見の真相解明に迫る20世紀医療文化史。

古代より人類を苦しめた痘瘡(天然痘)が根絶されるまでの歴史を、膨大な史料から描き出す。【内容】痘瘡の称呼の変遷／痘瘡の起源と伝来／疱瘡の流行／痘瘡の犠牲者／痘瘡の医学／種痘／痘瘡にかかわる民俗／文芸作品に見る痘瘡／痘瘡の根絶／人類は再び痘瘡に襲われることはないか

星野一正編著

生の尊厳

日米欧の医療倫理

1999 / A 5判 / 336頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-0992-1

バイオエシックス・生命倫理について、日米欧の識者がそれぞれの現状を報告するとともに、よりよい医療のための制度のありかたをさぐる。本書は、第20回大学医学部医科大学倫理委員会連絡懇談会記念国際シンポジウム「日米および諸外国の医療についての倫理委員会の在り方」の成果。

杉田暉道・藤原壽則共著

今なぜ仏教医学か

2004 / 四六判 / 280頁

2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-1195-0

仏典に説かれている医療にさかのぼり、仏教医学の基本にたちもどり、高齢化社会における終末期医療のあり方が問われている今日、仏教はどのような役割を果たすことができるのか——仏教と医療現場とのかかわりの実態と未来について具体的に明かす。

大星光史著

古代日本の生命倫理と疾病観

2005 / A 5判 / 466頁

3,675円 (本体3,500円) ISBN4-7842-1245-0

文学に造詣の深い医学者が記紀万葉に現代人の生き方を探る
【内容】 万物と神／清浄無垢／疾病観／魂の存在／生命の倫理／をとこ・をみなの世界／詩人達の生死から／死と黄泉の国／理想の国とユートピア／宗教・思想・福寿・泰平と生命観／言霊の世界といのち／魍魎魍魎の悪と正義の倫理観

川村純一著

文学に見る痘瘡

2006 / A 5判 / 300頁

5,250円 (本体5,000円) ISBN4-7842-1323-6

古来から、人々は痘瘡（天然痘）と戦ってきた。また一方では痘瘡神が祀られ、多くの民俗行事が発達するなど、痘瘡と馴れ親しんできたともいえる。平安朝から昭和まで、主に江戸時代を中心に46の文学作品を通じて、当時の民衆の痘瘡に対する疾病概念および医療事情を浮き彫りにする。

宗 教 史

禪 宗

川上孤山著／荻須純道補述

増補 妙 心 寺 史

1975・1984／A 5判／830頁
10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-0429-6

大正4年に刊行された『妙心寺史』は、草創から維新期まで六百年の妙心寺の沿革を、本山・塔頭はもちろん地方寺院に至るまでその記録・文書を獵渉して描いた大著である。復刻にあたっては荻須純道師による「明治以降の妙心寺」を増補した。付・松原一流(古月・白隠)系正脈図。 【2刷】

白石虎月編

東 福 寺 誌

1979／菊判／1250頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0121-1

日本の禪宗の歴史に大きな役割を果たしてきた東福寺。本書は、昭和5年に東福寺の末寺明光寺の住職、白石虎月師によって出版されたものの復刻。開創以来の歴史を明らかにすると共に、中世・近世禪宗史や禪宗関係文化財を知る上で貴重な編年史料集である。

荻須純道著

正法山六祖伝訓註

1979／A 5判／160頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-0118-1

別名『法山六祖伝』、妙心寺開山慧玄から授翁宗弼・無因宗因・日峰宗舜・義天玄詔・雪江宗深までの六人の伝記で、雪江宗深および東洋英朝の筆による。流布本の『正法山六祖伝』は寛永17年能遷の印刻によるが、改竄のない古写本を基とした『考彙』『別考』を参照しながら註釈を加えた史料。

荻須純道著

禪 宗 史 の 散 策

1981／A 5判／570頁
13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-0122-X

長年禪宗史の研究に携わった著者が、禪の源流とその展開を明かす。第一篇は聖徳太子・榮西・癡兀大慧・夢窓国師・雪江宗深・白隠・道海などの研究論文を主とし、また中国の禪にも触れながら、禪宗史の問題を論じ、第二篇では啓蒙的なものを中心に、中国の部6篇、日本の部13篇を収録。

梶谷宗忍註

絶 海 語 録 [全3巻]

1975／A 5判／平均450頁

建仁寺山内両足院蔵書の五山版『絶海録』を底本とし、相国寺山内、慈照院蔵書の『絶海録考証』に依り訓注を付した。

第1巻 絶海語録(一) 6,090円 (本体5,800円)

第2巻 絶海語録(二) 6,090円 (本体5,800円)

第3巻 蕉堅藁・年譜 【品切】

玉村竹二著

(第3回角川源義賞)

日 本 禪 宗 史 論 集 [全4巻]

1975～／菊判／平均1200頁
巻上 15,750円 (本体15,000円)、巻下之一・二 【品切】、索引 【未刊】

日本禪宗史研究第一人者の業績の集大成。禪宗史だけでなく中世の文学・建築・美術など各分野にわたって裨益するところ極めて大。

禅文化研究所編

禪 学 論 攷

1977／A 5判／554頁
8,400円 (本体8,000円) ISBN4-7842-0117-3

故山田無文老子の喜寿記念。禅宗学界各分野の代表的研究者が上梓した19篇。【執筆者】玉城康四郎／平川彰／中村元／木村俊彦／柳田聖山／中川孝／古賀英彦／久須本文雄／荒木見悟／ドミエヴィル／玉村竹二／平野宗浄／古田紹欽／加藤正俊／木村静雄／西村恵信／西谷啓治／紫野恭堂／藤吉慈海

相国寺史料編纂委員会編／藤岡大拙・秋宗康子校訂

相 国 寺 史 料 [全10巻・別巻1]

1984～1997／A 5判／平均550頁
揃 164,850円 (本体157,000円)

足利家の菩提寺として創建、五山の第二位に叙され、明貿易の交渉にもあつた相国寺。本史料集は「相国考記」(永徳2年～慶長14年)と小畠文鼎師が本山及び塔頭所蔵の文書・史料から抄録・編纂した「相国寺史料」全40冊(慶長10年～慶応3年)よりなり、別巻に「萬年山聯芳録」を収録した。

近世禅僧伝〔全8巻〕

1982～／A5判／平均330頁

第1巻 沢庵和尚年譜 荻須純道著 5,670円(本体5,400円)
 第3巻 雲居和尚年譜 平野宗浄著 6,300円(本体6,000円)
 第7巻 白隠和尚年譜 加藤正俊著 6,825円(本体6,500円)
 第8巻 東嶺和尚年譜 西村恵信著 【品切】

【以下未刊】

第2巻 一絲和尚年譜 柳田聖山著
 第4巻 愚堂・無難和尚年譜 西尾賢隆著
 第5巻 盤珪和尚年譜 小林円照著
 第6巻 無著和尚年譜 加藤正俊・柳田聖山著

玉村竹二著

五山禅林宗派図

1985／B5判／420頁
 15,750円(本体15,000円) ISBN4-7842-0403-2

禅宗史料研究の第一人者が、永年の研究成果を基に五山禅林の宗派図を体系的にまとめた画期的な一書。

【内容目次】 解題と凡例／宗派綱要(譜源) — 中国伝法／五山禅林宗派図(八十一項目) 関山派印証系譜／道号検索／法諱(下字) 検索／道号・法諱異称対照表

桜井景雄著

禅宗文化史の研究

1986／A5判／410頁
 8,925円(本体8,500円) ISBN4-7842-0452-0

南禅寺および禅宗史に関する論稿をまとめる。寺史篇では永保寺・円光寺史を、制度篇では禅宗主流の成立とその性格、官寺制五山の成立について等7篇、人物篇では祖円、周佐、景暈、古溪、崇伝、素湛を、文化篇では茶道の源流、梅屋宗香と乗福寺本『鸚鵡遺稿』についてなど5篇を論じる。

藤木英雄著

中世風狂の詩

一休『狂雲集』精読抄
 1991／四六判／388頁
 5,040円(本体4,800円) ISBN4-7842-0676-0

五山文学を専門とする著者が、『狂雲集』を通して一休の文学的人間像のデッサンに臨む。20のテーマを設定し、関連する史料をも交えながら行間を探る。腐敗墮落した当時の世相を逆手に取って愛欲の詩をうたい、正法護持につとめる一休の姿がそこにある。付一休年譜

可睡斎史料集編集委員会編

可睡斎史料集〔全5巻〕

1990～／A5判／平均340頁
 揃 80,850円(本体77,000円)

静岡県袋井市在の曹洞宗専門道場、万松山可睡斎は、全国に四カ寺あった曹洞宗の触頭「僧録」の一つで、駿河・遠江・三河・伊豆四カ国にある曹洞宗寺院を支配した。そのため、江戸幕府の曹洞宗に対する宗教行政・寺院支配に関する膨大な文書・記録類を残している。各巻に収録史料の解題を付す。

平久保章編

新纂校訂 木菴全集〔全8巻〕

1992／A5判／総4,100頁
 152,250円(本体145,000円) ISBN4-7842-0738-4

伽藍の整備と禅僧としての学徳で黄檗宗禅基を確立した第二世木菴禅師の語録8種(木菴禅師語録・木菴禅師東來語録・東來集・黄檗木菴禅師語録・木菴和尚瑞聖寺語録・黄檗木菴語録など)のほか平譜・寿章などを加えて原本を収録。頭注を付し最終巻には冠首索引・准冠首索引・総索引を付載。

入矢義高短篇集

空花集(くうげしゅう)

1992／四六判／306頁
 2,548円(本体2,427円) ISBN4-7842-0730-9

中国文学の泰斗による珠玉の短篇21本。【内容】 陶淵明とわたし／一休の艶詩／頼山陽／玄沙の臨濟批判／語録の言葉と文体／詩偈について／無著道忠の禅学／大拙・熊楠・慧海／中国口語史の構想／白話文と白話小説／中国の妓女／中国の看板の由来／NHK批判／京都タワー倒れよ ほか

鈴木泰山著

曹洞宗の地域的展開

1993／A5判／380頁
 8,400円(本体8,000円) ISBN4-7842-0792-9

中部地方(特に東海地域)における曹洞宗の教理教学の展開と教線の拡張強化の過程を語録・民俗史料を通して明かし、一見反世間的ともみえる「道元禅」がその真髓を保持しながら「曹洞土民禅」といわれるまでに民衆化し伝承されてきたことを実証。【解説】 広瀬良弘

平久保章編

新纂校訂 即非全集〔全4巻〕

1993／A5判／総1,632頁
 70,350円(本体67,000円) ISBN4-7842-0810-0

木菴とともに万福寺の首座となった明僧の即非如一は隠元の徳、木菴の道、即非の禅とたたえられた高僧。本全集には語録・詩偈集を収めた『即非禅師全録』ほか二点を影印で刊行。異本との校訂は頭注で示し、詳細な索引を併載。

加藤正俊著

関山慧玄と初期妙心寺

2006 / A 5判 / 390頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1281-7

西尾賢隆著

中国近世における国家と禅宗

2006 / A 5判 / 370頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-1289-2伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編
相国寺蔵 西笑和尚文案 (せいしょうおしょうぶんあん)
自慶長二年至慶長十二年2007 / A 5判 / 396頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1343-6

玉村竹二監修/瑞泉寺史編纂委員会編

妙心寺派語録 [全2巻]

瑞泉寺史別巻

1984・1987 / A 5判 / 総1166頁
揃 29,400円 (本体28,000円)

横山住雄著

瑞泉寺史

2009 / A 5判 / 584頁
21,000円 (本体20,000円) ISBN978-4-7842-1487-7芳澤勝弘編
こけいそうとん

悟溪宗頓 虎穴録訳注

2009 / A 5判 / 844頁
10,500円 (本体10,000円) ISBN978-4-7842-1489-1

芳澤勝弘編著

こうげつそうがん

江月宗玩 欠伸稿訳注 [全2冊]

2009・2010 / A 5判 / 総1414頁
揃 19,950円 (本体19,000円)

世縁の粘着を嫌い隠逸の生涯を送った妙心寺の開山・関山慧玄は、自らの意志で伝記の手掛かりとなるものは遺さなかった。後世の関山伝や印可状などの諸史料を精密に分析し、初期妙心寺における関山を中心とした諸問題にとりくみ、宗門の密室性に分け入った一書。

中国に至った仏教は社会や国家と関連し、唐代後半期から展開する禅へと集約される。本書は中国における仏教の姿を把握すべく、「会昌の廃仏」を円仁の『入唐求法巡礼行記』等にもみるほか、異国の宗教を理解・受容するための「偽経・語録」「僧制・清規」へと発展する戒律の受容などを検証。

秀吉・家康のブレンとして、寺社・外交政策に活躍した相国寺中興の祖・西笑承兌の書状案文『西笑和尚文案』全10冊を、紙背文書も含め活字化。朝鮮出兵、関ヶ原合戦直後の政治状況などをうかがい知れる史料。『鹿苑日録』の原本の一部『文禄中日記』、西笑が活躍した時期の「相国寺本坊文書」も翻刻。

瑞泉寺史編纂に際し、中世に属する妙心寺派の語録を刊行。中世禅僧の詳細な行状を通して新たな史実解明をもたらす貴重史料。第1巻には、いわゆる四派以前を収録し、第2巻には、景川派と聖澤派の語録を収録。各巻に解説を付す。

応永22年(1415)、臨濟宗妙心寺中興の祖・日峰宗舜の開創にかかる青龍山瑞泉寺(愛知県犬山市)は、濃尾平野の妙心寺教団の中心になってその発展に寄与してきた。その600年にわたる歴史を、通史編、伽藍・塔頭編、史料編の三部構成で伝える。

妙心寺派四派の一つ東海派の祖であり、瑞龍寺開山である、悟溪宗頓(1416～1500)の語録『虎穴録』を翻刻。詳細な註釈と現代語訳を施した。

大徳寺156世として大徳寺の復興に尽くした江月宗玩(1574-1643)の語録『欠伸稿』の龍光院蔵自筆本を翻刻。分量的には、影印で刊行されている写本『孤蓬庵本』のほぼ半分だが、「孤蓬庵本」にはない偈頌などを収録する。そのなかには多くの文化人との交流も記録されており、貴重資料ともなっている。

天台宗・眞言宗

天台宗寺門派御遠忌事務局編

園城寺之研究

1978 / B 5判 / 800頁
15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0119-X

鷲尾遍隆監修/綾村宏編

石山寺の信仰と歴史

2008 / A 5判 / 180頁
1,890円 (本体1,800円) ISBN978-4-7842-1387-0

昭和6年、天台宗寺門開祖智証大師入滅の大遠忌記念事業として、当時学界第一線にあった研究者・宗教者によってなった歴史・宗教・美術からなる総合研究書の復刻。

琵琶湖畔に伽藍を構える石山寺は、聖武天皇の勅願により創建、観音信仰の聖地として知られる。また、紫式部が源氏物語の着想を得たという伝説が残るなど、多くの人により信仰と文化が育み守られてきた名刹。その信仰・歴史・美術・文学・經典を、第一線の研究者がオールカラーで解説。図版150点。

浄土宗・浄土真宗

鷲尾教導編著

増補 津村別院誌

1983 / 菊判 / 776頁
8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-0125-4

旧版『津村別院誌』は、初期真宗史学の代表的書誌学者である鷲尾教導師により大正15年に出されたものであり、草創期の明応5年から現代までの津村別院の歩みを知る貴重史料である。今回復刻するにあたり、新たに津村別院関係年表と木村寿氏による編著者鷲尾教導師の略伝を付した。

千葉乗隆編

宮崎圓遵著作集 [全7巻]

1986～1990 / A5判 / 平均400頁

戦後、真宗研究は、政治・社会・経済などの広い視野に立ち、かつ民俗学・考古学・地理学などを導入した総合的研究が推進された。そのなかで、その中心的役割をはたした著者の論文を五分野全七巻に収める。

第一巻 親鸞の研究(上) 【品切】、 第二巻 親鸞の研究(下) 【品切】、 第三巻 中世仏教と庶民生活 【品切】

第四巻 真宗史の研究(上) 7,140円 (本体6,800円) 第六巻 真宗書誌学の研究 7,350円 (本体7,000円)
第五巻 真宗史の研究(下) 8,400円 (本体8,000円) 第七巻 仏教文化史の研究 7,140円 (本体6,800円)

菅田祐準著

念佛的自覚

1993 / 四六判 / 110頁
2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-0761-9

住職が綴る念佛との邂逅と信仰へのよすが。現代の課題を解決する鍵として仏教思想を易しく説く。【内容】釈尊の苦悩／釈尊の目覚めと伝道／救われるということ／念佛的自覚／本願について／この光に遇う／他力ということ／三業弥陀一体の念佛／念佛の利益／輝くいのち／宇宙的調和の中で

中井真孝著

法然伝と浄土宗史の研究

思文閣史学叢書

1994 / A5判 / 430頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-0861-5

都市的な顔と田舎的な体を具有する浄土宗の性格が形成された過程を「法然上人伝」「中世浄土宗寺院」「近世本末関係」を軸に解明する待望の論集。

【内容】1篇 法然上人伝の研究 / 2篇 中世浄土宗寺院の研究 / 3篇 近世本末関係の研究 / 付篇

蓮如上人研究会編

蓮如上人研究

1998 / A5判 / 492頁
10,500円 (本体10,000円) ISBN4-7842-0961-1

蓮如上人500回遠忌を記念して編まれた論集。教学上の問題にとどまらず、各地域とのつながり、伝記、民俗からみた蓮如上人、更には真宗寺院建築の特色や上人の作庭など、幅広いテーマを扱う。

千葉乗隆編

日本の社会と真宗

1999 / A5判 / 285頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1009-1

龍谷大学本願寺史料研究所で千葉先生の学恩を受けた人々による、真宗史研究での史料・寺院・信仰などの課題にとりくんだ13篇。【執筆者】千葉乗隆 / 藤井利章 / 岡本敏行 / 高橋事久 / 藤原正己 / 日野照正 / 木村壽 / 直林不退 / 朝枝善照 / 濱岡伸也 / 知名定寛 / 左右田昌幸 / 高島幸次 / 北野裕子

菅田祐準著

念仏の時空論考

2003 / A5判 / 180頁
3,360円 (本体3,200円) ISBN4-7842-1137-3

浄土教における念仏の問題とこれからの信仰について考察【内容】浄土教的正覚の一視点 / 浄土教を貫く「一元相即的念」論考 / 浄土教の展開する個の輝きと調和 / 浄土教「いのち」観の顯示するもの / 浄土教法説の一考察 / 法蔵菩薩誓願の一考察 / 浄土教における善の課題 ほか

中井真孝著

法然絵伝を読む

佛教大学鷹陵文化叢書12

2005 / 四六判 / 230頁
1,890円 (本体1,800円) ISBN4-7842-1235-3

法然伝研究の第一人者が描く「絵伝に読む法然像」——国宝『法然上人行状絵図』(知恩院蔵)から、その生涯のトピックスとなる事項を選び、読み下しに現代語訳と解説を付し、あわせて他本とも比較(口絵カラー4頁・挿図45点)。

【内容】法然絵伝の系譜 / 法然の生涯 / 法然をめぐる人びと

今堀太逸著

権者の化現 （ごんじゃのけげん）

天神・空也・法然

佛教学大学鷹陵文化叢書 15

2,415円 （本体2,300円） ISBN4-7842-1321-X

仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。【目次】第1部「天神」日本国の災害と道真の霊／第2部「空也」六波羅蜜寺の信仰と空也／第3部「法然」浄土宗の布教と法然

2006 / 四六判 / 312頁

水谷幸正著

仏教思想と浄土教

1998・2007 / A 5判 / 728頁

12,600円 （本体12,000円） ISBN4-7842-0989-1

学・行・信の課題に応じて研鑽を積まれた著者永年の業績。

【内容】第1篇 仏教思想研究

第2篇 如来蔵思想と浄土教研究

第3篇 浄土教思想研究

第4篇 導空二祖の浄土教研究

【2刷】

水谷幸正著

善導大師と法然上人

念仏に生きる

佛教学大学鷹陵文化叢書 別巻

2,520円 （本体2,400円） ISBN978-4-7842-1401-3

平成20年4月、傘寿をむかえた著者が浄土宗僧侶として、戦後の混乱期から21世紀の今日まで、浄土宗の宗祖法然上人、さらにその師と仰がれた善導大師から脈々と受け継がれてきた念仏の教え、懺悔の思想を現代社会に問いかける。

2008 / 四六判 / 274頁

五十嵐隆幸著

西山浄土教の基盤と展開

2010 / A 5判 / 309頁

4,200円 （本体4,000円） ISBN978-4-7842-1529-4

日本仏教を基盤に日本浄土教の祖師や、浄土宗の開祖法然の浄土教義、さらに門弟の證空や行観を中心に西山教義をまとめる。「旧仏教・新仏教」「正統仏教・異端仏教」といった対立構造ではなく、浄土教義を軸に日本文化を継承創進する仏道として、日本仏教の姿を構成する試み。

大塚靈雲著

はんじゅさん しこう

般舟讚私講

2010 / A 5判 / 538頁

3,675円 （本体3,500円） ISBN978-4-7842-1530-0

善導の著書五部九卷のなかで『観経疏』を除けば、とりわけ『観経』そのものについて関説しているのはこの『般舟讚』である。『観経』一經の經説の次第を踏んで讚いあげる『般舟讚』を、善慧房證空（西山上人）の著書『般舟讚自筆鈔』等に依拠しながら、私訳私講を試みる。

平 祐史著

法然伝承と民間寺院の研究

2011 / A 5判 / 444頁

9,450円 （本体9,000円） ISBN978-4-7842-1534-8

近世社会において、浄土宗寺院はどのような変化をとげたのか。日本各地の民間寺院に伝わる開創・宗祖伝承や地名、史料等の考察を通じて、浄土宗教義の変容や民俗信仰との関わり合いを明らかにし、歴史民俗と浄土教学史という双方の立場から、浄土宗寺院における近世化の実態に迫る。

大本山くろ谷

金戒光明寺 宝物総覧

2011 / A 4判変 / 516頁

29,400円 （本体28,000円） ISBN978-4-7842-1564-5

京都白川の浄土宗大本山、金戒光明寺は多くの文化財を所蔵しており、その公刊がかねてより望まれていた。法然上人八百年大遠忌にあたり、仏像・仏画・仏典・絵画・古文書など貴重な寺宝をオールカラーで掲載。仏教美術・仏教史・美術史他に寄与する一書である。

豊田元彦監修／西山禅林学会発行

かんぎょうしょうのしょう げんぎぶん ちゅう

観経疏之抄 玄義分 中

浄土宗叢書 第1巻

5,250円 （本体5,000円） ISBN978-4-7842-1593-5

西山国師が善導大師の『観経疏』を講述した際、門弟、観鏡證入筆録の『他筆抄』といわれる文献の影印研究。時宗総本山遊行寺に蔵される現存最古写本を底本に、天文5年（1536）の書写奥書をもつ大谷大学図書館所蔵本を対校本とする。

2011 / B 5判 / 206頁

中井真孝校注

新訂 法然上人絵伝

2012 / A 5判 / 500頁

今夏刊行

法然上人の伝記中、最も浩瀚であり先行する諸伝を集大成した『法然上人行状絵図』（浄土宗総本山知恩院蔵・国宝）の詞書を、著者の長年わたる法然伝研究の成果をもとに、新たに校訂を施した本文と、簡潔な語注によって提供する平成版定本。法然上人の生涯を原文で味わえる一冊。

法 華 宗

藤井學・波多野都夫共編著

本能寺史料〔全5巻・別巻1〕

1992～2006 / A 5判 / 平均550頁
 揃 115,500円 (本体110,000円)

畿内・東国末寺篇	17,850円 (本体17,000円)
西国末寺篇	18,900円 (本体18,000円)
本山篇上	18,900円 (本体18,000円)
本山篇下	21,000円 (本体20,000円)
古記録篇	23,100円 (本体22,000円)
別巻 中世篇	15,750円 (本体15,000円)

佐藤博信著

安房妙本寺日我一代記

2007・2009 / 四六判 / 212頁
 3,150円 (本体3,000円) ISBN978-4-7842-1373-3

豊かな歴史と伝統、由緒を持つ千葉県安房郡の日蓮宗妙本寺は、所蔵史料が未公開なこともあって十分な歴史的検討がなされてこなかった。本書では、その安房妙本寺の歴代住職のなかで、戦国時代の日我(永正5年～天正14年)の一代記を古文書や記録などの諸史料を用いて年代記風に記述。【2刷】

神 道

鈴鹿連胤撰 / 井上頼国・佐伯有義校訂

神社覈録〔全2巻〕

1971・2005 / 菊判 / 総2090頁
 39,000円 (本体37,143円)

原本は、明治35年、井上頼国・佐伯有義両氏の校訂で出版された鈴鹿連胤の『神社覈録』。鈴鹿連胤は、吉田神道の社家に生まれ、明治3年、計72巻の神社覈録を完成した。本書は延喜式のうちの神名帳の研究書。

総発売元：同朋舎メディアプラン TEL03-5216-1161

内務省蔵版

特選神名牒

1972・2004 / A 5判 / 970頁
 18,900円 (本体18,000円)

本書は、明治9年教部省により編纂された「特選神名牒」32冊を、大正14年内務省が翻刻出版したものの復刻である。翻刻にあたり「特選神名牒編纂次第」と後記・索引が付されている。

総発売元：同朋舎メディアプラン TEL03-5216-1161

今谷 明 編

王権と神祇

1992 / A 5判 / 348頁
 6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1110-1

王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。国際日本文化研究センターにおいて各分野の研究者によって行われた共同研究の成果。

齋藤盛之著

一宮ノオト

2003 / B5判 / 180頁
 2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1138-1

一宮には日本人の思想の千年の軌跡が詰まっている——平安時代から中世にかけて行われた社格である一宮の称をもつ全国の神社は、その文化財もふくめさまざまな由緒を持っている。一宮をめぐるさまざまな考察と各一宮の特色や歴史を平易に明かす。

山本信吉・東四柳史明編

社寺造営の政治史

神社史料研究会叢書Ⅱ
 2000 / A 5判 / 312頁
 6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1051-2

神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的とする研究会の成果。社寺造営が持つ政治・経済的側面に焦点をあて、一級史料を駆使して、その歴史的意義と実態を明かす9篇。

【執筆著者】山本信吉 / 畠山聡 / 木越祐馨 / 東四柳史明 / 横田光雄 / 松尾恒一 / 西岡和 / 中野光浩 / 橋本政宣

藪田稔・福原敏男編

祭礼と芸能の文化史

神社史料研究会叢書Ⅲ
 2003 / A 5判 / 300頁
 6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1159-4

神社を祭場・舞台として繰り上げられる祭礼と芸能を特集した9篇。

【執筆著者】松尾恒一 / 廣瀬千晃 / 島田潔 / 森本ちづる / 宮永一美 / 藪田稔 / 高橋寛司 / 軽部弦 / 浦井祥子 / 福原敏男

棚町知彌・橋本政宣編

社家文事の地域史

神社史料研究会叢書Ⅳ

2005 / A 5判 / 376頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-1257-4

諏訪・伊勢・北野各神社の社家における和歌・連歌等の文化活動に焦点をあて、その歴史的意義と実態をさぐる10篇。

【執筆】井上敏幸／神作研一／川平敏文／吉良史明／加藤弓枝／棚町知彌／菊地明範／橋本政宣／入口敦志

椋山林繼・宇野日出生編

神社継承の制度史

神社史料研究会叢書Ⅴ

2009 / A 5判 / 348頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1418-1

古代より近代にいたるまで神社が継承されてきた諸問題について、主に制度史としての視点での論文9篇を収録。

【執筆】山本信吉／西中道／嵯峨井建／宮永一美／千枝大志／宇野日出生／鈴木瑞磨／椋山林繼／福原敏男／橋本政宣

大山喬平監修／

石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編

上賀茂のもり・やしろ・まつり

2006 / A 5判 / 412頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1300-7

平安京遷都以降、皇城鎮護の神として厚い崇敬を受けてきた上賀茂神社。平成九年より行われた新発見の文書を含む約一万四千点の古文書調査を通してみえてきた神社の姿を、調査に携わった著名な研究者が紹介したのべ29回にわたる歴史文化講座を活字化。上賀茂神社の歴史を理解する上で画期的な啓蒙書。

仏教考古学

五島正風訳

造像量度経 [全2冊]

1977 / B 5判 / 総222頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0114-9

本書は、清朝乾隆年間にチベット語から工布査布が漢訳した伝説造像量度経に関する一連の經典を、昭和8年に和訳して書かれたものの影印本であり、古代から近世までの仏像の形式発展の歴史を考える上で重要な参考資料である。

石田茂作著作集

仏教考古学論攷 [全6巻]

1977～1978 / A 5判 / 平均350頁

全24,150円 (本体23,000円) 品切の第4巻除く

正倉院御物の調査、朝鮮扶余軍守里廢寺の発掘、法隆寺若草伽藍の発掘をはじめ数多い諸寺の永年にわたる現地調査を土台に、今日の仏教考古学の体系を樹立した石田博士の半世紀以上にわたる学問上の足跡を一堂に収める。

宗教一般・その他

釘宮武雄著

行道佛教学

1979 / 菊判 / 416頁

5,775円 (本体5,500円) ISBN4-7842-0116-5

教理の立場からではなく、専ら「行道」の立場に立って全仏教を見直し、説教者の側からでなく求道者の側から立って仏教を論じた。仏教諸宗の基盤にある「教判釈」を手がかりに、あらゆる仏教の本質が、この自分自身を見つめる「実践的真理理性」とも呼んでいる行道にあることを明かす。

近松洋男編訳

キリシ「ヒイデスの導師」の原典的研究

1990 / A 5判 / 614頁

17,850円 (本体17,000円) ISBN4-7842-0614-0

1592年、セミナリオ教師が和訳、文語体のローマ字で刊行し、キリスト教布教に大きな役割を果たした『ヒイデスの導師』。本書は、その原典フライ・ルイス・デ・グラナダ著『ヒイデスの導師大綱』から直接現代語訳し、詳細な註を付した。キリシタン版に本書が加わり、国語学的にも貴重。

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

仏教東漸

祇園精舎から飛鳥まで

1991 / B 5判 / 264頁

5,670円 (本体5,400円) ISBN4-7842-0699-X

350周年を迎えた龍谷大学によるシンポジウムの成果。口絵24頁(カラー26点・モノクロ5点)、写真集(モノクロ35頁)収録図版200点。【執筆】陳舜臣／井ノ口泰淳／網干善教／施洋婷／美友邦／西川杏太郎／藤枝晃／森安孝夫／山田明爾／上野アキ／藤枝晃

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

人間・科学・宗教

1991 / A 5判 / 456頁
4,200円 (本体4,000円) ISBN4-7842-0678-7

350周年を迎えた龍谷大学によるシンポジウムの成果。従来の人文・社会・自然の諸科学を総合する人間科学の立場から「科学と宗教」の関係を問い直す。

古田紹欽著

仏敎の日本的土着

1993 / 四六判 / 322頁
3,059円 (本体2,913円) ISBN4-7842-0791-0

わが国にはさまざまな仏敎の敎義や思想が伝えられたが、それらは、その時々々の政治・経済、世俗的倫理観、敎団間勢力拡大競争などといった「現実」の中で、極めて日本的な独自の仏敎思想を形づくっていった。禅文化の研究で著名な著者が、禅宗のみにとどまらぬ仏敎思想土着の諸側面を考察。

古賀英彦著

説大乗起信論
注2003 / 四六判 / 290頁
3,570円 (本体3,400円) ISBN4-7842-1130-6

理論と実戦の両面から大乘仏敎の中心思想を明らかにした、大乘仏敎の概説書である『大乗起信論』を中国語学研究的の第一人者が訳註。

本井康博著

近代新潟におけるプロテスタント

2006 / B 5判 / 540頁
3,150円 (本体3,000円) ISBN4-7842-1320-1

日本キリスト敎団新潟敎会創立120年記念として上梓された初めての本格的な新潟敎会通史。【目次】パーム・バンド新潟敎会の母体／アメリカン・ボードの新潟進出／組合敎会による新潟伝道／県内伝道と新潟敎会／20世紀初頭の組合敎会伝道／第11代牧師・長田時行／戦中・戦後の新潟敎会

本井康博著

アメリカン・ボード200年
同志社と越後における伝道と敎育活動2010 / B 5判 / 676頁
5,250円 (本体5,000円) ISBN978-4-7842-1543-0

アメリカ最古のプロテスタント外国伝導組織、アメリカン・ボードについて、京都と北越を対象とし、その活動を検証する。

【目次】日本ミッション／北日本ミッション／資料紹介（ミッション年次報告）／その他

第20回国際仏敎文化学術会議実行委員会編

生命論と霊性文化

仏敎への問い
佛教大学国際学術研究叢書1
2,100円 (本体2,000円) ISBN978-4-7842-1449-52007年佛教大学での「第20回国際仏敎文化学術会議」の基調講演および研究発表を修正・加筆し、研究成果として刊行。【執筆者】池見澄隆／島蘭進／梁銀容／金洛必／斎藤英喜／李聖田／藤堂俊英
2009 / A 5判 / 208頁

第21回国際仏敎文化学術会議実行委員会編

仏敎と平和

佛教大学国際学術研究叢書2
2011 / A 5判 / 242頁
1,575円 (本体1,500円) ISBN978-4-7842-1599-7

2009年、韓国・圓光大学での第21回国際仏敎文化学術会議の基調講演ならびに研究発表を収録。仏敎思想を基盤に、改めて「平和」という大きな課題に向き合った、韓国と日本の研究者による多面的な議論の成果。【執筆者】梁銀容／水谷幸正／康東均／原田敬一／金容煥／大谷栄一／韓乃彰

武田佐知子編

太子信仰と天神信仰

信仰と表現の位相
2010 / A 5判 / 354頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1473-0

時代、階層を越えて崇敬を得てきた、聖徳太子・天神信仰の多角的な比較研究。美術史、文学史、宗敎史、芸能史などの第一線の研究者による13篇。【執筆者】武田佐知子／鶴崎裕雄／高島幸次／濱岡伸也／下鶴隆／松本真輔／伊藤純／榊原小葉子／稲城正己／脇田晴子／松浦清／鈴木幸人／竹居明男

大取一馬責任編集

とくしぶんこほん
禿氏文庫本龍谷大学善本叢書29
14,700円 (本体14,000円) ISBN978-4-7842-1539-3龍谷大学大宮図書館所管の「禿氏文庫」の内容は梵文經典、中国・日本の仏書、真宗史・仏敎美術の典籍等にわたる。龍谷大学仏敎文化研究所のもと、仏敎・真宗・国史・国文の4班での調査結果を影印として一冊にまとめる。
2010 / A 5判 / 674頁

美術史

史 論

赤井達郎著 〈第34回毎日出版文化賞〉

京都の美術史

1989 / A 5判 / 400頁
3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0572-1

美術というジャンルは、その作品を生み出した時代を最も明瞭な形で物語る。古代から現代（昭和初年）までの京都の美術の歩みをたどる本書は、単なる「美術史」に留まらず、京都文化の地方への波及にも言及し、ユニークな視座から日本史を照射した好著である。

難波田 徹 著

中世考古美術と社会

思文閣史学叢書

1991 / A 5判 / 556頁
10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-0649-3

古絵図研究20年の著者が、元徳本祇園社絵図、社寺参詣曼陀羅図、関ヶ原合戦図、高山寺・善妙寺領勝示絵図などを題材に古絵図を論じ、鞍馬寺、花背別所、大道寺、北野天満宮などの経塚や大日寺、法金剛院、飯盛山などの瓦塚の研究から埋経を論じる。更に懸仏の検討を通して御正躰論を展開する。

河北倫明美術時評集

〔全5巻〕

1992～1994 / A 5判 / 平均500頁
揃 37,170円 (本体35,400円)

美術界の最前線を歩んできた美術評論家、河北倫明氏による戦後美術史の決定版。美術評論やエッセイなど、昭和22年から平成3年にかけて執筆されたものの集大成である。各分野ごとに分類、執筆年代順に配列されているため、大変意義深い戦後の美術年譜となっている。

源豊宗著作集

日本美術史論究〔全7巻〕

1978～ / 菊判 / 平均500頁

日本美術史学の開拓者の重要な一人であるとともに、大正以来平成に至るまで半世紀以上にわたり活発な研究活動が続けた源豊宗博士の、50有余年の業績を集大成し、体系としての源美術史学の全貌を世に示そうとするものである。

〔編集委員〕 飯沼二郎 / 橋本綾子 / 吉田友之 / 吉村元雄

ISBN4-7842

第1巻 序説 6,090円 (本体5,800円 -0234-X)

第2巻 総説・古代 9,450円 (本体9,000円 -0816-X)

第3巻 天平・貞観 【品切】

第4巻 藤原・鎌倉 【品切】

第5巻 室町時代 【品切】

第6巻 桃山・元禄時代 9,450円 (本体9,000円 -0615-9)

第7巻 近世・近代・雑纂 【未刊】

源豊宗監修

京都画壇の一九世紀〔全5巻〕

1994～ / A 4判 / 各巻平均220頁
第1・3～5巻 【未刊】

本書は19世紀の京都画壇を中心に、その前後の日本画壇の動向を捉えようとするものである。

第2巻 文化・文政期 佐々木丞平責任編集

25,486円 (本体24,272円) ISBN4-7842-0838-0

木村重信著作集〔全8巻〕

1999～2004 / A 5判 / 各巻平均500頁
揃 78,750円 (本体75,000円)

世界各地のフィールドワークにもとづく多彩な民族芸術論はもとより、現代美術論・現代文明論など主要な学術的成果をおさめた著者自選の論文集。適宜挿入図版を収め、各巻に索引と一線の研究者による解説を併載した。

総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

ジャポニズム学会編

ジャポニズム入門

2000・2010 / A 5判 / 288頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1053-9

ジャポニズムの全体像に迫ろうとした一書。ジャポニズム学会20周年記念出版。これまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニズムをも射程に入れる。 【6刷】

松村恵理著 〈第24回ジャポニスム学会賞〉

壁紙のジャポニスム

2002 / A 5判 / 240頁
3,360円 (本体3,200円) ISBN4-7842-1098-9

デザイン史フォーラム編

国際デザイン史

日本の意匠と東西交流

2001・2010 / A 5判 / 304頁
3,045円 (本体2,900円) ISBN4-7842-1079-2

田中日佐夫・田中修二共著

海を渡り世紀を超えた
竹内栖鳳とその弟子たち

3,200円 (本体3,048円) ISBN4-7842-1106-3

永井隆則著

モダン・アート論再考

制作の論理から

2004 / A 5判 / 288頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1188-8

クラウディア・デランク著 / 水藤龍彦・池田祐子訳

ドイツにおける〈日本=像〉

ユーゲントシュティールからバウハウスまで

2004 / A 5判 / 312頁
3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-1194-2

西横 偉著

中国文人画家の近代

豊子愷の西洋美術受容と日本

2005 / A 5判 / 384頁
5,775円 (本体5,500円) ISBN4-7842-1230-2

徳川美術館編

尾 陽

徳川美術館論集

2005～ / B 5判 / 平均150頁 / 既刊7冊
既刊揃22,050円 (本体21,000円)

武田庸二郎・江口恒明・鎌田純子共編

近世御用絵師の史的研究

幕藩制社会における絵師の身分と序列

2008 / A 5判 / 458頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1392-4

松本郁代・出光佐千子編

風俗絵画の文化学

都市をうつすメディア

2009 / A 5判 / 368頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1469-3

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

風俗絵画の文化学Ⅱ

虚実をうつす機知

2012 / A 5判 / 450頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1615-4

序章：ジャポニスムとは / 第1章：エルネスト・シェノーの提言 / 第2章：海外に渡った和紙と欧米人の和紙観 / 第3章：壁紙の歴史 / 第4章：壁紙におけるジャポニスム / 終章：生き続けるジャポニスム / 付録1：フィギエ「壁紙の歴史」 / 付録2：調査報告（欧米の美術館・図書館収蔵和紙リスト）

日欧デザイン史上における「影響関係」「交流」を国別にまとめ比較通覧した国際交流史としてのデザイン史。各国の年表と概説的解説、生没年・原綴を付した人名索引、挿図約180点を収録。大阪大学大学院文学研究科美学研究室主催フォーラムの成果。 【4刷】

栖鳳の滞欧期の“西欧文化体験”を扱い、その後の作品との関連にもふれ、第2章では“栖鳳山脈”の作家たちの画業をとりあげる。第5回国内勲業博覧会（1903年）出品作で100年ぶりに発見された屏風「羅馬之図」をカラーで誌上初公開。

2002 / A 5判 / 220頁

作家の〈制作の論理〉への関心から〈芸術性〉を探ろうとしてきた著者の論考をまとめる。第I章は総論、理論的考察を収め、第II章ではその各論としてジェリコー、モロー、ゴッホ、マティス、セザンヌなどを取りあげる。第III章には日本における受容論を、第IV章では美術館論を収めた。

〈第26回ジャポニスム学会賞〉

ドイツの美術・デザイン・建築における日本美術ひいては横断的な日本=像の変遷をたどる。裾野の広い日本=像の提示を可能にした彩色写真に関する考察、ヨハネス・イッテンにおける「山水画」「南画」の影響についての考察などは特筆。

中国近代を代表する文人・芸術家、豊子愷（1898-1975）は、抒情漫画や身辺雑事・文学・美術・音楽などを題材に軽妙洒落な散文を遺した。「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を設け、「文化の越境者」豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問う。

従来『金鯢叢書』（11頁参照）に収録されていた美術関係の部分に新収藏品紹介や修理報告などを収め、別本として年一回刊行。

御用絵師は、全国的官位官職制度の中にどのように組み込まれていたのか、為政者は、職能集団たる絵師の組織をどのように編成、掌握していたのか等を論じる。論考6篇と、禁裏御用絵師の身分、処遇や選定の経緯を探る上で重要な史料の翻刻3篇を収録。

中世から近世における風俗絵画のメディア性に着目し、そこに描かれなくなったものの持つ意味や享受者の視点、都の社会における聖と俗の姿、風俗絵画に表された芝居空間や行事のかたちや年代とともにどのように姿を変えたのか、など様々な視点からアプローチする。

風俗絵画とは虚実をうつす機知の媒体である。美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究15篇。

中川馨著

動物・植物写真と日本近代絵画

2012 / A 5判 / 256頁
5,250円 (本体5,000円) ISBN978-4-7842-1598-0

城市真理子著

室町水墨画と五山文学

2012 / A 5判 / 338頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1607-9

明治後期から太平洋戦争以前の日本における動物・植物写真を考察範囲とし、それらの写真集の歴史にもスポットをあてて概説。特に京都出身の岡本東洋(1891～1969)撮影の写真・写真集群や資料から、多彩な近代美術家たちと写真家との交流を浮き彫りにし、その関連性を鮮やかに導き出す。

ながらく伝歴不明の画師であった室町時代中期の画僧、岳翁の作品を手がかりに、室町時代の詩画軸における詩と絵画の関係、禅林での詩画軸の制作行程、禅僧の文人意識の絵画への反映を論じ、詩文僧による〈詩画軸制作システム〉を解明していく。

仏教美術

仏教芸術学会編

佛教藝術 [全22冊]

創刊～80号
1978～79 / B5判 / 平均450頁
②～④揃 152,145円 (本体144,900円) ① [品切]

宇野茂樹著

仏教東漸の旅

はるかなるブッダの道
1999 / 四六判 / 296頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-0991-3

奈良国立博物館編

正倉院宝物に学ぶ

2008 / 四六判 / 438頁
3,150円 (本体3,000円) ISBN978-4-7842-1439-6

奈良国立博物館編

正倉院展六十回のあゆみ

2008 / A 4判 / 286頁
3,150円 (本体3,000円) ISBN978-4-7842-1440-2

中野玄三著

続日本仏教美術史研究

2006 / A 5判 / 540頁
11,550円 (本体11,000円) ISBN4-7842-1269-8

中野玄三著

続々日本仏教美術史研究

2008 / A 5判 / 820頁
17,850円 (本体17,000円) ISBN978-4-7842-1415-0

昭和23年毎日新聞社により刊行が開始されたもので、入手困難な創刊号から80号までを再刊。日本・中国・インドを対象とした仏教芸術の総合的研究をめざし、その世界性と実証性を尊重した編集方針に貫かれた諸論稿は、仏教美術研究・東洋美術研究の展開のあとをふり返る貴重な資料である。

はるかなる信仰の足跡をたどる旅の記録。

【内容】 釈迦の遺跡を訪ねて / インド寺院と石窟寺院 / パキスタンの仏教美術 / 新疆ウイグルの遺跡のかずかず / 河西回廊の仏教遺跡 / 中国中原の石窟 / 河北・山西・山東省の石窟 / 韓国の石仏 / 追録 (インドの早期石窟) 写真多数掲載。

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

昭和21年に奈良帝室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、60回を数える正倉院展の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたどり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して巻末に付す。

前著から約20年。現役引退後も京都府下の8市町村史の編纂や奈良国立博物館の調査に携わり、美術作品の調査研究を続ける中から生まれた知恩寺本十体阿弥陀像、東寺本仁王経五方諸尊像、西大寺本馬頭観音像、神護寺薬師如来立像ほかについての研究成果15篇を収録。

中野美術史学の集大成。『八幡縁起』、宇良神社本『浦嶋明神縁起』、談山神社本『多武峯縁起』、北野天満宮本『聖廟縁起』、平等寺本『因幡堂縁起』、観智院本『九曜秘曆』、真福寺本『覚禅鈔』、密教図像と鳥獣戯画、南山城真輪院本「両界曼荼羅」、南山城村真輪院本「星曼荼羅」などの研究成果15篇。

小笹喜三編著／平春生補稿

平安短冊集影
人物志1973／B 5判／430頁
10,500円 (本体10,000円) ISBN4-7842-0091-6

江戸時代後期、明和5年弄翰子により刊行され、9改板を重ねて広く普及した「平安人物志」。そこに収録される708名を選び、第1部にその短冊影譜910枚を収め、第2部にその釈文と筆者の略伝を記したもので、収載人物は医者・書家・画家・篆刻者・僧・儒者・歌人など近世京都文化の担い手。

田山方南編

禅林墨蹟

〔全4冊・別冊解説2冊〕

1981／A 3判／和装帙入
241,500円 (本体230,000円) ISBN4-7842-0221-8

昭和30年刊『禅林墨蹟』、40年刊『続禅林墨蹟』の2書を、編者田山氏による補遺訂正を加え、新たに『禅林墨蹟』として再刊。宋元および日本中世禅林の古墨蹟493点を収録。文部省国宝調査で古書蹟の研究を専門とし、以来、墨蹟研究の第一人者であり続けた氏の編ならでの労作である。【品切】

田山方南編／禅林墨蹟刊行会

禅林墨蹟拾遺

中国篇・日本篇・解説

1977／A 3判／和装帙入
315,000円 (本体300,000円) ISBN4-7842-0223-4

『禅林墨蹟』に収録されなかった墨蹟、その後発見された墨蹟419点を収録。その中には浙翁如琰、少林妙嵩、無門慧開、断橋妙倫など著名でありながらかつて確たる墨蹟の見出せなかったものや、方庵智圻、唯堂守一、以中智及、行己知共など新発見のものなどを含み、量・質ともに重要な一書。

林雪光・鏡島元隆・加藤正俊編

近世禅林墨蹟〔全3巻〕

黄檗・曹洞編／臨済編一・二

1974／A 3判／(各)図版150頁・解説50頁
揃 103,950円 (本体99,000円)

日本の禅宗七百年の歴史の中でも、本来の意味で日本文化として栄えたのは近世である。本集では、原則として未発表の作品を中心に、近世および近代初頭の黄檗80・曹洞86・臨済292の計458人の禅僧の墨蹟を収録、釈文と禅僧の略伝を付した。墨蹟を通じ、各禅宗の宗風・歴史を知り得る好書。

中島皓象編著

書(三)一淳化閣帖からの展開一

1984／B 5判／104頁
2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-0243-9

淳化閣帖は、宋の太宗が翰林侍書王著に命じて淳化3年に完成させた全10巻からなる名蹟集である。本書は、この淳化閣帖を対象に、原本を根底におきつつ、主観的・客観的・発展的臨書法を展開する。

三浦康廣編著

慈雲尊者墨蹟集成

〔図版篇2冊・解説篇1冊〕

1989／B 4判／図版篇500頁・解説篇230頁
81,900円 (本体78,000円) ISBN4-7842-0563-2

幕藩体制下の仏教界にあきたらず、梵語原典研究に邁進し、釈迦の教義の根源に迫った、江戸後期真言宗の高僧、求道と学識の人、慈雲飲光。その遺墨は護法の精神によって貫かれ、名利とは無縁の高い理想を掲げて精進した姿を偲ばせる。墨蹟609点を精選し、慈雲研究第一人者による解説を付す。

中島皓象著

書道史より見る禅林の墨蹟

1990／A 5判／268頁
3,045円 (本体2,900円) ISBN4-7842-0627-2

墨蹟の中にこそ「書の芸術性」を発見し、自らも墨蹟作家と自負する著者が、「墨蹟の見なおし」「墨蹟の新発見」に資すべく墨蹟僧ごとにその書風の源流を探り、その歴遊・歴参・参問・嗣席等を明らかにする。

宸翰英華別篇編修会編

宸翰英華 別篇 北朝

〔図版篇1冊・解説篇1冊〕

1992／図版篇B 4判・240頁 解説篇A5判・380頁
50,400円 (本体48,000円) ISBN4-7842-0728-7

昭和19年刊の帝国学士院編『宸翰英華』には収録されなかった、光厳天皇および光明・崇光・後光厳・後円融の北朝五代の天皇の主要な宸翰原本101点を収録。解説篇には、13名の研究者になる詳細な釈文・解説に、系図、年譜、自署・花押一覧を付す。

春名好重著

平安時代書道史

1993／A 5判／300頁
3,873円 (本体3,689円) ISBN4-7842-0759-7

飛鳥時代、律令政治を背景に隆盛したわが国の書は、平安時代に入るとますます盛んになり、文化の発達とともに発展を遂げ、頂点に達した。本書は、わが国の書の歴史の上で最も重要な平安時代の書の推移と特色を明らかにするものである。カラー図版4点、モノクロ挿入図版29点を収載。

鴻池楽斎・稲垣恒夫編

精選山頭火遺墨集

1993 / A 4判 / 図版篇143頁 解説篇88頁
9,990円 (本体9,515円) ISBN4-7842-0799-6

波多野幸彦著

書の文化史

書状にみる人と書

1997・1998 / A 5判 / 380頁
3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0948-4

村上翠亭・高城竹苞共著

近衛家熙写手鑑の研究

仮名古筆篇

1998 / A 4判 / 280頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0968-9

片桐洋一解説

橘為仲朝臣集

2003 / 和装桐箱入 / 釈文・解題98頁
57,750円 (本体55,000円) ISBN4-7842-1160-8

前田多美子著

三藐院 近衛信尹 (さんみやくいんこのえのぶただ)

残された手紙から

2006 / A 5判 / 270頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-1299-X

島田三光著

革新の書人 河東碧梧桐

2009 / A 4判 / 210頁
5,250円 (本体5,000円) ISBN978-4-7842-1488-4

高橋利郎著

近代日本における書への眼差し

日本書道史形成の軌跡

2012 / A 5判 / 304頁
5,040円 (本体4,800円) ISBN978-4-7842-1595-9

山頭火の人と境涯を物語る、掛幅・短冊・色紙などの遺墨252点を年代順に収録。【内容】刊行に寄せて(水上勉)図版篇(252点)解説篇作品解説(鴻池楽斎・稲垣恒夫)山頭火の行乞と俳句(村上護)山頭火遺墨探訪(鴻池楽斎)山頭火略年譜(村上護)付篇山頭火をめぐる人々(伊藤完吾)

鎌倉時代の慈円・藤原定家、安土桃山時代の織田信長・古田織部・近衛信尹・伊達政宗、江戸時代初期の後陽成天皇・沢庵宗彭・千宗旦・松花堂昭乗・金森宗和などの手紙を中心に140点余を図版掲載し、人と書の表現を考える。

【内容】筆跡の研究と手紙/人と書の変遷/人と書 【2刷】

陽明文庫蔵・近衛家熙写手鑑(予楽院臨書手鑑・重美)所収の仮名古筆(臨摸断簡)100点をとりあげ、全図を原寸大(一部縮小)で収録し、筆者名・古筆名・書誌事項・釈文など各一点ずつについて詳細な考証を加え、原本などの参考図版85点も併載。

藤原定家手沢の伝西行筆歌集の完全複製——橘為仲(?~1085)は、藤原経衡・僧能因・素意・出羽弁・周防内侍などの歌人と交友があり、和歌六人党の一人とされた人物。勅撰集に合計九首収められている。本書は二本ある家集のうち的一本。西行の筆蹟として尊重されてきた雄品である。

本阿弥光悦・松花堂昭乗とともに「寛永の三筆」として日本書道史上にその名を謳われてきた三藐院近衛信尹(のぶただ)。本書ではその生涯を彼の残した手紙から読み解き、隠れた素顔を明らかにし、さらに能書としていかに遇されてきたのかを改めて考えなおす。

河東碧梧桐に関するコレクションでは第一人者であり、書家としても活躍中である著者。その所蔵する豊富な作品群を通して碧梧桐の書の世界を紹介。正岡子規の高弟であり虚子と並んで双璧と謳われる碧梧桐の書を見直すとともにその業績を後世に伝える一書。

毛筆で書かれた文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程で、書道史に関する出版をはじめ、宝物調査や展覧会の列品などから探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。また、近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場について考察。その書跡へのまなごしの影響の大きさを論じる。

絵 画

田中大穂著

新訳 伊勢物語 [全2冊]

1977 / A 4判 / 総650頁 / 装幀入
26,250円 (本体25,000円) ISBN4-7842-0173-4

案・金沢大士 / 絵・山本六郎

石道寺譚絵

1978 / A 3判変型
15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0229-3

故棟方志功をして「独創性では日本一」といわしめた著者が本業のかたわら、日本の古典『伊勢物語』のこころを全章段にわたって彫心鏤骨の版画にした労作であり、『伊勢物語』の研究史上前人未踏の画期的な著作である。本書の現代語訳は著者が苦心の意識を添えたものである。

石道寺にとり残された十一面観音にまつわる尊く妖艶な物語を、日本画の伝統、大和絵の手法を以て異才山本六郎が描きだす静嘉な絵巻の世界。仏文訳付、画18葉。

日本肖像画図録

京都大学文学部博物館図録第3輯

1991 / B 5判 / 140頁

1,173円 (本体1,117円) ISBN4-7842-0645-0

1910年代後半から20年代末にかけての三浦周行教授による古文書蒐集の時期のものを中心に、京都大学文学部国史研究室には多くの人物肖像画が所蔵されている。南北朝時代から幕末までの制作になる天皇・公卿・武士・女性・画家・文人・学者・宗教家・僧侶の肖像画149点を収め、解説を付した。

鴻池楽斎編

画集 下村為山

1994 / B 4判変型 / 102頁

18,900円 (本体18,000円) ISBN4-7842-0837-2

松山に生まれ、洋画から出発し、正岡子規の俳趣味に洗練され、自得発明した俳画で名を成した下村為山。本書は洋画・俳画(スケッチ・軸・画帖)・書の名品の数々を大型図版で紹介し、総説・解説、落款、印譜・年譜を付す。

塚本 樹 著

名画はあなたが決める

1995 / 四六判 / 250頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-0849-6

三十余年美術ジャーナリズムに携わってきた著者が語る、美術と楽しく付き合う鑑賞法とは？

美術との付き合い／美術と付き合う心がけ／美術作品は読むものだ／個々の作品と向き合っ／美術との付き合いの実／コミュニケーションの核に／もう少しお付き合いを(全23篇)

広田肇一編集

大分県の美術

1994 / B 4判変型 / 240頁

20,388円 (本体19,417円) ISBN4-7842-0815-1

近世・近代2世紀にわたる美術作品(南画・日本画・洋画・彫刻・工芸)を集大成。33作家103点をオールカラー・大型図版で紹介し、解説篇として各ジャンルごとの総説、各作家の解説と略年譜、各作品の解説(モノクロ図版を再録)と巻末には「大分県の美術略年表」「収録作品リスト」を付す。

熊本県立美術館編

熊本県の美術

1995 / B 4判変型 / 240頁

20,388円 (本体19,417円) ISBN4-7842-0872-0

熊本県ゆかりの日本画、洋画、版画、彫刻、工芸作家40名の作品99点をオール・カラーで紹介、総説・作家解説・作品解説・略年表を付す。

河野良輔監修／榎本 徹 編集

山口県の美術

1995 / B 4判変型 / 290頁

20,388円 (本体19,417円) ISBN4-7842-0886-0

山口県ゆかりの日本画、洋画、彫刻、工芸、写真作家44名の作品109点をオール・カラーで紹介、総説・作家解説・作品解説・略年表を付す。

広田肇一責任編集

高山辰雄の世界 素描と本画

2000 / B 5判 / 148頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1039-3

画業70年を本画およびその素描と版画でたどる。随所に画伯がつづる絵によせる想いを挿入。I部には日展出品作を中心とする代表作品とそのスケッチ・構想画・小下絵を、II部には多様な素材を描いた素描と版画を収録。

京都国立博物館編

黄金のとき 桃山絵画

2000 / B 4判 / 400頁

42,000円 (本体40,000円) ISBN4-7842-1044-X

黄金のとき・ゆめの時代——狩野派の画師が活躍した桃山時代の代表的な絵画100点を紙上展覧

【内容】永徳の季節／神と歌—三十六歌仙／西洋との邂逅／英傑たちの乱舞／秀吉にみちびかれて／巨大さへの憧憬／城廓障壁画—名古屋城本丸御殿／浮世の愉楽

逸翁美術館・柿衛文庫編

没後220年 蕪村

2003 / A 4判 / 210頁

2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1162-4

南画・俳諧、さらに俳画の大成者として足跡を残した与謝蕪村(1716-83)の没後220年を記念し、逸翁美術館と柿衛文庫が共同で編集。南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・俳書・書簡など、新出作品もふくめ全176点を解説を付けてカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。

柴辻政彦著

アートに学ぶ

作家たちがめぐる心の冒険

2006 / A 5判 / 238頁

2,520円 (本体2,400円) ISBN4-7842-1332-5

美術作家の独自技術に着目し特異性を浮き彫りにしていく評論集。

【掲載作家】伊東慶／遠藤秀平／郭徳俊／小嶋千鶴子／坂田甚内／松本ヒデオ／森正／吉田和央 (図版：カラー24点・モノクロ53点)

戸田勝久著

戸田勝久画集 空の調べ

1999 - 2008

2008 / B 4判変 / 96頁

3,990円 (本体3,800円) ISBN978-4-7842-1441-9

宗像健一編著

たのむらちくでん

田能村竹田基本画譜

2011 / B 4判変 / 総398頁

29,400円 (本体28,000円) ISBN978-4-7842-1566-9

森田りえ子著

森田りえ子作品集

1979 - 2011

2012 / A 4判変 / 356頁

25,200円 (本体24,000円) ISBN978-4-7842-1596-6

アクリル画の吟遊詩人ともいうべき幻想的な画風の戸田勝久が奏でる、懐かしい夢の世界。1999年から2008年までのアクリル画作品のなかから154点をカラーで掲載。

図版篇には厳選された140点(カラー95点・モノクロ45点)の作品を大型図版で収録。解説篇には総論と基本作品の詳細を極めた個別解説のほか、題詩・落款・印譜・年譜などを収録。美術史はもちろん、大分県・煎茶・漢詩・儒学・歴史など広範な研究に大いに益する、竹田研究の決定版。

現代日本画壇で最も注目を集める作家の一人である画伯の初期作品から最新作までを集大成。30年間の画業のなかから本画500点・素描31点を、オールカラーの大型図版で掲載。「花」・「人」の2部にわけ、年代順で配列し、画伯自身の作品解説63点を付す。インタビュー・制作風景等収録のDVD付。

工 芸 史

韓国文化財管理局編

欽定西清硯譜 [全2巻]

1974 / B 5判変型 / 総1900頁

36,750円 (本体35,000円) ISBN4-7842-0206-4

本書は乾隆時代に著わされた「欽定西清硯譜」の写本で、乾隆内府伝世の名品を収載、その素材を陶・石に分類、宮廷画家による精巧な写生図を掲載し、題識銘記等の解説を付した貴重な文献の影印本。

加藤唐九郎他編

陶 器 全 集 [全4巻]

1976 / 菊判 / 総2900頁

38,850円 (本体37,000円) ISBN4-7842-0207-2

本書は、昭和6年に陶器研究・鑑賞界で望み得る最高の執筆者をむかえ、はじめて陶磁の世界に近代研究の光をあてた不滅の名著である。再刊にあたっては、第一線で活躍中の研究者により一部改訂を加え、全巻に新たに索引を付した。

徳力彦之助著

金唐革史の研究

1979 / B 4判 / 200頁

36,750円 (本体35,000円) ISBN4-7842-0267-6

1470年頃、ルネサンスの最盛期にフィレンツェで生まれた金唐革。本書は金唐革の発祥以来の歴史、各国別の金唐革の特色、技法を網羅し、ルネサンス・ロココ・バロック期を中心とする豪華爛漫な貴重な図版を多数収録した豪華本である。皮革工芸家、染織工芸家座右の書。

久米康生編著

京からかみ文様譜

1979 / A 3判 / 200頁

29,400円 (本体28,000円) ISBN4-7842-0266-8

「京からかみ」の伝統をただ一人守り継いだ唐紙師千田長次郎氏「唐長」のもつ約600点の板木の中から、260点を精選収録。解説では京からかみの歴史、源流・系譜、製法、文様の特徴、唐長の家系を述べる。

大塚和義編

北太平洋の先住民交易と工芸

2002 / A 4判 / 150頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1087-3

海峡をこえ島々をめぐる半島から大陸へ——北太平洋の諸地域をつなぐ先住民のさまざまな交易ルートの実態を明かし、あわせて彼らの文化遺産である伝統的な工芸芸術を紹介する大型ビジュアル本(カラー図版150点余を収録)。

デザイン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)

アーツ・アンド・クラフツと日本

2004 / A 5判 / 304頁

3,045円 (本体2,900円) ISBN4-7842-1207-8

19世紀後半から20世紀初頭にイギリスで繰り広げられたアーツ・アンド・クラフツ運動は、「生活」のための工芸運動であり、また社会改革をめざすデザイン運動でもあった。この運動と日本との関わりをさまざまな視点から論じ、デザイン・工芸・美術・社会・産業・環境・生活などの立体的な関係を考察。

ダーティントン・ホール・トラスト&ピーター・コックス編
藤田治彦監訳

ダーティントン 国際工芸家会議報告書

陶芸と染織：1952年

2003 / A 5判 / 590頁
8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-1141-1

高円宮妃久子編

根付 高円宮コレクションⅡ

2006 / 菊判 / 220頁
4,200円 (本体4,000円) ISBN4-7842-1273-6

扇子 忠著

皇室の饗宴とボンボニエール

2005 / B 5判変型 / 244頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-1270-1

エドモンド・ドゥ・ヴァール著 /
金子賢治・鈴木禎宏解説 / 北村仁美・外館和子訳

バーナード・リーチ再考

スタジオ・ボタリーと陶芸の現代
5,040円 (本体4,800円) ISBN978-4-7842-1359-7

デザイン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)

近代工芸運動とデザイン史

2008 / A 5判 / 336頁
3,045円 (本体2,900円) ISBN978-4-7842-1438-9

広田肇一著

日名子実三(ひなごじつぞう)の世界

昭和初期彫刻の鬼才
2008 / B 5判 / 170頁
2,100円 (本体2,000円) ISBN978-4-7842-1436-5

天貝義教著

応用美術思想導入の歴史

ウィーン博参同より意匠条例制定まで
2010 / A 5判 / 400頁
7,875円 (本体7,500円) ISBN978-4-7842-1505-8

小泉和子著

ふなだんす 船簞笥の研究

2011 / A 5判 / 410頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1503-4

岡佳子著

近世京焼の研究

2011 / A 5判 / 434頁
6,615円 (本体6,300円) ISBN978-4-7842-1558-4

1952年ダーティントン・ホールにおいて、バーナード・リーチを中心に17か国122名の工芸家・批評家が参加した国際工芸家会議の報告書の翻訳。テーマは工業化社会における工芸家の役割、工芸と芸術との関わり、工芸教育、工芸批評の確立などで、日本からは柳宗悦と濱田庄司が参加し、その講演と轆轤成形の実演は欧米の参加者に深い印象を残した。本文篇で翻訳を、資料篇で原典および関連資料を掲載した。

根付とは煙草入れや印籠などの挟紐の先端につけて落ちないようにする留め具。本書では、コレクターとして知られた故高円宮殿下が蒐集された貴重な内外の作家によるコレクション——古根付・現代根付・印籠・緒締めなど——約330点をカラー図版で紹介。

明治維新以降、皇室の饗宴でご下賜されてきた記念の品、砂糖菓子を入れる銀の小箱・ボンボニエール。日本の金工芸の粋が凝縮された芸術品と歴史を紹介。明治維新後の皇室とその周辺、皇室の儀礼と儀式、皇室・宮家のご慶事一覧なども収録。巻頭カラー図版30頁、モノクロ図版183点。

リーチは日本で民芸運動に関わるると同時に、欧米ではスタジオ・ボタリーの普及に大いなる影響を与えた。ロンドンで活躍する気鋭の陶芸家による批判的リーチ論を通じて、陶芸史におけるリーチの位置、現代陶芸の意味を探る。

2007 / A 5判 / 298頁

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。

【内容】第1部 ヨーロッパの近代工芸運動 / 第2部 欧米の近代工芸運動とアジア

鬼才と呼ぶにふさわしい鋭い才能で、日本近代彫刻史に確かなページを記した日名子実三の足跡を、残された作品と資料によって検証し、日名子実三の全貌を紹介する。巻頭には大型カラー図版を配し、人体像を中心とした彫像のほか、各種のメダルや大型の記念碑など多岐にわたる活動を総覧。

応用美術とは、工芸美術・装飾美術・デザインを表す概念である。ウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内国勲業博覧会を経て、「デザインの法」である意匠条例が制定されるまで、その思想が明治期日本でいかに学習され、美術・工芸界において指導的役割を果たしたかを解明。

近世海運において船乗りが使っていた造形的にも特異なデザインを備えた金庫および衣裳櫃を船簞笥という。本書では、酒田湊・小木湊・三國湊の主要産地の調査をもとにその成立から終焉までを海事史研究の視点も織り込んで歴史的に考察し、家具・道具史研究の歴史的研究の一事例を試みる。

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきものの窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにする。名工たちの陶業を産業としてとらえ、技術の系譜や産業的な展開、受容層のあり方、流通・市場の動向などの視点から京焼陶工の実態や作風、あるいは京焼の通史を見直した一書。

染織史・服飾史

明石染人著

上代日本染織史

1977 / B 6判 / 388頁
3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-0250-1

風俗史の中から一つの専門的な史的分野として染織史を提唱し、今日の研究基盤を確立した著者が、染織の起源時代から仏教興隆時代までの染織の推移を歴史的背景と共に論述。大正10年版の復刻。

明石染人著

日本染織工藝史上

1977 / A 5判 / 392頁
5,565円 (本体5,300円) ISBN4-7842-0253-6

一国の織物史の研究はその国の文化史および興亡史の研究と常に雁行の関係がある。本書は従来文献的にのみ扱われることの多かった「染織工芸品」を染織専門家の科学研究により捉えた書である。昭和18年版の復刻。

上村六郎染色著作集[全6巻]

1979～81 / A 5判 / 平均500頁
揃 40,425円 (本体38,500円)

日本における染色学界の大先達である著者の永年にわたる研究の集大成。科学という専門を基に、古い文献の渉猟、日本はもちろん中国・インド・中近東・ベルシャ・インドネシア等の広汎な研究は世界的にも評価されているものである。現代染織家にとって必須の書。

松浦俊海監修 / 野上俊子他編
壬生寺創建一千年記念

壬生狂言古衣裳

1992 / A4判 / 300頁
60,900円 (本体58,000円) ISBN4-7842-0721-X

〈日本風俗史学会・野口信造賞〉

重要無形民俗文化財「壬生狂言」の衣裳は、死者の生前の衣裳を奉納したもので、奉納年や没年が墨書されている。染色資料にあって、墨書年から制作年の下限を推定できる、きわめて貴重な存在。カラー図版114頁・モノクロ図版32頁。

貫秀高著

日本近世染織業発達史の研究

1994 / A 5判 / 780頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0852-6

近世において、大規模産業として成長し、文化・生活の向上に大きな役割を果たした染織業。本書はその発達の推移を、生糸の輸入状況や技術の発達などの関連において、詳しく分析した労作。

京都国立博物館編

みやこ

花洛のモード きもの時代

2001 / A 4判 / 550頁
26,250円 (本体25,000円) ISBN4-7842-1072-5

桃山から江戸時代の「きもの」に焦点をあて、小袖・打掛・胴服・羽織・具足下着・振袖・帷子などから笄・カンザシ・髪形、さらに肖像画・洛中洛外図・屏風などに描かれたモードもふくめて全225点を収録(オールカラー)。「今用御ひいなかた」(翻刻)と「御用雛形帳」の調査一覧表なども併載。

和 紙

柳瀬四郎調・木村考徳図

和紙文庫

1969 / A 5判 / 平均100頁 / 和装帙入
(各) 10,500円 (本体10,000円)

和紙の変遷をえがく研究書。本文紙に和紙を用い、写真やサンプルを付した。大阪和紙クラブ刊行のもの。

第一号 越前和紙今昔絵図【品切】

第二号 滅亡高野紙見聞図説

第三号 檀紙考 (ISBN4-7842-0002-9)

関義城編

和漢紙文献類聚

古代・中世編

1976 / B 5判 / 356頁
13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-0265-X

編者が、長い地道な作業を積み重ねようやく成った基本文献集。収録した文献は、日本関係約220、中国関係約40で、製紙の起源を語る諸記録にはじまり、時代を追ってその産地がひろがり、種類が多彩になって用途がふえる様が頭注の紙名をたどるだけでも概観できる。

久米康生編著

昭和民芸紙譜〔全5巻〕

1977 / B 5判変型 / (各)56頁 / 和装挟入
34,125円 (本体32,500円) ISBN4-7842-0248-X

久米康生著

手すきの紙郷

1978 / B 6判 / 244頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0247-1

日本・紙アカデミー編

紙一七人の提言一

1992 / A 5判 / 256頁
3,262円 (本体3,107円) ISBN4-7842-0729-5

柳瀬木鶏編

和紙文庫シリーズ〔全7冊〕

1990 / B 5判 / 和装挟入 / 平均50頁

昭和初期、民芸運動の中で生まれた加工紙。染の歴史は古いがその伝統技術を現代に復活させたのが民芸紙である。本書は、全国の紙郷を訪ね、その全容を紹介し、作るものとするものをつなぎ、民芸紙の発展を基盤に和紙の伝統継承を希うものである。各地の生漉紙・民芸紙の253点を付す。

和紙は多彩な性格を秘めて日本の生活文化を支えてきた。そしてその一枚の紙の背景には、それが育った紙郷の歴史と伝統がある。本書は、味わい深い和紙の歴史と伝統をそのふるさとにさぐったガイドブックである。有能な学芸記者であった氏の筆が冴える。

各分野のオーソリティが語る現代社会における紙の問題。

【内容】紙と文明(吉田光邦)紙が教えてくれること(岡村誠三)文化財修復と和紙の特性(増田勝彦)和紙の抱える問題点(柳橋真)製紙術の起源について(潘吉星)芸術と紙(乾由明)日本の紙を考え直す(町田誠之)

和紙の変遷をえがく和紙研究書。各産地の実物を添え、本文装幀ともに風趣ある漉紙仕様の愛蔵版。

水玉紙・奉書紙・高野紙	20,388円 (本体19,417円)
佐賀の紙	20,388円 (本体19,417円)
土佐の紙(全2冊)	35,680円 (本体33,981円)
近江の紙・津山の紙・ネリの話	20,388円 (本体19,417円)
大和(奈良)の紙	20,388円 (本体19,417円)
楮・三椏・雁皮が紙になる迄	20,388円 (本体19,417円)

茶 道

木芽文庫編

雑誌 茶 湯 1～23号(終刊)

1969～1994 / A 5判 / 平均60頁
【1～7・9～11・14・16号品切】

末宗廣著作集

茶書の研究・茶人の研究

1981 / 菊判 / 総1450頁
30,450円 (本体29,000円) ISBN4-7842-0240-4

木下桂風著

釜の歴史と鑑賞

1979 / A 5判 / 368頁
3,675円 (本体3,500円) ISBN4-7842-0239-0

市野千鶴子校訂

古田織部茶書〔全2巻〕

茶湯古典叢書2・3

1976・1984 / A 5判 / 平均400頁
①6,510円(本体6,200円) ②8,610円(本体8,200円)

本誌は、茶の湯の新資料発掘・発表と研究論文を支柱とし、茶道関係者及び歴史・文化史研究者必読の専門雑誌。

⑧⑩⑬⑮⑰～⑲ 各630円 (本体600円)
⑳～㉒ 各1,470円 (本体1,400円)
㉓ 1,937円 (本体1,845円)

茶人であり、めききでもあった著者は、同時に近代的茶道史研究の先駆者でもあった。私庫に蔵せられた茶書を探り、膨大な数の茶人を記録し、茶道史研究に文献史学の方法を導入、新しい領域を切りひらいた著者の研究業績を集成。その発表論文の中から、茶道・茶人にかかわる研究を収める。

釜に関する書籍は決して少なくないが、正史としてみるべき釜史がない中で、釜の製作および鑑定権威者であった大西浄長翁の家宝である釜図録や釜師諸氏所蔵の古文書類を比較検討して釜師評伝を編纂、昭和28年に上梓したものの復刻。釜図版111点、釜形図96点掲載。

利休の高弟・七哲の一人で織部流茶道の開祖である古田織部の茶道秘書を集成。一巻には「宗甫公古織へ御尋書」及び「古田織部正殿問書」を収め、二巻には「織部百カ条」「織部茶會記」「数寄道次第」「古織茶湯書」「古織伝」「茶之湯六宗伝記」を収録。

谷 晃 校訂

金森宗和茶書

茶湯古典叢書 4

1997 / A 5判 / 490頁

13,125円 (本体12,500円) ISBN4-7842-0944-1

「十三冊本宗和流茶湯伝書」(金沢市立図書館蔵本文庫所蔵「茶道の書ホ」)を底本とし、校合には陽明文庫蔵『金森茶道故実』を用いた。他に所在判明の茶会記を収録。巻末には解題・参考文献・略年譜・金森宗和茶会記人名一覧・索引を併載。

谷 晃・矢ヶ崎善太郎校訂

茶 譜 [全2冊]

茶湯古典叢書 5

2010 / A 5判 / 総924頁

21,000円 (本体20,000円) ISBN978-4-7842-1528-7

近世茶書としては最も大部にして体系的なものの一つである茶譜(全18冊)。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本として全編活字化。挿図についても写真版で全て収録。利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。

谷端昭夫著

(第16回茶道文化学術賞)

公家茶道の研究

2005 / A 5判 / 394頁

6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1265-5

これまで公家の茶の研究は断片的であった。本書では近世における「公家茶道」を取りあげ、その独自の形態、実態と特徴、茶道史における位置づけを考察し、茶のもつ文化の内実を深める。史料「後西院御茶之湯記」を併載。

戸田勝久著

茶の湯 連翹抄

れんぎょう

2005 / A 5判 / 602頁

7,980円 (本体7,600円) ISBN4-7842-1267-1

著者は、裏千家の茶家戸田即日庵に生れ、父は今日庵名誉教授直翁宗寛。今日庵業縁として三代目に当たり、教授者(茶名宗安)として茶の湯の指導と普及につとめ、併せてその啓蒙と研究に従事。本書はその業績を集大成(全30篇)した大著。

岩井茂樹著

茶道と恋の関係史

2006 / A 5判 / 232頁

3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-1313-9

「恋は茶道の精神に反する」とされた——谷崎潤一郎の一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探求。

【内容】茶書中に見られる恋の言説／恋の茶会-恋の掛物をなぜ使うのか?／銘の世界-隠された恋の役割／恋とは何か? -恋歌の本意と、千家流茶道にとっての恋歌

田中秀隆著

近代茶道の歴史社会学

2007 / A 5判 / 454頁

6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1377-1

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

岩間真知子著

茶の医薬史

中国と日本

2009 / A 5判 / 520頁

9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1463-1

もともと、茶は薬であった。しかし、茶がどのように記されているか、信頼できる史料に当たり、たどった研究はこれまでなかった。本書は、中国と日本の医薬書史料の影印を多数収録し、それらの史料から中国・日本の各時代における茶の様相とその時代の変遷を明らかにする一書。 【2刷】

戸田勝久先生喜寿記念論集刊行会編

武野紹鷗 わびの創造

2009 / A 5判 / 614頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN978-4-7842-1471-6

裏千家今日庵業縁であり、教授者(茶名宗安)と併せて、永年茶の湯研究に従事してきた戸田勝久先生の喜寿を記念し、武野紹鷗を基軸として、斯界の論者24人が原稿を持ち寄った論集。

白苔顕成著

蘭室藤村正員年譜考

2003 / A 5判 / 480頁

6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-1173-X

庸軒流茶道の祖、藤村庸軒の三男藤村正員(1650~1733)の事跡について、自著『蘭室草』の収録作品(漢詩・和歌など)にそいながら、生涯の動向を歳ごとに明かした異色の年譜考。茶道を軸とした近世文化史の一側面を伝える趣きを備えた一書。

白苔顕成著

藤村庸軒年譜考 [全2冊]

2009 / A 5判 / 総1,800頁

36,750円 (本体35,000円) ISBN978-4-7842-1456-3

漢詩集と茶会記をもとに編年で藤村庸軒の生涯を文献学的方法によって明かす大著。庸軒の茶は、深い教養に支えられた美的に人格形成をなしとげるための総合芸術であった。元禄文化を支え、文人墨客とのネットワークをつなぐキーマンであった庸軒の全体像に迫る。

白寄顕成著

藤村庸軒流茶書

顕岑院本一

2012 / A 5判 / 528頁

11,025円 (本体10,500円) ISBN978-4-7842-1624-6

京都の紫雲山くろ谷金戒光明寺の塔頭である顕岑院には多くの庸軒流茶書が伝えられている。本書には、その中から息子の正員が庸軒の茶話を筆記したと思われる『藤村庸軒茶談』のほか、観山によって定められた庸軒流茶道の基本となる稽古次第を中心に収める。

逸翁美術館編

茶の湯文化と小林一三

2009 / A 4判 / 148頁

2,000円 (本体1,905円) ISBN978-4-7842-1485-3

逸翁美術館の新装オープンを記念して開催された特別展「茶人 逸翁 一茶の湯文化と小林一三一」の展覧会図録。小林一三(逸翁)の世界を5つのテーマ「茶道との出会い」「逸翁の茶懐石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそってオールカラーで紹介。

逸翁美術館編

茶会記をひもとく

逸翁と茶会

2012 / A 4判 / 92頁

1,050円 (本体1,000円) ISBN978-4-7842-1626-0

2012年4月から逸翁美術館で開催される同名の展覧会図録。逸翁が西洋陶磁を茶道具に見立てるなど、新しい試みを茶会に取り入れて、実践したことはよく知られている。これらの基層となった逸翁の茶の湯との出会いや、近代数奇者としての歩みを、残された茶会記をひもときながら明かす。

岡本文音著

茶の湯と音楽

2012 / A 5判 / 368頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN978-4-7842-1606-2

室町時代後期の草創期から江戸時代初期という茶の湯が発展拡大する時期の文献から、「音楽」の世界をとおしてみえる茶の湯の美意識を、能楽(第1章)、「峯すり」(第2章)、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」(第3章)、茶の湯空間における音(第4章)の4つのトピックから明かす。

華道

浅井敬太郎著作集

花みる心〔全2巻〕

1975 / 菊判 / 絵800頁

8,820円 (本体8,400円) ISBN4-7842-0205-6

花卉園芸学の権威であり、美学・歴史学にも造詣深かった著者が40年にわたり「華道」「未生」「園芸新知識」「自然と盆栽」「京都園芸」等の雑誌に発表した論文・随筆を一堂に収める。そこには花卉学といけばな、理論と感覚のみごとな融合がみられる。華道・茶道・園芸・植物学を学ぶ人々に。

木下桂風著

花籠と竹花入

1976 / A 5判 / 178頁

3,045円 (本体2,900円) ISBN4-7842-0208-0

1500年の歴史をもついけばなの歴史のなかで、その器として籠と竹筒を発明したのが東山時代の芸匠で知られた相阿弥である。青竹から始まり、きんめい竹、白竹、桔竹、斑竹、煤竹、縞竹、黒竹、胡麻竹、四方竹、迎葉竹とそれぞれの特徴を生かした雅趣と伝統の美と心を豊富な挿図と共に解説する。

花図を中心とした華道書善本(刊本)10点を忠実に複製。

華道古典名作選集〔全10巻〕

1976～77 / A 4判変 / 和装本

ISBN4-7842

ISBN4-7842

①花林清賞 6,825円 (本体6,500円 -0210-2)

⑥草木出生伝 6,300円 (本体6,000円 -0215-3)

②仙伝抄 4,620円 (本体4,400円 -0211-0)

⑦生け花正意四季の友 6,300円 (本体6,000円 -0216-1)

③挿花百練 5,775円 (本体5,500円 -0212-9)

⑧頭書立華指南 5,775円 (本体5,500円 -0217-1)

④立華時勢粧 【品切】

⑨立花初心抄 5,145円 (本体4,900円 -0218-8)

⑤抛入花伝書 5,670円 (本体5,400円 -0214-5)

⑩新撰瓶花図彙 【品切】

華道沿革研究会編

花道古書集成〔全5巻〕

1969・1996 / A 5判 / 3400頁

33,600円 (本体32,000円) ISBN4-7842-0087-8

本書は、初期東山時代の代表的秘伝書をはじめ、江戸初期、中期の諸流祖の花道書から幕末に至る主な花道書を収録し、昭和5年に刊行されたものの復刻。貴重な文献と作例図により生花の歴史・理論・技法の真髄に触れることができる。

【4刷】

続花道古書集成刊行会編

続 花道古書集成〔全5巻〕

1972・1980 / A5判 / 2710頁
36,750円(本体35,000円) ISBN4-7842-0088-6

鈴木榮子著

いけばなにみる日本文化

明かされた花の歴史

2011 / 四六判 / 358頁
2,730円(本体2,600円) ISBN978-4-7842-1557-7

『花道古書集成』が古刊本中心であるのに対し、未刊の古写本中心に続篇をおくる。花道草創の室町時代初期から各流各派成立、爛熟の時期江戸時代末に至る秘伝、稀覯本を網羅し、中でも「華厳秘伝之大事」「極儀秘本大巻」「藤掛似水華伝書」「諸花挿入百瓶圖」「雲の上」などは特筆。【2刷】

外形の歴史にしか注目されてこなかったいけばな。その精神にはじめて学問的な光をあて、日本文化という大きな枠組みの中でとらえた一書。外国人向けの「英語でいけばな」教室を主宰する著者が、時間の経過、流派の差異を超え、いけばなに継承される精神を探る試み。【2刷】

文化史

法制史

牧健二博士米寿記念会編

日本法制史論集

1980 / A5判 / 850頁
23,100円 (本体22,000円) ISBN4-7842-0290-0

日本の法制史研究で多大な業績を遺し、藩法編纂など資料編纂においても先駆的役割を果たした牧博士の米寿を記して、第一線の研究者24人が上梓した学界最高水準の法制史論集。

安高啓明著

近世長崎司法制度の研究

2010 / A5判 / 512頁
5,985円 (本体5,700円) ISBN978-4-7842-1477-8

長崎奉行所で構築されていた司法制度のもとでの、長崎奉行所の司法的権限に迫る。また法の浸透過程と受容した長崎奉行所の法体系を見出し、判例集「犯科帳」から当時犯罪に関与した人間模様、裁判の実相を明らかにする一書。

経済史

大山敷太郎著

幕末財政史研究

1974 / A5判 / 772頁
8,400円 (本体8,000円) ISBN4-7842-0269-2

昭和44年刊行の『幕末財政金融史論』によって学士院賞を受賞した著者が、その続編として完成したのが本書。収録した12篇の論文は、国立国会図書館所蔵の「旧幕末継書」をはじめとする膨大な文献より関係史料を厳密に考察した論考であり、また前人未踏の分野に分け入った珠玉の論文集。

永島福太郎編

三木金物問屋史料

1978 / A5判 / 700頁
10,500円 (本体10,000円) ISBN4-7842-0284-6

三木金物仲買問屋「作清」黒田清右衛門家の近世史料を主体に、仲買問屋「道善」井上善七家、三木市宝蔵文書・市立図書館所蔵文書から金物関係史料を取録、解説と研究5篇を付した。

【研究執筆者】永島福太郎／神山久夫／桑田優／畠山秀樹

宮本又次著

先学追慕

1982 / B6判 / 206頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-0348-6

昭和6年京大経済学部を卒業以来、九大、阪大、関西学院大、福山大学で教鞭をとり、日本学士院会員、社会経済史学会・経営史学会顧問であった著者が、自らの半世紀を越える研究遍歴途上において数々の学恩を蒙って来た先学・恩師を追慕し、その謝意を表現しようとしたものである。

宇田正・藤田貞一郎共編

宮本又次史学館

1984 / B6判 / 212頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0349-4

宮本又次先生に親しく学恩を享けた関係者が先生の喜寿を記念し、その慶賀と学問的・人間的つながりをあたためるべくまとめた文集。巻末に「宮本又次歌稿抄」と「仏語事始と村上英俊」を併載した。

傳田 功 著

日本の政策金融

1990 / A5判 / 290頁
3,780円 (本体3,600円) ISBN4-7842-0590-X

わが国における重要な経済制度の一つである「財政投融资制度」を取り上げ、とくにこの制度と深い関係をもつ「政策金融」の問題を中心に、それらがわが国の政治経済体制とどのようにかかわってきたかを歴史的な視野のもとに検討し、今後のあり方を探る。

甲南学園監修／三島康雄編集
ひら おはちさぶろう
平生鈺三郎日記抄〔全2巻〕
大正期損害保険経営者の足跡
35,700円 (本体34,000円) ISBN4-7842-0586-1

小葉田 淳 総監修 (第8回優秀会社賞)
住友別子鉱山史〔全3巻〕

1991 / B5判 / 総1500頁
76,650円 (本体73,000円) ISBN4-7842-0643-4

小葉田 淳 著
日本銅鉱業史の研究

1993 / A5判 / 860頁
19,950円 (本体19,000円) ISBN4-7842-0760-0

荻慎一郎著 (第7回高知出版学術賞)
近世鉱山社会史の研究

1996 / A5判 / 640頁
13,440円 (本体12,800円) ISBN4-7842-0900-X

大阪経済大学日本経済史研究所編
経済史文献解題

1997～2007 / 四六判 / 平均650頁
2006年版以降は
<http://www2.osaka-ue.ac.jp/nikkeisi/>で公開

小葉田 淳 著
貨幣と鉱山

1999 / A5判 / 300頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-1004-0

徳永光俊編
20世紀の経済と文化
大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第10冊
2000 / A5判 / 210頁
3,675円 (本体3,500円) ISBN4-7842-1046-6

日夏嘉寿雄・今口忠政共編著
京都企業の光と陰
成長・衰退のメカニズムと再生化への展望
2000 / A5判 / 360頁
3,780円 (本体3,600円) ISBN4-7842-1030-X

山田達夫・徳永光俊編 こくしゅういわお
社会経済史学の誕生と黒正巖
大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第11冊
2001 / A5判 / 200頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-1076-8

山本 正 著
「王国」と「植民地」
近世イギリス帝国のなかのアイランド
大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第12冊
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1096-2

東京海上火災の経営に携わった平生の日記 (大2～昭20) から損害保険に関する部分を抜き出し、解題・注・索引を付す。損害保険の育ての親であった平生が激動の日々に書き記した^{*}保険論、は、保険・金融史の核心に触れる貴重な証言。
1990 / A5判 / 総1100頁

上巻では元禄4年の開坑より明治32年、いわゆる旧別子時代の終わるまでを取扱い、下巻は閉山するまでとその後の補遺を記述し、別巻は別子銅山史上の事項を理解する助けとなる図録・写真・史料等を掲載した。開坑300年記念出版。
総合教育センター (TEL03-5844-3041) 専売商品です。

金鉱山の個別の史的研究を集めた、『日本鉱山史の研究』(学士院賞)、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。

1996・1997年版【品切】
1998・1999・2002・2003年版 (各)12,390円(本体11,800円)
2000年版 13,440円(本体12,800円)
2001年版 11,340円(本体10,800円)
2004・2005年版 (各)14,490円(本体13,800円)

日本貨幣史・鉱山史の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する近年の論考を集成する。【内容】元禄・宝永の京銭座の鑄銭、とくに宝永通宝大錢鑄造について／正徳・享保の新銀鑄造と銀銅分け／近世、日向榎葉山の銅山について／近世、日向延岡領の銅山についてほか全11篇

20世紀の経済・社会・文化について、大阪経済大学の教員が多様な角度から論じ21世紀を展望する。
【執筆者】松村文武・重森暁／土井乙平／上島武／徳永光俊／山本晴義／西山豊／山本正／家近良樹

組織的・戦略的・管理的・財務的諸側面から総合的に企業経営の本質に迫る手法によって、京都企業のおかれている状況と実態、他地域との比較、さらに具体的な成功と破綻企業の例をとりあげ、企業衰退の測定モデルを分析し、企業の成長・衰退の理論と産業活性化の方策についてさぐる。

大阪経済大学日本経済史研究所の創設者黒正巖博士の業績を、1930年前後における世界的な社会経済史学の興隆状況のなかで捉え直す第1部と博士の人となり伝える第2部で構成。社会経済史学の原点を回顧することにより、新しい世紀への展望を考察。

「王国」にして「植民地」——本書は、16～18世紀におけるアイルランドのイギリスとの複雑な関係を最新の研究動向を踏まえつつ丹念に分析し、その位置づけと変遷にとりくんだ著者20年来の成果。
2002 / A5判 / 236頁

徳永光俊・本多三郎編

経済史再考

日本経済史研究所開所70周年記念論文集

2003 / A5判 / 630頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-1153-5

研究所開所70周年を記念し、経済史研究の方法論5篇、日本国内外の経済史・経営史を実証的に分析した論24篇を収録。

黒正巖著作集編集委員会編

こくしゅういわお

黒正巖著作集 [全7巻]

2002 / A5判 / 総2800頁

58,800円 (本体56,000円) ISBN4-7842-1122-5

1920～40年代、社会経済史学の誕生に大きな役割を果たした黒正巖の業績を全7巻構成で明らかにする。【構成】第1巻 百姓一揆の研究 / 第2巻 百姓一揆論 / 第3巻 岡山藩の研究 / 第4巻 社会経済史の研究 / 第5巻 経済地理学の研究 / 第6巻 日本経済史 / 第7巻 農史の研究 年譜・著作目録

徳永光俊編

黒正巖と日本経済学

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第15冊

2005 / A5判 / 250頁

2,835円 (本体2,700円) ISBN4-7842-1242-6

『社会経済史学の誕生と黒正巖』(70頁)に続き、黒正巖の業績を再検討。1940年前後、京都大学を中心とした「日本経済学」の動きの中で、黒正らの役割を解明。師である本庄栄治郎と彼が打ち立てた「日本経済学」の主張の検討、黒正と戸田海市、京都経済学者たちとの関係をも考察。

大阪経済大学日本経済史研究所編

東アジア経済史研究 第1集

中国・韓国・日本・琉球の交流

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第17冊

4,200円 (本体4,000円) ISBN978-4-7842-1498-3

日本からの研究の発信だけでなく、世界、アジアにおける研究情報を系統的に取り込み、データベース化し国際的な研究の発展と交流を目指して行われた東アジア経済史研究会「近世・近代の東アジア経済史研究」を基にした10篇。

2010 / A5判 / 344頁

松村幸一著

一六世紀イングランド農村の 資本主義発展構造

14,700円 (本体14,000円) ISBN978-4-7842-1575-1

本書は、大阪経済大学日本経済史研究所所長などを歴任した故人の一貫したテーマであった、16世紀イングランド農村史研究における主要な論文をとりまとめて、一書に編成したものである。巻末に索引・業績一覧を付す。

桑田 優 著

伝統産業の成立と発展

播州三木金物の事例

2010 / A5判 / 302頁

6,825円 (本体6,500円) ISBN978-4-7842-1523-2

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡づける通史である。

齋藤康彦著

すきしや

近代数寄者のネットワーク

茶の湯を愛した実業家たち

4,200円 (本体4,000円) ISBN978-4-7842-1603-1

近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出。近代実業家の財閥の枠を超えた交流を明かす。

2012 / A5判 / 274頁

技術史

鈴木 敏 編

宝 石 誌

1974 / 菊判 / 302頁

5,250円 (本体5,000円) ISBN4-7842-0245-5

宝石は上古より金銀と共に世に珍重されてきたが、その資料は少ない。本書は大正5年理学博士鈴木敏の手によるもので、地質鉱物学的立場から宝石を学術的に論じたものである。内容は、諸論・宝石通論・宝石持論からなり、地質鉱物学研究者、貴金属関係者にとって座右の書である(複製版)。

三木晴男著

京 都 大 地 震

1979 / A5判 / 340頁

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-0300-1

文政13年7月2日、京都を中心として震度6.4と思われる直下型大地震が起こった。建造物の倒壊、火災、流言と、公家・武士・町人を襲ったパニック。現代における地震対策を念頭に京都大学地震予知観測地域センター長を勤めた地震学界の重鎮が語る150年前の震災ドキュメント。

竹村真一著

明朝体の歴史

1986 / A5判 / 240頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0447-4

中国明時代に生まれ、黄檗山万福寺開山中国僧隠元や一切経の開版を成した鉄眼などを経て日本にもたらされ、今日に至った明朝体。その中国での発生と変遷からわが国への伝来と定着の過程を明らかにし、さらに近代機器による明朝体をも射程にのせたユニークな文字文化史。

吉田光邦評論集 [全3巻]

1982 / 四六判 / 平均350頁
(各) 3,045円 (本体2,900円)

おびただしい知識の集積の背後にある鋭い洞察力と、人間に対するあくなき好奇心から綴る芸術・文化・文明論。

I 芸術の解析 II 文化の手法 III 文明の基軸

日本産業技術史学会誌

技術と文明

1985 ~ / B5判 / 平均100頁 / 既刊31冊
①~⑨・⑱~⑳ 各2,100円 (本体2,000円)
⑩~⑱ 各2,039円 (本体1,942円)

日本産業技術史学会は、産業技術に関する歴史について調査・研究を促進し、その成果を社会に還元することを目的として、1984年に設立。産業研究の各分野、経済学、人類学、日本史、工学等の広範囲の専門家による学際的交流の下で、産業技術史研究の基礎確立を目指す。本誌はその研究発表の場。

中島暢太郎・三木晴男・奥田節夫著

歴史災害のはなし

1992 / A5判 / 252頁
3,045円 (本体2,900円) ISBN4-7842-0731-7

地球物理学の立場から災害研究の第一線に立ってきた京大名誉教授が、「その時人々はどうしたか」という問題意識に立って、古文書をもとに江戸時代の気象災害・地震・崩壊災害を検証。取り上げた災害は、中国地方の気象災害、寛文2年の近江地震、同じく近江地震および雲仙眉山の崩壊災害。

三宅宏司著 (第7回日本産業技術史学会賞)

大阪砲兵工廠の研究

1993 / A5判 / 520頁
10,080円 (本体9,600円) ISBN4-7842-0776-7

明治3年から昭和20年にいたる大阪砲兵工廠はわが国の産業近代化の中で異なる役割りを果たしてきた。本書では、同工廠を支えた鉄鋼・材機・冶金・金属加工・化学などの技術的諸分野の内容と生産体制、職工の就業実態及びそれらの変遷過程を明かす。関係図表120余点。

丸山宏著

近代日本公園史の研究

1994・2003 / A5判 / 400頁
8,820円 (本体8,400円) ISBN4-7842-0865-8

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

[2刷]

東徹著

佐久間象山と科学技術

2002 / A5判 / 283頁
7,980円 (本体7,600円) ISBN4-7842-1101-2

象山が入手したとする蘭書を書誌的に明かし、そこでの記載内容と象山が様々な局面で語っている内容との対応関係を調査。「東洋道德、西洋芸術」という言葉で時代をリードした人物を正しく位置づけ、わが国における科学技術の受容という問題を考察するための基礎的な実証的研究。

加藤億重著

牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション

2003 / A5判 / 300頁
5,670円 (本体5,400円) ISBN4-7842-1165-9

東京都立大学牧野標本館所蔵のシーボルトの植物標本を精査してきた成果。シーボルト、助手のビュルガーをはじめ、伊藤圭介、水谷助六、小野蘭山などの手になる標本について、残されたメモや添付図から採集者や採集地の特定につとめた。江戸時代の博物学の実態を知る上でも貴重な報告。

京都大学総合博物館編

新世紀を創る。

京都大学の工学と貴重技術史資料
京都大学総合博物館図録
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-1210-8

京都大学総合博物館で開かれた展覧会図録。100年をこえる歴史をもつ京都大学の貴重な技術史資料を公開し、新世紀を創造する工学研究の最先端を展示することによって、工学・技術の発展とその成果、未来への夢を広く社会に紹介。
2004 / A4判 / 100頁

小林達也著

文明随想 継承と移転

日本の底力を読む

2005・2006 / 四六判 / 200頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-1263-9

東海地方の創造的活力は、単に外国模倣の浮薄な知力だけではない、伝承されたローカルな有形無形のさまざまな力に推されたものである。いくつかの発明と技術移転の実例を紹介し、道徳、価値観、人間関係を含む地域文化がはたらいて支えたものであることを証明する。

[2刷]

尾鍋智子著

絶対透明の探求

遠藤高環著『写法新術』の研究

2006 / A5判 / 310頁

6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-1294-9

日本産業技術史学会編

日本産業技術史事典

2007 / B5判 / 550頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN978-4-7842-1345-0

加藤重著

シーボルトが蒐集した シダ標本

2010 / A5判 / 388頁

7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1550-8

佐藤洋一郎監修 / 原田信男・鞍田崇編

焼畑の環境学

いま焼畑とは

地球研ライブラリー 17

9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1588-1

白幡俊輔著

軍事技術者のイタリア・ルネサンス

築城・大砲・理想都市

2012 / A5判 / 294頁

5,880円 (本体5,600円) ISBN978-4-7842-1625-3

加賀藩士遠藤高環が江戸後期に著した『写法新術』。その内容は既成概念への批判精神に溢れ、視覚については哲学的に洗練された議論を展開している。本書では、遠藤の加賀藩における知的交流とその思想を論じ、『写法新術』にみられる倫理観、写法の理論と視覚論の獨創性を明かす。

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づける。23の大項目と344の小項目で系統的・組織的に日本の産業技術史を俯瞰した画期的な事典。近代化以前からの「草の根」における技術と技能の蓄積に対しても光を当て、民間の「現場」の力を重視する。

オランダ国立植物学標本館ライデン大学分館に所蔵されている、シーボルトコレクションの約1,000点のシダ標本を、20年にわたり調査した成果を豊富な図版(カラー口絵14点・モノクロ600点)とともにまとめる。標本642点・1,009カットのカラー画像を収録したDVD付き。

歴史・地理・民俗・農業各々の観点から、アジア・アフリカ各地で伝統的に行われてきた焼畑の実態を報告。農業へ新しい知見を提示し、農業と環境、人と自然の関係を問い直す。総合地球環境学研究所で行われたプロジェクトの研究成果。2011 / A5判 / 608頁

軍事技術という観点から、ルネサンス期イタリアにおける戦争と社会の関係を考察。具体的には、15～16世紀イタリアの築城術の「理想都市」「軍事的機能」という2つの要素に着目し、その変容過程を、建築家の残した著作や活動・軍事思想からの解明で試みる。

建築史

外山英策著

室町時代庭園史

1973 / B5判 / 792頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0230-7

谷直樹著

中井家大工支配の研究

1992 / A5判 / 340頁

8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0707-4

石田潤一郎著

都道府県庁舎

その建築史的考察

1993 / A5判 / 440頁

9,030円 (本体8,600円) ISBN4-7842-0775-9

川上貢著

近世上方大工の組・仲間

1997 / A5判 / 402頁

9,450円 (本体9,000円) ISBN4-7842-0922-0

昭和9年に刊行された本書は、まだ未熟であった庭園史という領域において傑出し、殊にその文献史料の豊富さ、古文書解説のみごときでは多くの歴史家の間で評判をとった名著である。室町時代の庭園約150について、豊富な文献を基に論じる。

中井家大工支配の初期形態から支配の確立・変容をたどる。**【内容】** 中井家大工支配の成立過程 / 農村大工の大工役と諸役免除 / 公儀作事における中井家の職務と財政構造 / 中井家支配下の棟梁衆および家中の変遷 / 中井家六か国大工支配の整備と再編成ほか

明治維新以降、今日まで100件をこえる都道府県庁舎が建設されてきた。本書では、一次史料をもとに同庁舎の歴史的展開を個別にあとづけ、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みた。収録図版200余点。

中井家による五畿内・近江六か国大工組支配の仕組みのなかで、各地に組織・編成されていた大工組に焦点をあて、その成立、運営と変遷、さらには分裂と再編を、近世前期にまでさかのぼる新出史料をもとに検証した論集。

加藤邦男編

阪神・淡路大震災と歴史的建造物

1998 / B5判 / 280頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0964-6

日向進著

近世京都の町・町家・町家大工

1998 / A5判 / 340頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0984-0

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

建築史論聚

2004 / A5判 / 590頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN4-7842-1202-7

谷直樹編著

大工頭中井家建築指図集

中井家所蔵本

2003 / B4判 / 360頁
18,900円 (本体18,000円) ISBN4-7842-1148-9

建部恭宣著

京・近江・丹後大工の仕事

近世から近代へ

2006 / A5判 / 270頁
5,775円 (本体5,500円) ISBN4-7842-1282-5

木村幸比古・中根史郎・中村昌生著

春秋 京大和翠紅館

2009 / B5判 / 80頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1417-4

阪神淡路を襲った直下型大地震が招いた建築物被害のうち歴史的建造物の被害状況を把握し、被災地区における復興、復元、修理補強の方策を探るのみならず、文化財建造物の将来にわたる保全、利活用における技術的方策と環境の歴史的文化的価値の問題を再検討してさまざまな提言を示す。

「仮屋」のようにさりげなく組み立て、身近な素材に精緻な技術が注入され、洗練された造形として結実したのが京都の町家。本書は、京都町家の形成と展開の過程を事例として、町家が住居形態として一定の類型を保持し、存続してきた背景としての建築的・技術的・社会的・都市的な要因を解明。

建築史学の泰斗・中村昌生氏の喜寿記念に寺社建築、茶室、建築生産史・都市史、近代建築のテーマで研究者たちが寄稿した15篇〔執筆〕中村伸夫／高井昭／建部恭宣／平井俊行／谷晃／中村利則／日向進／池田俊彦／桐浴邦夫／矢ヶ崎善太郎／和田嘉宥／岩波由佳／山形政昭／梅宮弘光／川島洋一

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家の伝来史料には、同家の職務に対応して城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺院、社寺、数寄屋、書院の指図があり、さらに洛中図・町絵図・橋図など土木関係の絵図も豊富（2011年重文指定）。図版517点を大判で収録し総論と各個解説を付す。

江戸から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、資料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。

京都の老舗料亭京大和がある東山霊山のふもととは、古くからの聖地であり、風光明媚な仙郷であった。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や藪内流の茶室について、多数の図面とともに詳述する。

比較文化史・文明史

横山俊夫編

視覚の一九世紀

人間・技術・文明

1992 / A5判 / 464頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-0700-7

電通総研編

21世紀のグランドデザイン

環境・都市・情報

1993 / A5判 / 440頁
2,957円 (本体2,816円) ISBN4-7842-0783-X

梅原猛・伊東俊太郎監修 安田喜憲・松岡數充編集

日本文化と民族移動

文明と環境Ⅱ

1994 / 四六判 / 240頁
2,345円 (本体2,233円) ISBN4-7842-0843-7

〔内容〕“文明人”の視覚／平地劇から舞台劇へ／蔵書家の視界／ナポレオンのコルベール／明治写真考／オーストラリアの博覧会におけるジャパン／巨船グレート・イースタンの視像／真山青果の歴史観を求めて／チョンキナ／富士の近代／1906年ロンドン苦汗産業博覧会／病いの世紀

激動時代の終結——新世紀を迎えるにあたって、我々は重要な選択に迫られるであろう。真に豊かで安定した社会とは…本当の国際化とは…。環境・都市・情報、各界の有識者45人による、多角的視点からなるフォーラムの総まとめ。

〔内容〕地球環境の危機と環境難民／日本人の成り立ち／ウイルスと人間／遺伝子から見た民族移動／犬から探る日本人の起源／稲の来た道／古代騎馬術の伝播と変遷／騎馬民族は来た？／対馬と古代の国際交流／対馬海峡を巡る植物地理／東シナ海沿岸の環境変遷／花粉分析からみた気候変動

梅原猛・伊東俊太郎監修 町田洋・森脇広編集

火山噴火と環境・文明

文明と環境Ⅲ

1994 / 四六判 / 240頁

2,345円 (本体2,233円) ISBN4-7842-0844-5

吉田光邦編

万国博覧会の研究

1986・2004 / A5判 / 368頁

6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-0414-8

園田英弘編著

逆欠如の日本生活文化

日本にあるものは世界にあるか

2005 / A5判 / 404頁

3,990円 (本体3,800円) ISBN4-7842-1248-5

京都ノートルダム女子大学大学院

人間文化研究科人間文化専攻編

文化の航跡

創造と伝播

2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1238-8

今谷 明 編

王権と都市

2008 / A5判 / 372頁

7,140円 (本体6,800円) ISBN978-4-7842-1396-2

小島道裕編

武士と騎士

日欧比較中近世史の研究

2010 / A5判 / 500頁

9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1507-2

清水恵美子著

岡倉天心の比較文化史的研究

ボストンでの活動と芸術思想

2012 / A5判 / 548頁

11,235円 (本体10,700円) ISBN978-4-7842-1605-5

【内容】火山の大噴火と気候・環境 / 火山噴火と植生 / 歴史をかえた火山噴火 / 火山噴出時に放出されるガス量の測定 / 樹木年輪から読み取れる気候の変遷と噴火の歴史 / 雲仙噴火の教訓 / 桜島の火山活動とその影響 / 鬼界アコホヤ噴火が九州の自然に与えた打撃 / マヤ文明と火山噴火 ほか

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識に支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、万国博覧会。3年余りわたる研究会の成果をもとに、内外博覧会の諸相を多角的な視座から取り扱った15篇。 【3刷】

「日本にあるものは外国にもある」というものの方見方「逆欠如論」に基づき、日本の生活文化の諸相を分析。日本人が日常に関わる生活文化を国際比較することによって、問題点の発見と理解を深める。国際日本文化研究センターの共同研究成果14篇。

京都ノートルダム女子大学人間文化研究科人間文化専攻の設立記念。人間文化学科の12名が寄稿。【執筆】相良憲昭 / 五十嵐節子 / 小川光 / 鳥居本幸代 / 上杉省和 / 服部昭郎 / 鷲見朗子 / 野田四郎 / 朱鳳 / 岡村敬二 / 岩崎れい / 吉田智子 2005 / A5判 / 264頁

日文研での研究の集大成として、編者が壮大な展望のもと組織した共同研究「王権と都市に関する比較史的研究」の成果。日本、アジア・イスラーム、ヨーロッパの3領域から11篇の論文を収め、各時代・各地域での都市史のあり方を相互に比較検討し、「都市とは何か」という命題の解明に挑む。

人間文化研究機構連携研究「武士関係資料の総合化」の一環として、日仏で行われた国際シンポジウムの成果。具体的な資料に基づき、多様な側面から武士と騎士をとりあげた論考19本を収録。【内容】I 領主と武力 II 城の形と機能 III 資料とイメージ IV 理念と言説

明治時代に美術分野で活躍した思想家、岡倉覚三（天心、1863～1913）の、特にそのボストンでの活動に焦点をあてて考察。ボストンと日本における岡倉像の比較、同時代の文化的状況、美術、演劇、音楽の動向など複眼的な視座からのアプローチを通して、より立体的に「岡倉天心」像を再検証。

民俗・文化人類学

朝倉無聲著

見世物研究

巻頭言・郡司正勝 / 解説・守屋毅

1977・1999 / A5判 / 408頁

7,140円 (本体6,800円) ISBN4-7842-0684-1

満久崇麿著

続木のはなし

1985・1990 / 四六判 / 250頁

1,890円 (本体1,800円) ISBN4-7842-0392-3

舞台芸術や学問から見捨てられてきた見世物は、本書によって初めて歴史的視野と分類の体系を与えられた。記録類を残すまいとする本性に立ち向かい、文化史・民俗学・民族学さらに舞台芸術にも新しい視野を与えた昭和3年版の復刻。新たに補遺・参考資料・解説・索引を付した。 【4刷】

『木のはなし』(品切)の続編。木のなりたちから古今東西人々の生活に息づく木をめぐる生活文化誌。特に聖書や仏典に登場する木の解説や、日本だけでなく中国その他世界の木に関するエッセイに多くページを割いた。 【4刷】

満久崇磨著

同名異木のはなし

1987・1990 / 四六判 / 288頁
1,890円 (本体1,800円) ISBN4-7842-0469-5

カツラと肉桂のように同名でも樹種の違う木、樟と楠のように樹木名が違っても相通じる樹種、カタギ・テツボクなど特徴による同名異木、ナンジャモンジャノキなど珍名による同名異木、更には金のなる木など欲望の話にまで広がる。随所に和歌などを配し木の文化史にも触れた好著。 【3刷】

柳瀬木鶏編

菓子文庫シリーズ [全7冊]

日本古来からの和菓子の伝書を影印し、その翻刻とさらには今日の解説を加える。手すき紙を使用した愛蔵版。

料理新製 以毛百珍 15,291円 (本体14,563円)

諸国名物 御前菓子秘傳鈔 (全2冊)

25,486円 (本体24,272円)

林氏塩瀬山城傳來記 15,291円 (本体14,563円)

餅菓子即席 増補手製集 15,291円 (本体14,563円)

古今名物御前菓子図式 (全2冊)

25,486円 (本体24,272円)

1990 / B5判 / 和装帙入 / 平均80頁

奥沢康正記

外国人のみたお伽ばなし

京のお雇い医師ヨンケルの『扶桑茶話』

1994 / A5判 / 370頁
7,646円 (本体7,282円) ISBN4-7842-0806-2

明治5年に京都府が招聘したドイツ人医学教師ヨンケルは、講釈師の語る昔話を記録した。本書は、帰国後の1884年ウィーンで出版された『扶桑茶話』(「七福神の宝舟」「漁夫浦島」など33篇)の翻訳と、ヨンケルの履歴・業績・『扶桑茶話』をめぐる詳細な解説、京都府発行文書等の資料からなる。

鈴木達也著

喫煙伝来史の研究

1999 / A5判 / 360頁
5,775円 (本体5,500円) ISBN4-7842-1018-0

喫煙が伝来して400年余となるがその経緯については不明部分も多く俗説や風説が流布している。本書では、キリシタン史・対外交渉史・欧州の伝来史まで幅広い史料の探索によってタバコ・キセル・種子などの具体的な伝来を明かす(在外の関係図版多数収録)。

内田順子著

宮古島狩俣の神歌

その継承と創成

2000 / A5判 / 300頁
6,930円 (本体6,600円) ISBN4-7842-1036-9

沖縄県宮古島狩俣集落における伝統的祭祀歌謡(神歌)の永年のフィールドワークをもとに、歌われる歌の諸表現が、そのつどどのように生み出され、それが演唱者や社会によってどのように意味づけられてゆくのか。歌詞のみによらない新たな歌謡分析の方法を提示した意欲的な一書。

上田正昭・上田篤共編

鎮守の森は甦る

社叢学専始

2001 / 四六判 / 250頁
2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1086-5

都市にもある身近な森林「鎮守の森」をテーマに歴史学・自然科学・社会学・建築学など多方面から考察し「社叢学」という新たな学問の可能性の探求とその確立をめざす諸論考と、上田正昭・上田篤両氏による対談を収録。身近な環境問題への考察を深める。

朱家駿著

神霊の音ずれ

太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

2001 / A5判 / 196頁
3,675円 (本体3,500円) ISBN4-7842-1095-4

中国・日本を中心とする広い漢字文化圏という背景を念頭におきつつ、音楽の源流を祭祀儀礼音楽に求め、太鼓と鉦や鈴などの呪具、音具に焦点をあて、音楽とは何かを考察する。音と文字の関係、中国の史料や楽器、出土品との比較・検証など、視野を広げた総合的な研究を展開。

大阪天満宮文化研究所編

天神祭

火と水の都市祭礼

2001 / B5判 / 200頁
2,730円 (本体2,600円) ISBN4-7842-1092-X

口絵カラー 48頁 天神祭の歴史 天神祭の起源をさぐる / 天神祭の成立と発展 描かれた天神祭 天神祭船渡御図について / 近世絵画にみる天神祭 / 夢の中にある船渡御 発展する天神祭 「天神祭図巻」について / よみがえった天神丸と御迎人形 / 天神祭における渡御筋と空間演出

上田篤著

鎮守の森の物語

もうひとつの都市の緑

2003 / 四六判 / 300頁
1,785円 (本体1,700円) ISBN4-7842-1155-1

大阪万博の会場計画に「お祭り広場」として鎮守の森の概念を取りこんで以来、調査・研究にあたってきた著者の総決算。「鎮守の森はひとつの生活や生産、信仰や芸能を含む文化複合体」という観点から、北は津軽から南は沖縄まで、鎮守の森を歩いた探訪記録。

笹原亮二著

三匹獅子舞の研究

2003 / A5判 / 330頁
6,825円 (本体6,500円) ISBN4-7842-1151-9

芳井敬一郎著

(第24回江馬賞)

民俗文化複合体論

2005 / A5判 / 470頁
6,930円 (本体6,600円) ISBN4-7842-1237-X

斎藤英喜著

陰陽道の神々

佛教学大学鷹陵文化叢書17
2007・2008 / 四六判 / 292頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN978-4-7842-1366-5

宇野日出生著

八瀬童子

歴史と文化
2007 / 四六判 / 210頁
1,890円 (本体1,800円) ISBN978-4-7842-1352-8

金谷美和著

布がつくる社会関係

インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌
2007 / A5判 / 330頁
6,510円 (本体6,200円) ISBN978-4-7842-1341-2

金賢旭著 (第4回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞)

翁の生成

渡来文化と中世の神々
2008 / A5判 / 250頁
5,250円 (本体5,000円) ISBN978-4-7842-1411-2

岩間香・西岡陽子編 / 京極寛写真

祭りのしつらい

町家とまち並み
2008 / B5判 / 224頁
2,310円 (本体2,200円) ISBN978-4-7842-1360-3

笹原亮二編

口頭伝承と文字文化

文字の民俗学 声の歴史学
2009 / A5判 / 444頁
7,350円 (本体7,000円) ISBN978-4-7842-1447-1

信多純一著

祈りの文化

大津絵模様・絵馬模様
2009 / B5判 / 170頁
3,675円 (本体3,500円) ISBN978-4-7842-1425-9

武田佐知子編

着衣する身体と女性の周縁化

2012 / A5判 / 500頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN978-4-7842-1616-1

神奈川県北部に伝わり、現在も演じられている三匹獅子舞をどのように理解し、記述することができるかという取り組みの成果。上演の実態に焦点を定め、どのように上演しているかを、観察とインタビューを主とした現地調査によって得た情報・資料によって解明を試みる。

民俗文化を生活の諸相の複合体と捉え、庶民層から貴族層までを対象とした多ジャンルの個別研究を総合し、その根底にある日本民族の民族性を抽出する。客観性を重視し、個別研究の範囲で民俗事象の分析に終始してきた従来の民俗学への異議申し立ての書。

疫鬼や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち……。近代社会が封印した「陰陽道」の神々。知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を、最新成果にもとづき、平易に説きながら、もうひとつの「日本」の神々の世界を探求していく。掲載図版多数。 【2刷】

京都八瀬の地に平安時代より生活してきた人々を八瀬童子という。彼らは自治組織を形成し、比叡山や天皇家と深い関わりを持っていた。今まで非公開であった関係文書を調査し、民俗調査を行った著者が、彼らの歩み、そして今に伝わる思想・行動を歴史に裏付けられた「文化」としてとらえる。

染色業者カトリーと彼らの生産する布について民族誌的記述を行い、布の生産・使用によって構築される社会関係について論じる。また同じ衣服体系を共有するムスリムとヒンドゥーの社会関係にも着目し、その様相を明かす。文化人類学的研究において布を視点として社会を分析するというモノ研究の新たな可能性を拓く。

翁のかたちをとる神やそれらをめぐる習俗には、異なる文化圏の影響が見られる。本書では、中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとり、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見だし、さらに日本芸能のルーツ翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘。

祭りにはまち並みを飾るという側面がある。全国の祭礼を調査してきた編者が、豊富なカラー写真とともに、祭り飾りの歴史と現状、町家の豊貴、祭りの伝統文化を活用したまちづくり、まち並み保存と祭り、大阪の造り物史などについて執筆。巻末に、探訪ガイドにもなる祭礼百選を付す。

「口頭伝達を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料両者の扱いかたに着目し、新たな研究方法について論じる。国立民族学博物館での共同研究の成果。

江戸時代から近江大津にて作られ、土産として民衆はもちろん文化人の間でも愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰、祈り、教訓、そして遊びの画題は、多くの人々の想念の数々を端的に映し出す。その起源・絵馬との共通点・画題の意味など新考察を加え、多くの図版をあげて解説した全大津絵の事典。

着衣という共通の素材を通して、特定の社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、世界における女性の周縁化を説き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。

考古学

韓国文化財管理局編

慶州地区古墳発掘調査報告書

1976 / B5判 / 412頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0323-0

韓国文化財管理局編

九八号古墳(南墳)発掘調査報告書

1976 / B5判 / 72頁
2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-0322-2

山崎一雄著

古文化財の科学

1987・2002 / A5判 / 380頁
6,615円 (本体6,300円) ISBN4-7842-0482-2

京都大学文学部考古学研究室編

紫金山古墳と石山古墳

京都大学文学部博物館図録第6輯
1993 / B5判 / 130頁
1,732円 (本体1,650円) ISBN4-7842-0772-4

林博通著

大津京跡の研究

2001 / B5判 / 280頁
9,240円 (本体8,800円) ISBN4-7842-1073-3

岡本健一著

蓬莱山と扶桑樹

日本文化の古層の探究
2008 / A5判 / 442頁
5,775円 (本体5,500円) ISBN978-4-7842-1400-6

小田富士雄・平尾良光・飯沼賢司編

経筒が語る中世の世界

別府大学文化財研究所企画シリーズ①
「ヒトとモノと環境が語る」
5,040円 (本体4,800円) ISBN978-4-7842-1409-9

後藤宗俊著

埴仏の来た道

せんぶつ
白鳳期仏教受容の様相
5,985円 (本体5,700円) ISBN978-4-7842-1433-4

門田誠一著

文学のなかの考古学

佛教大学鷹陵文化叢書19
2008 / 四六判 / 308頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN978-4-7842-1430-3

慶州市内最大の古墳群である皇南洞古墳群中に包まれる主として地下に埋没していた古墳及び仁旺洞、校洞の古墳の1973年に実施された発掘調査報告書。それらの古墳は4～5世紀頃のもので、慶州古墳の編年、墓制の変革・発展、新羅古墳の最も特徴的な積石木槨古墳の発生・変化等を知る基本資料。

慶州皇南洞第九八号古墳は瓢形墳で、北墳は1974年に発掘され、既に略報告書も刊行(品切)。本書は北墳発掘後、発掘開始した南墳報告書で、主槨・副槨の設置、古新羅古墳の墓槨構造として初めて確認された板壁や砂利、その他武器類の発掘など、古新羅史・新羅古墳・日韓古代史研究の宝庫。

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果。正倉院宝物の調査、装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・柴山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する報告を収録。【4刷】

昭和22年から26年に梅原・小林両博士の指導により発掘された紫金山と石山の両古墳は、古墳の被葬者の歴史的性格を問題にした古墳時代中期の設定、伝世鏡論、同范鏡論など、古時代に関心をもつ人々に大きな衝撃を与えた。本書は京都大学文学部博物館'93春季企画展に際し作成したものである。

天智天皇造営の大津宮の所在地については、多くの学説と論争があったが、1974年の著者による遺構発見以後、数十カ所の発掘が行われ、構造復原の作業が進められた。本書は、永年にわたる大津京論争に決着をつける、初の包括的な研究集成。口絵(8ページ25点の写真)および本文収録図版182点。

中国伝来の神仙思想のうち、不老長生の仙境「蓬莱山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボル。日本の古墳時代を解き明かすうえでの二大キーワードが、なぜか古代史や考古学の分野では、長らく見過ごされてきた。20年前より「前方後円墳＝蓬莱山起源」説を提唱してきた著者の集大成。

実は北部九州こそ、先駆けて経筒の埋納が本格的に行われた地域で、出土数でも他を圧倒している。本書はおもに九州出土の経筒をとりあげ、考古・歴史・美術史学に加え、分析科学などでの先駆的研究も収録。分野・地域を越えた学際的な視点から再構成した。
2008 / B5判 / 236頁

インドから中国を経て奈良に伝来した埴仏が大分県虚空蔵寺跡で多数出土する。「埴仏の来た道」をたどり、祈りの諸相と、その途上に浮かぶ僧の信仰と人間像に迫る。虚空蔵寺跡調査に携わった著者が考古・美術史・文献史学など学際的に解明。
2008 / A5判 / 322頁

考古学の分野を研究する著者が、小説や古典芸能などに描写された考古学的要素や、それらの背景となった歴史のあるいは文化的な背景について、考古学的に接近を試みる。民話、民謡なども広義の文学として取り扱い、文学と考古学の間に生まれる新たな可能性を提示。図版多数。

史 料

安井小洒校訂

蕉門珍書百種・和露天庫〔全7巻〕

附総索引

1971／B6判／総3700頁
36,750円（本体35,000円）ISBN4-7842-0082-7

本書は、明治大正に神戸の鉄材商にして俳人、古俳書蒐集で著名であった川西徳三郎（俳名和露）氏の和露天庫蔵の珍書のうち、元禄板行の井筒屋本の俳書を中心に、大正末から昭和4年にかけて安井小洒の正確な校訂のもと出版されたものの復刻である。底本は現在天理大学綿屋文庫のもの。

近衛通隆・田山方南監修／陽明文庫編

陽明叢書国書篇〔全15輯・全16冊〕

1975～1978／菊判／平均520頁
揃 198,975円（本体189,500円）

藤原氏の嫡流である近衛家に歴代集積・収蔵されて来た貴重な史料や文献は、今日、陽明文庫と命名され保存されている。この文庫の内から特に国文学に関係深いものを選び、専門家諸氏の解説を得て写真複製本として公刊。

第1輯 古今和歌集 11,550円（本体11,000円）

第2輯 後拾遺和歌集 13,125円（本体12,500円）

第3輯 千載和歌集・長秋詠藻・熊野懷紙
10,710円（本体10,200円）

第4輯 平安歌合集（全2冊）
揃 22,680円（本体21,600円）

第5輯 中古和歌集 13,440円（本体12,800円）

第6輯 中世和歌集 12,390円（本体11,800円）

第7輯 和漢朗詠集・新撰朗詠集
11,340円（本体10,800円）

第8輯 古楽古歌謡集 12,390円（本体11,800円）

第9輯 伊勢物語・大和物語 11,340円（本体10,800円）

第10輯 枕草子・徒然草 14,490円（本体13,800円）

第11輯 保元物語 13,965円（本体13,300円）

第12輯 平治物語・明德記 12,600円（本体12,000円）

第13輯 宇治拾遺物語 11,340円（本体10,800円）

第14輯 中世国語資料 14,490円（本体13,800円）

第15輯 大手鑑・予楽院臨書手鑑
13,125円（本体12,500円）

近衛通隆・田山方南監修／陽明文庫編

陽明叢書国書篇 第十六輯 源氏物語〔全16冊〕

1979～1982／菊判／平均430頁
揃 153,300円（本体146,000円）

『陽明叢書国書篇全十五輯』に引き続き、第十六輯として、青表紙本系にも河内本系にも属さぬ別本として貴重な本文を伝える重要文化財指定「源氏物語」（鎌倉中期書写、陽明文庫収蔵）を原本さながらに写真版で収録、復刻を加え上梓。

徳川黎明會編

徳川黎明會叢書〔全12冊・別冊1〕

1985～／A5判／平均450頁
既刊揃 155,400円（本体148,000円）

徳川黎明會は、昭和6年尾張徳川家第19代侯爵徳川義親公により創立された。本叢書は、同財団所蔵の徳川家伝来あるいは蒐集の膨大な史料の中から、国文学、書道、美術資料として貴重な典籍を精選し、未公開のものを中心にまとめた。

絵巻聚成(一)	物語篇一	13,650円（本体13,000円）
古今和歌集	和歌篇一	13,650円（本体13,000円）
私家集・歌合	和歌篇二	12,600円（本体12,000円）
八代抄・新後拾遺和歌集	和歌篇三	14,700円（本体14,000円）
桐火桶・詠歌一鉢・綺語抄	和歌篇四	14,700円（本体14,000円）
和歌題林抄・三千首和歌・萱草	和歌篇五	14,700円（本体14,000円）
玉海・尾陽	古筆手鑑篇一	14,700円（本体14,000円）
蓬左・霜のふり葉・八雲	古筆手鑑篇二	13,650円（本体13,000円）
藁叢・桃江・文車	古筆手鑑篇三	14,700円（本体14,000円）
鳳凰台・水荳・集古帖	古筆手鑑篇四	13,650円（本体13,000円）
古筆聚成	古筆手鑑篇五	14,700円（本体14,000円）

【未刊】絵巻聚成(二) 物語篇二 第12回配本／索引（別冊）第13回配本

部矢祥子編著

源通具全歌集

1987 / A5判 / 236頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN4-7842-0478-4

各所に散在する源通具の歌を一堂に取め、詠作一覧、通具関係史料抄、源通具古筆切・和歌懐紙並びに消息、年譜、歌語索引、和歌索引を付す。特に克明な年譜は学界に未紹介のものであり、本書はいわば源通具に関するエンサイクロペディアである。

伊井春樹編

古筆切資料集成〔全6巻〕

1989～1993 / A5判 / 平均470頁
揃 51,450円 (本体49,000円)

奈良・平安・鎌倉の貴重な古写本や卷子本が解体され、室町末期から江戸初期にかけて大量に出回った古筆切。本書では現物及び複製出版など、今日までに刊行されたものから、一葉ごとに忠実に翻刻し、作品別・伝称筆者順に集成。最終巻には補遺と共に詳細な索引を付す。

大阪青山短期大学所蔵品図録 第一輯

1994 / A4判変型 / 350頁
8,155円 (本体7,767円) ISBN4-7842-0744-9

古典籍の取集で知られる同短大所蔵の貴重史料の紙上展覧。明月記(藤原定家) / 拾遺和歌集 / 陸放翁詩集〔以上重文〕光厳天皇書状 / 新田義貞訴願状 / 瑜伽師地論 / 悉曇略記〔以上重美〕のほか宸翰・古文書・古筆切・写経・仏典・絵巻・奈良絵本・典籍など274点を収録。カラー図版108点。

國枝利久編

続撰吟集諸本の研究

1999 / A5判 / 600頁
13,650円 (本体13,000円) ISBN4-7842-1027-X

『続撰吟集』は徳大寺実通が天文9年2月から同10年3月にかけて同家所蔵の詠草類を中心に全8冊約3,400首に編集して書写したもので、『新編国歌大観』にも未収録の貴重史料。本書では陽明文庫本を底本として翻刻し、その他諸本とも厳密な校合を行なった。詳細な解説と初句索引を付載。

田中 登 編

平成新修古筆資料集

第一～四集【第一集品切】
2000～ / A5判 / 平均260頁
①2,730円 (本体2,600円) / ②～④2,625円 (本体2,500円)

古筆切は国文学の研究上重要な資料であり、また優れた美術品でもある。それらは古筆を愛する人々や必要とする人々の共有財産となるべきとの観点から、編者蒐集の所蔵品の中から各約120点を解説と図版で分かりやすく紹介。

小林 強・高城弘一 共著

古筆切研究

第一集
2000 / A5判 / 280頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1040-7

近年、古筆切に対する関心が高まりさまざまな研究がなされてきた。本書は著者蒐集の古筆切の選りすぐりの50点を紹介。1点ごとに影印・解題・釈文の他、関連資料についても言及し、詳細な解説を加える。古筆学研究者のみならず、国文学・書誌学・書学・書道史の研究者にとっても必読の書となろう。

宗政五十緒責任編集

うたひせう - 調詞抄 - 〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書2
1981 / A5判 / 総1700頁
揃 35,700円 (本体34,000円)

文禄4年豊臣秀次の命により開始された謡曲注釈事業により成立した『うたひせう』。龍谷大学所蔵『調詞抄』は『うたひせう』の成立間もない慶長3・4年の丸山分庵による書写で、本書はその影印本である。桃山期の文化を窺い、当時の言語現象を把握するための不可欠の資料。解説・曲名索引付。

大取一馬責任編集

平家物語〔全4冊〕

龍谷大学善本叢書13
1993 / A5判 / 平均520頁
44,100円 (本体42,000円) ISBN4-7842-0794-5

龍谷大学図書館所蔵写字台文庫旧蔵の「平家物語」全12巻を影印で収録。同書は語り本系一方流諸本の中で覚一本の最善本として高く評価され、文学的にも最も完成された伝本といわれる最古写本。岩波本「日本古典文学大系」の底本となったものである。

家郷隆文責任編集

四十人集〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書18
1998 / A5判 / 総2100頁
50,400円 (本体48,000円) ISBN4-7842-0970-0

本四十人集は平安～鎌倉期にかけての歌人41人の私家集を書写した40冊の叢書で、澄月や小澤蘆庵の門人らが書写し、さらに蘆庵による朱筆の校合・訂正が加えられ、伝本研究のみならず蘆庵の仮名遣いの訂正など興味深い史料である。全冊を影印で取め、各冊に収録分の解説を併載。

秋本守英責任編集

類聚古集〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書20
2000 / B5判 / 総1800頁
59,850円 (本体57,000円) ISBN4-7842-1041-5

万葉集研究に不可欠の孤本『類聚古集』(国宝)を新撮によって完全収録。上段に原本影印、下段に書写状態を完全に反映させた翻刻を取めた。索引篇の各句索引では、本文のみならず朱書き・傍記・異本表記からも検索可能なものを備え、さらに逆引き索引も併載。同冊には研究論文2篇を加える。

大取一馬責任編集

詞源要略・和歌会席

龍谷大学善本叢書24

2004 / B5判 / 290頁

19,950円 (本体19,000円) ISBN4-7842-1196-9

室町後期の清原宣賢による自筆二点の史料を影印と翻刻で収録。和歌に関する分類体としての辞書である『詞源要略』と和歌作法書としての『和歌会席』は、いずれも清原家の和学(古典学)の成果であり、歌学史・辞書史の基本史料。

安藤 徹 責任編集

三条西公条

源氏物語細流抄

自筆稿本

龍谷大学善本叢書25

29,400円 (本体28,000円) ISBN4-7842-1234-5

『細流抄』を親本とした三条西実隆の『源氏物語』講釈の聞書にもとづき、子の公条が注釈書の草稿として作成したものと考えられる。三条西源氏学の歴史や『源氏物語』注釈史を考察する上で貴重な資料。影印と全文翻刻を収録
2005 / B5判 / 706頁

大取一馬責任編集

太平記

龍谷大学善本叢書26

2007 / A5判 / 794頁

15,750円 (本体15,000円) ISBN978-4-7842-1365-8

龍谷大学図書館所蔵の『太平記』は、室町時代末期の写本で、巻1から巻12までの12冊である。現在の分類では丙類の天正本系統に分類され、国立国会図書館蔵義輝本と同じ祖本をもつ伝本であるという位置づけがなされている。また当該本は寫字臺文庫本の一つである。全冊を影印で収録。

改造社関係資料研究会(代表・犬塚孝明)編

光芒の大正

川内まごころ文学館蔵

山本實彦関係書簡集

5,250円 (本体5,000円) ISBN978-4-7842-1459-4

大正デモクラシーの寵児、『改造』を創刊した山本實彦。川内まごころ文学館蔵の彼または改造社宛書簡のうち、雑誌が光り輝いた大正8(1919)～昭和5年(1930)までの書簡を活字化。収録書簡132通の差出人は小説家、学者、思想家など。
2009 / A5判 / 290頁

個人著作集・全集

三宅清編纂

ふじたにみつえ

新編 富士谷御杖全集〔全8巻〕

1979～／菊判／平均650頁

揃 120,435円 (本体114,700円)

昭和11～15年に国民精神文化研究所から「富士谷御杖集」5巻が出版。本書は、その復刻に新資料を加えたもの。江戸中期の国学者にして歌人、富士谷御杖が、彼独自の解釈学・歌学を樹立していったかを知る絶好の史料である。

能勢朝次著作集編集委員会編

のせあさじ

能勢朝次著作集〔全10巻〕

1981～1985 / A5判 / 平均450頁

揃 60,795円 (本体57,900円)

近世の俳諧に始まり和歌・連歌に及び、遂に中世能楽の源流を究め能楽論の系譜を解析、名著『能楽源流考』を著した博士の全貌を窺う、能勢学の集大成。

高橋貞一著

高橋貞一国文学論集

1982 / A5判 / 376頁

7,875円 (本体7,500円) ISBN4-7842-0195-5

『平家物語諸本の研究』という画期的な名著をはじめ、『保元物語』『平治物語』は勿論、『義経記』『太平記』など軍記物の研究では他の追随を許さぬ高橋貞一博士の古稀記念出版。本書には、氏の主領域を越えて国文学全域に注がれた氏の考察を窺える諸論稿22篇と六代勝事記新註を収める。

上 代

桑原祐子著

正倉院文書の国語学的研究

2006 / A5判 / 300頁

5,670円 (本体5,400円) ISBN4-7842-1275-2

正倉院文書は、原本の存在、編纂物ではない、多種多様な内容、多量の同類文書・帳簿の存在、筆録者と年月日が特定できるなど、他の古代国語資料にはない特質を持つ。本書は具体的な語彙に注目、文字の形態と語の意義の関係を明かし、新語の発生・ゆれ・定着の過程を実証し、語の変遷を考察。

高橋貞一校訂

平家物語百二十句本

1973 / A5判 / 668頁
4,200円 (本体4,000円) ISBN4-7842-0135-1

百二十句本の伝本は、古く国会図書館蔵の九冊本と京都府立総合資料館蔵本が知られ、更に天理大学蔵本(大島氏・鍋島家旧蔵)、安田文庫蔵本と国会図書館蔵本(古典文庫影印)が加わった。本書は総合資料館蔵本の翻印で、平仮名本である性質上、平家物語研究者のみならず、国語学的にも貴重。

高橋貞一著

続 平家物語諸本の研究

1978 / 菊判 / 610頁
10,290円 (本体9,800円) ISBN4-7842-0175-0

昭和18年『平家物語諸本の研究』において注目された著者が長い間の平家物語伝本の研究の成果を再び学界に問う。

【第1章】一流より八坂流へ移る初期の諸本【第2章】八坂流甲類諸本【第3章】八坂流乙類諸本【第4章】増補せられた諸本【第5章】その他の研究【第6章】附載論文

中川浩文著作集 上巻

竹取物語の国語学的研究

1985 / A5判 / 402頁
10,500円 (本体10,000円) ISBN4-7842-0197-1

国語学者としての冷徹な眼と俳句結社青玄同人としての天性の叙情豊かな文芸精神とを基盤に、語彙論、意味論、文法論、文体論、文章論、物語文学、和歌文学、仏教文学という広範囲にわたる領域ですぐれた業績を遺した氏の、竹取物語に関する論考9篇と助詞・助動詞に関する論考6篇を収める。

中川浩文論文集 下巻

源氏物語の国語学的研究

1985 / A5判 / 552頁
14,700円 (本体14,000円) ISBN4-7842-0198-X

京都女子大学、龍谷大学で教鞭をとり、物語文学・和歌文学・仏教文学の国語的研究・指導に励んだ氏の遺稿のうち、源氏物語の表現と語法の論考12篇、和歌『元輔集・紫式部集』に関する論考4篇、仏教文学、主として和讃に関する論考8篇を収める。付・中川浩文略歴・著作目録

鈴木弘道著

平安朝文学とその周辺

1989 / A5判 / 380頁
8,925円 (本体8,500円) ISBN4-7842-0558-6

平安朝末期の物語研究を中心に研究を進めてきた著者の未刊の論考をまとめる。本来の研究領域だけでなく、「源氏物語」「枕草子」など、平安朝文学全般にわたる論考6篇と、随想その他4篇、巻末には鈴木弘道略年譜・鈴木弘道著作目録を収める。

高橋貞一著

平家物語覚一本新考

八坂流本の成立流伝
1993 / A5判 / 418頁
10,080円 (本体9,600円) ISBN4-7842-0785-6

平家物語は、その流派独自の語り本が成立・流伝する中で、様々な異本が存在した。本書では12巻の覚一本を最も信憑すべき伝本と見、覚一本を読む中で気づいた諸点をあげながら、その成立根拠を確認し、覚一本から派生した八坂流本の成立流伝に注目すべき本文を引用して、比較・検討した。

秋本守英著

仮名文章表現史の研究

1996 / A5判 / 230頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN4-7842-0902-6

王朝仮名文学とその影響下に成立した作品の文章表現を対象に〈文章表現史〉研究の方法論の確立を試みる

【内容】仮名文章表現史の対象と方法／仮名文章の草創／和歌的枠組による仮名文章の形成／仮名文章体の成立／仮名文章体の形成要素／仮名文章の展開

角田文衛・加納重文編

源氏物語の地理

1999 / A5判 / 436頁
6,510円 (本体6,200円) ISBN4-7842-1010-5

作品の世界を交差する虚構と実在。等閑視されてきた源氏物語の地理的考察において創始的な研究論文を集成。作品中に形象した地理的世界を把握。【執筆】玉上琢彌／長谷章久／角田文衛／増田繁夫／加納重文／大井重二郎／原田敦子／小山利彦／森本茂／池浩三／高橋和夫／奥村恒哉／福嶋昭治

西崎 亨 著

訓点資料の基礎的研究

1999 / A5判 / 530頁
18,900円 (本体18,000円) ISBN4-7842-1001-6

不空羅索神呪心経・金光明最勝王経・三教指帰・古文孝経・論語抄・和漢朗詠集・音義断簡などの諸資料にみられる訓点についての貴重な基礎研究22篇を収録。

鈴木徳男著

としよりずいのう

俊頼髓腦の研究

2006 / A5判 / 300頁

8,400円 (本体8,000円) ISBN4-7842-1296-5

国文学研究資料館編

源氏物語 千年のかがやき

2008 / A4判 / 168頁

1,995円 (本体1,900円) ISBN978-4-7842-1437-2

川崎佐知子著

『狭衣物語』 享受史論究

2010 / A5判 / 650頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN978-4-7842-1486-0

伊井春樹編

一千年目の源氏物語

シリーズ古典再生 1

2008 / 四六判 / 252頁

1,680円 (本体1,600円) ISBN978-4-7842-1408-2

岡野弘彦編

日本の心と源氏物語

シリーズ古典再生 2

2009 / 四六判 / 246頁

1,890円 (本体1,800円) ISBN978-4-7842-1412-9

山中裕編

歴史のなかの源氏物語

シリーズ古典再生 3

2011 / 四六判 / 310頁

2,310円 (本体2,200円) ISBN978-4-7842-1423-5

『俊頼髓腦』は、源俊頼の著した平安後期の歌学書である。本書は、先行歌書や歌学的知見の受容という観点からその構造を分析、その享受・影響を考察し、それぞれ『俊頼髓腦』の和歌史的意義を浮き彫りにしたものである。付録として伝本の性格を検討した二論を加える。

新出の国文学研究資料館蔵『源氏物語団扇画帖』全54枚をカラーで掲載し、詳細な解説を付す。あわせて図様が近似する他の源氏絵についても参考資料として多数掲載。描く・書き写す・鑑賞するという3つの観点から、源氏物語が千年間どのように享受されてきたのか、豊富なカラー図版で紹介。

平安朝後期物語の『狭衣物語』の受容の様相を文献学的見地から分析検証し、連歌師紹巴が天正18年に著した『狭衣下紐』を享受史の中核に位置づけた一書。陽明文庫蔵『狭衣下紐』2種、宮城県図書館伊達文庫蔵『狭衣物語抄』など未紹介資料5種を全文翻刻掲載。物語学研究会の新スタンダード。

たんなる古典復興ではなく、それらの作品を現代の眼でもう一度見直して再生することを目指して開催された国文学研究資料館主催シンポジウム「一千年目の源氏物語」、思文閣出版・京都新聞社主催シンポジウム「私の源氏物語」をもとにし、斯界の識者による「源氏物語論」を集約。

歌人である編者が源氏物語に表れた日本の心を読み解く。[内容]『源氏物語』から読む日本人の心の伝統(岡野弘彦)『源氏物語』(グレート・ブックス)の演習方法と実際(須賀由紀子)民俗学から読む『源氏物語』(松田幸義)『源氏物語』の感染教育力(江藤裕之)ネットワーク時代の源氏物語(犬塚潤一郎)

撰閲時代の文化のあり方、女流日記と女房文学の本質、とくに藤原道長の存在と紫式部との関係に重点を置いた編者渾身の『源氏物語』論を第一部とし、第二部以降では、准拠論、節会の本質と意義、年中行事・通過儀礼の宴と儀式の本質など、15人の気鋭が、最新の研究成果を展開する。

中世

谷山茂著

中世和歌つれづれ

1993 / 四六判 / 380頁

3,059円 (本体2,913円) ISBN4-7842-0787-2

谷山茂著

中世和歌の想念と表現

1993 / A5判 / 450頁

10,080円 (本体9,600円) ISBN4-7842-0786-4

高橋貞一校訂

新校 太平記 [全2巻]

1976 / 菊判 / (各) 650頁

(各) 9,975円 (本体9,500円)

上 (ISBN4-7842-0170-X) 下 (ISBN4-7842-0171-8)

和歌研究の泰斗である著者が折りに触れて書き留めてきたエッセイ(健忘症と白桃/英国とセイロン/親爺の下駄ほか)をはじめ、歌誌『帯木』などで発表した和歌に関する小論、和歌研究者の著書に寄せた序・解題、大阪市立大学・京都女子大学時代の思い出など、短篇47本を収める。

【内容】歌の家/和歌史/幽玄/妖艶と幽玄/藤原俊成の研究/俊成の幽玄と優艶と長高/常識的天才藤原俊成/『千載集』類伝本考/新古今一本歌考/後鳥羽院/藤原定家/『明月記』の一零本について/宗尊親王の文応三百首と未刊百首/伊経筆『三百六十番歌合』の新出奥書について/異本『忠盛集』解題/『公重集』解題/内裏百番歌合承久元年 ほか

室町末期成立の四十巻本である現在の「太平記」。その旧態をとどめる古写本の印行は、神田本と西源院本のみである。この神田本によって増補された所を旧形に復し、その欠失する巻々を西源院本によって補い、更に今川家本相承院本等を参照して誤説を訂正、旧態の「太平記」の提示を試みる。

高橋貞一著

太平記諸本の研究

1980 / 菊判 / 860頁
15,750円 (本体15,000円) ISBN4-7842-0181-5

大取一馬編著

新勅撰和歌集古注釈とその研究 [全2巻]

1986 / A5判 / 総2342頁
47,250円 (本体45,000円) ISBN4-7842-0416-4

牧野和夫著

延慶本『平家物語』の説話と学問

2005 / A5判 / 402頁
12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-1258-2

白幡洋三郎編

百人一首万華鏡

2005 / B5判 / 196頁
2,520円 (本体2,400円) ISBN4-7842-1223-X

大取一馬編

中古中世和歌文学論叢

龍谷大学仏教文化研究叢書9
1998 / A5判 / 300頁
8,190円 (本体7,800円) ISBN4-7842-0983-2

大取一馬編

中世の文学と学問

龍谷大学仏教文化研究叢書15
2005 / A5判 / 492頁
8,820円 (本体8,400円) ISBN4-7842-1271-X

糸井通浩編

日本古典随筆の研究と資料

龍谷大学仏教文化研究叢書19
2007 / A5判 / 482頁
7,560円 (本体7,200円) ISBN978-4-7842-1349-8

日下幸男編

中世近世和歌文芸論集

龍谷叢書15
2009 / A5判 / 432頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1446-4

小田 剛著

実国・師光全歌注釈

2009 / A5判 / 608頁
18,900円 (本体18,000円) ISBN978-4-7842-1478-5

酒井茂幸著

禁裏本歌書の蔵書史的研究

2009 / A5判 / 344頁
5,880円 (本体5,600円) ISBN978-4-7842-1483-9

本書は、「太平記」の諸伝本を四系統に大別し、それぞれの伝本の性質、成立事情を考究、またその出典を国書、漢籍、仏典と分類して総合的に検討する。「太平記」の性格を究明し、その基礎的研究としては空前のものである。

定家晩年の独撰になる新勅撰和歌集は、中世歌壇の主流派である二条家の人々に重んじられた。そのよみを深め、定家歌論の到達点や新古今集から新勅撰集への展開を確認するためには、古注釈を座右に備え、各注釈に対する知見も整理しておくことが要請される。その要請に取り組んだのが本書。

延慶本『平家物語』を中心に『親快記』『源平盛衰記』、長門本『平家物語』などと比較し、中世説教資料や唱導の問題に関する論考を収録。

日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首。その歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりをさぐる。テーマにそった版本、各種カルタ、翻訳本など、カラー口絵・図版多数収録。国際日本文化研究センターの共同研究。

四十人集の調査・研究過程で各執筆者が見出したテーマ。中古中世の和歌の理念や特質、古代和歌受容の問題、作品の成立や解釈に関わる問題、新出資料の価値や散佚私家集を解明する9篇。**【執筆者】** 家郷隆文/石原清志/大取一馬/日下幸男/部矢祥子/中西潔/小林強/木村初恵/安井重雄

中世の文学や学問の特質の一端を考察し明らかにする。**【執筆者】** 大取一馬 **中世の学問** 三輪正胤/安井重雄/来田隆 **中世の文学** 鈴木徳男/小山順子/忠住佳織/松田美由貴/浜畑圭吾/宮川明子 **中世の作品の享受とその展開** 西山美香/中條敦仁/小林強/万波寿子/日下幸男

龍谷大学図書館所蔵の日本古典随筆に関する伝写本を調査した研究プロジェクトの成果。「枕草子」「徒然草」雨森芳洲『交隣提醒』についての論文7篇。古典随筆伝写本5本を翻刻。**【執筆者】** 安藤徹/東望歩/外山敦子/糸井通浩/木村雅則/朝木敏子/山崎泰正/忠住佳織/万波寿子/雨森正高

編者の華甲記念として、関西を中心に活動する近世和歌輪読会による17篇。**【執筆者】** **中世篇** 安井重雄/阿尾あすか/長谷川千尋/長谷川薫 **近世篇** 大谷俊太/岡本聡/藤本孝一/海野圭介/小高道子/日下幸男/西田正宏/神作研一/盛田帝子/久保田啓一/中川豊/加藤弓枝/万波寿子

千載・新古今歌人の一人である藤原実国(1140年~1183年)、源師光(生没年未詳)の全歌注釈を試みる。歌(及び詞書など)の本文については、実国集「神宮文庫蔵本」、師光集「三手文庫蔵本」などによった。注釈は、校異、語注、(口語)訳、本歌・本説、補説・参考事項、類歌などを掲載。

禁裏本の総体を蔵書群として捉え、同時代の公家日記や古歌書目録類を援用しつつその伝来の歴史を跡付ける。また、禁裏における歌学や古典文学の注釈・講釈に注目し、古典学の変遷を叙述する。中世後期以降、歴代天皇がどのような歌書を求め、書写し、収蔵していったかを明らかにする一書。

西崎亨著

くしゃろんおんぎ

俱舎論音義の研究

2010 / A 5判 / 410頁

9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1509-6

逸翁美術館編

絵巻 大江山酒呑童子・芦引絵の世界

2011 / A 4判 / 96頁

1,050円 (本体1,000円) ISBN978-4-7842-1591-1

大取一馬編

典籍と史料

龍谷大学仏教文化研究叢書 28

2011 / A 5判 / 686頁

8,925円 (本体8,500円) ISBN978-4-7842-1592-8

『俱舎論音義』は『阿毘達磨俱舎論』と『俱舎光記』から難解な単字や熟字である漢字を抽出して、その音・訓について註釈を加えた巻音義。語彙史料として、鎌倉初期国語アクセント資料としても有益な史料である。主な写本について、影印(写真版)と模写で掲載、論考と各種索引を付す。

2011年9月17日～12月4日まで逸翁美術館で行われた同名の展覧会図録。逸翁美術館所蔵「大江山絵詞」(重文)とサントリー美術館所蔵「酒伝童子絵」を各々全巻カラー掲載し、酒呑童子絵巻の二大系統を対比。館所蔵「芦引絵」(重文)など、逸翁小林一三の絵巻コレクションを一挙公開。

1961(昭和36)年、親鸞聖人大遠忌記念事業の一環として開設された、龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による、真宗学・仏教学・史学・国文学等の分野にまたがる広汎な仏教文化の最新研究成果。

近 世

山本唯一著

芭蕉の文墨

その真偽

1997 / 四六判 / 202頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-0947-6

村上素道編

増補 蓮月尼全集

1980・2006 / A 5判 / 770頁

12,600円 (本体12,000円) ISBN4-7842-0182-3

石川透著

入門 奈良絵本・絵巻

2010 / B 5判 / 126頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN978-4-7842-1531-7

山口恭子著

松花堂昭乗と瀧本流の展開

2011 / A 5判 / 356頁

9,030円 (本体8,600円) ISBN978-4-7842-1559-1

新出『奥の細道』は芭蕉真筆か——新出版に対する著者の考えを豊富な事例をあげつつ述べるとともに、偽物が多いと定評のある芭蕉作品の真偽をめぐる諸種の話を披露する。

江戸末期の歌人、大田垣蓮月は、次々と肉親と死別し、出家の後孤高の生涯を送るが、その作風は閑雅、清新、また作陶でも知られ、多芸の人であった。本書は、蓮月の歌、消息、伝記を取めた『蓮月尼全集』(昭和2年)に、新たに発見された歌集、書画帖(花くらべ)、消息51通を増補。【2刷】

思文閣美術館において開催された「奈良絵本・絵巻の宇宙展」の展覧会図録。元禄年間に京都で活躍した女性絵師、居初つな存在を明らかにした作品も収載。御伽草子から王朝物語、軍記物語、歌集、幸若舞曲、仮名草子などにわたる奈良絵本・絵巻の世界を、簡単な解説とカラー写真で紹介。

松花堂昭乗の書は瀧本流と呼ばれ、近世の書文化を席卷する一大書流へと成長していった。昭乗と瀧本流の書について造型的な面のみならず、昭乗の著述した文芸作品、瀧本流の法帖など、文献資料や版本に対する検討を行い、近世の書道史、出版史、文化史など広範な研究分野に新しい知見を提供。

近 代

与謝野光著

晶子と寛の思い出

1991 / 四六判 / 270頁

1,835円 (本体1,748円) ISBN4-7842-0668-X

与謝野晶子没後50年に際し、明治35年生まれの名長男が、家庭における寛(鉄幹)と晶子、そして新詩社に集まった多彩な浪漫派歌人たちの思い出を語る。

【2刷】

岩城之徳監修／遊座昭吾・近藤典彦編

石川啄木入門

1992／B5判変／164頁
2,039円 (本体1,942円) ISBN4-7842-0743-0

和田茂樹監修・和田克司編

正岡子規入門

1993／B5判変／120頁
2,039円 (本体1,942円) ISBN4-7842-0768-6

山口誓子著

新撰大洋

1996／四六判／244頁
3,873円 (本体3,690円) ISBN4-7842-0904-2

柴田奈美著 (第17回俳人協会評論賞)

正岡子規と俳句分類

2002／B5判／568頁
18,900円 (本体18,000円) ISBN4-7842-1097-0

田島和生著 (第20回俳人協会評論賞)

新興俳人の群像

「京大俳句」の光と影
2005／四六判／298頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-1251-5

井波律子・井上章一編

幸田露伴の世界

2009／A5判／328頁
5,250円 (本体5,000円) ISBN978-4-7842-1444-0

増田裕美子・佐伯順子編

日本文学の「女性性」

二松学舎大学学術叢書
2011／A5判／232頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN978-4-7842-1549-2

逸翁美術館編

与謝野晶子と小林一三

2011／A4判／94頁
1,050円 (本体1,000円) ISBN978-4-7842-1567-6

伊井春樹著

与謝野晶子の「源氏物語礼讃歌」

2011／四六判／226頁
1,470円 (本体1,400円) ISBN978-4-7842-1568-3

巻頭カラーアルバム16頁をはじめ、300余点に及ぶ写真資料を中心に構成した“目で見る”伝記、作品鑑賞の手引きとなる名作事典、啄木の足跡をたどる歌碑めぐり文学紀行ほか、研究史、年譜などを収録。啄木とその文学を知るには最適の入門書。

写真を中心に子規の生涯をたどる“目で見る”伝記をはじめ、俳句・和歌・漢詩・その他の文章といった子規の創作活動や、夏目漱石との交友など周辺の人々との関わりを解明し、近代俳句の確立者である正岡子規の全体像を明らかにする。

句集『紅日』以後没するまでに発表した、「天狼」発表の481句に外部発表の133句を加えた、誓子最晩年の作品614句を網羅した遺句集の決定版。

正岡子規の古典俳句を網羅した生涯の労作『分類俳句全集』所収の約10万句の中から「寒山落木」所収の子規の俳句約2万句に影響を与えたと思われる句を抜き出し、その実態を年代順に検証し、子規俳句の近代化の過程をたどった労作。

日中戦争から太平洋戦争へと突入した時代、新興俳句運動の旗手とされた同人誌『京大俳句』。しかし昭和15年、言論弾圧法規の治安維持法違反で逮捕者を出し、廃刊に追い込まれた。「幻の終刊号」などの資料をもとに、新興俳句運動が目指したもの、そしてなぜ弾圧されたかを探る。

従来、全面的な研究のなかった露伴。文学面はもちろん都市・遊技・自然観察・人生論等々の著作から多角的にアプローチ。国際日本文化研究センターでの共同研究13篇。【執筆者】井波律子／池内紀／白幡洋三郎／猪木武徳／細川周平／平松隆円／佐伯順子／井上章一／鈴木貞美／岩井茂樹／劉建輝

3年間にわたり、日本文学と女性性の問題を正面から議論した二松学舎大学東アジア学術総合研究所の共同研究プロジェクトの成果。「純文学」からライトノベルまで多様な題材をとりあげる。【執筆者】増田裕美子／市川裕見子／平石典子／佐伯順子／菅聡子／大貫徹／杉山直子／藤木直実／目野由希

2011年4月2日～6月12日に逸翁美術館で開催された同名の展覧会図録。晶子が源氏物語五十四帖それぞれの歌を詠んだ「源氏物語礼讃歌」短冊54枚、そのきっかけになった、上田秋成筆「源氏物語短冊貼交屏風」、それらの由来となる手紙を収録。新しい面からの両者の関係性を紹介する。

「源氏物語礼讃歌」とは、上田秋成他筆「源氏物語短冊貼交屏風」に感銘を受け、与謝野晶子が源氏物語五十四帖それぞれに歌を詠んだものである。本書は「源氏物語礼讃歌」にまつわるエピソードを描くことにより、周辺の人々との交流を浮き彫りにする一書。

比較文学

日本比較文学会編

滅びと異郷の比較文化

1994 / A5判 / 516頁
14,700円 (本体14,000円) ISBN4-7842-0821-6

第一線の比較文化研究者が「滅び」と「異郷」のヴィジョンを東西の文学・文化・美術に探る。

【執筆者】河竹登志夫／大久保直幹／村松定孝／堀江珠喜／相野毅／小川敏栄／剣持武彦／斎藤幸子／館野日出男／森本真一／ジョン・ドーシー／富田仁／相良英明／西村靖敬／蔵本邦夫／小宮彰／松岡直美／飯田正美／今橋映子／榎本義子／前田千悦子／諸坂成利／ソートン不破直子／小田桐弘子／佐藤慶子／杉野元子／佐藤三武朗／山口静一／錢本健二／市川裕見子／盧英姬／村岡正明／沼野恭子／児玉実英／小玉晃一

川本皓嗣編

美女の図像学

1994 / 四六判 / 300頁
3,465円 (本体3,300円) ISBN4-7842-0820-8

容貌の美は、さまざまな文化の中で、それぞれの芸術的表現を与えられてきた。本書では、日韓中米の五人が、女性描写の伝統と美の思想を論じる。【内容】光の女(佐伯順子)ヒロインの図像学(尹相仁)影の女(アダム・カバット)ムスメたちの系譜(満谷マーガレット)朦朧の美学(張競)

太田靖子著

俳句とジャポニスム メキシコ詩人タブラダの場合

2008 / A5判 / 328頁
6,090円 (本体5,800円) ISBN978-4-7842-1404-4

一世紀前にスペイン語でハイクを書いていたメキシコの詩人、ホセ・ファン・タブラダ。いかにして日本の俳句を知り、ハイクを創作するに至ったかを明かし、日本の俳句の本質へいかに接近したか、その評価を試みる。俳句をスペイン語圏に広めながらも、研究の乏しい彼のハイク作品に光を当てる。

工藤貴正著

中国語圏における厨川白村現象 隆盛・衰退・回帰と継続

2010 / A5判 / 380頁
6,300円 (本体6,000円) ISBN978-4-7842-1495-2

厨川白村(1880～1923)の著作が彼の死後、日本では急速に忘れ去られたのに対し、中国語圏(中国、台湾、香港)の知識人たちの間では、今なお知名度が高い。いかに受容・翻訳され、その特徴はいかなるものだったのか、基本的資料を示しながら考察した、厨川白村を軸とした日中台の文学交流史。

坂元昌樹・田中雄次・西槇偉・福澤清編

漱石と世界文学

2009 / 四六判 / 260頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1460-0

「世界文学において漱石をとらえなす」。夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石が日本文学を含め世界文学に与えたインパクト、世界で漱石文学がいかに受容されたのかなども見極める9篇。熊本大学教員を中心とした共同研究。

坂元昌樹・田中雄次・西槇偉・福澤清編

漱石文学の水脈

2010 / 四六判 / 260頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1506-5

漱石文学がどのような思想と背景のもと生み出されたのか、日本を含む東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたか、「<漱石>への水脈」と「<漱石>からの水脈」の二つのテーマから検証する10篇。漱石ゆかりの熊本大学の教員を中心とした共同研究の成果。

坂元昌樹・西槇偉・福澤清編

越境する漱石文学

2011 / 四六判 / 284頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1565-2

「世界」からみた「漱石」「世界」をまなざす「漱石」の2テーマから考察する8篇。【内容】(地方)と(世界)の間で/異文化の対話/「知」の覇権へのまなざし/精神病者をどう描くか/漱石作品と思想/漱石『文學論』の布石/第五高等学校時代の夏目漱石

松村昌家編

谷崎潤一郎と世紀末 大手前大学比較文化研究叢書 1

2002 / A5判 / 212頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN-4-7842-1104-7

日本比較文学会のシンポジウムをもとに、海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。ノルダウの「世紀末」とクラフト=エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。【執筆者】井上健／松村昌家／劉建輝／大島眞木／稲垣直樹／森道子訳／和田桂子訳

武田恒夫・辻成史・松村昌家編
視覚芸術の比較文化
大手前大学比較文化研究叢書 2
2004 / A5判 / 240頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-1187-X

源氏物語からラファエル前派まで、日欧の古代から現代までの文学テキストと絵画・工芸などとの関わりを繙く。ジョージ・S・レイヤード『テニスとラファエル前派の画家たち』の翻訳を収録。【執筆】武田恒夫／切畑健／辻成史／柏木隆雄／六人部昭典／小林宣之／松村昌家／森道子訳

川本皓嗣・松村昌家編
ヴィクトリア朝英国と東アジア
大手前大学比較文化研究叢書 3
2006 / A5判 / 276頁
3,360円 (本体3,200円) ISBN4-7842-1297-3

日本・中国・朝鮮と英国との文化交流誌【内容】ムスメに魅せられた人々／キプリングと日本／交差する両洋の眼差し／中村正直／福沢諭吉におけるW・バジヨット問題／文明史・G・G・セルフとT・B・麻侯礼卿／ミルの On Liberty は明治日本と清末中国でどのように読まれたか ほか

松村昌家編
夏目漱石における東と西
大手前大学比較文化研究叢書 4
2007 / A5判 / 208頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1335-1

明治の文豪、夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋的概念と東洋的概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の文学者たちによる漱石文学論。【執筆】松村昌家／仙葉豊／佐々木英昭／飛ヶ谷美穂子／大高順雄／神田祥子／森道子

川本皓嗣・松村昌家編
阪神文化論
大手前大学比較文化研究叢書 5
2008 / A5判 / 290頁
3,360円 (本体3,200円) ISBN978-4-7842-1398-6

歌枕に詠まれたいにしへの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸——文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【執筆】川本皓嗣／杉橋陽一／辻一郎／岩谷幹子／松原秀江／尾崎耕司／松村昌家

川本皓嗣・上垣外憲一編
1920年代東アジアの文化交流
大手前大学比較文化研究叢書 6
2010 / A5判 / 210頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN978-4-7842-1508-9

大正デモクラシー下の日本では、好景気と安定した国際関係により、海外交流が新展開を見せた。未開拓の部分も多い当時の文化交流の様相を、当該各国の研究者が明かす。【執筆】上垣外憲一／趙怡／松村昌家／金春美／古田島洋介／Cody Poulton／陳凌虹／周小儀／川本皓嗣

川本皓嗣・上垣外憲一編
1920年代東アジアの文化交流Ⅱ
大手前大学比較文化研究叢書 7
2011 / A5判 / 274頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN978-4-7842-1584-3

未開拓な部分が多い1920年代の東アジアの文化交流。当該各国の研究者を結集してその様相を解明する第二弾。演劇・詩歌・文芸などをテーマに東アジアを総観。【執筆】カレン・ローラ・ソーンバー／竹村民郎／程朝翔／周閔／劉岸偉／梁東国／趙怡／岩谷幹子／厳安生

川本皓嗣・上垣外憲一編
比較詩学と文化の翻訳
大手前大学比較文化研究叢書 8
2012 / A5判 / 280頁
今夏刊行

国際比較文学会（ICLA）会長であった故アール・マイナーの追悼と、同じくIDA会長を務めた川本皓嗣大手前大学学長の退官を祝うため、各国から集った研究者の共同論集。詩歌の翻訳から民謡、仏教、獅子舞、ベルシャの涙壺まで、比較文化と翻訳にまつわる事象を様々に論じる。

大澤吉博著
言語のあいだを読む
日・英・韓の比較文学
2010 / A5判 / 550頁
9,450円 (本体9,000円) ISBN978-4-7842-1524-9

東京大学大学院で比較文学の指導に当たり、在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石、漱石を中心とした日本文学の他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。

井上 健 編
翻訳文学の視界
近現代日本文化の変容と翻訳
2012 / A5判 / 300頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN978-4-7842-1600-0

翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。【執筆】山田潤治／私市保彦／柏木隆雄／井上健／中村ともえ／金志映／上西哲雄／ソーントン不破直子／リース・モートン／諸坂成利／依岡隆児

中国文学

神田喜一郎監修／岩城秀夫解説

中国戯曲善本三種

北西廂記・斷髮記・竊符記

1982／A5判／影印580頁／解説20頁

14,490円 (本体13,800円) ISBN4-7842-0196-3

神田氏依古屋所蔵の中国戯曲書のうち、天下の孤本とされる三種を影印刊行。元の時代、王実甫によって書かれ、閔漢卿が統撰した元曲「西廂記」。明の李開先の戯曲で、万暦14年(1586)世徳堂刊の板本「断髮記」。明の張鳳翼の作で、明の継志斎の刊本「竊符記」。

黒田彰著

孝子伝の研究

佛教大学鷹陵文化叢書5

2001／四六判／480頁

3,150円 (本体3,000円) ISBN4-7842-1085-7

孝思想に発した文学としての孝子伝は、中国の哲学や社会制度とも深く関わり、またわが国における説話文学史に大きな影響を与えてきた。本書は、孝子伝と二十四孝の伝存資料の検討および図像資料の紹介などの実証的研究を盛りこんだ最新成果。 【2刷】

吉田富夫著

未知への模索

毛沢東時代の中国文学

佛教大学鷹陵文化叢書14

2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-1291-4

中華人民共和国誕生から文化大革命まで〈毛沢東時代〉の中国文学についてまとめる。毛沢東の模索が挫折したことは明らかだが、模索そのものの意義は、あらためて見直されるはず、との信念のもと、毛沢東時代を問い直す。

2006／四六判／290頁

荒木猛著

きんべいばい

金瓶梅研究

佛教大学研究叢書6

8,925円 (本体8,500円) ISBN978-4-7842-1442-6

中国四大奇書の一つ『金瓶梅』。これまで淫書と目され禁書扱いであったためか、他の小説と比べて研究が遅れていた。本書は、明代の政治・社会の腐敗を暴露したこの小説を、執筆時代・素材・用語・服装など様々な側面から考察。

2009／A5判／496頁

自然科学

三木晴男著

検証地震予知

1987 / A5判 / 176頁
3,465円 (本体3,300円) ISBN4-7842-0471-7

どこがあぶない？ 学者の地震予想はあたるか？ データとファクターによる地震予知的中率はいかほどか？ 世界各国の学術雑誌に掲載された論文の中で地震を予測している論文をとりあげ、何を根拠に、どこでどの程度の大きさの地震が、いつ起こると主張しているのかを要約した異色の一書。

越島哲夫著

木を科学する

1988・1993 / 四六判 / 200頁
2,039円 (本体1,942円) ISBN4-7842-0774-0

抗ガン剤、きのこ、人絹、フィルム、磁気テープ、テレホンカード、ラッカー、アイスクリーム——意外な木の横顔を紹介し、木を科学する面白さを語りながら、未来に向けて、石油に代わる再生可能資源としての木の新しい発想に基づく化学的変換の必要性を説く。 **【2刷】**

奥沢康正・久世幸吾・奥沢淳治共編著

毒きのこ今昔

中毒症例を中心に
 2004 / B5判 / 380頁
4,935円 (本体4,700円) ISBN4-7842-1215-9

きのこ学、菌類学史、きのこ文化人類学に関心をもち、自からもきのこ狩りを楽しむ著者が、毒菌の歴史をひもとき、多数の症例をとりあげて考察し、現代のきのこ中毒学や医療現場での活用をめざした一書。イラスト多数収録。

随筆・随想・その他

森 正隆 著

浪花和尚のえんま帖

1981 / 四六判 / 226頁
1,470円 (本体1,400円) ISBN4-7842-0307-9

あわれせつなき世の人の、なみだぐましくいじらしく、たどりたどりの生きざまを、書きてしるしたえんま帖。大阪市蓮光寺住職の大阪弁人生論。【内容】ただの坊さん／わたしは速達便／きみ、知りたまわずや和尚のこころ／怒りの能力／悲から慈を／パラオ余聞／二千五百年昔の教育ママ／他

三木晴男著

馬となますと私と

1987 / B6判 / 280頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0468-7

西で新馬戦があればかけつけ、東で重賞があれば飛んで行き——競馬愛好家の“ナマズ博士”の著者が折り折りのレースに風俗・世相などを織りまぜ、軽妙そして洒脱に語った楽しいエッセイ集。

町田誠之著

大和の古代史跡を歩く

1990 / 四六判 / 244頁
2,243円 (本体2,136円) ISBN4-7842-0597-7

若い頃から京都で高分子化学や紙の研究に携わってきた著者が、記紀や万葉集をひもときながら、地図とカメラを携え、大和・河内に日本の原風景や心の安らぎを求め訪れる。環境保全を希う和紙博士の紀行エッセイ。地図・写真を掲載した古都散策の好ガイド・ブック。

河野健二著

歴史の地層から

1990 / 四六判 / 220頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0591-8

フランス革命の研究でその名を知られる経済史・社会思想家のエッセイ集。フランス革命からペレストロイカまで、明治維新から大型間接税まで、あるいは、京都の学問など、古今内外の諸問題の本質を歴史家の眼で見すえ、転換期に生きる我々に語りかける。

細川護貞著

魚 雁 集

細川家に残っている手紙
1990 / 四六判 / 252頁
2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-0631-0

魚雁とは手紙・書札の意である。肥後細川家に伝わる膨大な史料の中から、信長・秀吉・家康をはじめ細川幽斎・三斎父子、ガラシャ夫人、春日局、沢庵和尚など、その人物像を生々しく伝える書状類を紹介し、史料に残る興味深い話題を取り上げる。

加藤元一著

科学者の歩める道

1991 / B6判 / 250頁
2,940円 (本体2,800円) ISBN4-7842-0646-9

ノーベル賞候補にもあがった慶応義塾大学医学部・初代生理学教授加藤元一の医科学者・医学教育者としての思い出の記。復刻に際し加藤映一・古川明ほか5氏の対談を収録。

水野精一著

月 と 西 行

老精神科医のみた出世観
1992 / 四六判 / 216頁
2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-0716-3

月に託された西行の想いはなにか——世捨て人・西行の生涯と歌を通して、その遁世と出世観の謎を一精神科医がたどる。【内容】生い立ちと、その家族歴／侍賢門院璋子／幼少時から北面の武士時代／遁世・出家と洛外に住んだ時代／高野山時代／善通寺の時代／伊勢時代／入寂／考察／歌首索引

吉田光邦追想文集刊行会編

吉田光邦 両洋の人

八十八人の追想文集
1993 / A5判 / 374頁
6,510円 (本体6,200円) ISBN4-7842-0797-X

並外れた博覧強記ぶりと、多彩な人間関係で知られる故吉田光邦先生を偲び、交友のあった88名がそれぞれの想い出を綴った「歴史記録としての吉田光邦」。【内容】若き日／共同研究とその周辺／アーツ・クラフツ・インダストリー／博物館／流れはつきず

アルヴィン・マイヤー著／三鼓秋子訳

アウシュヴィッツの子どもたち

1994 / 四六判 / 390頁
2,957円 (本体2,816円) ISBN4-7842-0830-5

1950年生まれジャーナリスト、A・マイヤーは、アウシュヴィッツを生きた子どもたち13人をたずね、インタビューを重ねた。本書は、その子どもたちが当時とその後の人生をいかに生きたかを語る中で、アウシュヴィッツがのこしたメッセージを我々に問いかける。【3刷】

古田紹欽著

燃ゆるん花の美しさ

日々是れ好日

1995 / 四六判 / 250頁

2,650円 (本体2,524円) ISBN4-7842-0862-3

畑を耕す鋤をもつ手に、またペンを意識的にもつ。老眼ながらもまだ読み書きする視力にさほど不自由はない。実は寧ろその読み書きすることに、近頃は余裕をもって楽しみさえもつ。漫然と考え、その考えることを漫然としてまた綴る……

【内容】わたくしの思い(22篇) / 我が信条のこともども(31篇)

古田紹欽著

我生きて今ある命を

1998 / 四六判 / 320頁

2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-0952-2

87歳を迎え、老いてますます盛んな著者が「これまで生き得たことによる荷物のようなもの」と称する近年の小篇36本を収録。日々の暮らし、自然との対話、そして談義も尽きず——老いを楽しむ著者の心意気を伝える好著。

阿南慈子著

ありがとう、あなたへ

2001・2008 / 四六判 / 208頁

1,260円 (本体1,200円) ISBN4-7842-1090-3

多発性硬化症という難病におかされながら、多くのボランティアの口述筆記によって手紙・詩・エッセイ・童話を遺した阿南慈子の作品集。真摯にのちと対峙した中から紡ぎ出されたその言葉は、生命の大切さ、愛することの喜びを語りかける、「今、生きているあなたへ」のメッセージ。【6刷】

田中登 編著

小松茂美 人と学問

古筆学六十年

2002 / A5判 / 256頁

2,310円 (本体2,200円) ISBN4-7842-1120-9

被爆体験の病床で『平家納経』と出会い学究に志し、東京国立博物館を経て古筆学研究所を設立、ついには古筆学を大成した小松茂美の60年におよぶ学問の歩みをたどる。

第1部では、個々の著作に則してその内容と業績を紹介し、第2部では、折り折りの新聞記事と書評など50篇を収録。

古川秀夫編著

現代日本のボランティア像

龍谷大学国際社会文化研究所叢書 I

2002 / A5判 / 200頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-1115-2

本書では研究の立ち後れている国際ボランティア団体に注目。調査の被験者として阪神淡路大震災の被災者救援・復興に関わったボランティアなども含め、ボランティア団体参加者の動機づけ、軽負担ボランティア活動に関する市場などを調査・研究し、望ましいボランティア像を探る。

山上宏之著

人生と芸術の対話

2002 / 四六判 / 170頁

1,890円 (本体1,800円) ISBN4-7842-1105-5

対話・寓話・童話・劇作・詩歌など多彩な方法によって、折り折りの思索の成果を昇華した掌編集

【内容】序にかえて—ドナルド・キーン博士来訪記 / オルダス・ハックスリ論 / 対話—東西の文人 / 人生・宗教・藝術 / 風刺の人生劇 / 古都風物と和英詩

海野謙二編著

野中広務

素顔と軌跡

2002 / A5判 / 300頁

1,890円 (本体1,800円) ISBN4-7842-1126-8

政治に輝かしい足跡を刻んだ野中広務の実像——生い立ち、激動のドラマ、修羅場での数々の秘話を綴りながら、知られざる人間味と剛腕の胸中に迫った本書には、「蜷川革新王国」との長年にわたる闘いや、知事選裏面史、永田町における政治的苦闘など知られざるエピソードも明かす。【2刷】

小谷晋一郎著

英語の談話文法

機能文法の視点より

2002 / A5判 / 358頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-1114-4

筆者がテキストより直接収集した英文の用例により、機能文法 (Functional Grammar by M.A.K.Halliday) を基盤理論として、英語の談話文法論を展開。現代コーパス言語学の成果を紹介するとともに、その数処理により現代英語の特性を明らかにする。

奥沢康正編著

眼病に効く温泉

古い絵葉書とともに辿る目の湯温泉の歴史

2003 / A5判 / 67頁

2,625円 (本体2,500円) ISBN4-7842-1169-1

眼疾患に効く温泉130箇所を紹介。代表的な目の湯温泉を訪ね、紀行文風に温泉療法の効能を説明している。CD-ROMでは、永年蒐集してきた古い温泉絵葉書を画像に取り込み、各温泉地のホームページにもリンク。画像で見ると目の湯温泉の百科事典。【CD-ROM付】

能村庸一著

役者のパートナー マネジャーの足跡

1,995円 (本体1,900円) ISBN4-7842-1204-3

「役者・芸人、生かすも殺すもマネジャーの腕次第。その大切な相棒たちが初めて活字の表舞台に立つ」(藤田まこと)——フジTVの時代劇プロデューサーによる“もう一つの”芸能史。

2004 / 四六判 / 288頁

久曾神昇著

古今和歌集への道

国文学研究七十七年

2005 / 四六判 / 236頁

1,995円 (本体1,900円) ISBN4-7842-1221-3

坪内稔典著

言葉の力

佛教大学鷹陵文化叢書13

2005 / 四六判 / 276頁

2,415円 (本体2,300円) ISBN4-7842-1264-7

白井睦千著

想 音

2006 / 四六判 / 192頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN4-7842-1309-0

清田嘉宣著

私の中の20世紀の外国映画

2006 / A5判 / 230頁

1,995円 (本体1,900円) ISBN4-7842-1314-7

吉江久彌著

ブラームスと芭蕉たち

現代に生きる太古の思想

2007 / 四六判 / 268頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN978-4-7842-1355-9

谷澤忠彦著

情熱の移植医

田中紘一の新たな挑戦

2009 / 四六判 / 256頁

1,680円 (本体1,600円) ISBN978-4-7842-1493-8

芝田藤子著

追憶の記

画家芝田米三と歩んだ人間賛歌の50年

2010 / B5判 / 150頁

2,100円 (本体2,000円) ISBN978-4-7842-1519-5

奈良国立博物館監修 / すずきたみこ著

奈良 千三百年ものがたり

2010 / 四六判 / 292頁

1,680円 (本体1,600円) ISBN978-4-7842-1540-9

兄玉 修 著

天翔ける白鷗 愚中周及の生涯

2010 / 四六判 / 306頁

1,680円 (本体1,600円) ISBN978-4-7842-1541-6

古今集の研究史上、不滅の金字塔を打ち立てた博士の永年にわたる研究生生活を、古今集・歌合・仮名書状・歌学・三十六人集・古筆学・郷土史などの各分野にわたって回顧。近代日本学芸史に足跡を残した研究者との交友、昭和の国文学研究の動向や折々の貴重な証言も書き留められている。

子規・漱石の研究で知られ、俳句グループ「船団の会」代表を務める著者が折々に新聞、雑誌などへ寄稿したエッセイ。「ねんてん」と呼ばれる俳人でもある著者は、流行語や新語を取り入れた斬新な言語感覚で「ニューウェーブ俳句」の第一人者として知られ、本書でもユニークな視点が光る。

源氏物語を読み続けている著者が、平安時代の歴史と文学、紫式部の身辺を丁寧に調べ上げてまとめた力作。巻末付録として藤原氏と紫式部・高階家・藤原宗子の各系図・平安時代の歴代の天皇・動乱・勅撰集の一覧を収める。

著者独自の人生経験、価値観や社会観で珠玉の外国作品85点を永年の熱烈な映画ファンの目で熱い思いを語っている。そこには21世紀を生きる我々に前世紀の映画を通して、今後の生き方を著者の人生観を交えながら、映像文化の中にも人類のあるべき姿、進むべき道を語る。

西鶴・芭蕉研究者の著者が、ブラームス・荘子・芭蕉・タゴールなどの先哲の思想に寄り添い、『善の研究』『饗宴』や宮沢賢治の作品を読み解き、受け継がれている普遍的な思想のすがたをさぐり、今日的な課題を考える道筋の一つを提示する一書。

若き日の「この子をなんとか助けたい」の一念から、生体肝移植術を開発し、確立した情熱の移植医・田中紘一。高校からの親友がその生き様を熱く綴る。シーボルト以来西洋諸国から学んだわが国で、今、田中を中心とする京大チームが、生体肝移植術を世界に発信する。

2006年5月急逝した芝田米三は、須田国太郎に師事し、安井賞を受賞、独立美術協会の中心メンバーとして活躍した洋画家。夫人である著者が、画伯と共に過ごした日々や、ヨーロッパ各国のほか南米・東欧旅行での憶い出を書き綴る。画伯に対する愛情のみならず、創作活動の裏側が綴られている。

奈良国立博物館の解説ボランティアガイドをつとめる著者が、14年間におよぶボランティアの日々、博物館の展示を通して触れた奈良の文化財・歴史の魅力を、繊細なイラストとともに書き下ろしたエッセイ。いきいきとした語り口で、奈良にまつわる、とっておきのエピソードを紹介。

南北朝期、庶民とともに生き、将軍の上洛命令にも従わなかった臨濟僧・愚中周及。映像作家の著者が、時代のなかで苦悩し、雪中坐禅や夜を徹する月下での立禅など、自らの仏法を打ち立てた生涯をたどり、語録ではわかりえない血の通った人間愚中を描ききった意欲作。

品 切 一 覧

書 名	5%税込	刊行年
日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚	13,650 円	2009
原三溪翁伝	16,800 円	2009
京都 芸能と民俗の文化史	7,875 円	2009
キリシタン大名の考古学	3,990 円	2009
日光東照宮の成立	5,985 円	2009
元三大師御籤本の研究	3,570 円	2009
関西モダニズム再考	8,925 円	2008
竹の経済史	4,725 円	2008
ハンサムに生きる (新島襄を語る)	1,995 円	2010
元祖リベラリスト (新島襄を語る)	1,995 円	2008
敢えて風雪を侵して (新島襄を語る)	1,995 円	2007
ひとりは大切 (新島襄を語る)	1,995 円	2005
明治前期の教育・教化・仏教	6,090 円	2008
酔うて候	2,100 円	2008
平安期の願文と仏教的世界観 (佛教学研究叢書)	6,825 円	2008
京都源氏物語地図	840 円	2007
近代新潟におけるキリスト教教育	3,150 円	2007
江戸時代唐船による日中文化交流	9,450 円	2007
中国銅銭の世界 (佛教学院鷹陵文化叢書)	2,520 円	2007
伝統工芸再考 京のうちそと	13,650 円	2007
近世寺社参詣の研究	6,615 円	2007
伊藤孝男の百人一首・競技かるた	1,785 円	2007
仏教 文学 芸能	21,000 円	2006
織豊期の茶会と政治	7,875 円	2006
朝顔明鑑鈔	4,200 円	2006
太宰文学の女性像	2,940 円	2006
十九世紀日本の園芸文化	6,825 円	2006
民芸運動と地域文化	5,145 円	2006
中世京都の都市と宗教	7,140 円	2006
佐々木六角氏の系譜	2,310 円	2006
数奇の革命	2,100 円	2006
柳宗悦と民芸運動	4,830 円	2005
新島襄の交遊	2,940 円	2005
古代神祇信仰と仏教	3,990 円	2005
政治と行政の理論と実際	6,825 円	2005
文化史学の挑戦	13,650 円	2005
日本建築の構造と技法 [全2巻]	26,250 円	2005
中世畿内における都市の発達	6,300 円	2004
絵葉書で辿る日本近代医学史	23,100 円	2004
神仏分離の動乱	2,415 円	2004
近代日本画、産声のとき	3,360 円	2004
煎茶文化考	4,410 円	2004
慚愧の精神史 (佛教学院鷹陵文化叢書)	1,995 円	2004
鹿苑寺と西園寺	3,990 円	2004
五山禅僧伝記集成	9,975 円	2003
茶人と茶の湯の研究	8,610 円	2003
房総風雅史	12,600 円	2003
岩倉使節団の再発見	3,780 円	2003
木村蒹葭堂	2,625 円	2003
与謝蕪村筆「奥の細道画卷」	136,500 円	2002

日蘭交流史 その人・物・情報	15,750 円	2002
奈良絵本（龍谷大学善本叢書）	37,800 円	2002
中国浄土教と浄土宗学の研究	14,700 円	2002
石見銀山	16,275 円	2002
日本中世の政治権力と仏教（思文閣史学叢書）	9,240 円	2001
雑誌『太陽』と国民文化の形成	12,600 円	2001
中国の古代都市文明（佛教大学鷹陵文化叢書）	2,100 円	2001
日本の通過儀礼（佛教大学鷹陵文化叢書）	1,995 円	2001
王朝千年記	1,890 円	2001
東と西の医療文化	8,925 円	2001
竹内栖鳳 近代日本画の源流	5,880 円	2000
中世京都の民衆と社会（思文閣史学叢書）	9,240 円	2000
平成新修古筆資料集 第一集	2,730 円	2000
古代・中世の浄土教信仰と文化	6,930 円	2000
人生工学うらおもて	1,890 円	2000
十二支攷	31,500 円	2000
中世寺社信仰の場	8,190 円	1999
稽徴録	6,825 円	1999
続日本紀の世界	3,045 円	1999
仏教・共生・福祉（佛教大学鷹陵文化叢書）	1,995 円	1999
神々の酒肴 湖国の神饌	3,360 円	1999
明治国家の教育思想	8,400 円	1998
郷土教育運動の研究	10,290 円	1998
佛教福祉研究	8,400 円	1998
経済史文献解題 1997（平成9）年版	11,340 円	1998
経済史文献解題 1996（平成8）年版	10,290 円	1996
寛永文化のネットワーク	3,990 円	1998
神主と神人の社会史（神社史料研究会叢書）	6,825 円	1998
東寺百合文書を読む	2,625 円	1998
和紙文化史年表	4,935 円	1998
日本近世文学研究の新領域	7,140 円	1998
仏教教化研究	15,750 円	1998
歴史の中の病と医学	12,600 円	1997
王者の武装（京都大学総合博物館図録）	900 円	1997
日本眼科学会百周年記念誌 [全7冊]	63,000 円	1997
近代大阪の企業者活動	5,040 円	1997
南蛮学の発見	3,150 円	1997
診療報酬の歴史	15,120 円	1996
美術史を愉しむ	12,390 円	1996
欧米資本主義の史的展開	6,800 円	1996
呪術・科学・宗教	4,200 円	1996
莊園を読む・歩く（京都大学文学部博物館図録）	509 円	1996
中世村落と仏教（思文閣史学叢書）	9,240 円	1996
仏教説話の美術	40,777 円	1996
横井小楠の新政治社会像	3,360 円	1996
日本書紀の世界	2,940 円	1996
現代語訳 啓迪集 [全2冊]	34,650 円	1995
近江の歴史と文化	9,073 円	1995
大阪舎密局の史的展開	6,300 円	1995
旧石器人のアトリエ	2,039 円	1995
死の尊厳	3,975 円	1995
広瀬先賢文庫目録	7,350 円	1995
増訂富士谷御杖の生涯	4,384 円	1995
日本古代国家の展開 上	12,600 円	1995

近代都市公園史の研究	7,136 円	1995
近世思想史研究の現在	12,390 円	1995
近世の女性画家たち	3,873 円	1994
まち祇園祭すまい	3,873 円	1994
医界風土記 関東・甲信越篇	2,548 円	1994
医界風土記 近畿篇	1,937 円	1994
医界風土記 九州・沖縄篇	1,937 円	1994
黄檗版大藏経刊記集	16,800 円	1994
近江の美術と民俗	7,646 円	1994
古代文明と環境 文明と環境 I	2,345 円	1994
斎藤茂吉入門	2,447 円	1994
殿さまのひとりごと	2,854 円	1994
平氏政権の研究 (思文閣史学叢書)	9,240 円	1994
桃裕行著作集 第1巻 (修訂版上代学制の研究)	14,700 円	1994
桃裕行著作集 第2巻 (上代学制論攷)	13,650 円	1993
桃裕行著作集 第4巻 (古記録の研究上)	6,090 円	1988
桃裕行著作集 第7巻 (暦法の研究上)	6,195 円	1990
日本中世の王権と権威 (思文閣史学叢書)	7,140 円	1993
五山文学全集 [全5巻]	68,250 円	1992
近代日本の学校文化誌	2,415 円	1992
医心方の伝来	10,290 円	1991
大阪天満宮史の研究	6,090 円	1991
自筆本 三輪物語	8,766 円	1991
新・漢方処方マニュアル	5,097 円	1991
先史時代の北白川 (京都大学文学部博物館図録)	1,101 円	1991
もう一つの中世像	3,990 円	1991
鎌倉時代の朝暮関係 (思文閣史学叢書)	9,240 円	1991
対外関係と文化交流 (思文閣史学叢書)	10,500 円	1991
松平春嶽未公刊書簡集	12,600 円	1991
増補版 京の医史跡探訪	3,150 円	1991
近代化の推進者たち	10,290 円	1990
近世教育思想史の研究	6,090 円	1990
近世日本の儒教と文化 (思文閣史学叢書)	8,190 円	1990
熊沢蕃山の研究	11,550 円	1990
芸術の理論と歴史	13,650 円	1990
椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡 (京都大学文学部博物館図録)	1,050 円	1989
神名の語源辞典	3,675 円	1989
図説日本医療文化史	39,900 円	1989
日本近代化と真宗地帯の研究	3,780 円	1989
佛光寺の歴史と信仰	15,750 円	1989
夜の解剖室	2,625 円	1989
明治博物館事始め	2,625 円	1989
書 (一) 鑑賞と表現	2,100 円	1980
書 (二) 教え方・学び方	2,100 円	1982
書 (四) 美学と書教育・実技篇	2,100 円	1988
宸翰英華 [全4冊]	102,900 円	1988
江戸の儒学	3,990 円	1988
近世日本の儒学と洋学	8,925 円	1988
近世の学校と教育	7,140 円	1988
字鏡集 [全2冊]	33,600 円	1988
平記・大府記・永昌記・愚昧記 (陽明叢書記録文書篇)	14,700 円	1988
御堂閔白記1 (陽明叢書記録文書篇)	9,975 円	1983
御堂閔白記2 (陽明叢書記録文書篇)	10,290 円	1983
御堂閔白記4 (陽明叢書記録文書篇)	9,450 円	1984

ザ・ヤトイ	7,665 円	1990
鍼灸古典入門	2,940 円	1987
石川九楊作品集しかし	21,000 円	1987
近世復古清涼殿の研究	3,990 円	1987
水車の技術史	2,730 円	1987
図録京都大学文学部博物館	1,050 円	1987
水と人	2,039 円	1987
宮崎圓遯著作集 第1巻 (親鸞の研究上)	6,510 円	1986
宮崎圓遯著作集 第2巻 (親鸞の研究下)	6,510 円	1986
宮崎圓遯著作集 第3巻 (中世仏教と庶民生活)	6,825 円	1987
明治文化と西洋人	10,290 円	1987
北方文化研究報告	102,900 円	1987
杉浦重剛先生	10,500 円	1986
大燈国師語録 [全2冊]	18,900 円	1986
補訂日本建築細部変遷小図録	10,290 円	1986
図説万国博覧会史	7,875 円	1985
紙のふるさとを行く	2,940 円	1985
緒方洪庵と適塾生	2,625 円	1984
天皇親政	5,040 円	1984
雪江禪師語録	4,410 円	1984
日本仏教美術史研究	12,600 円	1984
岡田章雄著作集Ⅰ (キリシタン信仰と習俗)	3,045 円	1983
岡田章雄著作集Ⅱ (キリシタン風俗と南蛮文化)	3,045 円	1983
岡田章雄著作集Ⅳ (外から見た日本)	3,045 円	1984
岡田章雄著作集Ⅴ (三浦按針)	3,045 円	1984
岡田章雄著作集Ⅵ (南蛮随想)	3,045 円	1984
木のはなし	1,890 円	1983
シーボルト参府旅行中の日記	2,940 円	1983
杉浦重剛全集 第1巻	21,000 円	1983
杉浦重剛全集 第3巻	25,200 円	1982
杉浦重剛全集 第4巻	20,475 円	1982
杉浦重剛全集 第5巻	18,375 円	1982
九州の郷土玩具	2,415 円	1982
近代日本の医学	6,090 円	1982
呉秀三	14,700 円	1982
訓註空華日用工夫略集	12,600 円	1982
東嶺和尚年譜 (近世禅僧伝)	6,825 円	1982
鎌倉仏教雑考	10,290 円	1982
日本美術史論究 第3巻 天平・貞観	6,825 円	1980
日本美術史論究 第4巻 藤原・鎌倉	8,400 円	1982
日本美術史論究 第5巻 室町時代	6,825 円	1979
禅林墨蹟	241,500 円	1981
岡山縣古文書集 [全4輯]	37,275 円	1981
中世民衆生活史の研究 (思文閣史学叢書)	7,665 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第1巻 (東山文化の研究上)	10,500 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第2巻 (東山文化の研究下)	8,400 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第3巻 (中世禅林の学問及び文学に関する研究)	9,450 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第4巻 (中世文化とその基盤)	12,600 円	1981
原田伴彦著作集 第2巻 (日本女性史)	3,045 円	1981
原田伴彦著作集 第4巻 (部落問題論)	3,045 円	1981
集古 [全9冊]	60,900 円	1980
京都の医学史 本文篇	18,900 円	1980
禅録慣用語俗語要典	4,200 円	1980
典医の歴史	5,040 円	1980

西陣史	8,925 円	1980
東洞全集	7,875 円	1980
富士川游著作集 第1巻	5,775 円	1980
富士川游著作集 第4巻	6,300 円	1980
富士川游著作集 第5巻	6,300 円	1980
日本医史学雑誌 2	9,975 円	1978
日本医史学雑誌 3	9,450 円	1978
日本医史学雑誌 12	8,400 円	1978
日本医史学雑誌 13	8,400 円	1978
日本医史学雑誌 15	8,400 円	1978
日本医史学雑誌 16	8,925 円	1978
日本医史学雑誌 18	6,825 円	1980
大坂蘭学史話	3,990 円	1979
かぶき論叢	14,175 円	1979
雑誌 茶湯 第1～3号	各 368 円	1969～70
雑誌 茶湯 第4・5号	各 420 円	1971
雑誌 茶湯 第6・7・9～11・14・16号	630 円	1973～79
日本禅宗史論集 卷下之一	15,750 円	1979
日本禅宗史論集 卷下之二	15,750 円	1977
鉄斎米寿記念胎咲墨戯	409,500 円	1979
龍宝山大徳禅寺世譜	4,410 円	1979
手摺木版花鳥風月	336,000 円	1979
額軸鑑賞の知識	5,460 円	1978
禅と思想	5,450 円	1978
近松全集 [全12冊]	84,000 円	1978
日本花押大観	3,045 円	1978
日本経済史の研究	12,600 円	1978
佛教藝術 1号～20号	44,310 円	1978
評註茶窓問話	2,625 円	1978
仏教考古学論攷 第4巻 佛塔編	5,145 円	1977
新撰瓶花図彙 [全2冊] (華道古典名作選集)	5,775 円	1977
立華時勢粧 [全3冊] (華道古典名作選集)	7,875 円	1976
慈雲尊者全集 [全19巻]	157,500 円	1977
郷土玩具種々相	3,360 円	1977
慶長以前の石燈籠	6,090 円	1977
初期古代東北の研究	6,300 円	1977
図録 和紙の文化史年表	525 円	1977
染織史考	3,150 円	1977
染織文様史の研究	5,775 円	1977
徒然草を語る	1,890 円	1977
日本玩具史 [全2冊]	7,770 円	1977
日本染織史	6,090 円	1977
雛祭新考	3,360 円	1977
補訂 枕草子集註	5,460 円	1977
枕草子幻 想定子皇后	2,415 円	1977
和紙文化	2,300 円	1977
建碑記念 文晁遺墨展覧会図録 [全2冊]	36,750 円	1977
九八号古墳 (北墳) 発掘略報告書	2,310 円	1976
禅と美術	10,500 円	1976
正法山誌	3,675 円	1975
新編真宗全書 [全30冊]	163,170 円	1975
絶海語録 第3巻	6,300 円	1975
天馬塚発掘調査報告書	24,675 円	1975
日本建築様式の研究 [全2冊]	15,540 円	1975

歴世服飾図説	9,975 円	1975
大阪人物誌 [全 2 冊]	15,750 円	1974
韓国建築史図録	12,600 円	1974
茶道四祖伝書 茶湯古典叢書	5,775 円	1974
真宗史料集成 全 13 冊	257,199 円	1974
宋元學案・宋元學案補遺人名字號別名索引	7,350 円	1974
日本写経綜覧	8,925 円	1974
日本囊物史	8,925 円	1974
枕草子の婦人服飾	4,725 円	1974
日本画家辞典 [全 2 冊]	21,000 円	1974
石燈籠 全 4 冊	47,250 円	1973
刊本花道書年表	1,050 円	1973
近世禪林僧宝伝 全 3 冊	17,850 円	1973
宋元明清書畫名賢詳伝 全 4 冊	29,400 円	1973
大日本地震史料	12,600 円	1973
日本建築史図録 全 6 冊	57,750 円	1973
日本古写経現存目録	7,875 円	1973
日本災異志	7,875 円	1973
朝鮮医書誌	26,250 円	1973
日本人名辞典	6,825 円	1972
越前人物志 全 2 冊	15,750 円	1972
増訂日本古紙幣類鑑 全 3 冊	26,250 円	1972
増訂日本貨幣史	21,000 円	1972
増補日本医事大年表	8,400 円	1972
体系世界医学史	26,250 円	1972
中国随筆索引	8,400 円	1972
広瀬淡窓	1,365 円	1972
重要美術品等認定物件目録	7,350 円	1972
日本産科叢書	9,450 円	1971
人蔘史 [全 7 冊]	57,750 円	1971
阿波藍沿革史	6,300 円	1971
恵心僧都全集 全 5 冊	39,900 円	1971
葉子文庫 全 10 号	105,000 円	1971
杏林叢書 全 2 冊	10,500 円	1971
稿本日本眼科学史	3,465 円	1971
神祇志料・附考 全 4 冊	17,850 円	1971
神祇全書 全 5 冊	21,000 円	1971
神道叢書 全 3 冊	15,750 円	1971
増補 淡窓全集 全 3 冊	23,100 円	1971
大日本租税志 全 3 冊	17,850 円	1971
朝鮮古書画総覧	24,150 円	1971
東洋史研究文献類目 昭和 9 年度～昭和 16 年度	15,330 円	1971
華岡青洲先生及其外科	6,825 円	1971
百姓一揆の研究 全 2 冊	6,825 円	1971
箕作阮甫	5,775 円	1971
よはひ草 全 6 冊	12,600 円	1971
大阪府誌 全 5 冊	78,750 円	1970
呉氏医聖堂叢書	7,875 円	1970
増訂 古画備考 全 4 冊	31,500 円	1970
古画備考五十音別索引	1,575 円	1970
北越偉人 沙門良寛全伝	6,825 円	1970
越前和紙今昔絵図 和紙文庫	10,500 円	1969

叢書一覽

(頁は本文掲載頁で表示価格は税込)

佛敎大学鷹陵文化叢書 [全20巻・別巻1]

1	仏敎・共生・福祉	水谷幸正	1,995円	【品切】
2	幕末・維新を考える	原田敬一 編	1,785円	29頁
3	吉備と京都の歴史と文化	水野恭一郎	1,995円	31頁
4	日本の通過儀礼	八木 透 編	1,995円	【品切】
5	孝子伝の研究	黒田 彰	3,150円	90頁
6	中国の古代都市文明	杉本憲司	2,100円	【品切】
7	江戸時代の図書流通	長友千代治	2,310円	23頁
8	院政とその時代	田中文英	2,310円	17頁
9	オンドルと暁の国	三谷憲正	1,890円	29頁
10	近世の学びと遊び	竹下喜久男	2,625円	24頁
11	慚愧の精神史	池見澄隆	1,995円	【品切】
12	法然絵伝を読む	中井真孝	1,890円	51頁
13	言葉の力	坪内稔典	2,415円	94頁
14	未知への模索	吉田富夫	2,415円	90頁
15	権者の化現	今堀太逸	2,415円	52頁
16	中国銅銭の世界	宮澤知之	2,520円	【品切】
17	陰陽道の神々	斎藤英喜	2,415円	77頁
18	明治維新史という冒険	青山忠正	2,520円	30頁
19	文学のなかの考古学	門田誠一	2,415円	78頁
20	朝鮮近現代史を歩く	太田 修	1,995円	34頁
別	善導大師と法然上人	水谷幸正	2,520円	52頁

日本古代即位儀礼史の研究	加茂正典	9,030円	12頁
日本古代商業史の研究	中村修也	7,560円	13頁
日中親族構造の比較研究	官文娜	7,560円	13頁
日本古代宮廷社会の研究	瀧浪貞子	12,390円	11頁
摂関時代文化史研究	関口力	9,450円	13頁
律令国家の展開と地域支配	西別府元日	8,610円	12頁
平安時代の古記録と貴族文化	山中裕	9,240円	11頁
源氏物語の史的研究	山中裕	9,660円	12頁
平氏政権の研究	田中文英	9,240円	【品切】
院政期政治史研究	元木泰雄	8,190円	17頁
荘園制成立史の研究	川端新	9,240円	16頁
荘園公領制の成立と内乱	工藤敬一	9,240円	14頁
鎌倉時代の朝幕関係	森茂暁	9,240円	【品切】
中世東寺と弘法大師信仰	橋本初子	10,290円	14頁
対外関係と文化交流	田中健夫	10,500円	【品切】
京都中世都市史研究	高橋康夫	9,240円	14頁
中世民衆生活史の研究	三浦圭一	7,665円	【品切】
中世考古美術と社会	難波田徹	10,290円	56頁
中世京都文化の周縁	川嶋將生	8,190円	14頁
法然伝と浄土宗史の研究	中井真孝	9,240円	51頁
日本中世の王権と権威	伊藤喜良	7,140円	【品切】
中世日本の政治と文化	森茂暁	9,450円	18頁
日本中世の政治権力と仏教	湯之上隆	9,240円	【品切】
中世村落と仏教	石田善人	9,240円	【品切】
中世公家領の研究	金井静香	6,300円	15頁
中世寺社信仰の場	黒田龍二	8,190円	【品切】
中世寺院社会の研究	下坂守	10,290円	17頁
中世後期の寺社と経済	鍛代敏雄	8,400円	16頁
室町期東国社会と寺社造営	小森正明	7,350円	19頁
中世都市共同体の研究	小西瑞恵	6,720円	16頁
中世都市「府中」の展開	小川信	11,550円	16頁
中世村落の景観と生活	原田信男	11,340円	16頁
京都文化の伝播と地域社会	源城政好	8,190円	18頁

中世東国の支配構造	佐藤博信	8,190円	15頁
統中世東国の支配構造	佐藤博信	8,190円	15頁
中世寺領荘園と動乱期の社会	熱田 公	9,450円	17頁
戦国期東国の都市と権力	市村高男	11,340円	15頁
戦国大名武田氏の研究	笹本正治	8,190円	15頁
戦国大名の外交と都市・流通	鹿毛敏夫	5,775円	18頁
戦国期関東公方の研究	阿部能久	5,985円	18頁
中世京都の民衆と社会	河内将芳	9,240円	【品切】
京都の都市共同体と権力	仁木 宏	6,615円	19頁
瀬戸内海地域社会と織田権力	橋詰 茂	7,560円	18頁
東国における武士勢力の成立と展開	山本隆志	6,825円	20頁
幕藩制国家の成立と対外関係	加藤榮一	9,240円	23頁
徳川将軍家領知宛行制の研究	藤井讓治	7,875円	25頁
日蘭交渉史の研究	金井 圓	8,190円	21頁
鎖国時代長崎貿易史の研究	太田勝也	14,490円	22頁
近世日蘭貿易史の研究	鈴木康子	10,080円	24頁
旗本知行所の研究	川村 優	10,290円	21頁
幕藩権力と寺院・門跡	杉田善雄	7,560円	24頁
近世京都の都市と民衆	鎌田道隆	8,190円	23頁
日本近世地誌編纂史研究	白井哲哉	9,660円	24頁
転換期長州藩の研究	小川國治	9,240円	22頁
近世日本の儒教と文化	衣笠安喜	8,190円	【品切】
洋学史論考	佐藤昌介	8,190円	22頁

書 名 索 引

あ

愛知県の教育史（都道府県教育史）	35	伊藤孝男の百人一首・競技かるた	〔品切〕
アウシュヴィッツの子どもたち	92	祈りの文化	77
敢えて風雪を侵して（新島襄を語る4）	〔品切〕 29	異文化・交流のはざまで	29
青森県の教育史（都道府県教育史）	35	今なぜ仏教医学か	47
晶子と寛の思い出	86	医療福祉の祖 長与専斎	44
秋田県の教育史（都道府県教育史）	35	岩倉使節団における宗教問題	30
朝顔明鑑鈔	〔品切〕	岩倉使節団の再発見	〔品切〕
阿蘇下野狩史料集	9	岩倉使節団の比較文化史的研究	29
阿知波五郎論文集 [全2冊]	45	岩手県の教育史（都道府県教育史）	35
アーツ・アンド・クラフツと日本	62	石見銀山	〔品切〕
アートに学ぶ	61	院政期政治史研究（史学叢書）	17
アメリカン・ボード200年	55	院政とその時代（佛教学大学鷹陵文化叢書8）	17
ありがとう、あなたへ	93		
阿波藍沿革史	〔品切〕	う	
安房妙本寺日我一代記	53	ヴィクトリア朝英国と東アジア（大手前大比較叢書3）	89
安祥寺資財帳（京大史料叢書）	7	William Smith Clarkの教育思想の研究	39

い

飯沼悠齋	43	上村六郎染色著作集 [全6巻]	64
界風土記 [全6冊]		宇治拾遺物語（陽明叢書国書篇 第13輯）	80
〔関東・甲信越篇、近畿篇、九州・沖縄篇品切〕	45	うたひせう [全3巻]（龍谷大学善本叢書2）	81
医学書誌論考	44	馬となまざと私と	92
医学序説	46	海を渡り世紀を越えた 竹内栖鳳とその弟子たち	57
錨をあげて（新島襄を語る3）	29	雲居和尚年譜（近世禅僧伝 第3巻）	49
池田文書の研究 → 東大医学部初代総理池田謙齋	41		
生け花正意四季の友（華道古典名作選集 第7巻）	67	え	
いけばなにみる日本文化	68	英国と日本	28
医学史点描（阿知波五郎論文集 下）	45	英語の談話文法	93
石川九楊作品集 しかし	〔品切〕	永昌記（京大史料叢書）	7
石川啄木入門	87	永昌記紙背文書（京大博物館の古文書 第11輯）	6
石田茂作著作集 [全6巻] → 仏教考古学論攷	54	恵心僧都全集	〔品切〕
石燈籠	〔品切〕	越前人物志	〔品切〕
石山寺の信仰と歴史	50	越前和紙今昔絵図	〔品切〕 64
貽咲墨戯 → 鉄斎米寿記念 貽咲墨戯	〔品切〕	越境する漱石文学	88
医心方の伝来	〔品切〕	江戸期文化人の死因	44
伊勢御師と来田文書（京大博物館の古文書 第7輯）	6	江戸時代唐船による日中文化交流	〔品切〕
伊勢松本文書（京大博物館の古文書 第12輯）	6	江戸時代の図書流通（佛教学大学鷹陵文化叢書7）	23
伊勢物語・大和物語（陽明叢書国書篇 第9輯）	80	江戸の儒学	〔品切〕
伊勢物語 → 新訳絵本伊勢物語	60	江戸湾をめぐる中世	16
醫譚 [全3巻]	41	絵葉書で辿る日本近代医学史	〔品切〕
一宮ノオト	53	愛媛県の教育史（都道府県教育史）	35
一休派の結衆と史的展開の研究	19	絵巻 大江山酒吞童子・芦引絵の世界	86
一千年目の源氏物語（シリーズ古典再生1）	84	絵巻聚成 [一]（徳川黎明会叢書 物語篇一）	80

黄金のとき 桃山絵画	61	オランダにおける蘭学医書の形成	45
王権と神祇	53	阿蘭陀宿海老屋の研究	23
王権と都市	75	園城寺之研究	50
「王国」と「植民地」(大経大研究叢書)	70	オンドルと壘の国(佛教大学鷹陵文化叢書9)	29
王朝千年記	[品切]	陰陽道の神々(佛教大学鷹陵文化叢書17)	77
王者の武装(京大博物館)	[品切]		
黄檗版大蔵経刊記集	[品切]	か	
黄檗文化人名辞典	4	火(民衆生活の日本史 第2巻)	10
欧米資本主義の史的展開	[品切]	外国人のみたお伽ばなし	76
近江の紙・津山の紙・ネリの話(和紙文庫シリーズ)	65	海国日本の夜明け	7
近江の美術と民俗	[品切]	回想・杉浦重剛	37
近江の歴史と文化	[品切]	科学者の歩める道	92
近江文化財全集	31	額軸鑑賞の知識	[品切]
応用美術思想導入の歴史	63	革新の書人 河東碧梧桐	60
大分県の教育史(都道府県教育史)	35	隔蓑記	9
大分県の美術	61	隔蓑記総索引	9
大阪青山短期大学所蔵品図録[第1輯]	81	火山噴火と環境・文明(文明と環境Ⅱ)	75
大坂医師番付集成	40	菓子文庫	[品切]
大坂学問史の周辺	21	菓子文庫シリーズ	76
大阪川口居留地の研究	28	勧修寺家本職掌部類(京大博物館の古文書 第4輯)	6
大坂城と城下町	23	画集下村為山	61
大阪人物誌	[品切]	可睡斎史料集[全5巻]	49
大阪舎密局の史的展開	[品切]	葛川明王院文書(京大博物館の古文書 第10輯)	6
大阪天満宮史の研究[第2集][第1集・品切]	31	脚気の歴史	46
大阪府誌	[品切]	花道古書集成	67
大阪府の教育史(都道府県教育史)	35	華道古典名作選集[全10巻]	[4・10品切]
大阪砲兵工廠の研究	72	仮名文章表現史の研究	83
大坂名医伝	43	金森宗和茶書(茶湯古典叢書4)	66
大坂蘭学史話	[品切]	かぶき論叢	[品切]
大槻玄沢の研究	43	貨幣と鋌山	70
大津京跡の研究	78	壁紙のジャポニスム	57
大手鑑・予楽院臨書手鑑(陽明叢書国書篇 第15輯)	80	鎌倉時代の権力と制度	18
大手前大学比較文化研究叢書	88・89	鎌倉時代の朝暮関係(史学叢書)	[品切]
大山崎宝積寺文書(京大博物館の古文書 第8輯)	6	鎌倉仏教雑考	[品切]
岡倉天心の比較文化史的研究	75	釜の歴史と鑑賞	65
岡田章雄著作集[全6巻]	[1・2・4~6品切]	紙-七人の提言-	65
緒方洪庵	26	神々の酒肴 湖国の神饌	[品切]
緒方洪庵と適塾生	[品切]	上賀茂のもり・やしろ・まつり	54
緒方洪庵の蘭学	45	紙のふるさとを行く	[品切]
緒方惟準伝	44	花林清賞(華道古典名作選集 第1巻)	67
岡屋閔白記・深心院閔白記・後知足院閔白記		河北倫明美術時評集[全5巻]	56
(陽明叢書記録文書篇 第2輯)	5	河鍋曉斎と幕末明治の書画会	[品切]
岡山縣古文書集	[品切]	河東碧梧桐→革新の書人 河東碧梧桐	60
岡山県の教育史(都道府県教育史)	35	寛永文化のネットワーク	[品切]
岡山和歌俳諧人名辞典	4	眼科医科人名辞書	44
翁の生成	77	漢簡の基礎的研究	34
沖繩県の教育史(都道府県教育史)	35	観経疏之抄 玄義分 中(浄土宗叢書)	52
奥の細道画卷 →与謝蕪村筆「奥の細道画卷」	[品切]	韓国建築史図録	[品切]
		韓国「併合」前後の教育政策と日本	
		(佛教大学研究叢書8)	39

関西モダニズム再考	〔品切〕	京都 高瀬川	32
関山慧玄と初期妙心寺	50	京都中世都市史研究（史学叢書）	14
元三大師御籤本の研究	〔品切〕	京都の医学史〔全2冊〕	〔本文篇・品切〕 41
欠伸稿訳注	50	京都の女性史	32
元祖リベラリスト（新島襄を語る5）	〔品切〕 29	京都の都市共同体と権力（史学叢書）	19
漢方と薬のはなし	42	京都の美術史	56
神主と神人の社会史（神社史料研究会叢書Ⅰ）	〔品切〕	京都の歴史災害	33
眼病に効く温泉	93	京都府の教育史（都道府県教育史）	35
環琵琶湖地域論	32	京都文化の伝播と地域社会（史学叢書）	18
刊本花道書年表	〔品切〕	京都町衆伊藤仁斎の思想形成	36
		京都療病院お雇い医師ショイベ	41
		京都冷泉町文書〔全6巻・別巻1〕	6
き			
紀伊古代史研究	12	京の医史跡探訪〔増補版〕	〔品切〕
祇園祭の中世	20	京の鴨川と橋	32
儀式・践祚大嘗祭儀→訓読註釈儀式・践祚大嘗祭儀	9	京の民間医療信仰	46
技術と文明〔1～31〕	72	京大和翠紅館→春秋 京大和翠紅館	74
貴族院と立憲政治	29	杏林叢書	〔品切〕
北垣国道日記「塵海」	9	魚雁集	92
北太平洋の先住民交易と工芸	62	玉葉	5
喫煙伝来史の研究	76	玉海・尾陽（徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇一）	80
畿内の豪農経営と地域社会	25	キリシタン大名の考古学	
木のはなし	〔品切〕	（別府大学文化財研究所企画シリーズ2）	〔品切〕
吉備と京都の歴史と文化（佛教学大学鷹陵文化叢書3）	31	キリシタン版「ヒイダスの導師」の原典的研究	54
木村兼葭堂	〔品切〕	桐火桶・詠歌一鉢・綺語抄	
木村重信著作集〔全8巻〕	56	（徳川黎明会叢書 和歌篇四）	80
逆欠如の日本生活文化	75	木を科学する	91
九州の郷土玩具	〔品切〕	金唐革史の研究	62
九州の蘭学	46	金鯰叢書〔第1～38輯〕	11
九八号古墳（南墳）発掘調査報告書	78	近世上方歌舞伎と堺（佛教学研究叢書14）	27
九八号古墳（北墳）発掘略報告書	〔品切〕	近世上方大工の組・仲間	73
宮城図（陽明叢書記録文書篇 別輯）	5	近世教育思想史の研究	〔品切〕
旧石器人のアトリエ	〔品切〕	近世京都の都市と民衆（史学叢書）	23
京・近江・丹後大工の仕事	74	近世京都の町・町家・町家大工	74
京からかみ文様譜	62	近世京焼の研究	63
経筒が語る中世の世界		近世後期瀬戸内塩業史の研究	24
（別府大学文化財研究所企画シリーズ1）	78	近世鉱山社会史の研究	70
行道佛教学	54	近世国家の教育思想	37
京都・大枝の歴史と文化	31	近世御用絵師の史的研究	57
京都大地震	71	近世寺社参詣の研究	〔品切〕
京都画壇の一九世紀〔全5巻〕	56	近世史小論集	27
郷土玩具種々相	〔品切〕	近世思想史研究の現在	〔品切〕
郷土教育運動の研究	38	近世私塾の研究	36
京都企業的光と陰	70	近世社会と知行制	23
京都 芸能と民俗の文化史	〔品切〕	近世社会と百姓成立（佛教学研究叢書1）	25
京都源氏物語地図	〔品切〕	近世儒者の思想挑戦	37
京都雑色記録〔全3巻〕	7	近世禅僧伝〔全8巻〕	〔8品切〕 49
京都大学史料叢書〔全16冊〕	7	近世禅林僧宝伝	〔品切〕
京都大学文学部博物館→		近世禅林墨蹟〔全3巻〕	59
図録京都大学文学部博物館	〔品切〕	近世地域教育史の研究	37
京都大学文学部博物館の古文書〔第1～12輯〕	6	近世都市和歌山の研究	22

皇室の饗宴とボンボニエール	63	小堀政一関係文書 →	
孝子伝の研究 (佛教学大学鷹陵文化叢書5)	90	佐治重賢氏所蔵小堀政一関係文書	7
藁叢・桃江・文車 (徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇三)	80	小松茂美 人と学問	93
楮・三絢・雁皮が紙になる迄 (和紙文庫シリーズ)	65	金 (民衆生活の日本史 第3巻)	10
幸田露伴の世界	87	金戒光明寺 宝物総覧→大本山くろ谷	
高知県の教育史 (都道府県教育史)	35	金戒光明寺 宝物総覧	52
口頭伝承と文字文化	77	今昔物語集の人々	13
弘法大師の教育 [全2冊]	36	権者の化現 (佛教学大学鷹陵文化叢書15)	52
光芒の大正	82		
稿本日本眼科学史	[品切]		
高良斎とその時代	44	さ	
古楽古歌謡集 (陽明叢書国書篇 第8輯)	80	在村知識人の儒学	37
古画備考→増訂古画備考	[品切]	在村蘭学の研究	45
古画備考五十音別索引	[品切]	在村蘭学の展開	22
古記録と日記 [全2冊]	12	斎藤茂吉入門	[品切]
古記録の研究 [上・下]		斎藤茂吉の生涯→精神病医斎藤茂吉の生涯	44
(桃裕行著作集第4・5巻) [上 品切]	10	祭礼と芸能の文化史 (神社史料研究会叢書Ⅲ)	53
古今名物御前菓子図式 (菓子文庫シリーズ)	76	佐賀の紙 (和紙文庫シリーズ)	65
古今和歌集 (徳川黎明会叢書 和歌篇一)	80	佐久間象山と科学技術	72
古今和歌集 (陽明叢書国書篇 第1輯)	80	鎖国時代長崎貿易史の研究 (史学叢書)	22
古今和歌集への道	94	[狭衣物語] 享受史論究	84
国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史	16	佐々木六角氏の系譜	[品切]
国際デザイン史	57	佐治重賢氏所蔵 小堀政一関係文書	7
黒正巖著作集 [全7巻]	71	雑誌『大大阪』CD-ROM	7
黒正巖と日本経済学 (大経大研究叢書)	71	雑誌『太陽』と国民文化の形成	[品切]
悟溪宗頤 虎穴録訳注	50	雑誌茶湯 [1~23号] [1~7・9~11・14・16 品切]	65
五山禅僧伝記集成	[品切]	札幌農学校と英語教育	28
五山禅林宗派図	49	茶道四祖伝書 (茶湯古典叢書1)	[品切]
五山文学全集	[品切]	実国・師光全歌注釈	85
後拾遺和歌集 (陽明叢書国書篇 第2輯)	80	The Historical Background of English Education	
後深心院閔白記 [全3冊]		in Japan	38
(陽明叢書記録文書篇 第4輯)	5	鯨島尚信在欧外交書簡録	8
古代神祇信仰と仏教	[品切]	沙門良寛全伝 → 北越偉人沙門良寛全伝	[品切]
古代・中世の浄土教信仰と文化	[品切]	ザ・ヤトイ	[品切]
古代・中世の政治と文化	12	慚愧の精神史 (佛教学大学鷹陵文化叢書11)	[品切]
古代日本の輝き	13	三高の見果てぬ夢	38
古代日本の生命倫理と疾病観	47	三条西公条自筆稿本 源氏物語細流抄	
古代文明と環境 (文明と環境Ⅰ)	[品切]	(龍谷大学善本叢書25)	82
国家と宗教	35	散所・声聞師・舞々の研究	17
後鳥羽院政の展開と儀礼	19	山頭火遺墨集 → 精選山頭火遺墨集	60
言葉の力 (佛教学大学鷹陵文化叢書13)	94	三匹獅子舞の研究	77
近衛家熙写手鑑の研究	60	三藐院近衛信尹	60
古筆切研究 [第一集]	81		
古筆切資料集成 [全6巻]	81	し	
古筆聚成 (徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇五)	80	シーボルトが蒐集したシダ標本	73
古文化財の科学	78	シーボルト参府旅行中の日記	[品切]
後法興院記 [全4冊] (陽明叢書記録文書篇 第8輯)	5	シーボルトと鎖国・開国日本	23
後法成寺閔白記 [全3冊]		慈雲尊者全集	[品切]
(陽明叢書記録文書篇 第3輯)	5	慈雲尊者墨蹟集成	59
		視覚芸術の比較文化 (大手前大比較叢書2)	89
		視覚の一九世紀	74

私家集・歌合（徳川黎明会叢書 和歌篇二）	80	小児科学の史的変遷	43
字鏡集（龍谷大学善本叢書8）	〔品切〕	情熱の移植医	94
紫金山古墳と石山古墳 （京大博物館6）	78	正法山誌	〔品切〕
詞源要略・和歌会席（龍谷大学善本叢書24）	82	正法山六祖伝訓註	48
四十人集（龍谷大学善本叢書18）	81	蕉門珍書百種・和露文庫	80
地震予知 → 検証地震予知	91	条約改正交渉史	30
思想史における近世	36	条約改正と英国人ジャーナリスト	27
実学史研究〔I～XI〕	11	昭和初期 一移民の手紙による生活史	8
死の尊厳	〔品切〕	昭和民芸紙譜	65
自筆本三論物語	〔品切〕	書畫名賢詳伝 → 宋元明清書畫名賢詳伝	〔品切〕
鳥根県の教育史（都道府県教育史）	35	初期古代東北の研究	〔品切〕
下村為山 → 画集下村為山	61	続撰吟集諸本の研究	81
社会経済史学の誕生と黒正巖（大経大研究叢書）	70	続日本紀の世界	〔品切〕
石道寺譚絵	60	織豊期主要人物居所集成	26
社家文事の地域史（神社史料研究会叢書Ⅳ）	54	織豊期の茶会と政治	〔品切〕
社寺造営の政治史（神社史料研究会叢書Ⅱ）	53	諸国名物御前菓子秘伝鈔（菓子文庫シリーズ）	76
ジャポニスム入門	56	書道史より見る禅林の墨蹟	59
沙門良寛全伝 → 北越偉人沙門良寛全伝	〔品切〕	書の文化史	60
周縁文化と身分制	17	シリーズ古典再生	84
集古	〔品切〕	「塵海」 → 北垣国道日記「塵海」	9
修訂版上代学制の研究 （桃裕行著作集 第1巻）	〔品切〕 10	宸翰英華	〔品切〕
十九世紀日本の園芸文化	〔品切〕	宸翰英華 別篇北朝	59
一九世紀の豪農・名望家と地域社会	27	新・漢方処方マニュアル	〔品切〕
十二支笈	〔品切〕	神祇全書	〔品切〕
一八世紀日本の文化状況と国際環境	26	鍼灸医学序説	42
重要美術品等認定物件目録	〔品切〕	鍼灸古典入門	〔品切〕
一六世紀イングランド農村の資本主義発展構造	71	新校太平記〔全2冊〕	84
呪術・科学・宗教	〔品切〕	新興俳人の群像	87
春秋 京大和翠紅館	74	新纂校訂即非全集	49
書〔一〕鑑賞と表現	〔品切〕	新纂校訂木菴全集	49
書〔二〕教え方・学び方	〔品切〕	神社叢録	53
書〔三〕淳化閣帖からの展開	59	人車記〔全4冊〕（陽明叢書記録文書篇 第5輯）	5
書〔四〕美学と書教育・実技篇	〔品切〕	神社継承の制度史（神社史料研究会叢書Ⅴ）	54
荘園制成立史の研究（史学叢書）	16	神社史料研究会叢書	53・54
荘園公領制の成立と内乱（史学叢書）	14	神祇志料・附考	〔品切〕
荘園を読む・歩く（京大博物館7）	〔品切〕	真宗史の研究〔上・下〕	
松花堂昭乗と瀧本流の展開	86		
相国寺史料〔全10巻・別巻1〕	48	真宗書誌学の研究（宮崎圓遵著作集 第4・5巻）	51
相国寺蔵 西笑和尚文案	50	真宗書誌学の研究（宮崎圓遵著作集 第6巻）	51
正倉院展六十回のあゆみ	58	真宗史料集成	〔品切〕
正倉院宝物に学ぶ	58	真宗全書 → 新編真宗全書	〔品切〕
正倉院文書の国語学的研究	82	新世紀を創る。（京大博物館）	72
上代学制の研究 → 修訂版上代学制の研究	〔品切〕 10	人生工学うらおもて	〔品切〕
上代学制論攷（桃裕行著作集 第2巻）	〔品切〕 10	人生と芸術の対話	93
上代日本染織史	64	新装版 富士川游著作集	41
象徴天皇制の形成と定着	38	新撰大洋	87
浄土宗西山派と三鈔寺文書 （京大博物館の古文書 第9輯）	6	新撰瓶花図彙（華道古典名作選集 第10巻）	〔品切〕 67
		新勅撰和歌集古注釈とその研究	85
		新訂 法然上人絵伝	52
		神道叢書	〔品切〕
		神仏分離の動乱	〔品切〕

毒きのこ今昔	91	日蘭交流史 その人・物・情報	[品切]
禿氏文庫本(龍谷大学善本叢書29)	55	日露戦争従軍記	41
徳島県の教育史(都道府県教育史)	35	日光東照宮の成立	[品切]
特選神名牒	53	日中実学史研究	21
土佐の紙(和紙文庫シリーズ)	65	日中親族構造の比較研究(史学叢書)	13
都市形態史研究(原田伴彦論集 第2巻)	10	日中戦争から世界戦争へ	30
都市社会史研究(原田伴彦論集 第3巻)	10	日中戦争についての歴史的考察	30
都市の近代・大阪の20世紀	29	日本医史学雑誌 [全18冊]	
都市発達史研究(原田伴彦論集 第1巻)	10	[2・3・12・13・15・16・18品切]	40
都市文化と東洋医学	46	日本医事大年表 → 増補 日本医事大年表	[品切]
俊頼髓腦の研究	84	日本医療文化史 → 図説 日本医療文化史	[品切]
戸田勝久画集 空の調べ	62	日本花押大観	[品切]
栃木県の教育史(都道府県教育史)	35	日本画家辞典	[品切]
都道府県教育史シリーズ [全47巻]	35	日本貨幣史 → 増訂 日本貨幣史	[品切]
都道府県庁舎	73	日本眼科学史 → 稿本 日本眼科学史	[品切]
殿さまのひとりごと	[品切]	日本眼科学会百周年記念誌	[品切]
富山県の教育史(都道府県教育史)	35	日本眼科の年表	42
		日本眼科を支えた明治の人々	42
な		日本玩具史	[品切]
中井家大工支配の研究	73	日本教育史論叢	38
中川浩文論文集 [全2冊]	83	日本近世染織業発達史の研究	64
長崎県の教育史(都道府県教育史)	35	日本近世地誌編纂史研究(史学叢書)	24
長崎奉行の研究	25	日本近世の宗教と社会	26
長与専斎 → 医療福祉の祖 長与専斎	44	日本近世文学研究の新領域	[品切]
抛入花伝書(華道古典名作選集 第5巻)	67	日本近代化と真宗地帯の研究	[品切]
夏目漱石における東と西(大手前大比較叢書4)	89	日本近代化の諸相	27
浪花和尚のえんま帖	92	日本近代都市史研究	28
浪速の町医師 上田秋成	43	日本近代の成立と展開	27
奈良絵本(龍谷大学善本叢書22)	[品切]	日本経済史の研究	[品切]
奈良 千三百年ものがたり	94	日本建築細部変遷小図録 →	
奈良朝人物列伝	13	補訂 日本建築細部変遷小図録	[品切]
奈良本辰也選集 [全6巻・別巻1]	10	日本建築史図録	[品切]
南都寺院文書の世界	18	日本建築の構造と技法	[品切]
南蛮学の発見	[品切]	日本建築様式の研究	[品切]
南北朝期公武関係史の研究 →		日本古紙幣類鑑 → 増訂 日本古紙幣類鑑	[品切]
増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究	19	日本古写経現存目録	[品切]
		日本古代宮廷社会の研究(史学叢書)	11
に		日本古代国家の展開 [全2巻]	[上 品切] 12
新島襄の交遊	[品切]	日本古代商業史の研究(史学叢書)	13
新島襄を語る	29	日本古代即位儀礼史の研究(史学叢書)	12
新島八重と夫、襄	31	日本古代地域史研究序説	12
西陣史	[品切]	日本古代典籍史料の研究	14
西村茂樹研究	38	日本古代都市史研究	79
西村茂樹全集 → 増補・改訂 西村茂樹全集	36	日本古代の伝承と歴史	13
西山地藏院文書(京大史料叢書)	7	日本古代養鷹の研究	12
20世紀の経済と文化(大経大研究叢書)	70	日本国家の史的特質 [近世・近代]	22
21世紀のグランドデザイン	74	日本国家の史的特質 [古代・中世]	15
日欧のかけはし	21	日本古典随筆の研究と資料	
日記が開く歴史の扉(京大博物館)	8	(龍谷大学仏教文化研究叢書19)	85
日蘭交渉史の研究(史学叢書)	21	日本災異志	[品切]

日本産科叢書	[品切]		
日本産業技術史事典	73		は
日本史における国家と社会	22	バーナード・リーチ再考	63
日本社会の史的構造 [近世・近代]	22	俳句とジャポニスム	88
日本社会の史的構造 [古代・中世]	15	葉隠の世界	37
日本写経綜覧	[品切]	芳賀幸四郎歴史論集 [全5巻] [1~4品切]	10
日本肖像画図録 (京大博物館3)	61	白隠和尚年譜 (近世禅僧伝 第7巻)	49
日本書紀の世界	[品切]	幕藩権力と寺院・門跡 (史学叢書)	24
日本人辞典	[品切]	幕藩制国家の成立と対外関係 (史学叢書)	23
日本禅宗史論集 [全4巻] [下之一・二 品切]	48	幕末維新期の陵墓と社会	26
日本染織工藝史 上	64	幕末・維新を考える (佛教大学鷹陵文化叢書2)	29
日本染織史	[品切]	幕末期長州藩洋学史の研究	23
日本中世政治文化論の射程	20	幕末軍事技術の軌跡	6
日本中世の王権と権威 (史学叢書)	[品切]	幕末財政史研究	69
日本中世の政治権力と仏教 (史学叢書)	[品切]	幕末・明治期の儒学思想の変遷	38
日本中世の地域と社会	15	芭蕉の文墨	86
日本で初めて翻訳した解剖書	40	旗本知行所の研究 (史学叢書)	21
日本銅鋳業史の研究	70	八代抄・新後拾遺和歌集	
日本の心と源氏物語 (シリーズ古典再生2)	84	(徳川黎明会叢書 和歌篇三)	80
日本の社会と真宗	51	華岡青洲先生及其外科	[品切]
日本の政策金融	69	花籠と竹花入	67
日本の前近代と北陸社会	21	花園院宸記 [全35巻]	6
日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚	[品切]	花みる心	67
日本の通過儀礼 (佛教大学鷹陵文化叢書4)	[品切]	原三溪翁伝	[品切]
日本梅毒史の研究	43	原田伴彦著作集 [全7巻・別巻1] [2・4品切]	10
日本美術史論究 [全7巻] [3~5品切]	56	原田伴彦論集 [全5巻]	10
日本囊物史	[品切]	鍼の道	44
日本仏教美術史研究	[品切]	晴右公記・晴晷公記 (京大史料叢書)	7
日本文学の「女性性」	87	万国博覧会の研究	75
日本文化と民族移動 (文明と環境II)	74	ハンサムに生きる (新島襄を語る7)	[品切] 29
日本法制史論集	69	般舟讚私講	52
人間・科学・宗教	55	萬象録 [全9巻]	6
人蔘史	[品切]	阪神・淡路大震災と歴史的建造物	74
入門 奈良絵本・絵巻	86	阪神文化論 (大手前大比較叢書5)	89
仁明朝史の研究	14	磐水存響	40

ぬ

布がつくる社会関係	77
-----------	----

ね

根付 高円宮コレクションII	63
念佛的自覚	51
念仏の時空論考	51

の

脳死は、死でない。	46
能勢朝次著作集 [全10巻]	82
野中広務	93

ひ

「ヒイデスの導師」の原典的研究	
→キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究	54
比較詩学と文化の翻訳 (大手前大比較叢書8)	89
東アジア経済史研究 第1集	71
東アジアと『半島空間』	34
東アジアの交流と地域諸相	34
東アジアのなかの日本	13
東アジアの本草と博物学の世界 [全2巻]	25
東と西の医療文化	[品切]
東山文化の研究 [全2巻]	
(芳賀幸四郎歴史論集 第1・2巻) [品切]	10
飛脚問屋井野口屋記録 [全4巻] (大経大史料叢書)	7
ビーコンヒルの小径 (新島襄を語る8)	29

蓬左・霜のふり葉・八雲 (徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇二)	80	未知への模索 (佛教学大学鷹陵文化叢書14)	90
宝石誌	71	光豊公記 (京大史料叢書)	7
房総風雅史	[品切]	箕作阮甫	[品切]
房総風雅史 古代・中世編	32	箕作阮甫の研究	43
法然絵伝を読む (佛教学大学鷹陵文化叢書12)	51	御堂関白記 [全5冊] [1・2・4品切]	(陽明叢書記録文書篇 第1輯) 5
法然上人絵伝→新訂 法然上人絵伝	52	御堂関白記全註釈 [第1期・全8冊]	8
法然伝承と民間寺院の研究	52	御堂関白記全註釈 [第2期・全8冊]	8
法然伝と浄土宗史の研究 (史学叢書)	51	源通具全歌集	81
蓬萊山と扶桑樹	78	壬生狂言古衣裳	64
北越偉人沙門良寛全伝	[品切]	宮古島狩俣の神歌	76
保元物語 (陽明叢書国書篇 第11輯)	80	みやこの近代	30
細川頼之と西山地藏院文書 (京大博物館の古文書 第3輯)	6	花洛 (みやこ) のモード	64
没後220年 蕪村	61	宮崎圓遵著作集 [全7巻]	[1~3品切] 51
北方文化研究報告	[品切]	宮津市立前尾記念文庫所蔵 元勲・近代諸家書簡集成	8
補訂 朝鮮医学史及疾病史	42	宮本又次史学館	69
補訂 日本建築細部変遷小図録	[品切]	妙心寺史 → 増補妙心寺史	48
補訂 枕草子集註	[品切]	妙心寺派語録 [一・二] (瑞泉寺史別巻)	50
滅びと異郷の比較文化	88	三輪物語 → 自筆本三輪物語	[品切]
本草学と洋学	23	民芸運動と地域文化	[品切]
本能寺史料 [全5巻・別巻1]	53	民衆生活の日本史 [全5巻]	10
本能寺と信長	17	民俗文化複合体論	77
翻訳文学の視界	89	明朝体の歴史	72

む

棟札の研究	24		
村田正志著作集 [全7巻]	11		
室町期東国社会と寺社造営 (史学叢書)	19		
室町時代庭園史	73		
室町水墨画と五山文学	58		
室町・戦国期研究を読みなおす	19		
室町幕府文書集成奉行人奉書篇 [全2巻]	5		

め

名家伝記資料集成	4		
名画はあなたが決める	61		
明治期における不敬事件の研究	38		
明治維新期の政治文化	29		
明治維新史という冒険 (佛教学大学鷹陵文化叢書18)	30		
明治期外国人叙勲史料集成	6		
明治国家の教育思想	[品切]		
明治初年真宗門徒大決起の研究	27		
明治前期の教育・教化・仏教	[品切]		
明治の避病院	40		
明治博物館事始め	[品切]		
明治文化と西洋人	[品切]		
滅亡高野紙見聞図説 (和紙文庫 第二号)	64		

み

三木金物問屋史料	69		
水玉紙・奉書紙・高野紙 (和紙文庫シリーズ)	65		
水と人	[品切]		
見世物研究	75		

も

もう一つの中世像	[品切]
木 (民衆生活の日本史 第1巻)	10
木菴全集→新纂校訂木菴全集	49
モダン・アート論再考	57
餅菓子即席増補手製集 (菓子文庫シリーズ)	76
桃山絵画→黄金のとき 桃山絵画	61
桃裕行著作集 [全8巻] [1・2・4・7品切]	10
燃ゆるん花の美しさ	93
森有礼における国民的主体の創出	30
森田りえ子作品集	62

や

焼畑の環境学	73
役者のパートナー マネジャーの足跡	93
訳注大乘起信論	55
八瀬童子	77
柳宗悦と民藝運動	[品切]
病いの克服	46
山口県の教育史 (都道府県教育史)	35
山口県の美術	61
大和 (奈良) の紙 (和紙文庫シリーズ)	65
大和の古代史跡を歩く	92

よ

洋学史論考 (史学叢書)	22
酔うて候 河鍋晚斎と幕末明治の書画会	[品切]
陽明叢書記録文書篇 [全12輯・全31冊・別輯1]	5
陽明叢書国書篇 [全15輯・全16冊]	80
陽明叢書国書篇 第16輯 源氏物語 [全16冊]	80
横井小楠の新政治社会像	[品切]
与謝蕪村筆「奥の細道画卷」	[品切]
与謝野晶子の『源氏物語礼讃歌』	87
与謝野晶子と小林一三	87
吉田清成関係文書 [全7冊] (京都大学史料叢書)	7
吉田光邦評論集 [全3巻]	72
吉田光邦 両洋の人	92
夜の解剖室	[品切]
よはひ草	[品切]

ら

「洛中洛外」の社会史	15
蘭学の背景	45
蘭学、その江戸と北陸	45
蘭室藤村正貞年譜考	66

り

立華時勢粧 (華道古典名作選集 第4巻) [品切]	67
立花初心抄 (華道古典名作選集 第9巻)	67
立憲国家中国への始動	34
龍谷叢書	85
龍谷大学善本叢書	55・81・82
龍谷大学仏教文化研究叢書	85
龍宝山大徳禅寺寺譜	[品切]
律令国家の展開と地域支配 (史学叢書)	12
料理新製以毛百珍 (菓子文庫シリーズ)	76
林氏塩瀬山城伝来記 (菓子文庫シリーズ)	76

る

類聚古集 [全3巻] (龍谷大学善本叢書20)	81
-------------------------	----

れ

歴史災害のはなし	72
歴史とアイデンティティ	28
歴史の地層から	92
歴史のなかの源氏物語 (シリーズ古典再生3)	84
歴史のなかの天皇陵	33
歴史の中の都市と村落社会	22
歴史の中の病と医学	[品切]
歴世服飾図説	[品切]
暦法の研究 [上・下]	

(桃裕行著作集 第7・8巻) [上 品切]	10
-----------------------	----

蓮月尼全集 → 増補 蓮月尼全集	86
蓮如上人研究	51

ろ

鹿王院文書の研究	7
鹿苑寺と西園寺	[品切]

わ

若狭秦家文書 (京大博物館の古文書 第2輯)	6
和歌題林抄・三千首和歌・萱草	
(徳川黎明会叢書 和歌篇五)	80
和漢紙文献類聚	64
和漢朗詠集・新撰朗詠集 (陽明叢書国書篇 第7輯)	80
和紙の文化史年表 → 図説和紙の文化史年表	[品切]
和紙文化	[品切]
和紙文化史年表	[品切]
和紙文庫 [1~3号]	[1品切] 64
和紙文庫シリーズ	65
私の中の20世紀の外国映画	94
我生きて今ある命を	93

※大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 → (大経大研究叢書)
 ※大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書 → (大経大史料叢書)
 ※大手前大学比較文化研究叢書 → (大手前大比較叢書)
 ※京都大学文学部博物館図録・京都大学総合博物館図録 → (京大博物館)
 ※京都大学史料叢書 → (京大史料叢書)

●協力書店 下記ゴシック書店は歴史書懇話会の特設常備書店

〈北海道〉	コーチャンフォーミュンヘン大橋店	札幌	(011)817-4000
	コーチャンフォー新川通り店	//	(011)769-4000
	紀伊國屋書店札幌本店	//	(011)231-2131
	MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店	//	(011)223-1911
	三省堂書店札幌店	//	(011)209-5600
	ジュンク堂書店旭川店	旭川	(016)626-1120
〈岩手県〉	ジュンク堂書店盛岡店	盛岡	(019)601-6161
〈秋田県〉	ジュンク堂書店秋田店	秋田	(018)884-1370
〈宮城県〉	ジュンク堂書店仙台本店	仙台	(022)716-4511
〈福島県〉	岩瀬書店富久山店	郡山	(024)936-2220
	ジュンク堂書店郡山店	//	(024)927-0440
〈茨城県〉	ACADEMIAイーアスつくば店	つくば	(029)868-7407
〈群馬県〉	煥乎堂前橋本店	前橋	(027)235-8111
	ジュンク堂書店高崎店	高崎	(027)330-6611
〈埼玉県〉	ジュンク堂書店大宮ロフト店	さいたま	(048)640-3111
	ブックデポ書楽北与野店	//	(048)859-4946
〈東京都〉	八重洲ブックセンター	八重洲	(03)3281-1811
	丸善日本橋店	日本橋	(03)6214-2001
	丸善丸の内本店	丸の内	(03)5288-8881
	三省堂書店神保町本店	神保町	(03)3233-3312
	岩波ブックセンター信山社	//	(03)3263-6601
	東京堂書店神田本店	//	(03)3291-5181
	紀伊國屋書店新宿南店	代々木	(03)5361-3301
	紀伊國屋書店新宿本店	//	(03)3354-0131
	ブックファースト新宿店	//	(03)5339-7611
	芳林堂書店高田馬場店	高田馬場	(03)3208-0241
	ジュンク堂書店池袋本店	池袋	(03)5956-6111
	リプロ池袋本店	//	(03)5949-2910
	MARUZEN&ジュンク堂書店渋谷店	渋谷	(03)5456-2111
	ジュンク堂書店吉祥寺店	吉祥寺	(0422)28-5333
	啓文堂書店吉祥寺店	武蔵野	(0422)79-5070
	オリオン書房ノルテ店	立川	(042)522-1231
	丸善多摩センター店	多摩	(042)355-3220
〈神奈川県〉	有隣堂伊勢佐木町本店	横浜	(045)261-1231
	有隣堂ルミネ横浜店	//	(045)453-0811
	ACADEMIA港北店	//	(045)914-3320
	有隣堂川崎B E店	川崎	(044)200-6831
	ジュンク堂書店藤沢店	藤沢	(0466)52-1211
〈静岡県〉	戸田書店静岡本店	静岡	(054)205-6111
〈新潟県〉	ジュンク堂書店新潟店	新潟	(025)374-4411
	萬松堂古町本店	//	(025)229-2221
〈長野県〉	平安堂長野店	長野	(026)224-4545
	MARUZEN 松本店	松本	(026)331-8171
〈愛知県〉	ちくさ正文館書店本店	名古屋	(052)741-1137
	ジュンク堂書店名古屋店	//	(052)589-6321
	ジュンク堂書店ロフト名古屋店	//	(052)249-5592

	丸善名古屋栄店	//	(052)261-2251
	三省堂書店名古屋高島屋店	//	(052)566-8877
	精文館書店本店	豊橋	(0532)54-2345
〈富山県〉	Books なかだ本店専門書館	富山	(076)492-1192
〈石川県〉	うつのみや柿木島本店	金沢	(0762)34-8111
〈京都府〉	ジュンク堂書店京都BAL店	京都	(075)253-6460
	ブックファースト京都店	//	(075)229-8500
	ジュンク堂書店京都店	//	(075)252-0101
	大垣書店烏丸三条店	//	(075)212-5050
	アバンティブックセンター	//	(075)682-5031
	大垣書店イオンモールKYOTO店	//	(075)692-3331
〈奈良県〉	豊住書店	//	(0742)22-8500
	啓林堂書店奈良ビブレ店	//	(0742)20-0801
〈大阪府〉	ブックファースト梅田店	//	(06)4796-7188
	紀伊國屋書店梅田本店	//	(06)6372-5821
	MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店	//	(06)6292-7383
	ジュンク堂書店大阪本店	//	(06)4799-1090
	ジュンク堂書店千日前店	//	(06)6635-5330
	ジュンク堂書店難波店	//	(06)4396-4771
	ジュンク堂書店天満橋店	//	(06)6920-3730
〈兵庫県〉	ジュンク堂書店三宮店	神戸	(078)392-1001
	ジュンク堂書店三宮駅店	//	(078)252-0777
	ジュンク堂書店西宮店	西宮	(0798)68-6300
	ジュンク堂書店明石店	明石	(078)913-8201
	ジュンク堂書店姫路店	姫路	(0792)21-8280
〈鳥取県〉	今井書店吉成店	鳥取	(0857)51-7020
	本の学校今井ブックセンター	米子	(0859)31-5000
〈香川県〉	宮脇書店総本店	高松	(0878)23-3152
〈愛媛県〉	ジュンク堂書店松山店	//	(089)915-0075
〈岡山県〉	丸善岡山シンフォニービル店	岡山	(0862)33-4640
	ジュンク堂書店岡山店	//	(086)236-1877
〈広島県〉	ジュンク堂書店広島駅前店	広島	(082)568-3000
	フタバ図書 MEGA祇園中筋店	//	(082)830-0600
	MARUZEN&ジュンク堂書店広島店	//	(082)504-6210
	フタバ図書 TERA広島府中店	府中	(082)561-0770
〈福岡県〉	紀伊國屋書店福岡本店	福岡	(092)434-3100
	ジュンク堂書店福岡本店	//	(092)738-3322
	丸善博多店	//	(092)413-5401
	フタバ図書 TERA 福岡東店	粕屋	(092)939-7200
〈大分県〉	ジュンク堂書店大分店	大分	(0975)36-8181
〈鹿児島県〉	ジュンク堂書店鹿児島店	//	(099)216-8838
〈沖縄県〉	ジュンク堂書店那覇店	那覇	(098)860-7175

他、全国主要大学生協書籍部

刊行図書の最新情報はホームページで

http://www.shibunkaku.co.jp/

日々最新情報を更新

数か月内に刊行予定の新刊についていち早く紹介。目次など最新情報を知ることができます。

全刊行図書のデータベース

既刊書から最新刊まで全刊行図書を書名・編著書・内容・目次の任意のキーワードで検索可能。

一点一点について、詳細目次、在庫状況、関連リンクなど、目録にない情報を満載しています。

The screenshot shows the Shibunkaku website homepage. At the top, there is a search bar and a navigation menu. The main content area features a large banner for a featured book, "異文化文庫" (Intercultural Library), with a detailed description and a "目録" (Table of Contents) link. Below the banner, there are several smaller sections, including "最新刊のお知らせ" (New Publications Notice) and "目録目録の目録" (Table of Contents of Table of Contents). The left sidebar contains a vertical navigation menu with categories like "目録目録", "目録目録", "目録目録", etc. The bottom of the page has a footer with contact information and a small logo.

The screenshot shows a detailed view of a book entry on the Shibunkaku website. The page features a large image of the book cover and a detailed table of contents. The table of contents is organized into sections, with each section having a corresponding page number. Below the table of contents, there is a section for "目録目録" (Table of Contents of Table of Contents) and a section for "目録目録" (Table of Contents of Table of Contents). The right sidebar contains a vertical navigation menu with categories like "目録目録", "目録目録", "目録目録", etc. The bottom of the page has a footer with contact information and a small logo.

お送りいたします！



思文閣出版・四季報 **おうとうつうしん 鴨東通信** [A5判/32頁/無料]

●ていーたいむ

- 毎号ゲストの人柄がにじむ楽しいトーク「ていーたいむ」を掲載
- その他、中堅・若手研究者によるエッセイなど多彩な執筆陣による論考、新刊紹介、史料紹介など

- ▷ 最新号から年4回発行のつどお手元に郵送いたします。
- ▷ ご希望の方は、①郵便番号 ②住所 ③氏名(フリガナ付)
- ④関心のある分野・テーマをご記入の上、「鴨東通信」希望と書いて小社までお申し込みください。郵送・電話・ファックス・e-mailで承ります。
- ▷ バックナンバーご希望の方はお申し込み下さい。
(若干、欠号がございます)



駐車場はありません

●新刊書・既刊書の案内広告

日本歴史・日本史研究＝毎月掲載
学会機関誌等随時掲載

●書店の皆様へ

帳合取次は次の通りです
トーハン・日販・大阪屋・八木書店・
栗田出版販売・太洋社・日教販・西村書店

株式
会社 思文閣出版

Shibunkaku Publishing Co.,Ltd

605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町355 ☎075(751)1781(代)/F075(752)0723
ホームページ <http://www.shibunkaku.co.jp/> e-mail:pub@shibunkaku.co.jp